

—平成30年度—

# 人権についての県民意識調査 報告書



鹿児島県



## はじめに

鹿児島県では、平成16年12月に「鹿児島県人権教育・啓発基本計画」を策定し、総合的かつ効果的な人権教育・啓発に係る各種施策を推進し、県民一人ひとりの人権が尊重される明るい社会づくりに取り組んでいるところです。

しかしながら、残念なことに私たちの周りでは、子どもや高齢者等への虐待などの人権侵害が依然として後を絶たない状況であり、インターネット等を悪用した差別的な書き込みなど、人権やプライバシーの侵害につながる情報の流出が増加しています。

また、近年では、障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法など人権に関する多くの個別法も施行され、人権を取り巻く社会情勢が大きく変化していると考えられます。

このような中、県では、県民の人権に関する意識の現状を把握するため、平成25年度以来、5年ぶりに「人権についての県民意識調査」を実施いたしました。

今回の調査では、障害者差別解消法や部落差別解消推進法の認知度に係る質問のほか同和問題（部落差別）、インターネットによる人権侵害、性的少数者についても質問を追加して、より幅広く人権意識について調査しました。

本県では、今回の調査結果を踏まえて、今後の施策推進の方向性や内容を検討し、相互の人権が尊重され、人権という普遍的文化（人権文化）が息づく心豊かな郷土鹿児島の実現に努めてまいりたいと存じます。

この調査結果が県内の自治体をはじめ各分野で人権教育・啓発活動に携わっている方々にも、御活用いただければ幸いです。

最後に、調査に御協力をいただきました県民の皆様をはじめ関係者の皆様に心から厚くお礼申し上げます。

平成31年2月

鹿児島県県民生活局長 迫 貴美

# 【 目 次 】

I. 調査の概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査の項目	1
3. 調査の方法	1
(1) 調査地域	
(2) 調査対象者及び標本抽出方法	
(3) 調査方法	
(4) 調査期間	
(5) 実施機関	
(6) 調査機関	
4. 回収状況	2
5. 回答者の属性	2
6. 標本誤差	4
7. 調査結果の見方	4
II. 調査結果	
1. 人権一般	5
2. 女性	20
3. 子ども	26
4. 高齢者	32
5. 障害者	38
6. 同和問題（部落差別）	45
7. 外国人	68
8. HIV感染者等	74
9. ハンセン病患者等	80
10. 犯罪被害者等	86
11. 刑を終えて出所した人	92
12. インターネットによる人権侵害	95
13. 北朝鮮当局によって拉致された被害者等	104
14. ホームレス	107
15. 性的指向（異性愛，同性愛，両性愛など）	110
16. 性自認	116
17. 東日本大震災などに伴う人権問題	122
18. 啓発に関して	125
19. 自由意見	135
III. 集計表	137
IV. 資料	
○調査票	170
○標本誤差	184

# I. 調査の概要



## I. 調査の概要

### 1. 調査の目的

この調査は、県民の人権に関する意識の現状を把握し、今後の人権に関する施策推進の方向性や内容を検討する上での基礎資料とする。

### 2. 調査の項目

- (1) 人権一般（問1～問4）
- (2) 女性（問5～問6）
- (3) 子ども（問7～問8）
- (4) 高齢者（問9～問10）
- (5) 障害者（問11～問13）
- (6) 同和問題（部落差別）（問14～問24）
- (7) 外国人（問25～問26）
- (8) HIV感染者等（問27～問28）
- (9) ハンセン病患者等（問29～問30）
- (10) 犯罪被害者等（問31～問32）
- (11) 刑を終えて出所した人（問33）
- (12) インターネットによる人権侵害（問34～問36）
- (13) 北朝鮮当局によって拉致された被害者等（問37）
- (14) ホームレス（問38）
- (15) 性的指向（異性愛、同性愛、両性愛など）（問39～問40）
- (16) 性自認（問41～問42）
- (17) 東日本大震災などに伴う人権問題（問43）
- (18) 啓発に関して（問44～問46）
- (19) 自由意見（問47）

### 3. 調査の方法

- (1) 調査地域  
鹿児島県全域
- (2) 調査対象者及び標本抽出方法  
鹿児島県内に居住する18歳以上の者を対象とし、市町村の住民基本台帳から、3,000人を無作為抽出した。
- (3) 調査方法  
郵送法・無記名方式
- (4) 調査期間  
平成30年8月10日から平成30年8月31日
- (5) 実施機関  
鹿児島県県民生活局人権同和対策課
- (6) 調査機関  
アシスト株式会社

4. 回収状況

- (1) 調査票配布数 3, 000票  
 (2) 回収数 1, 329票 回収率 44.3%  
 (3) 有効回収数 1, 329票 有効回収率 44.3%

5. 回答者の属性

【性別・年代別】

(人)

年齢階層別	男性	女性	無回答	合計
18歳～19歳	9	12	0	21
20歳代	35	46	0	81
30歳代	60	78	0	138
40歳代	84	109	1	194
50歳代	81	137	0	218
60歳代	166	201	0	367
70歳代以上	120	141	2	263
無回答	0	1	46	47
合計	555	725	49	1,329

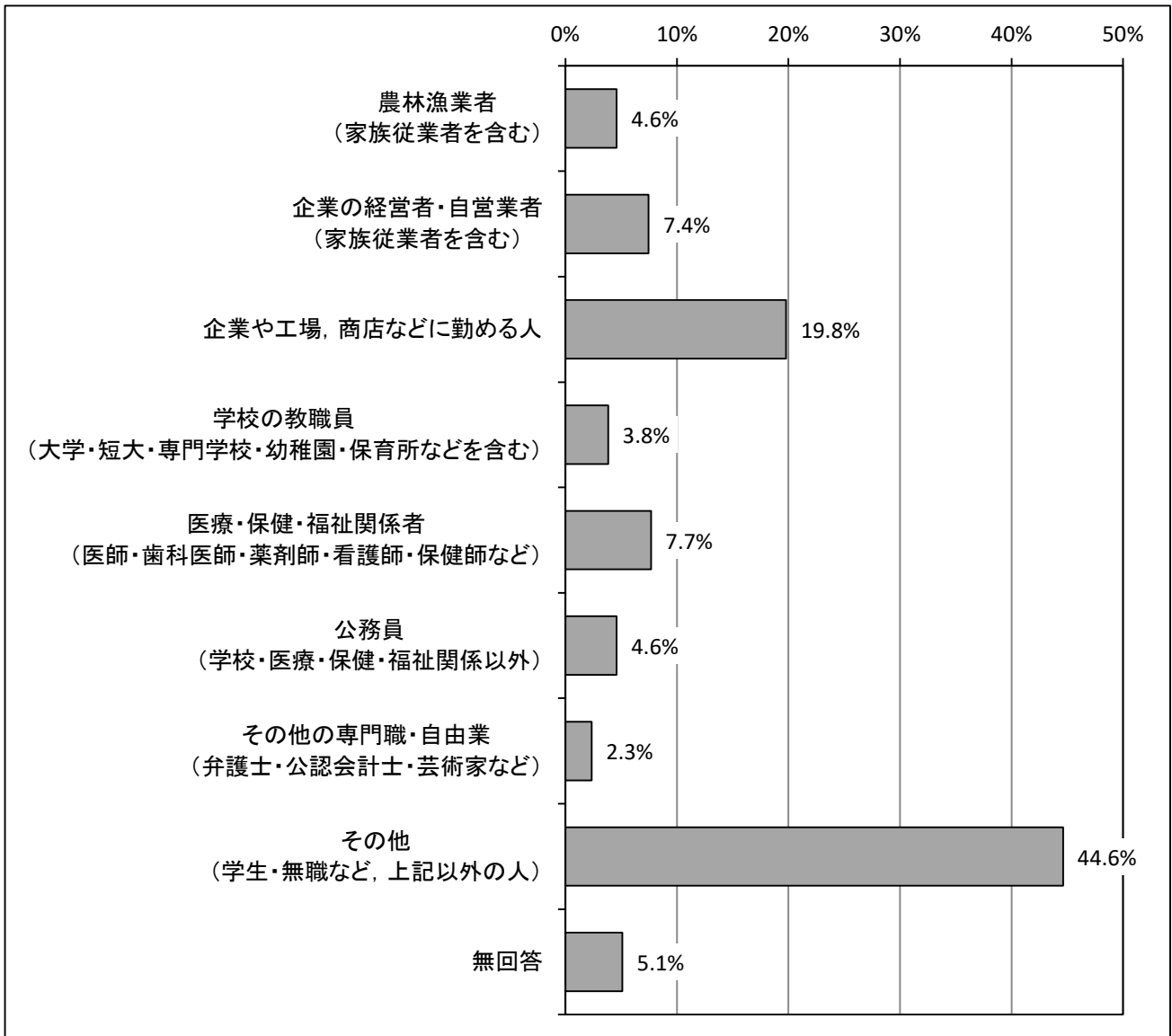
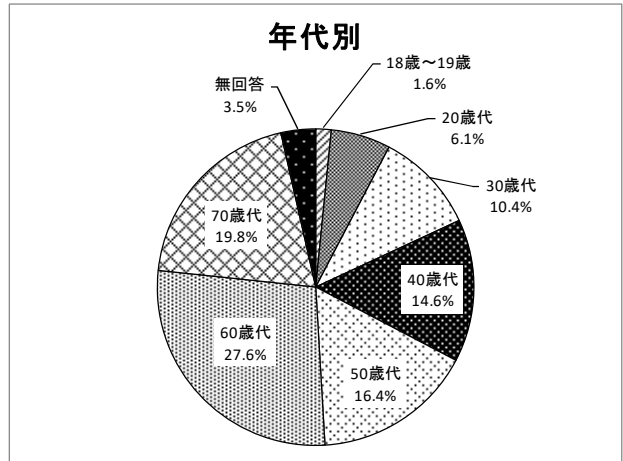
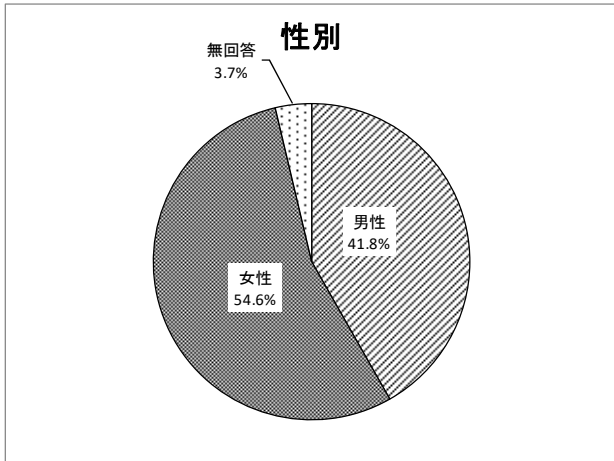
※無回答には、性別を『その他』と回答した2人を含む。

【職業別】

(人)

サンプル数	農林漁業者 (家族従業者を含む)	企業の経営者・自営業者 (家族従業者を含む)	企業や工場、 商店などに勤める人	学校の教職員 (大学・短大・専門学校・ 幼稚園・保育所などを含む)	医療・保健・福祉関係者 (医師・歯科医師・ 薬剤師・看護師・保健師など)	公務員 (学校・医療・保健・福祉関係以外)	その他の専門職・自由業 (弁護士・公認会計士・芸術家など)	その他 (学生・無職など、左記以外の人)	無回答
1,329	61	99	263	51	102	61	31	593	68
100.0%	4.6%	7.4%	19.8%	3.8%	7.7%	4.6%	2.3%	44.6%	5.1%





## 6. 標本誤差

今回の調査は、母集団（県内に居住する18歳以上の者）から一部の標本（調査対象者）を抽出する標本調査であるため、統計的に多少の誤差（標本誤差）が生じる。

このため、調査の実施に際しては、標本誤差の一般的な許容水準である信頼度95%における標本誤差5%以内を母集団の推定目標として条件を設定し、調査結果は、この許容水準を満たしたものとなっている。

なお、標本誤差は標本数と得られた結果の割合によって異なるが、信頼度95%における標本誤差を巻末（資料編）に示している。

## 7. 調査結果の見方

- (1) 集計表の上段は件数、下段は比率となっており、比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出したため、パーセントの合計が100%にならない場合がある。
- (2) 回答方法は、各質問ごとに「1つを選択」あるいは「複数を選択（2つまで、3つまで、いくつでも）」のいずれかで指示をしている。したがって、「複数を選択」の場合の回答は、比率の合計が100%を超える。
- (3) 本報告書の表及びグラフ、本文で使われている選択肢の表現は、調査票原本の意味を損なわない程度に省略している場合がある。
- (4) 平成15年度、平成25年度「人権についての県民意識調査」の結果との比較において、回答の選択肢が一致しない場合があるが、この場合は、同様の選択肢に関して比較している。
- (5) 平成30年度「人権についての県民意識調査」は、平成15年度、平成25年度「人権についての県民意識調査」とは、調査対象年齢、回答項目等に一部変更がある。

平成15年度調査、平成25年度調査は、参考のために掲載している。

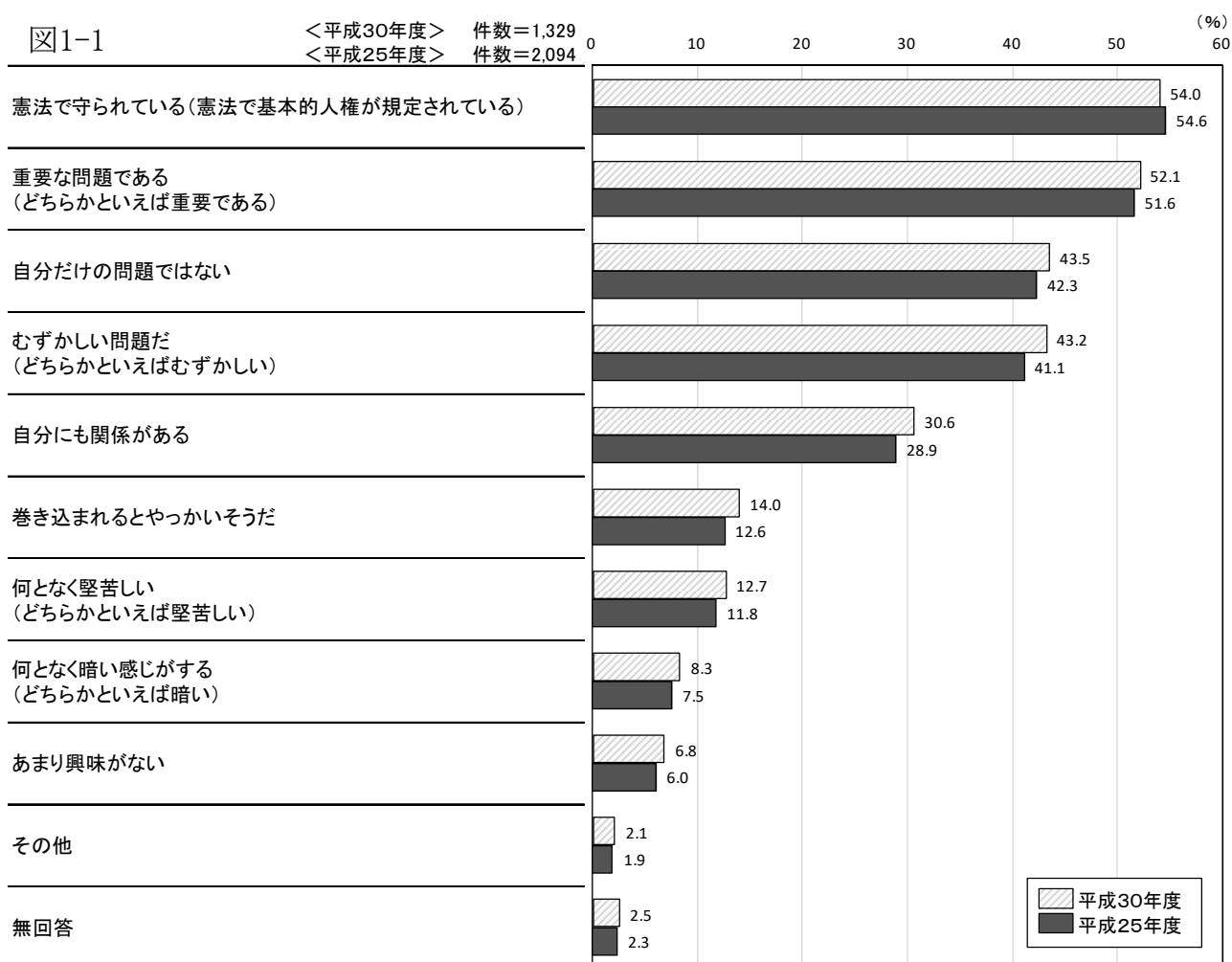
## II. 調查結果



## 【人権一般】

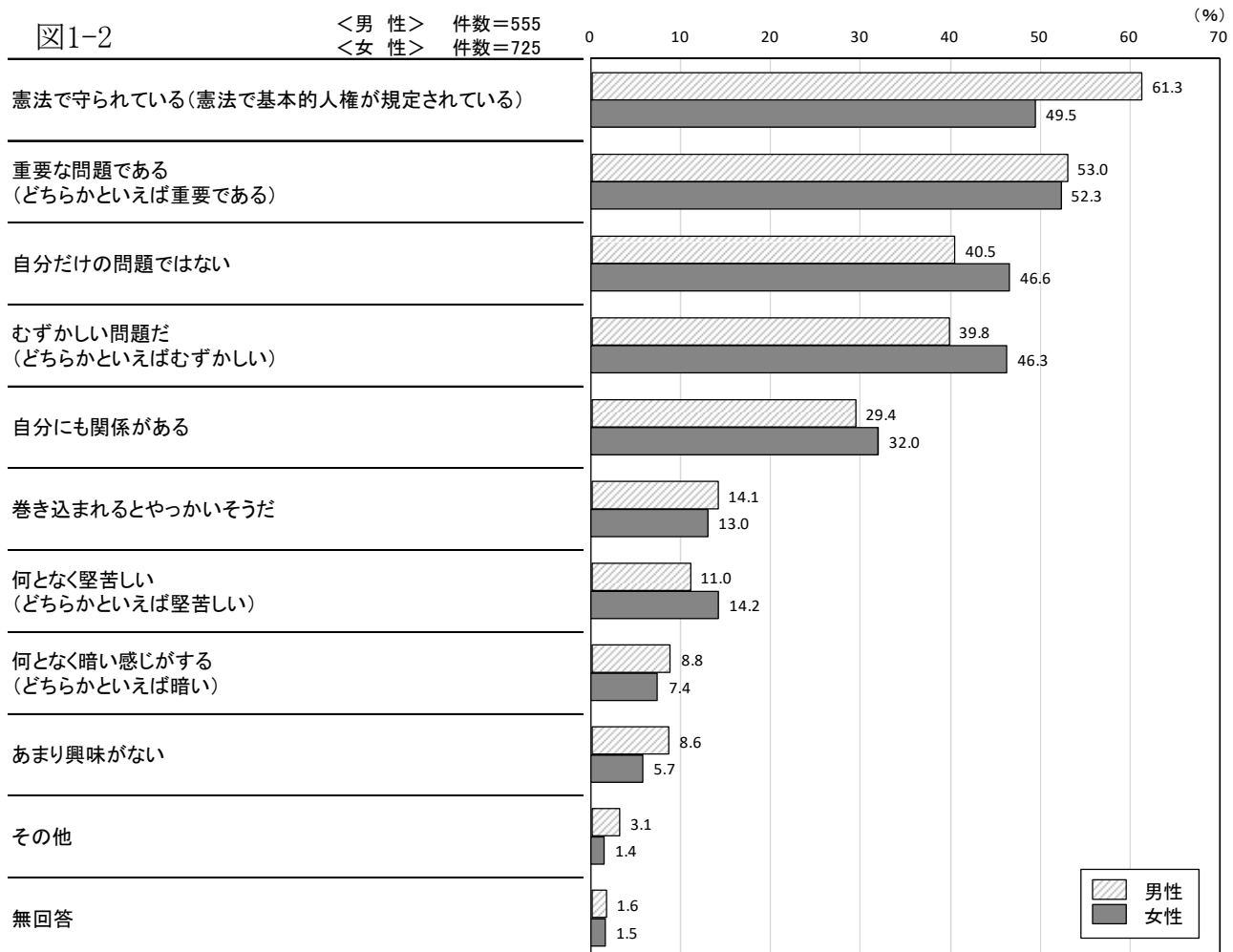
問1 あなたは、「人権」について、日常生活を過ごす中でどのような印象や感想をお持ちですか。  
(〇はいくつでも)

人権についての印象や感想は、「憲法で守られている（憲法で基本的人権が規定されている）」の割合が最も高く54.0%となっている。次いで、「重要な問題である（どちらかといえば重要である）」が52.1%、「自分だけの問題ではない」が43.5%、「むずかしい問題だ（どちらかといえばむずかしい）」が43.2%、「自分にも関係がある」が30.6%となっている。



## ■性別

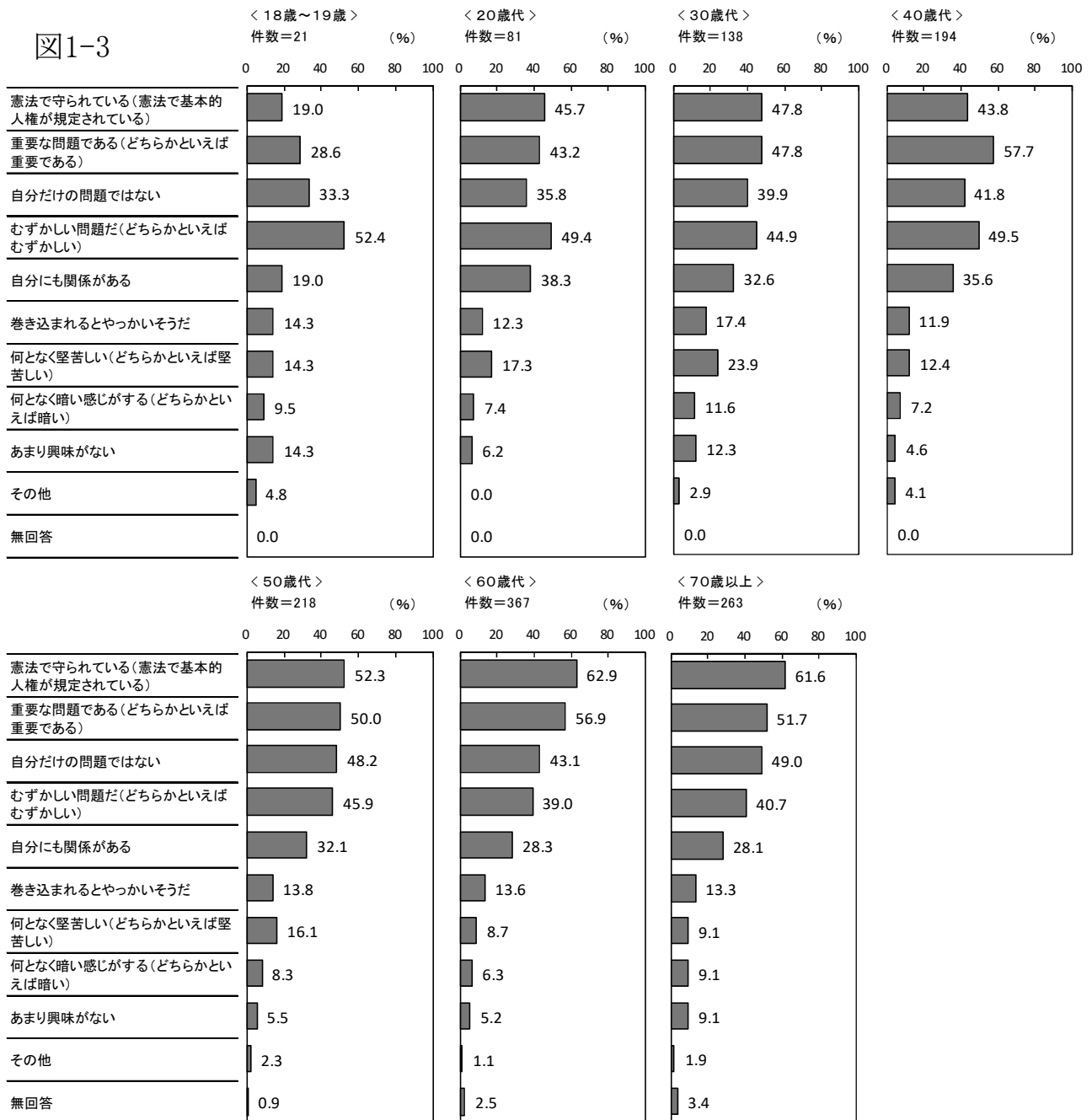
性別で比較すると、「憲法で守られている（憲法で基本的人権が規定されている）」の割合が、男性が女性より10ポイント以上高く、また「むずかしい問題だ（どちらかといえばむずかしい）」「自分だけの問題ではない」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。



## ■年代別

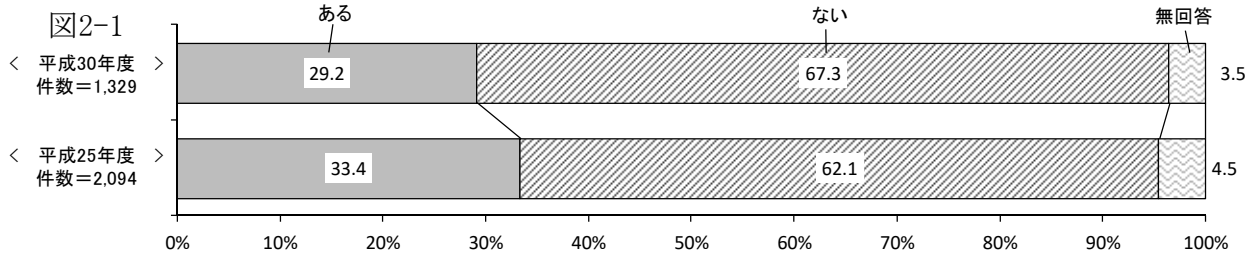
年代別で比較すると、18歳～19歳、20歳代で「むずかしい問題だ（どちらかといえばむずかしい）」、30歳代、40歳代で「重要な問題である（どちらかといえば重要である）」、50歳代以上で「憲法で守られている（憲法で基本的人権が規定されている）」の割合が高い。

図1-3



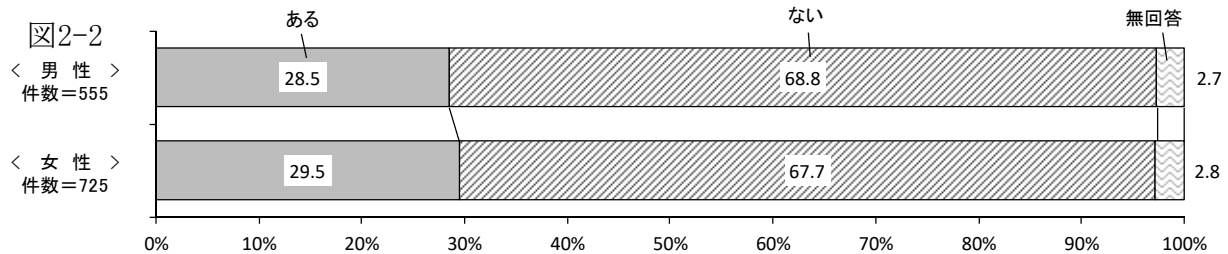
問2 あなたは、自己的人権が侵害されたと思ったことがありますか。

自己的人権が侵害されたと思ったことがあるかについては、「ある」が29.2%、「ない」が67.3%となっている。



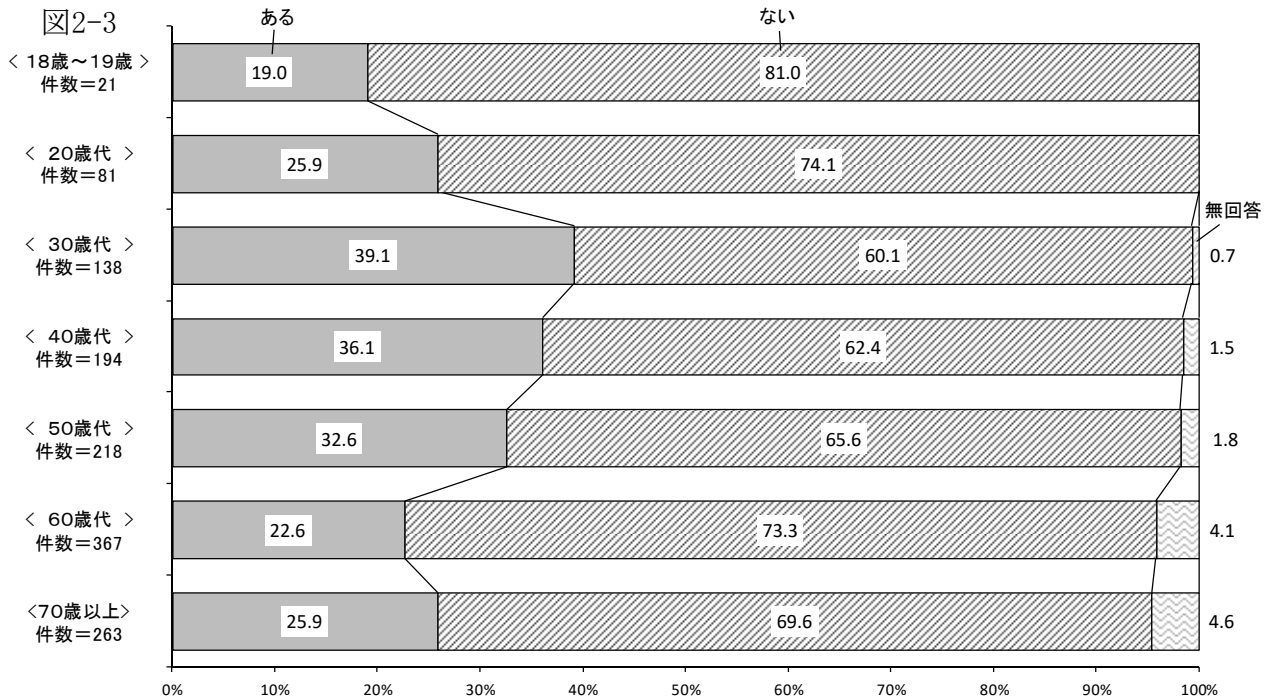
■性別

性別で比較したが、特に大きな違いはみられなかった。



■年代別

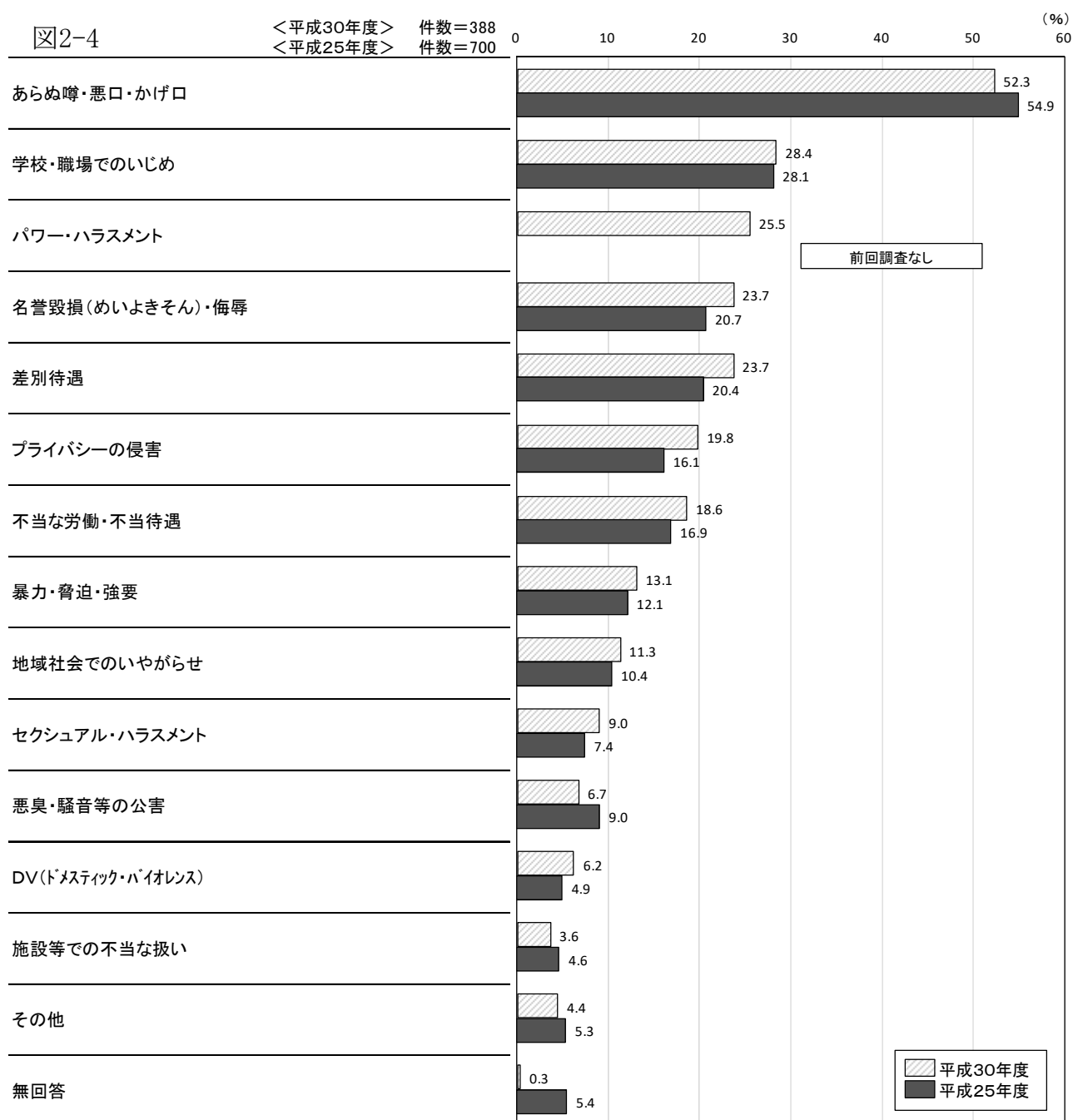
年代別で比較すると、30歳代から50歳代で「ある」の割合が3割を超えている。





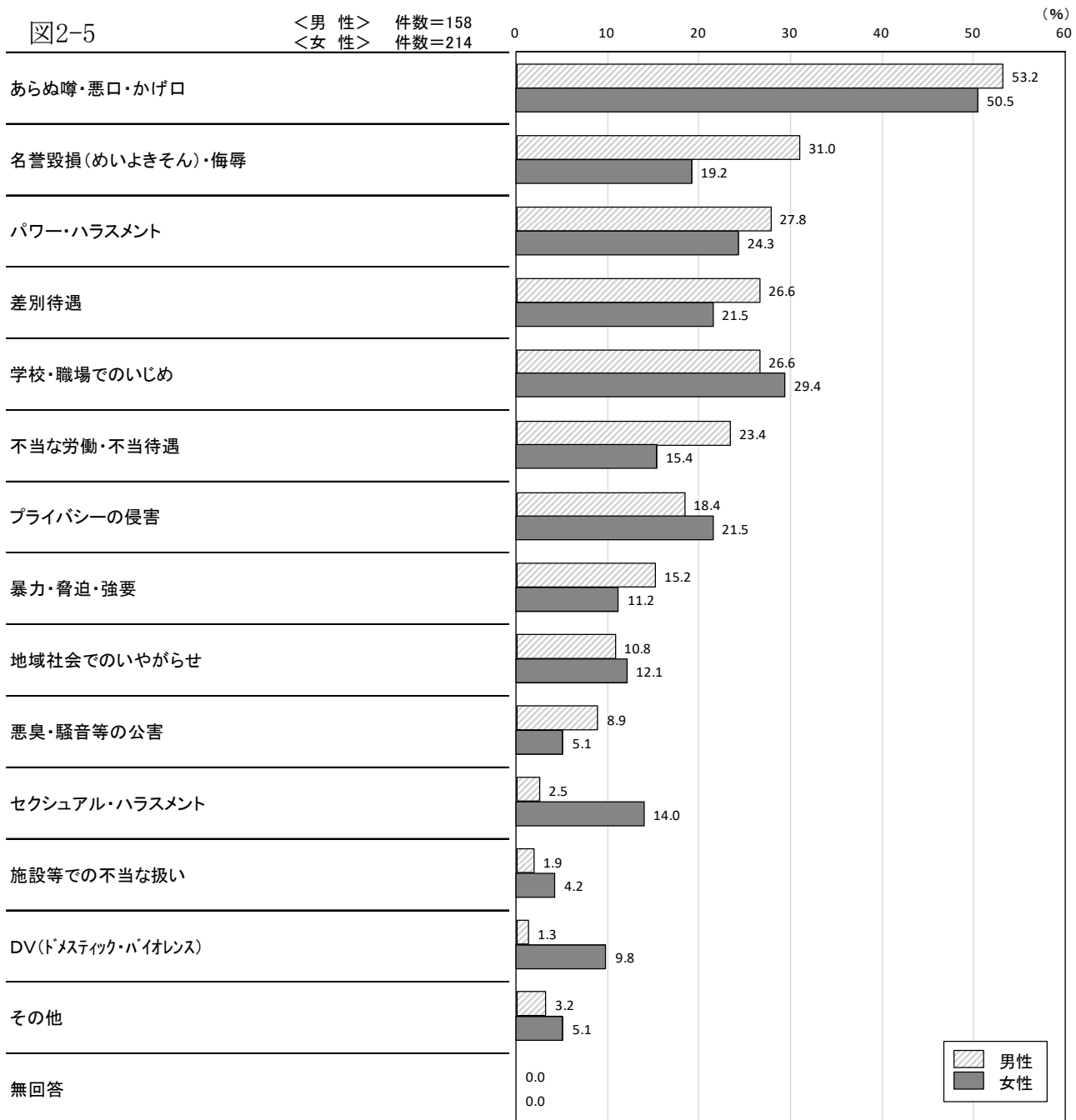
問2－(1) 問2で、「ある」を選んだ方へ おたずねします。  
それは、どのようなものでしたか。(〇はいくつでも)

問2で、「ある」と回答した388人の中で、自分の人権を侵害されたと思ったことがある内容については、「あらぬ噂・悪口・かげ口」の割合が最も高く52.3%となっている。次いで、「学校・職場でのいじめ」が28.4%、「パワー・ハラスメント」が25.5%となっている。



## ■性別

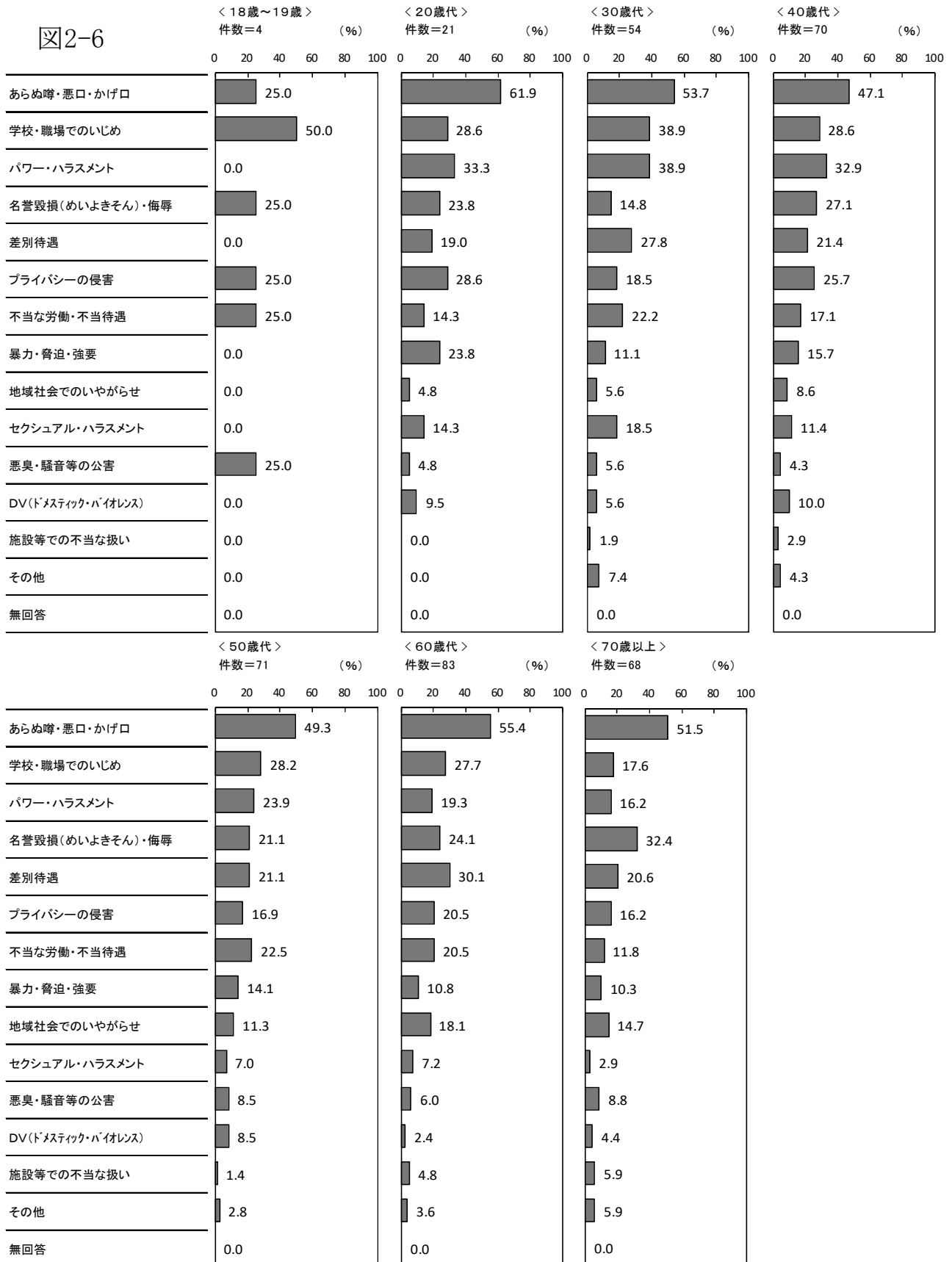
性別で比較すると、「名誉毀損（めいよきそん）・侮辱」「不当な労働・不当待遇」「差別待遇」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高く、また「セクシュアル・ハラスメント」「DV（ドメスティック・バイオレンス）」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。



## ■年代別

年代別で比較すると、18歳～19歳で「学校・職場でのいじめ」、20歳代以上で「あらぬ噂・悪口・かげ口」の割合が高い。

図2-6

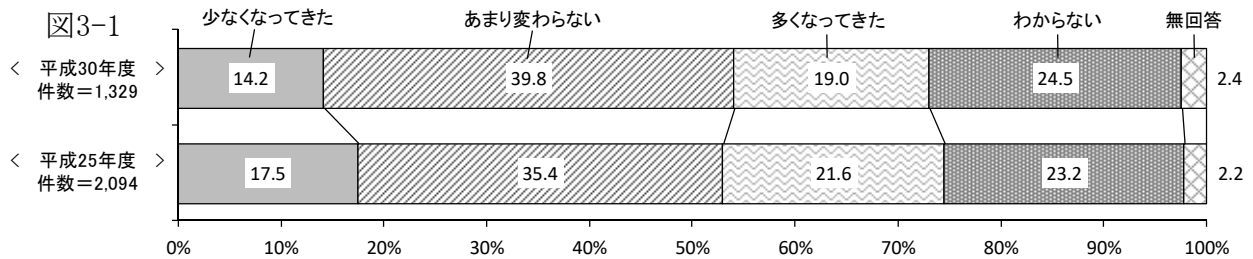


問3 日本の人権の現状について、おたずねします。次の(1)～(4)のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。

(1) 人権が侵害されるようなことは、この5～6年で次第に少なくなってきたと思いますか。

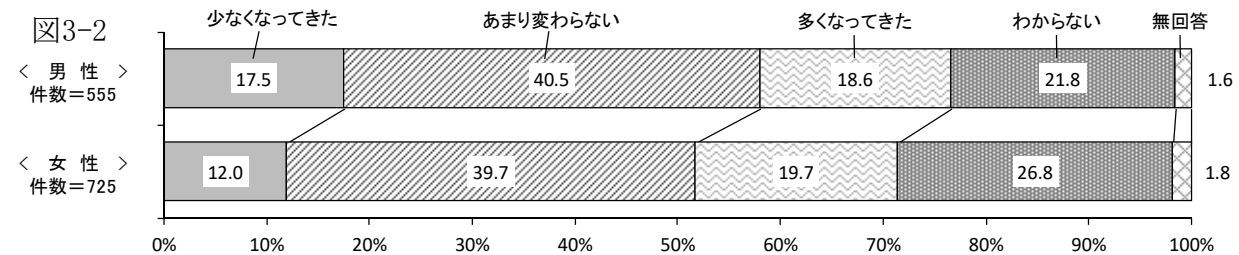
(○は1つ)

人権が侵害されるようなことは、この5～6年で少なくなってきたかについては、「あまり変わらない」の割合が最も高く39.8%となっている。



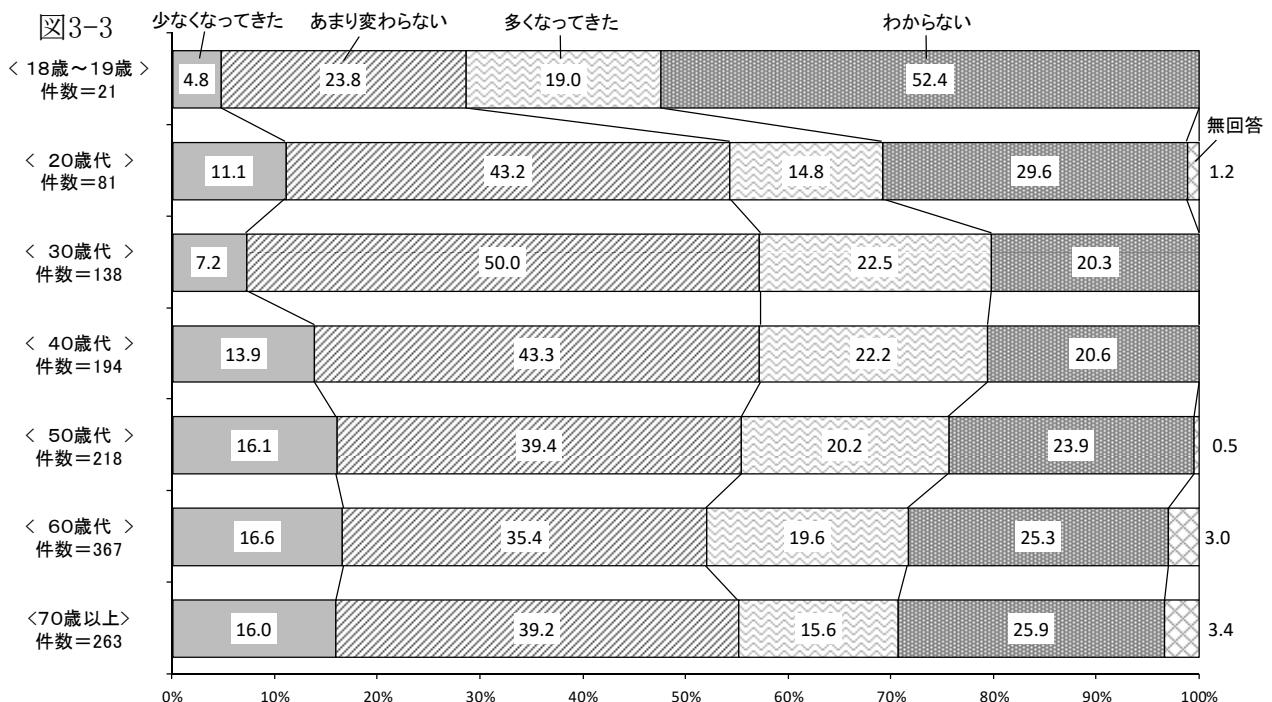
### ■性別

性別で比較すると、「少なくなってきた」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高い。



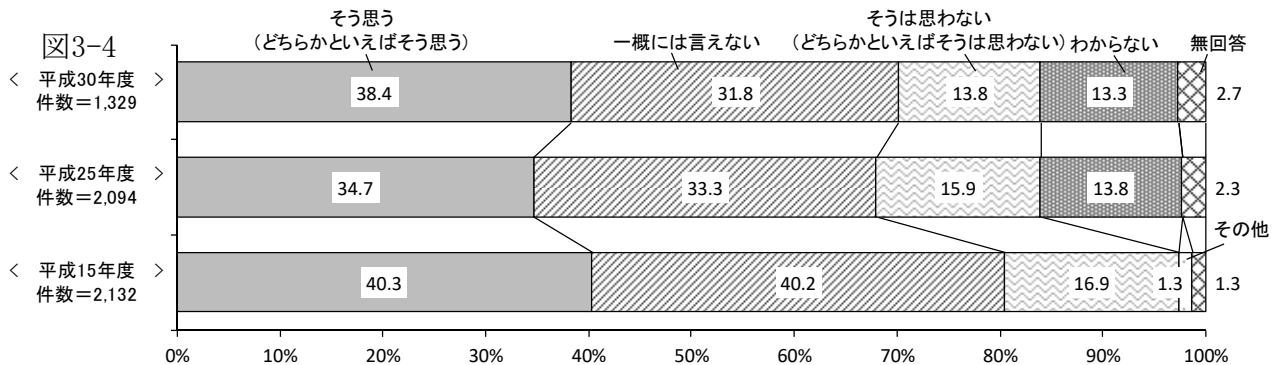
### ■年代別

年代別で比較すると、年代が上がるほど「少なくなってきた」の割合が高くなる傾向にある。



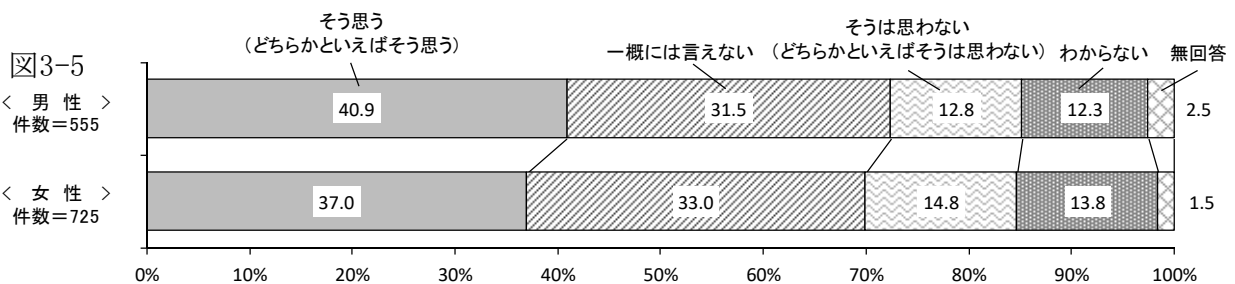
(2) 国民一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなったと思いますか。(〇は1つ)

国民一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなったと思うかについては、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の割合が最も高く38.4%となっている。次いで、「一概には言えない」が31.8%、「そうは思わない（どちらかといえばそうは思わない）」が13.8%となっている。



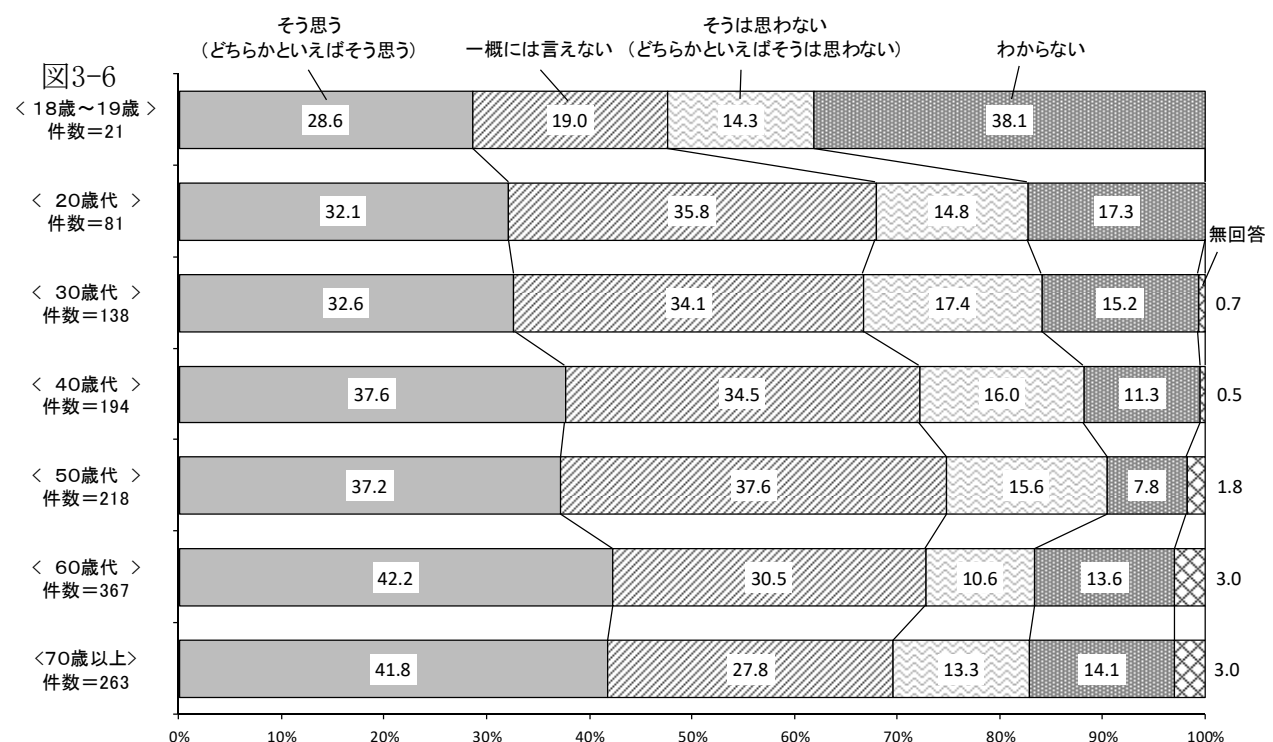
■性別

性別で比較すると、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の割合が、男性が女性より高く、また「一概には言えない」「そうは思わない（どちらかといえばそうは思わない）」の割合は、女性が男性より高い。



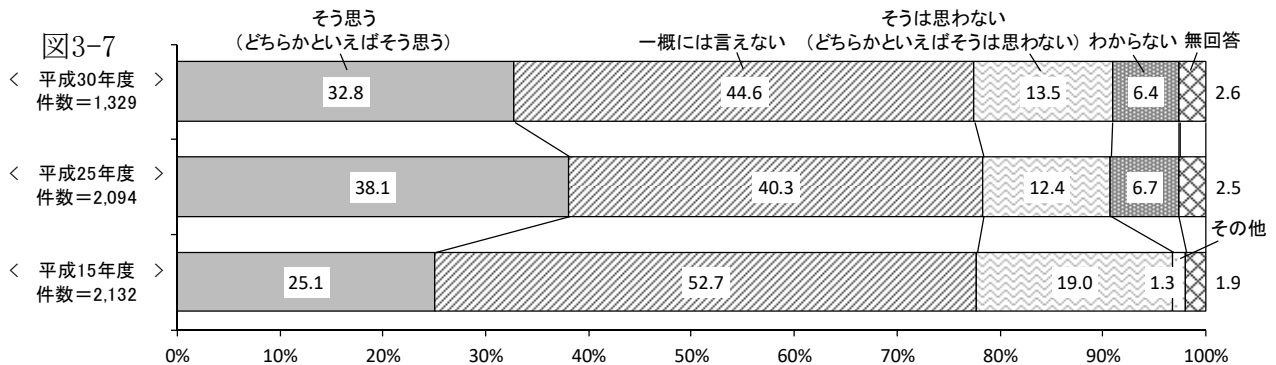
■年代別

年代別で比較すると、年代が上がるほど「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の割合が高くなる傾向にある。



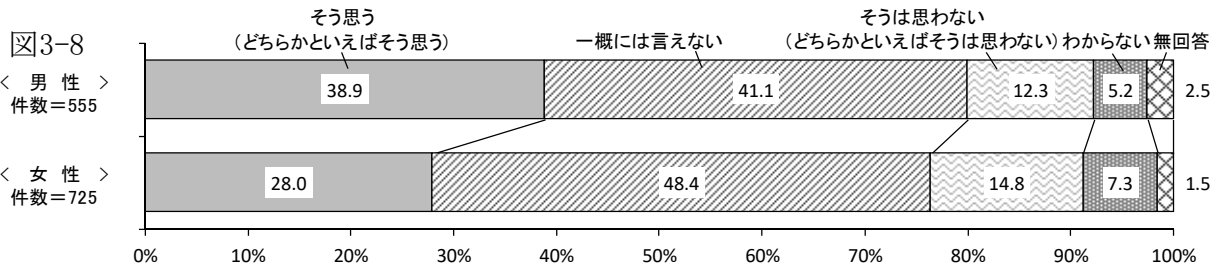
(3) 今の日本は、基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。(〇は1つ)

基本的人権が尊重されている社会だと思うかについては、「一概には言えない」の割合が最も高く44.6%となっている。次いで、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」が32.8%、「そうは思わない(どちらかといえばそうは思わない)」が13.5%となっている。



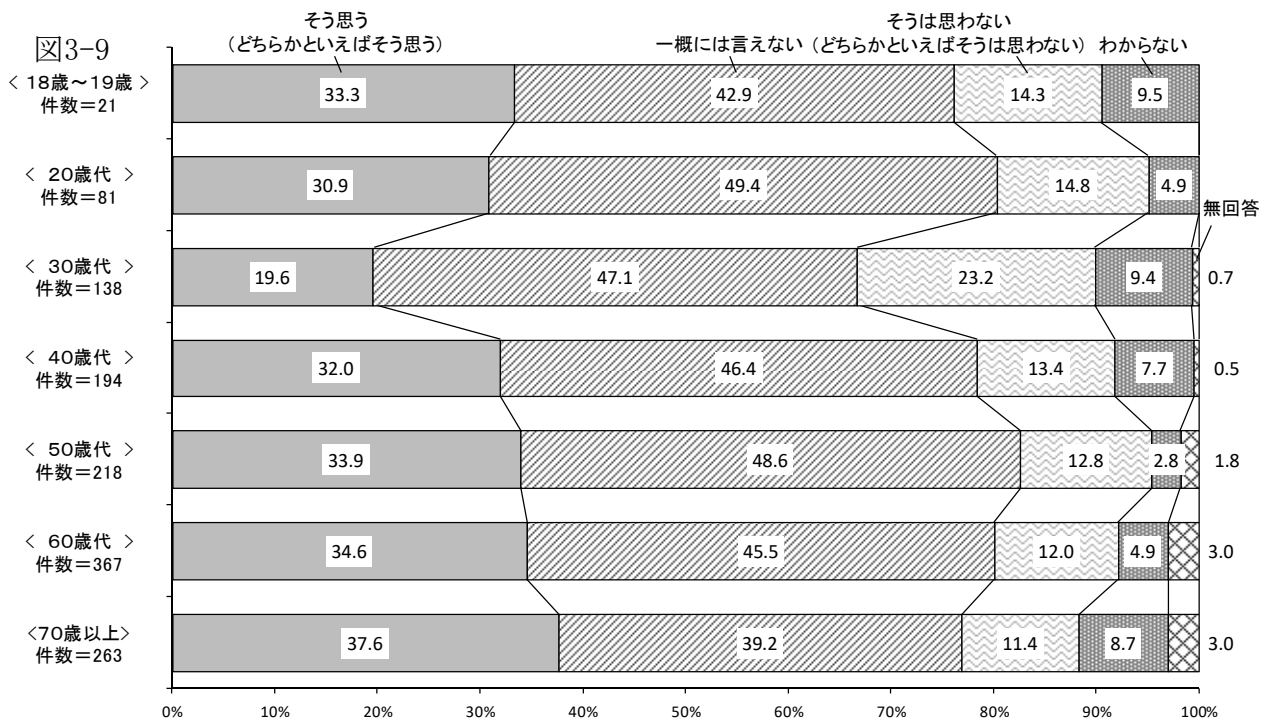
■性別

性別で比較すると、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」の割合が、男性が女性より10ポイント以上高く、また「一概には言えない」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。



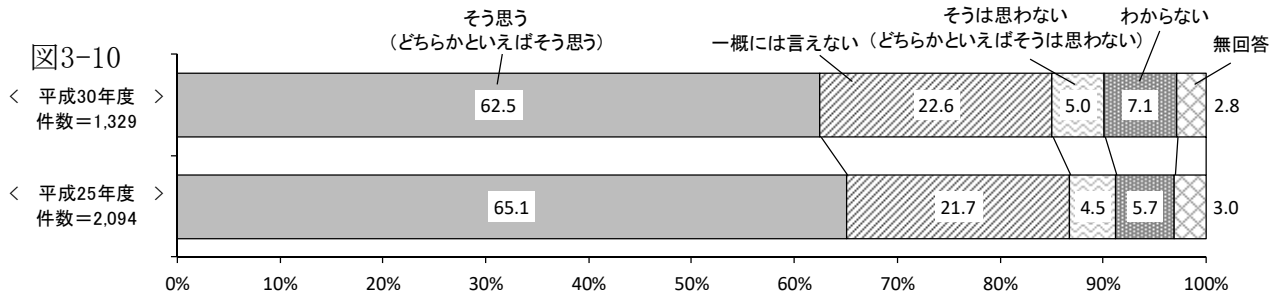
■年代別

年代別で比較すると、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」の割合は、30歳代を除く全年代で「そうは思わない(どちらかといえばそうは思わない)」より高く、40歳代以上で年代が上がるほど「そう思う(どちらかといえばそう思う)」の割合が高い。



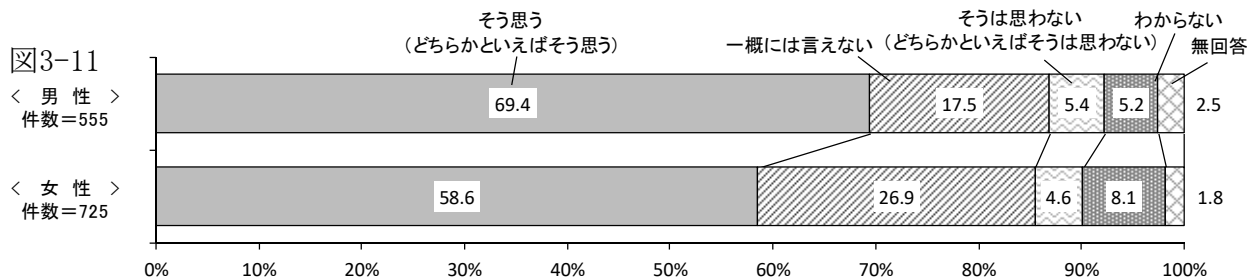
(4) 「人権尊重が叫ばれる一方で、権利のみを主張して、他人のことを考えない人が増えてきた」という意見について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

「人権尊重が叫ばれる一方で、権利のみを主張して、他人のことを考えない人が増えてきた」という意見については、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の割合が最も高く62.5%となっている。次いで、「一概には言えない」が22.6%、「わからない」が7.1%となっている。



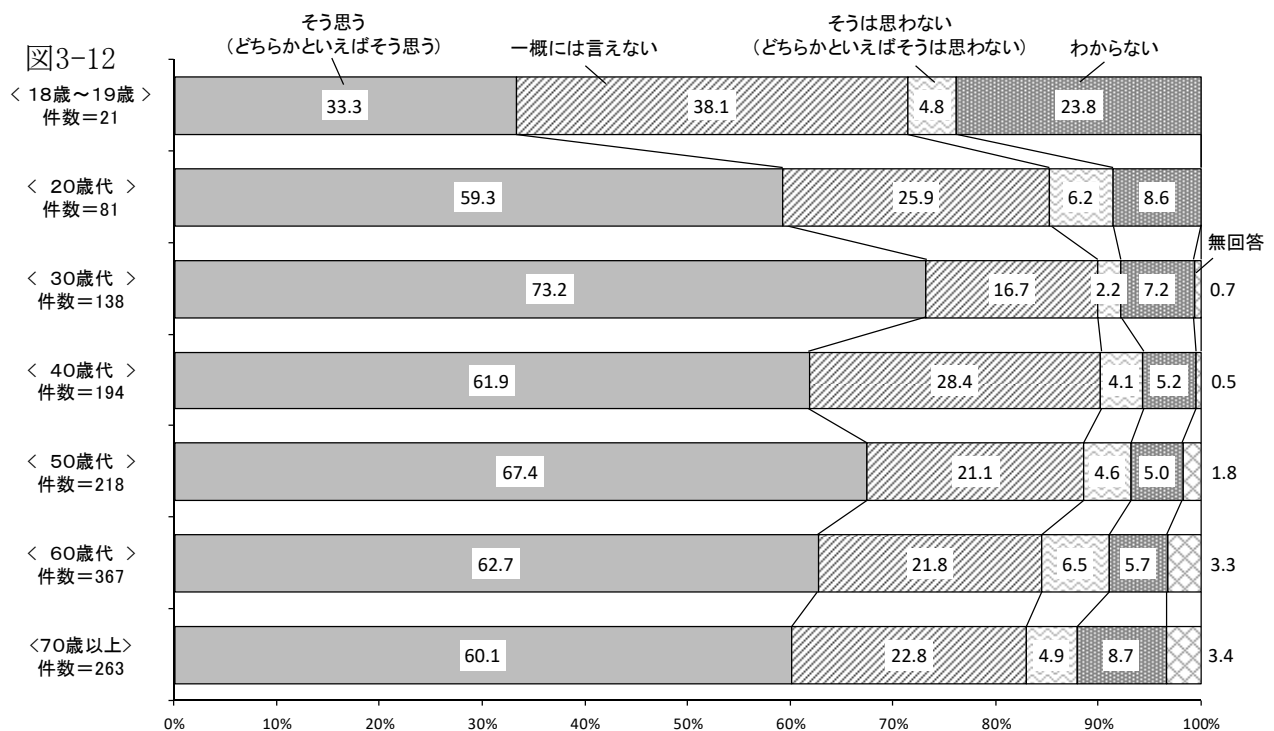
### ■性別

性別で比較すると、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の割合が、男性が女性より10ポイント以上高い。



### ■年代別

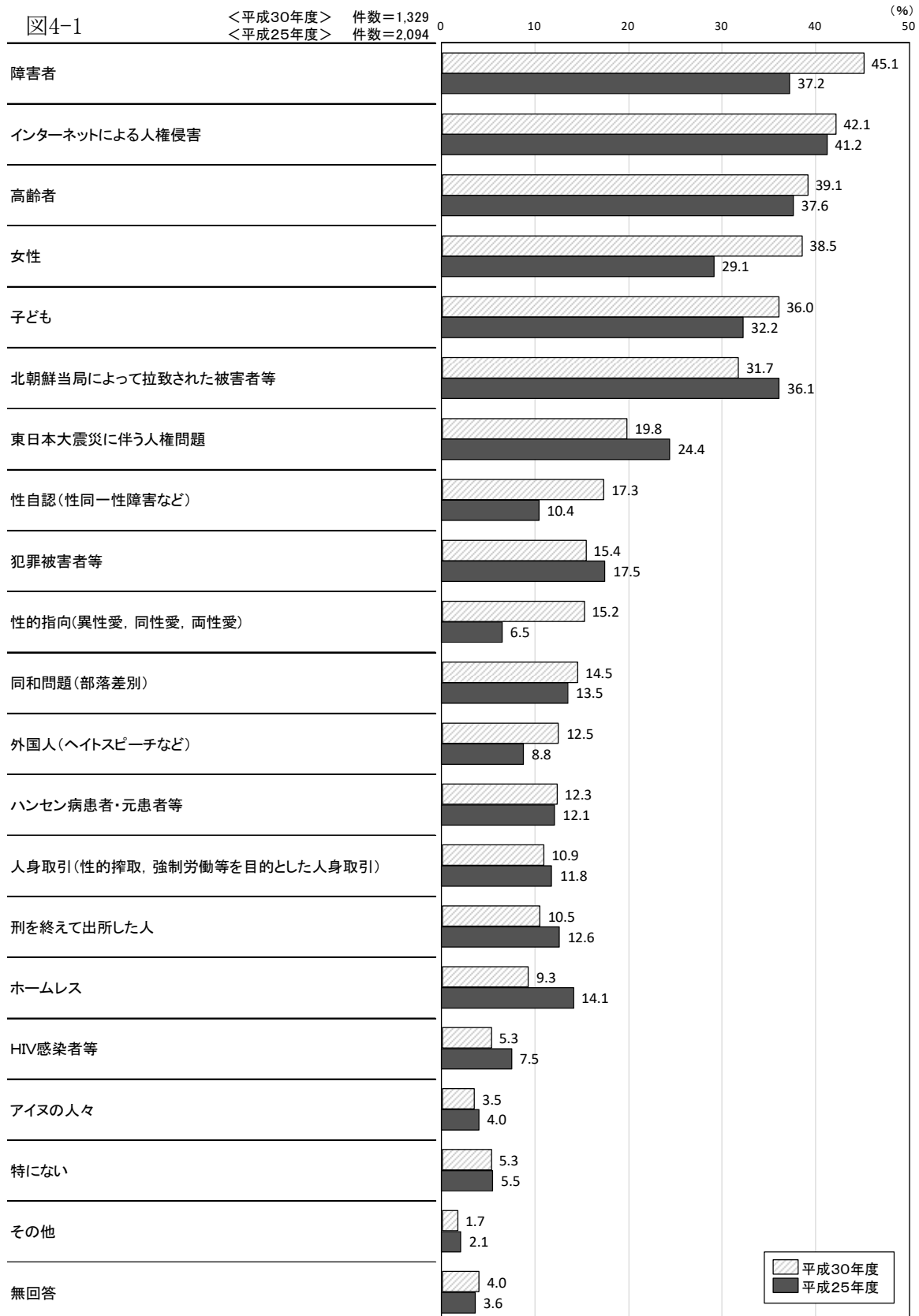
年代別で比較すると、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の割合が、全年代で「そうは思わない（どちらかといえばそうは思わない）」より高い。



問4 あなたが、関心のある人権問題はどれですか。(〇はいくつでも)

関心のある人権問題については、「障害者」の割合が最も高く45.1%となっている。次いで、「インターネットによる人権侵害」が42.1%、「高齢者」が39.1%、「女性」が38.5%となっている。

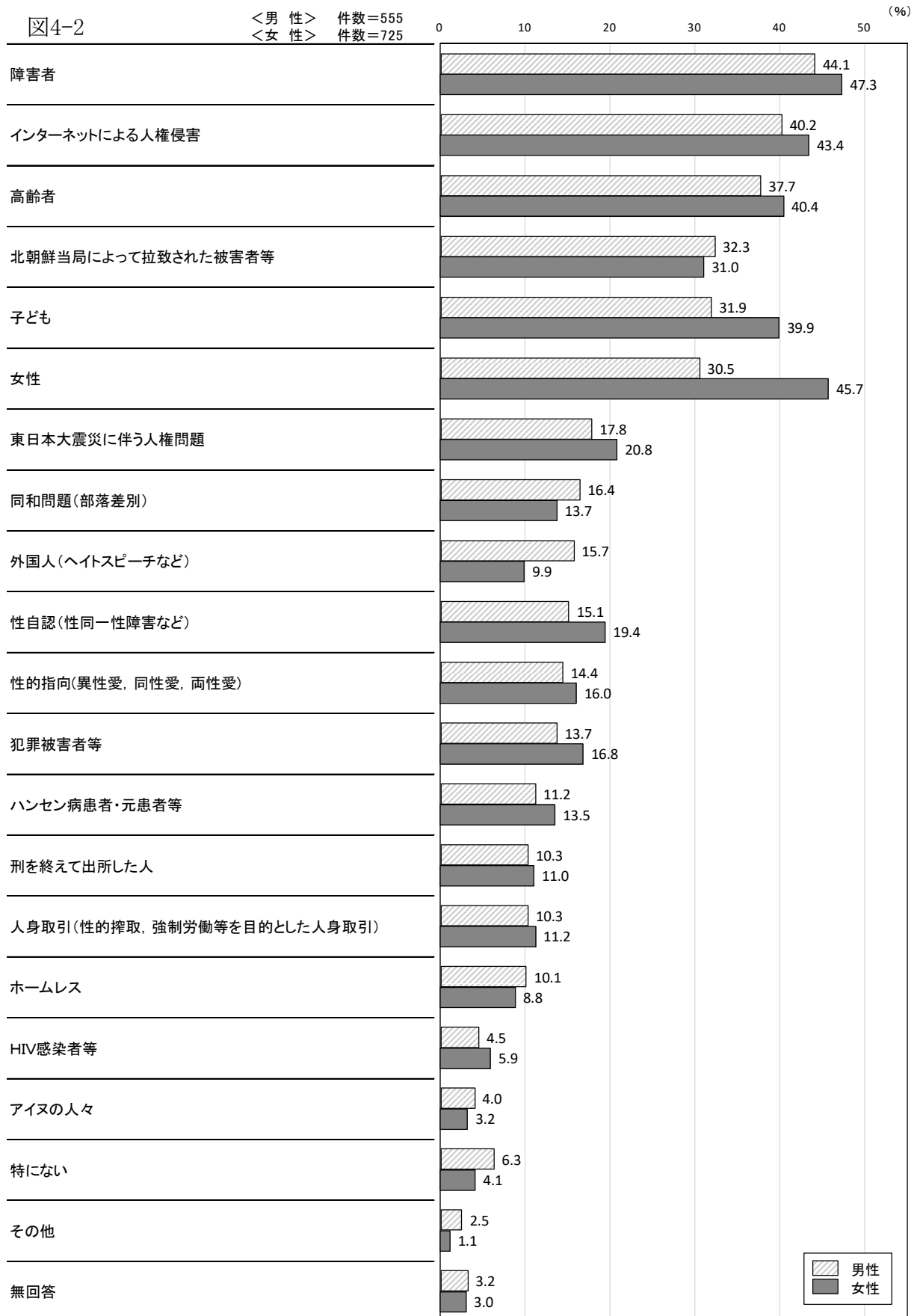
平成25年度と比較すると、「女性」「性的指向」「障害者」「性自認」への関心が5ポイント以上高い。





## ■性別

性別で比較すると、「外国人（ヘイトスピーチなど）」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高く、また「女性」の割合は15%以上、「子ども」の割合は5%以上、女性が男性より高い。



## ■年代別

年代別で比較すると、18歳～19歳で「障害者」、20歳代以上で「女性」「インターネットによる人権侵害」「障害者」「子ども」の割合が高い。

また、20歳代で「性的指向」、60歳代以上で「高齢者」「北朝鮮当局によって拉致された被害者等」の割合も高い。

図4-3

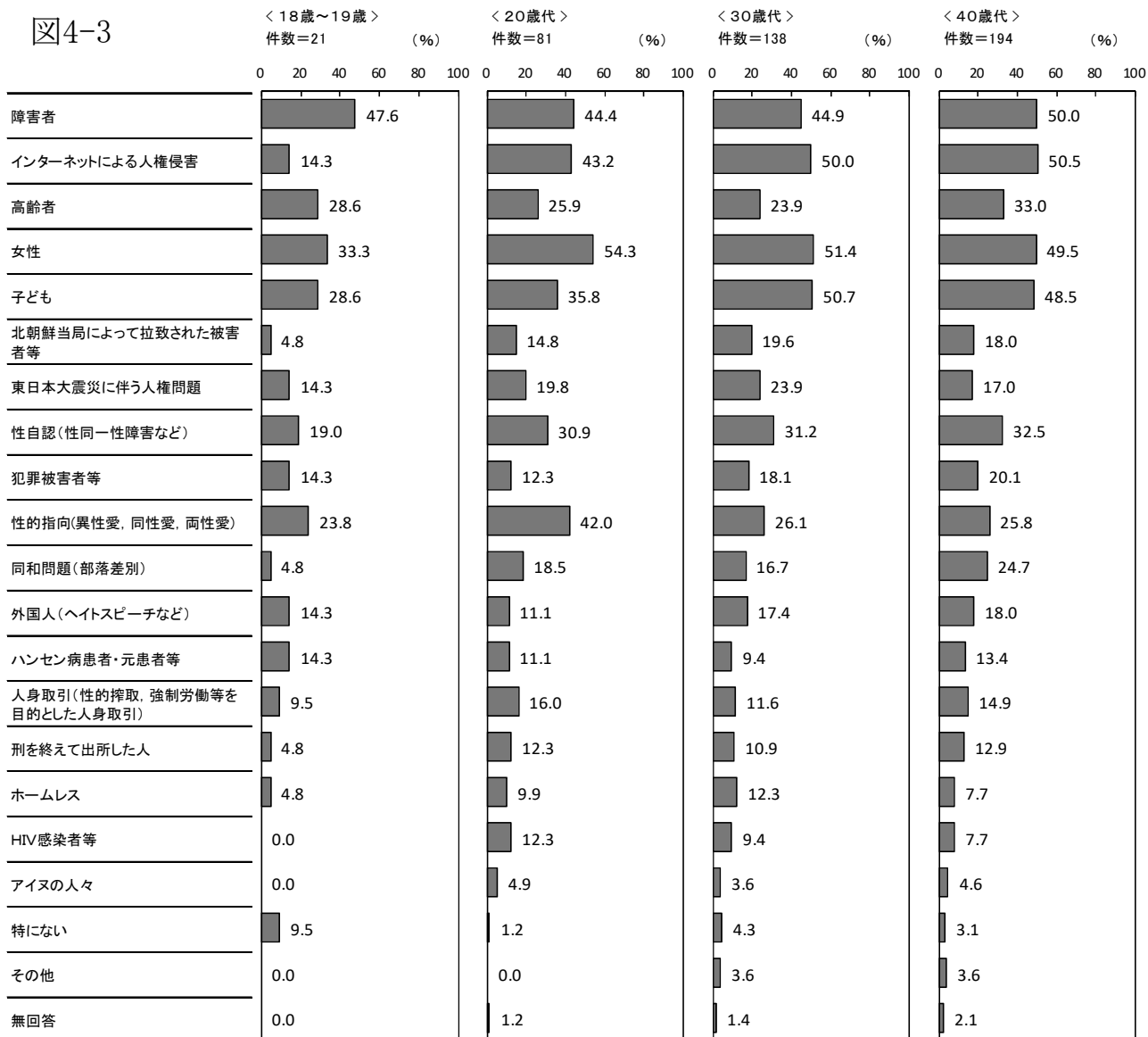
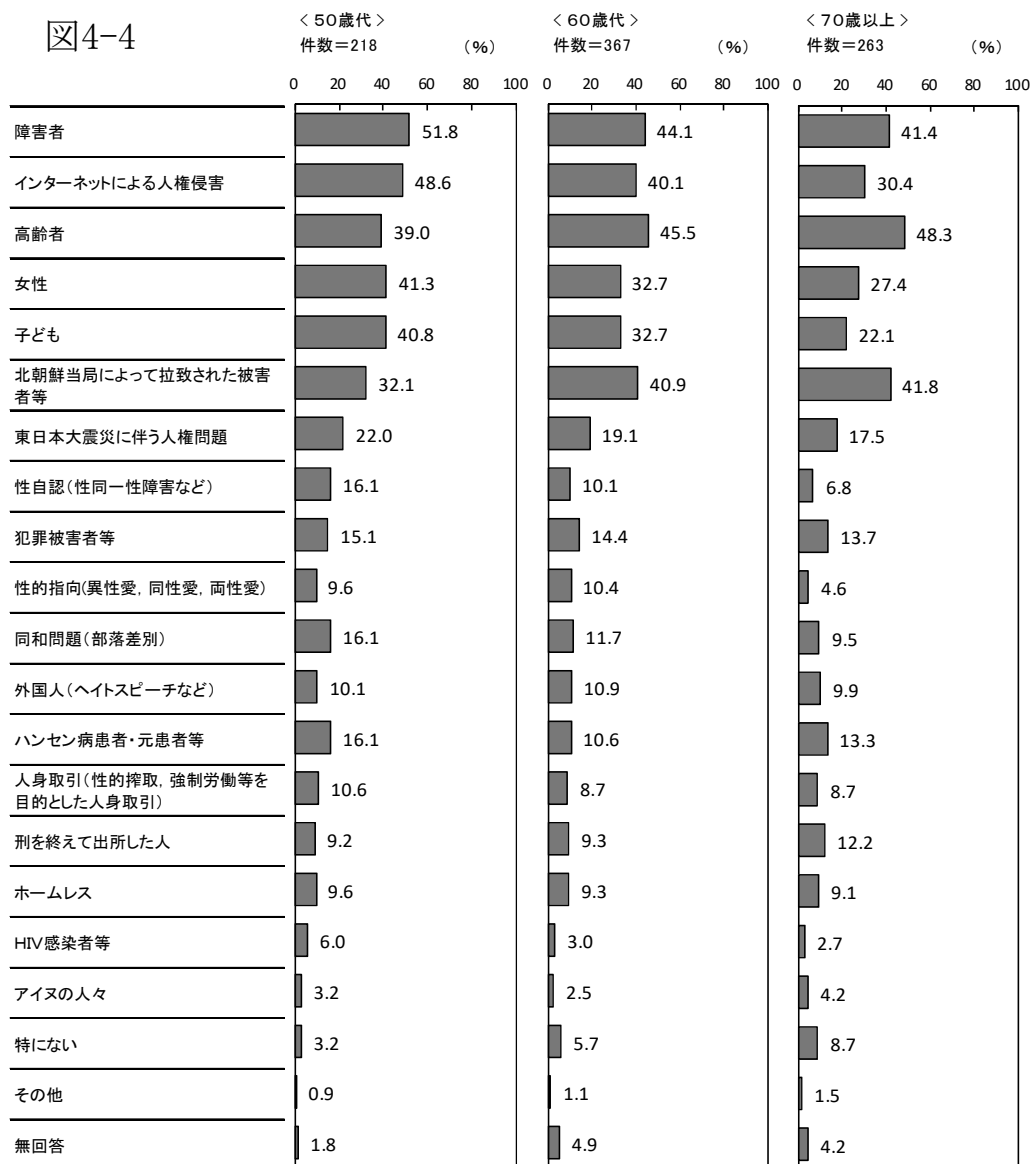


図4-4



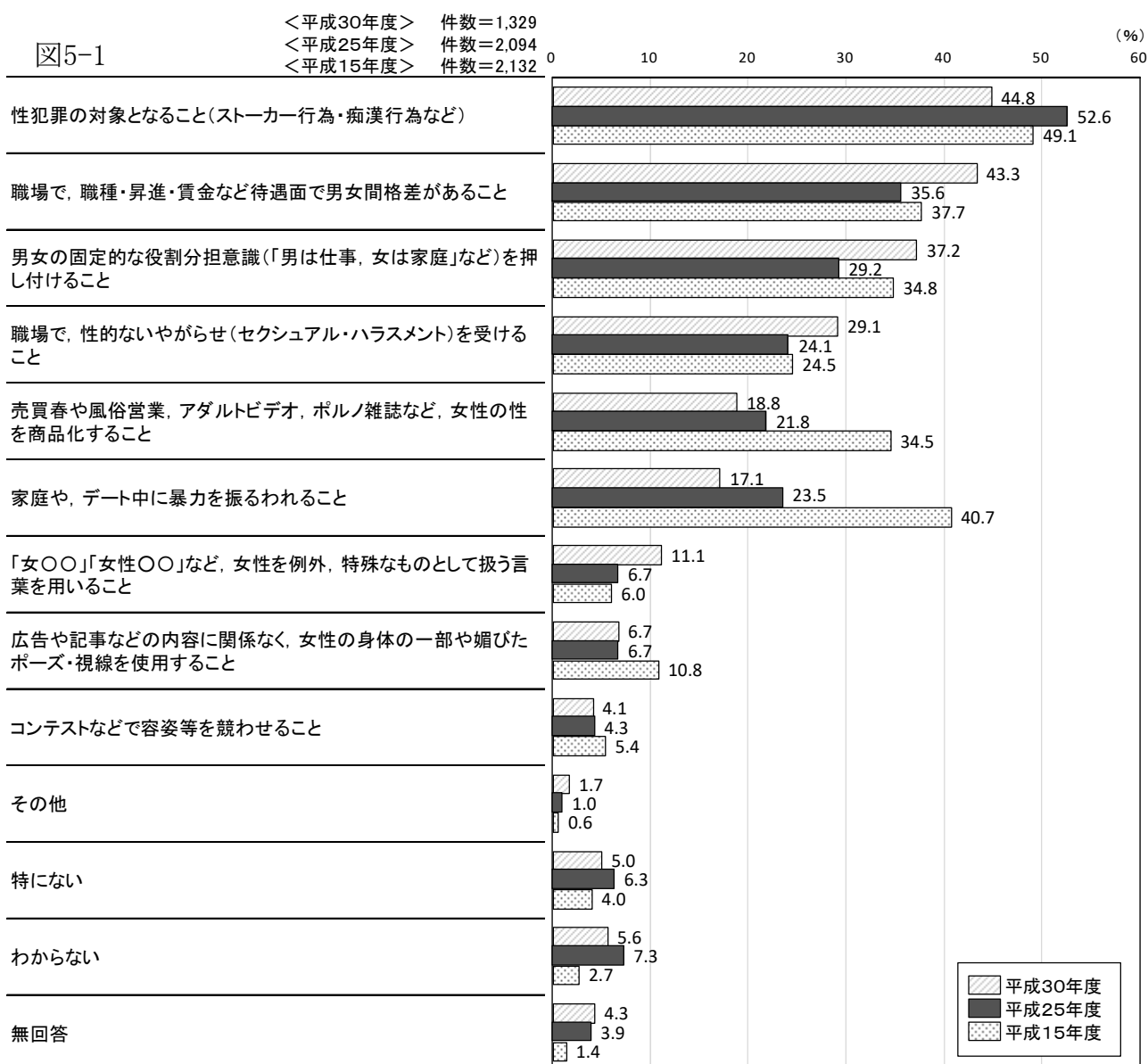
## 【女性】

問5 あなたは、女性に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。  
(〇は3つまで)

女性に関しての人権問題については、「性犯罪の対象となること（ストーカー行為・痴漢行為など）」の割合が最も高く44.8%となっている。

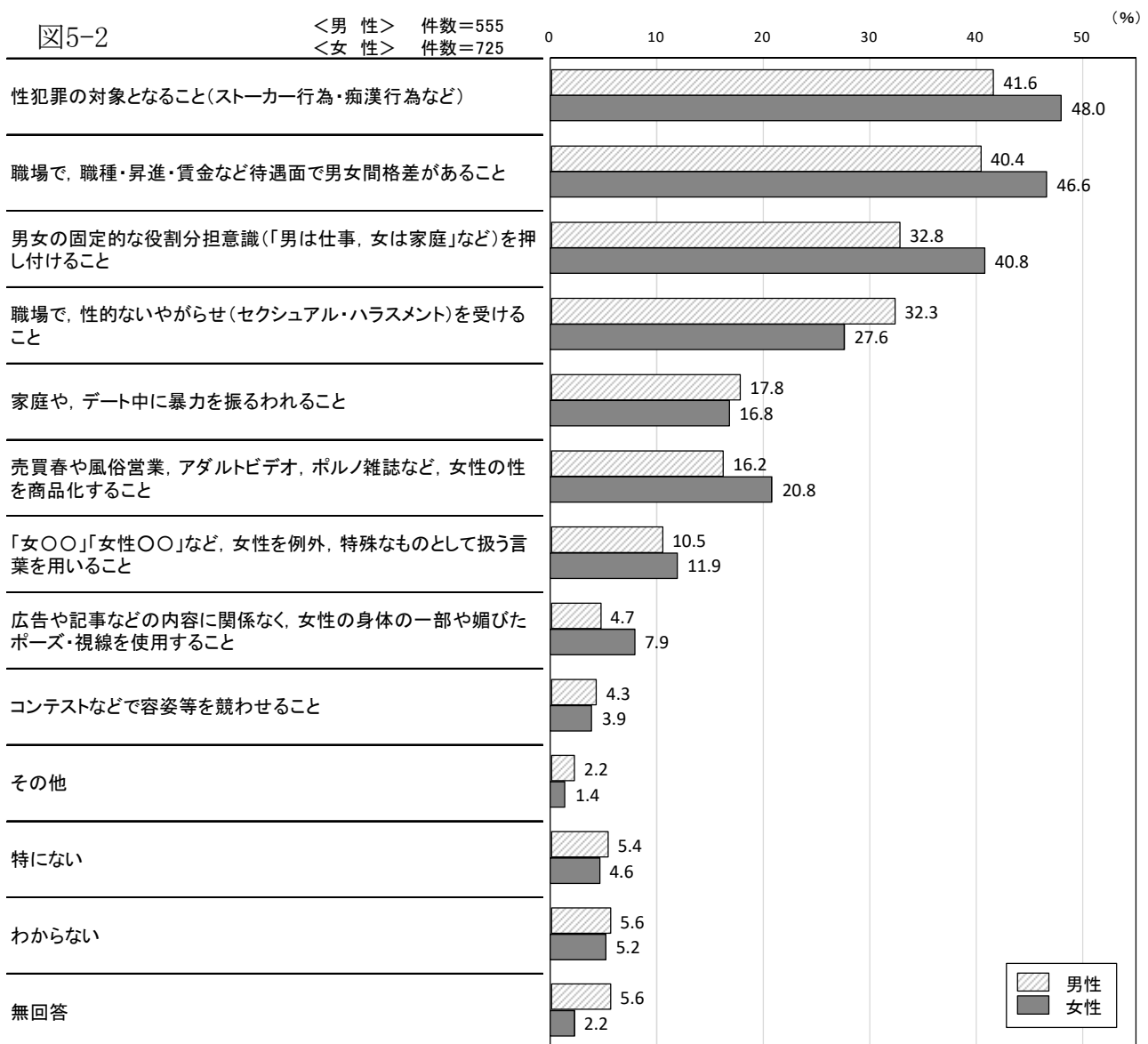
次いで、「職場で、職種・昇進・賃金など待遇面で男女間格差があること」が43.3%、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を押し付けること」が37.2%、「職場で、性的ないやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けること」が29.1%となっており、いずれも平成25年度と比較すると5ポイント以上高い。

平成15年度、平成25年度と比較すると、「家庭や、デート中に暴力を振るわれること」「売買春や風俗営業、アダルトビデオ、ポルノ雑誌など、女性の性を商品化すること」「性犯罪の対象となること（ストーカー行為・痴漢行為など）」の割合は低い。



## ■性別

性別で比較すると、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事，女は家庭」など）を押し付けること」「性犯罪の対象となること（ストーカー行為・痴漢行為など）」「職場で，職種・昇進・賃金など待遇面で男女間格差があること」の割合が，女性が男性より5ポイント以上高い。

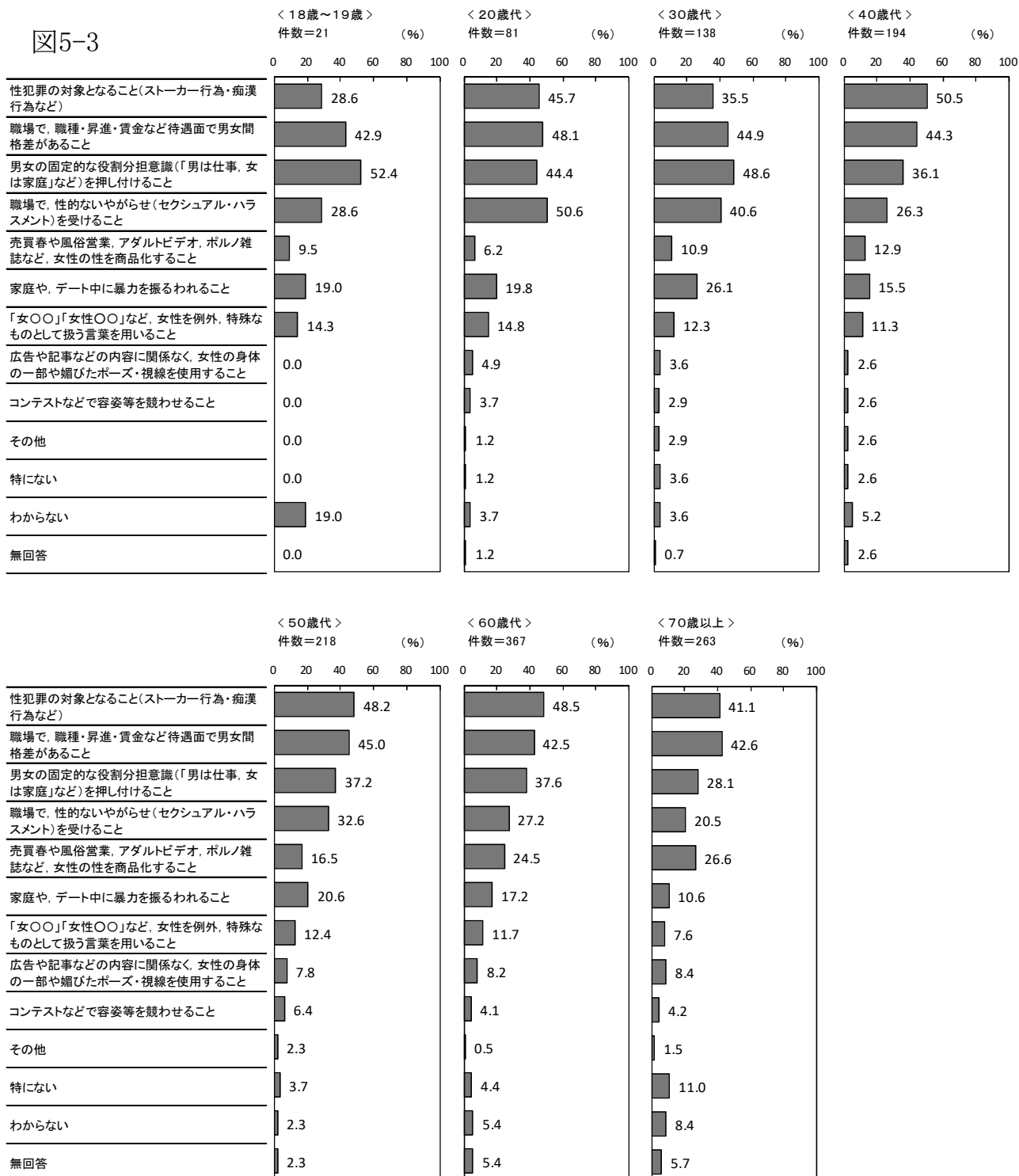


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「性犯罪の対象となること（ストーカー行為・痴漢行為など）」「職場で、職種・昇進・賃金など待遇面で男女間格差があること」「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を押しつけること」の割合が高い。

また、20歳代、30歳代で「職場で、性的ないやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けること」の割合も高い。

図5-3



問6 あなたは、女性の人権を守るために必要なことは、何だと思えますか。

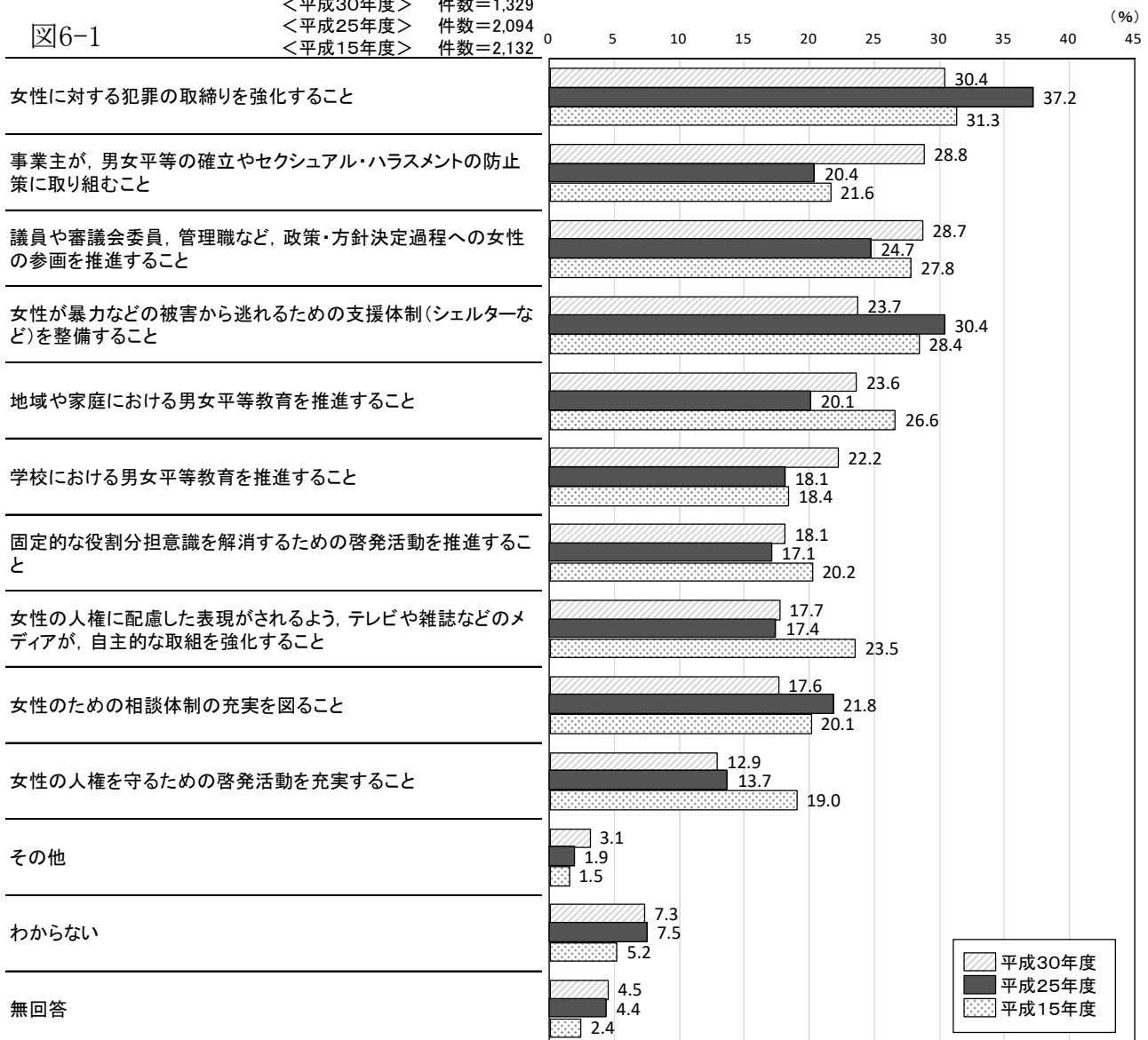
(〇は3つまで)

女性の人権を守るために必要なことは、「女性に対する犯罪の取締りを強化すること」の割合が最も高く30.4%となっている。次いで、「事業主が、男女平等の確立やセクシュアル・ハラスメントの防止策に取り組むこと」が28.8%、「議員や審議会委員，管理職など，政策・方針決定過程への女性の参画を推進すること」が28.7%、「女性が暴力などの被害から逃れるための支援体制（シェルターなど）を整備すること」が23.7%となっている。平成15年度，平成25年度も含めて，「女性に対する犯罪の取締りを強化すること」の割合は3割を超えて最も高い。

平成15年度，平成25年度と比較すると，「事業主が，男女平等の確立やセクシュアル・ハラスメントの防止策に取り組むこと」の割合が5ポイント以上高い。

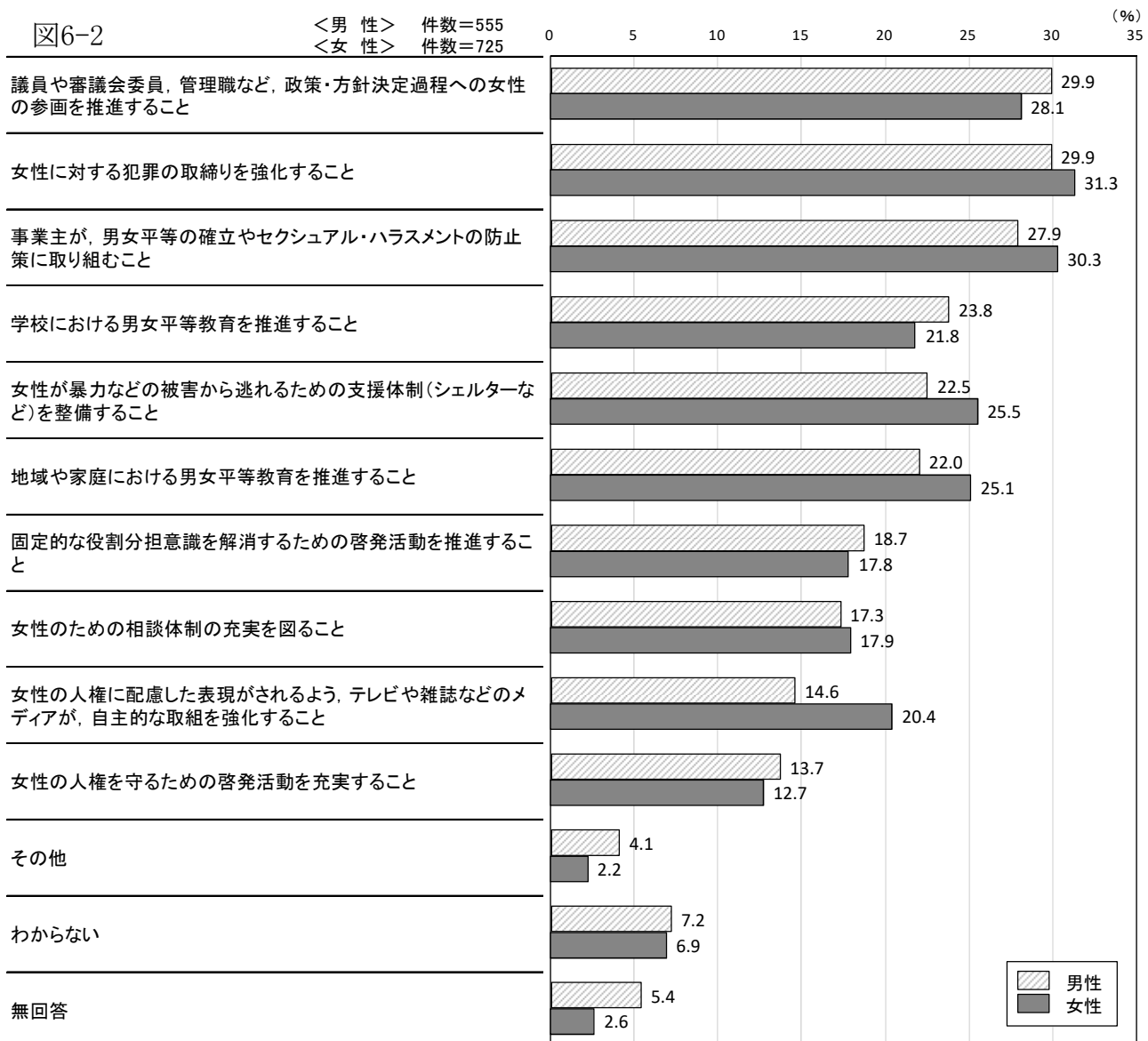
図6-1

<平成30年度> 件数=1,329  
 <平成25年度> 件数=2,094  
 <平成15年度> 件数=2,132



## ■性別

性別で比較すると、「女性の人権に配慮した表現がされるよう、テレビや雑誌などのメディアが、自主的な取組を強化すること」の割合が、女性が男性より5ポイント以上高い。



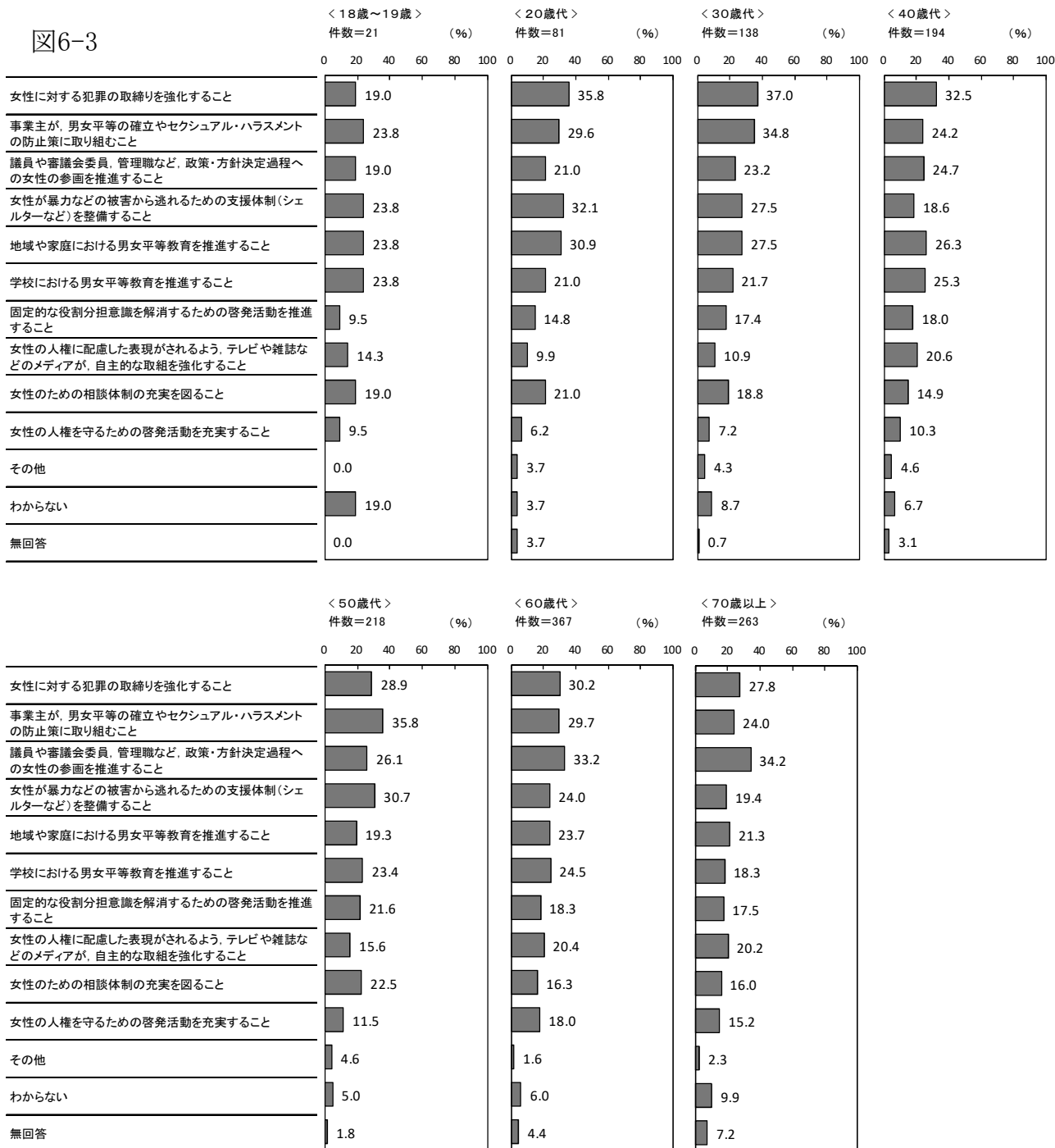


## ■年代別

年代別で比較すると、20歳代以上で「女性に対する犯罪の取締りを強化すること」「事業主が、男女平等の確立やセクシュアル・ハラスメントの防止策に取り組むこと」の割合が高い。

また、60歳代以上で「議員や審議会委員、管理職など、政策・方針決定過程への女性の参画を推進すること」の割合が最も高い。

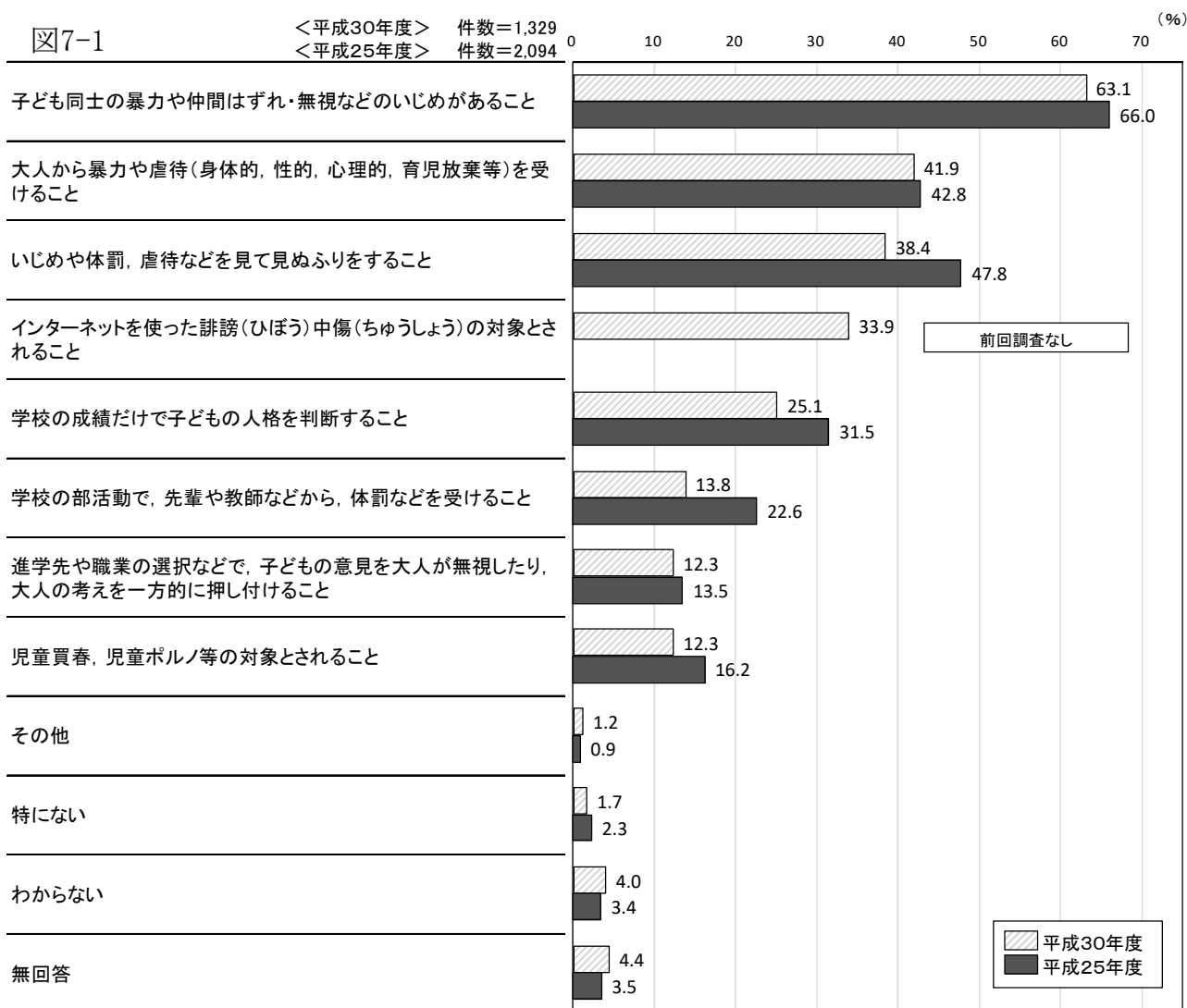
図6-3



## 【子ども】

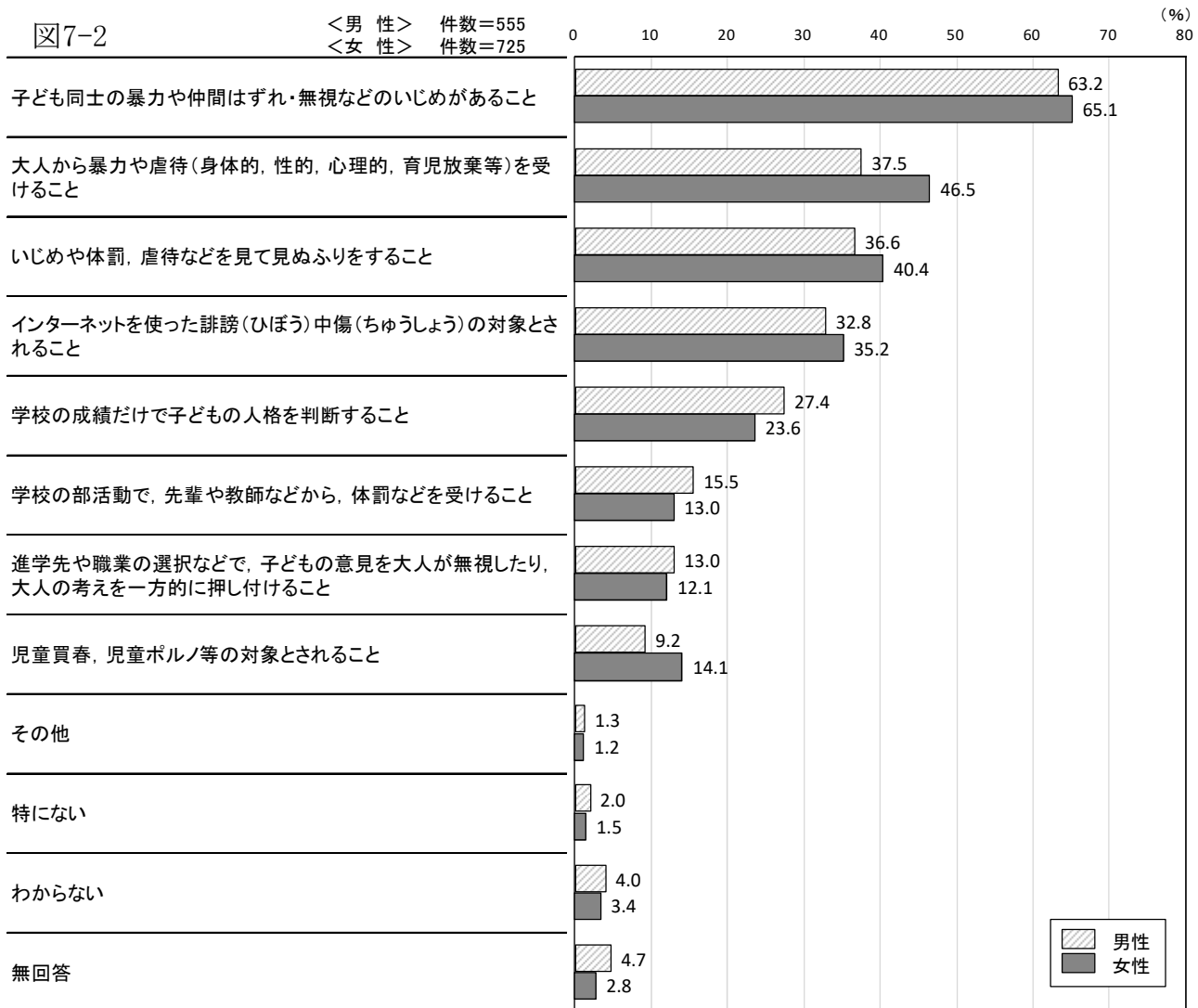
問7 あなたは、子どもに関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。  
(〇は3つまで)

子どもに関しての人権問題については、「子ども同士の暴力や仲間はずれ・無視などのいじめがあること」の割合が最も高く63.1%となっている。次いで、「大人から暴力や虐待（身体的、性的、心理的、育児放棄等）を受けること」が41.9%、「いじめや体罰、虐待などを見て見ぬふりをする事」が38.4%、「インターネットを使った誹謗（ひぼう）中傷（ちゅうしょう）の対象とされること」が33.9%、「学校の成績だけで子どもの人格を判断すること」が25.1%となっている。



## ■性別

性別で比較すると、「大人から暴力や虐待（身体的、性的、心理的、育児放棄等）を受けること」の割合が、女性が男性より5ポイント以上高い。

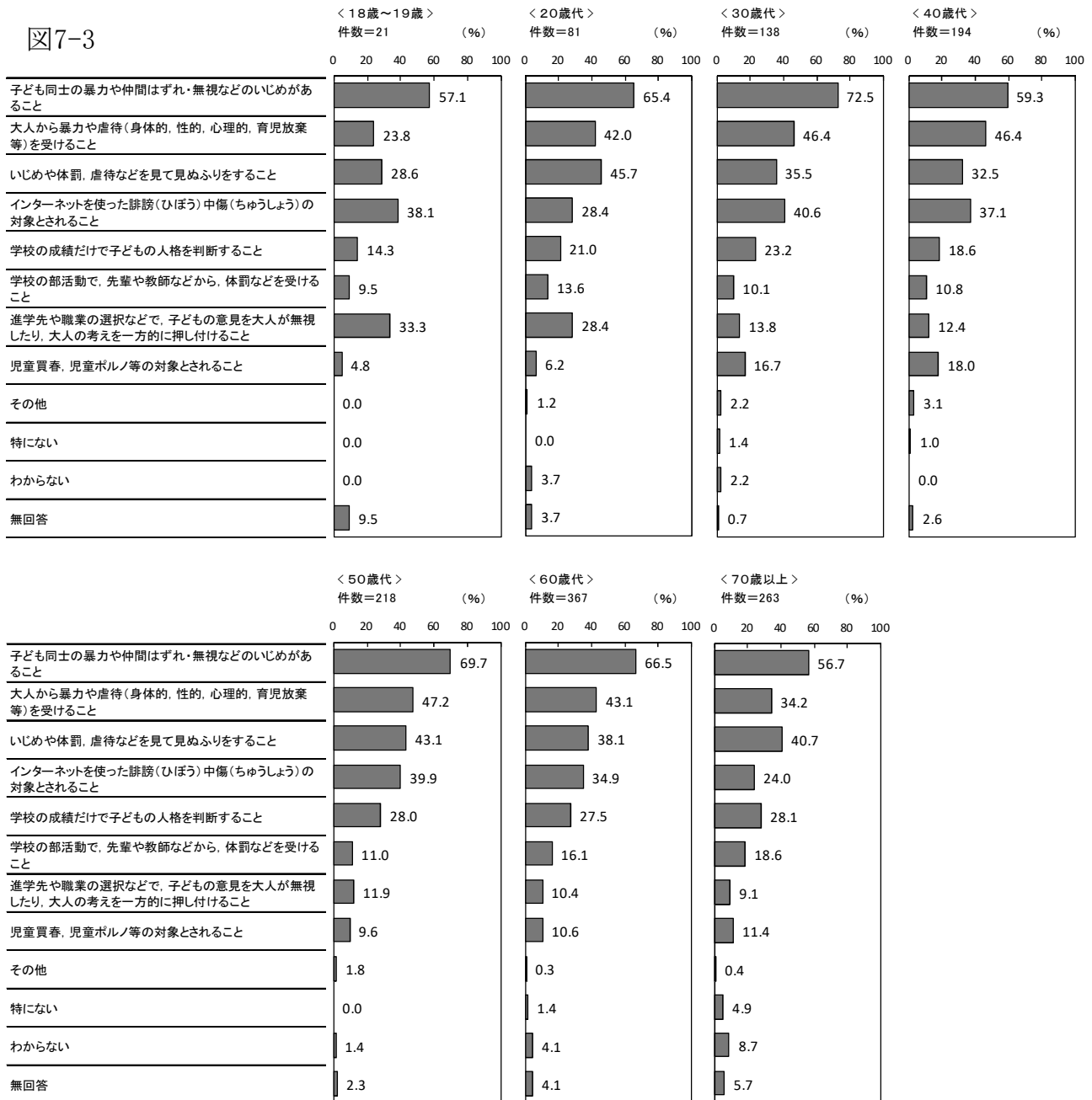


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「子ども同士の暴力や仲間はずれ・無視などのいじめがあること」の割合が最も高い。

また、20歳代以上で「大人から暴力や虐待（身体的、性的、心理的、育児放棄等）を受けること」「いじめや体罰、虐待などを見て見ぬふりをする事」の割合も高い。

図7-3

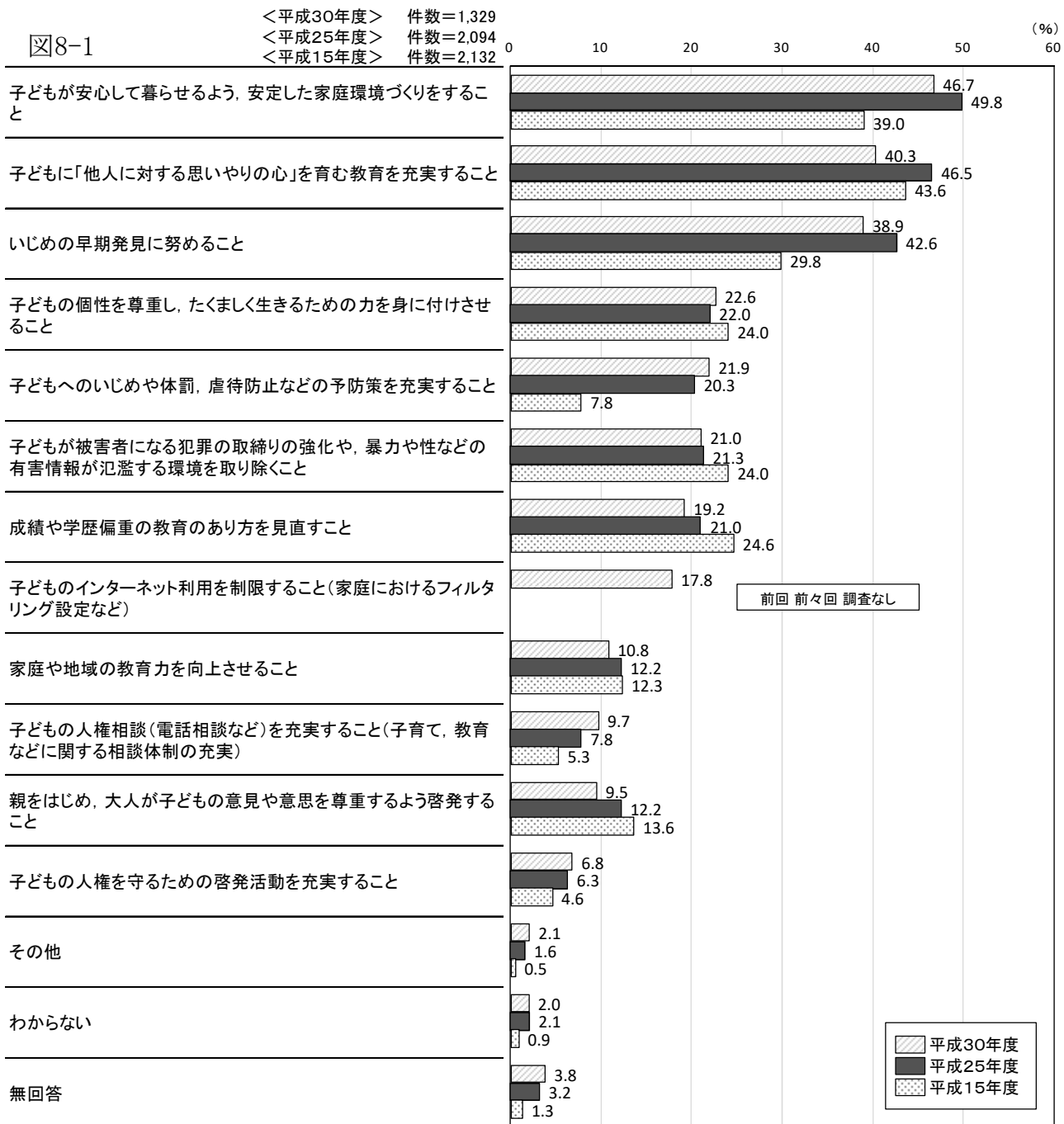


問8 あなたは、子どもの人権を守るために必要なことは、何だと思いますか。

(○は3つまで)

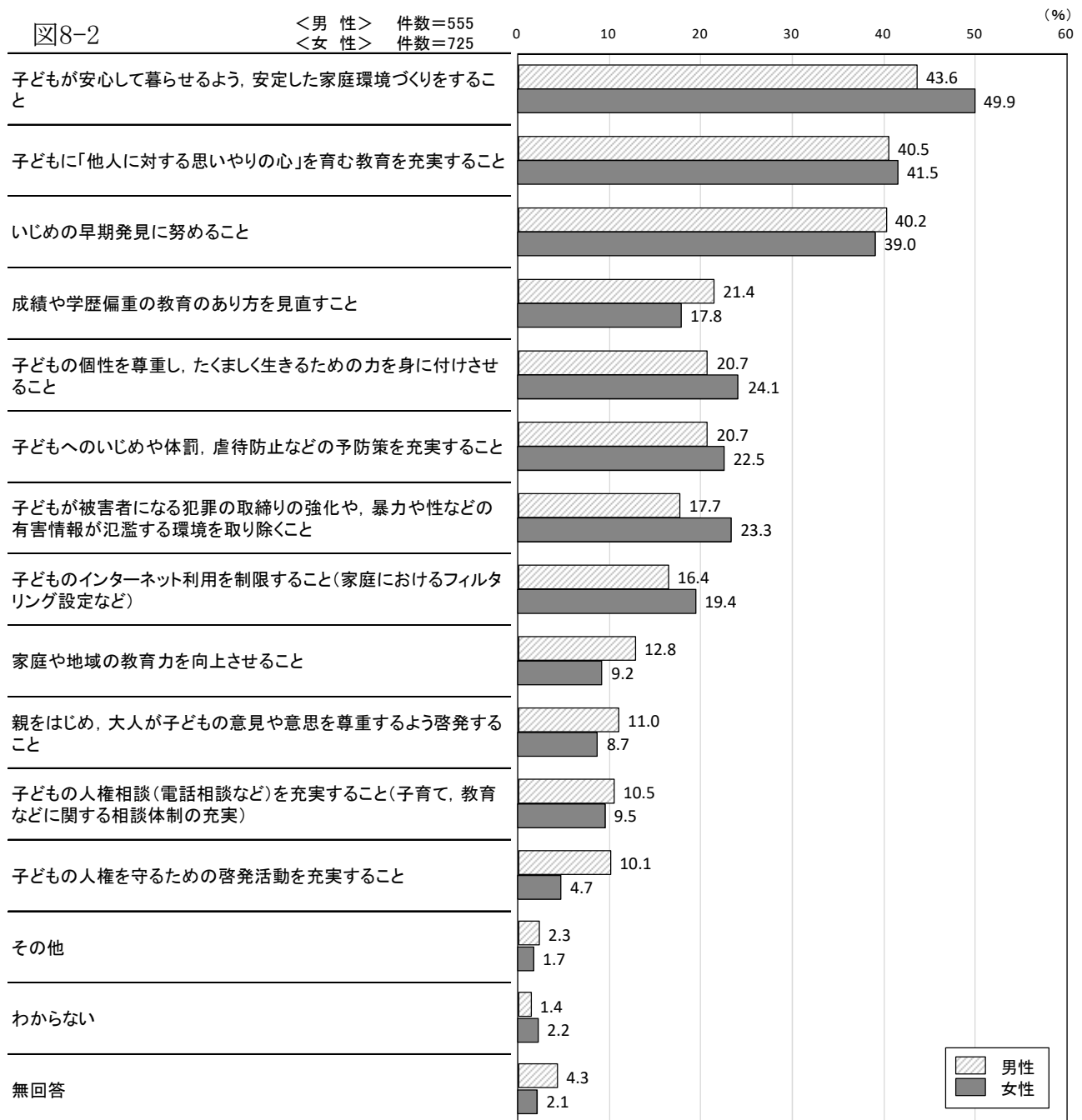
子どもの人権を守るために必要なことは、「子どもが安心して暮らせるよう、安定した家庭環境づくりをすること」の割合が最も高く46.7%となっている。次いで、「子どもに「他人に対する思いやりの心」を育む教育を充実すること」が40.3%、「いじめの早期発見に努めること」が38.9%となっている。

また、今回新たに設けた「子どものインターネット利用を制限すること（家庭におけるフィルタリング設定など）」の割合は17.8%となっている。



## ■性別

性別で比較すると、「子どもの人権を守るための啓発活動を充実すること」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高く、また「子どもが安心して暮らせるよう、安定した家庭環境づくりをすること」「子どもが被害者になる犯罪の取締りの強化や、暴力や性などの有害情報が氾濫する環境を取り除くこと」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。

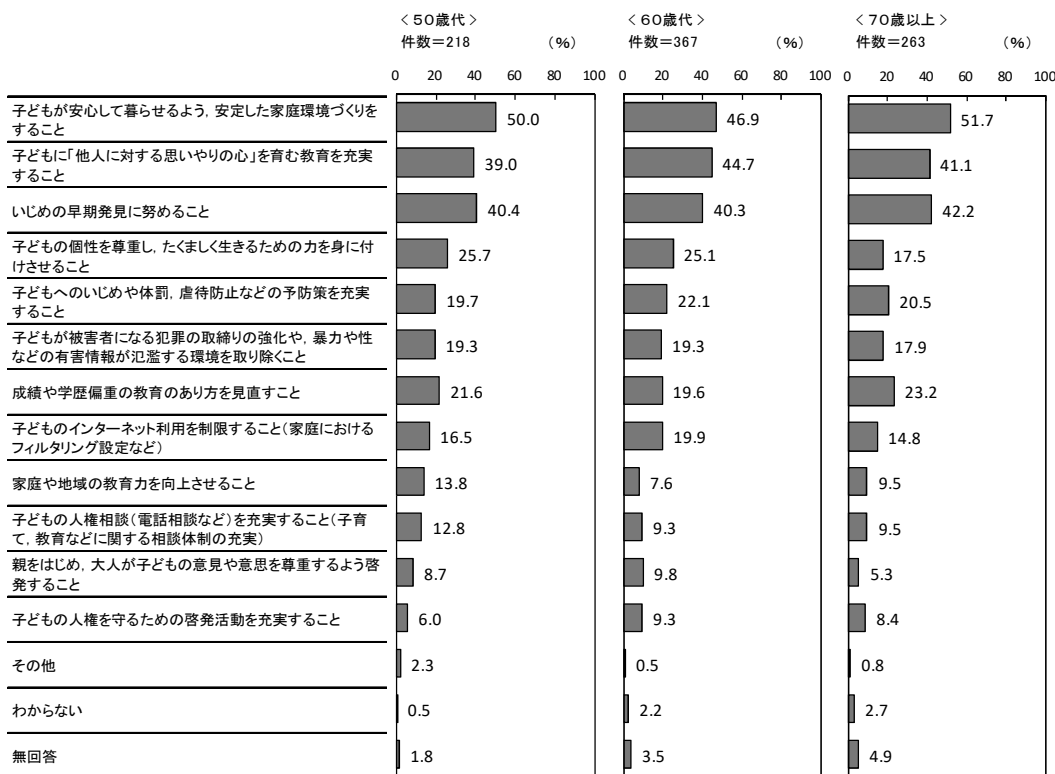
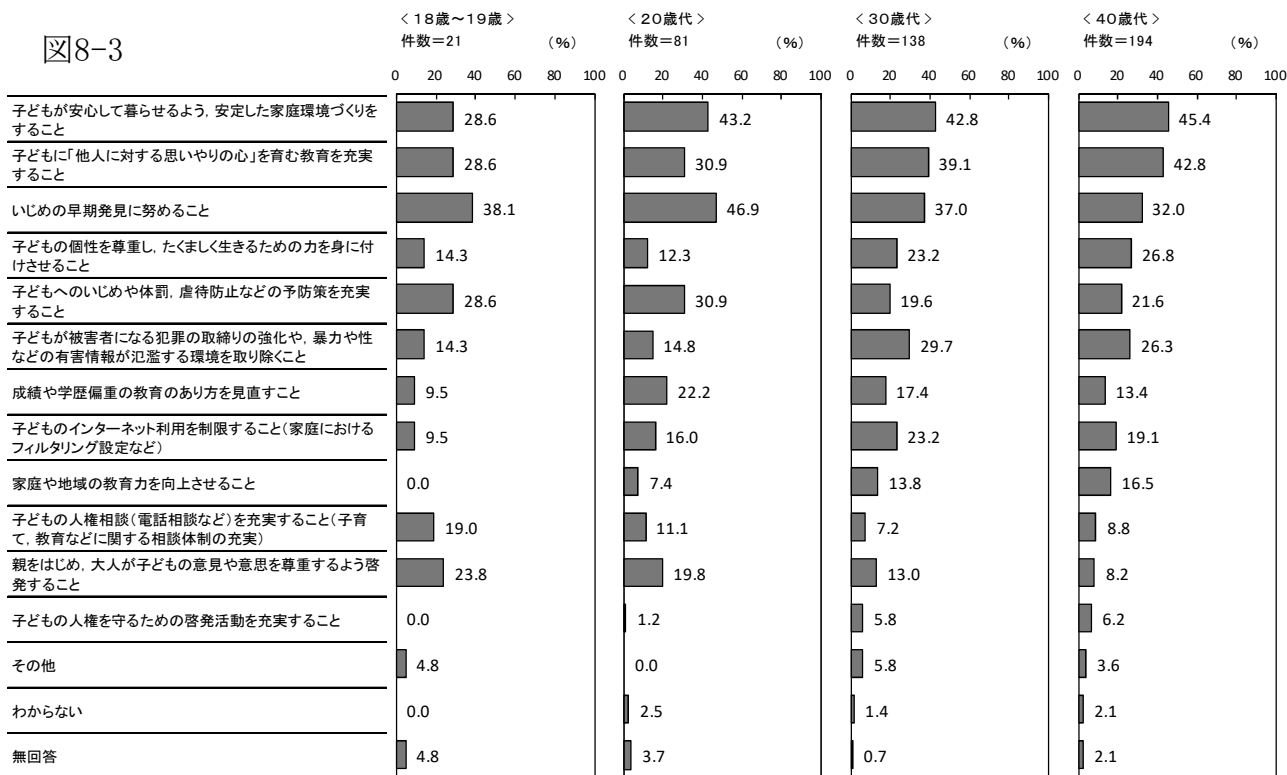


## ■年代別

年代別で比較すると、全世代で「いじめの早期発見に努めること」の割合が高い。

また、20歳代以上で「子どもが安心して暮らせるよう、安定した家庭環境づくりをすること」「子どもに「他人に対する思いやりの心」を育む教育を充実すること」の割合も高い。

図8-3

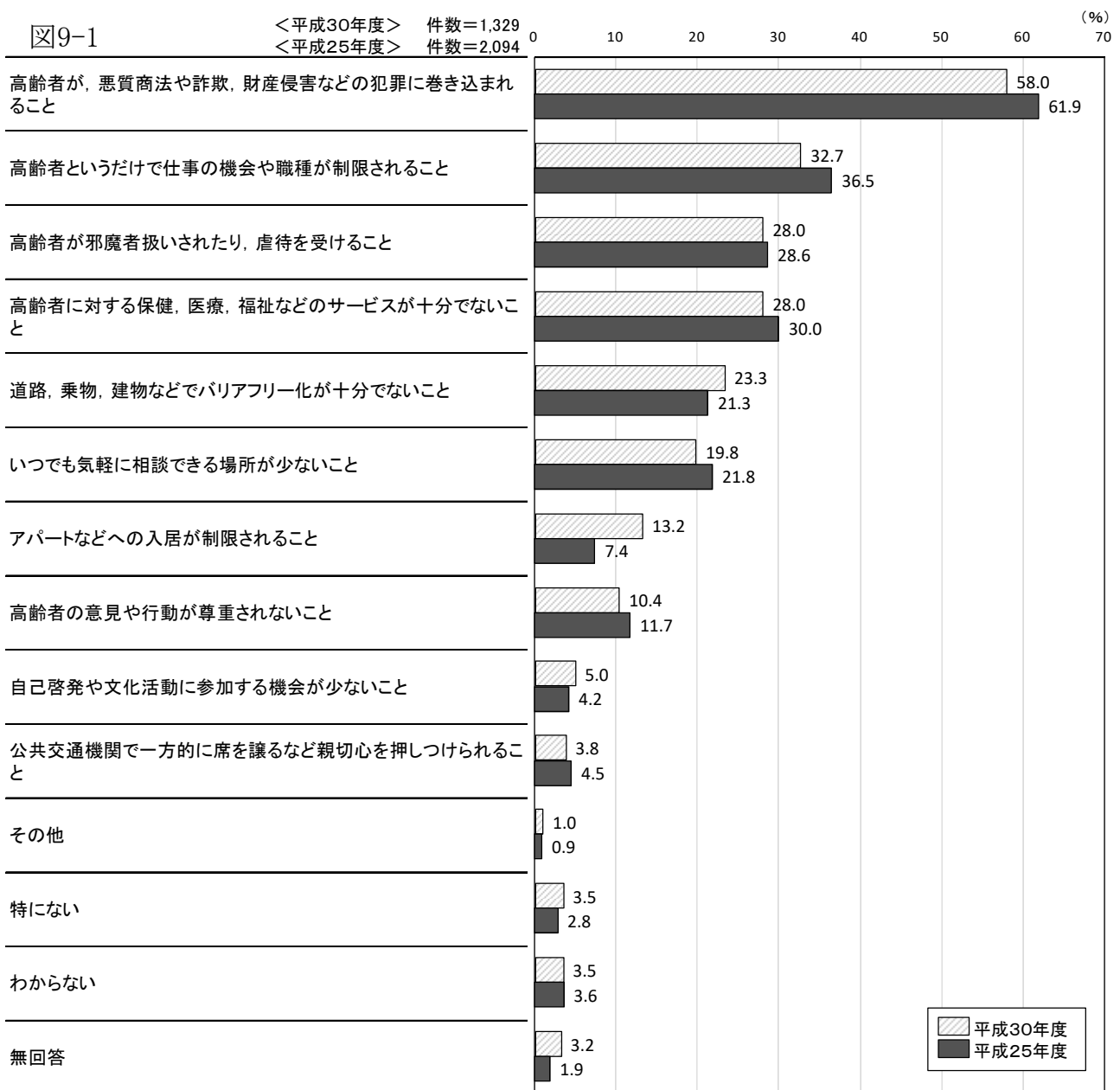


## 【高齢者】

問9 あなたは、高齢者に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。  
(〇は3つまで)

高齢者に関しての人権問題については、「高齢者が、悪質商法や詐欺、財産侵害などの犯罪に巻き込まれること」の割合が最も高く58.0%となっている。次いで、「高齢者というだけで仕事の機会や職種が制限されること」が32.7%、「高齢者が邪魔者扱いされたり、虐待を受けること」「高齢者に対する保健、医療、福祉などのサービスが十分でないこと」が28.0%、「道路、乗物、建物などでバリアフリー化が十分でないこと」が23.3%となっている。

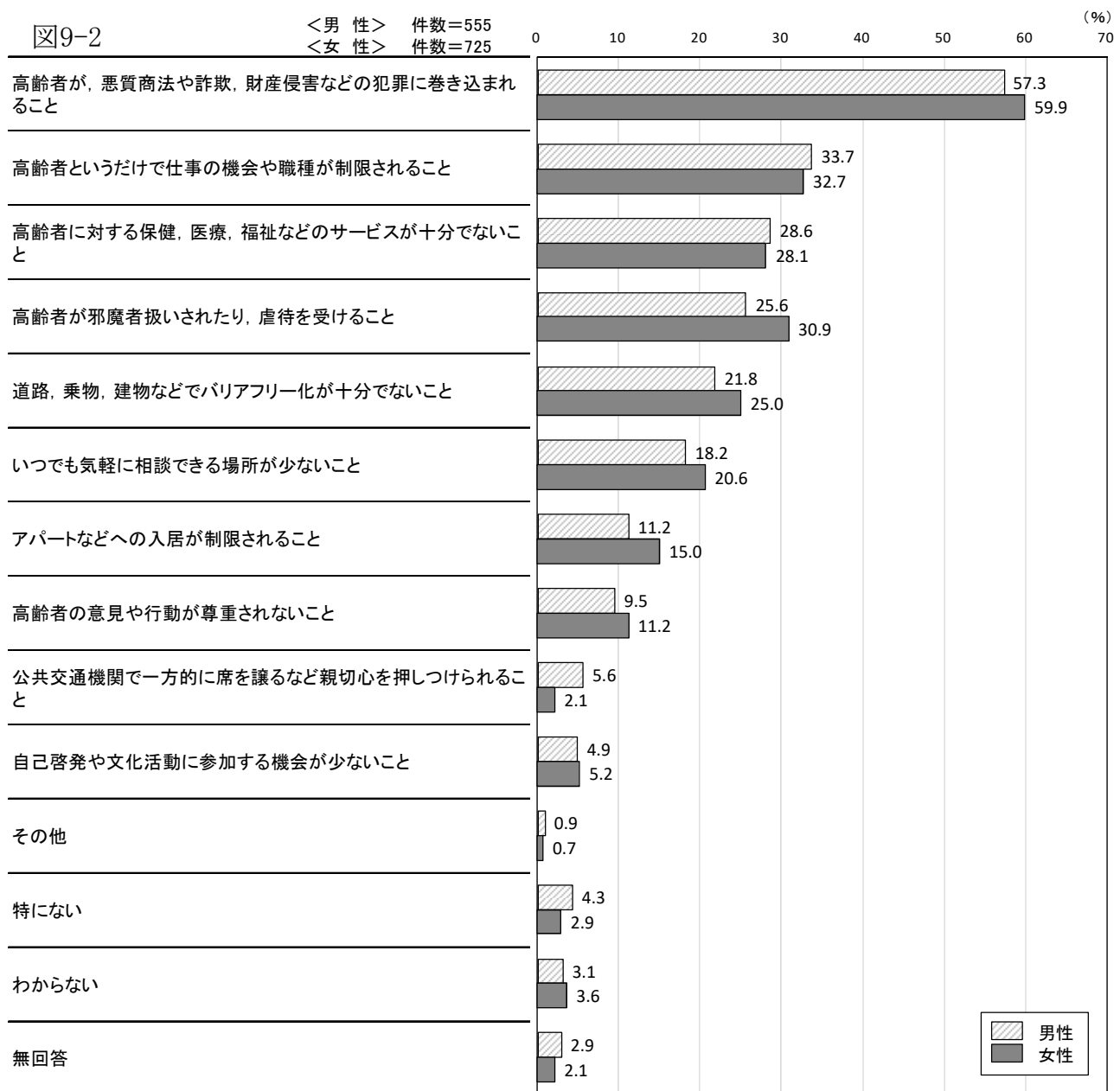
平成25年度と比較すると、「アパートなどへの入居が制限されること」が5ポイント以上高い。





## ■性別

性別で比較すると、「高齢者が邪魔者扱いされたり、虐待を受けること」の割合が、女性が男性より5ポイント以上高い。

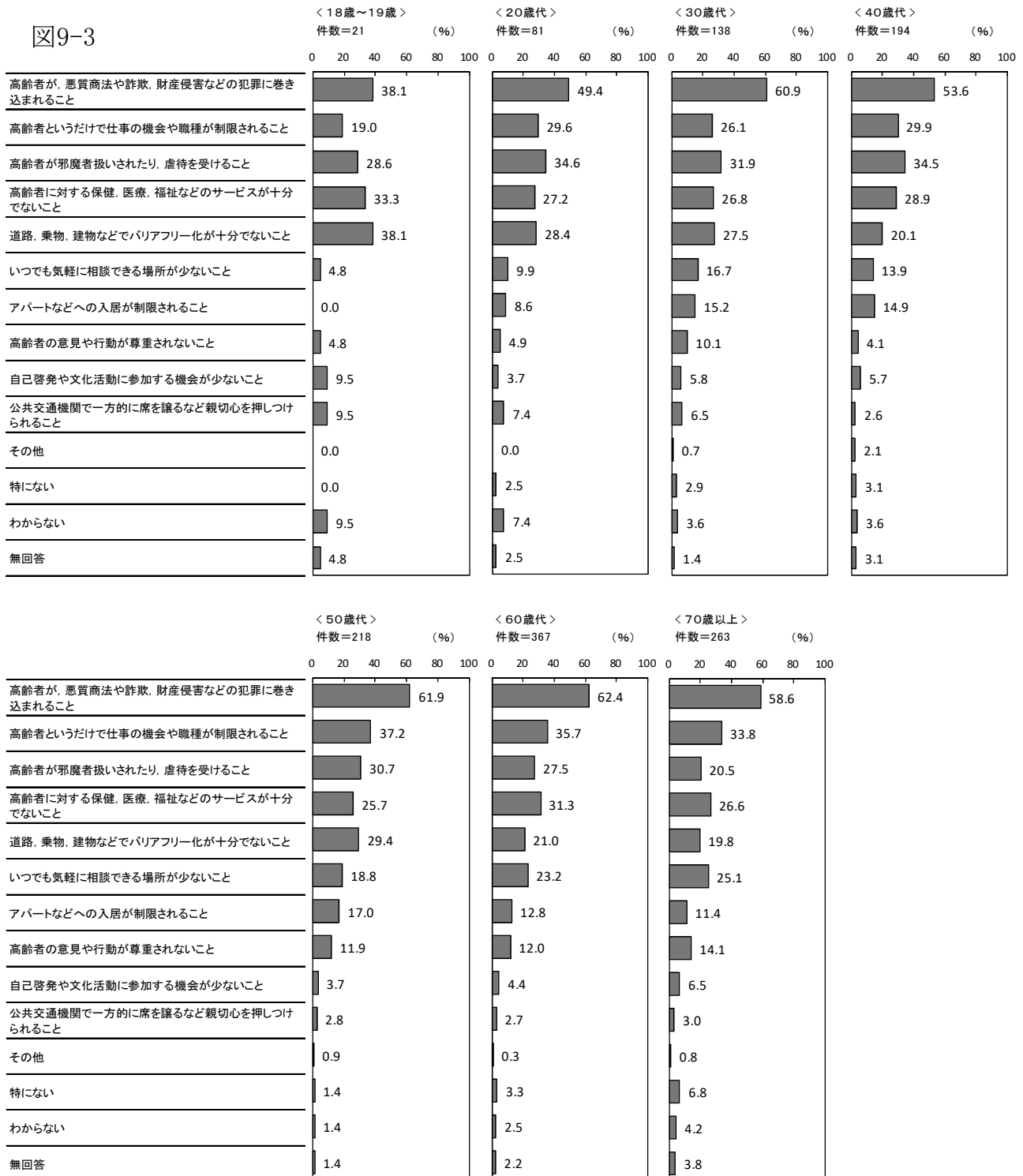


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「高齢者が、悪質商法や詐欺、財産侵害などの犯罪に巻き込まれること」の割合が最も高い。

また、50歳代以上では他の年代に比べ「いつでも気軽に相談できる場所が少ないこと」の割合も高い。

図9-3



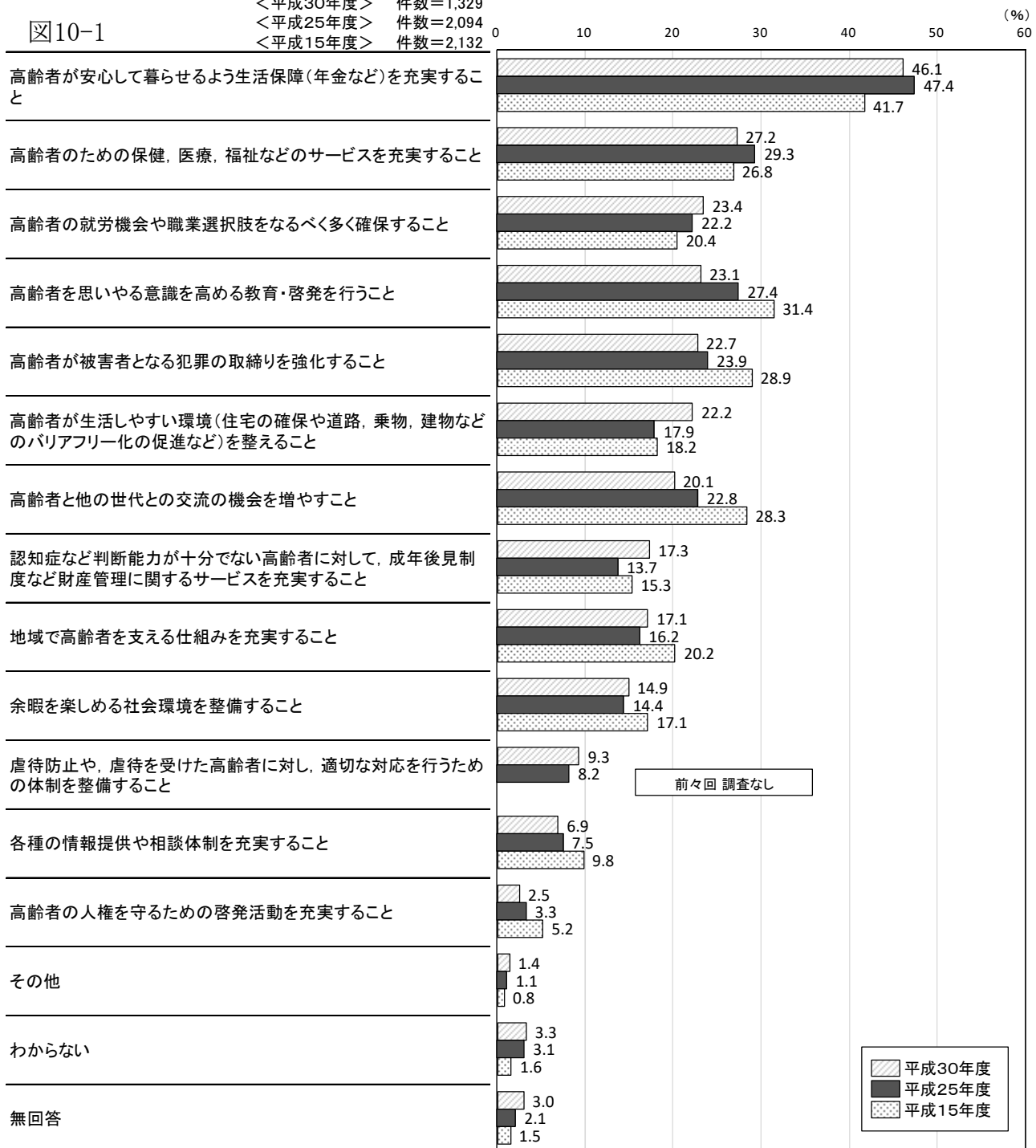
問10 あなたは、高齢者の人権を守るために必要なことは、何だと思いますか。

(〇は3つまで)

高齢者の人権を守るために必要なことは、「高齢者が安心して暮らせるよう生活保障（年金など）を充実すること」の割合が最も高く46.1%となっている。次いで、「高齢者のための保健、医療、福祉などのサービスを充実すること」が27.2%、「高齢者の就労機会や職業選択肢をなるべく多く確保すること」が23.4%となっている。

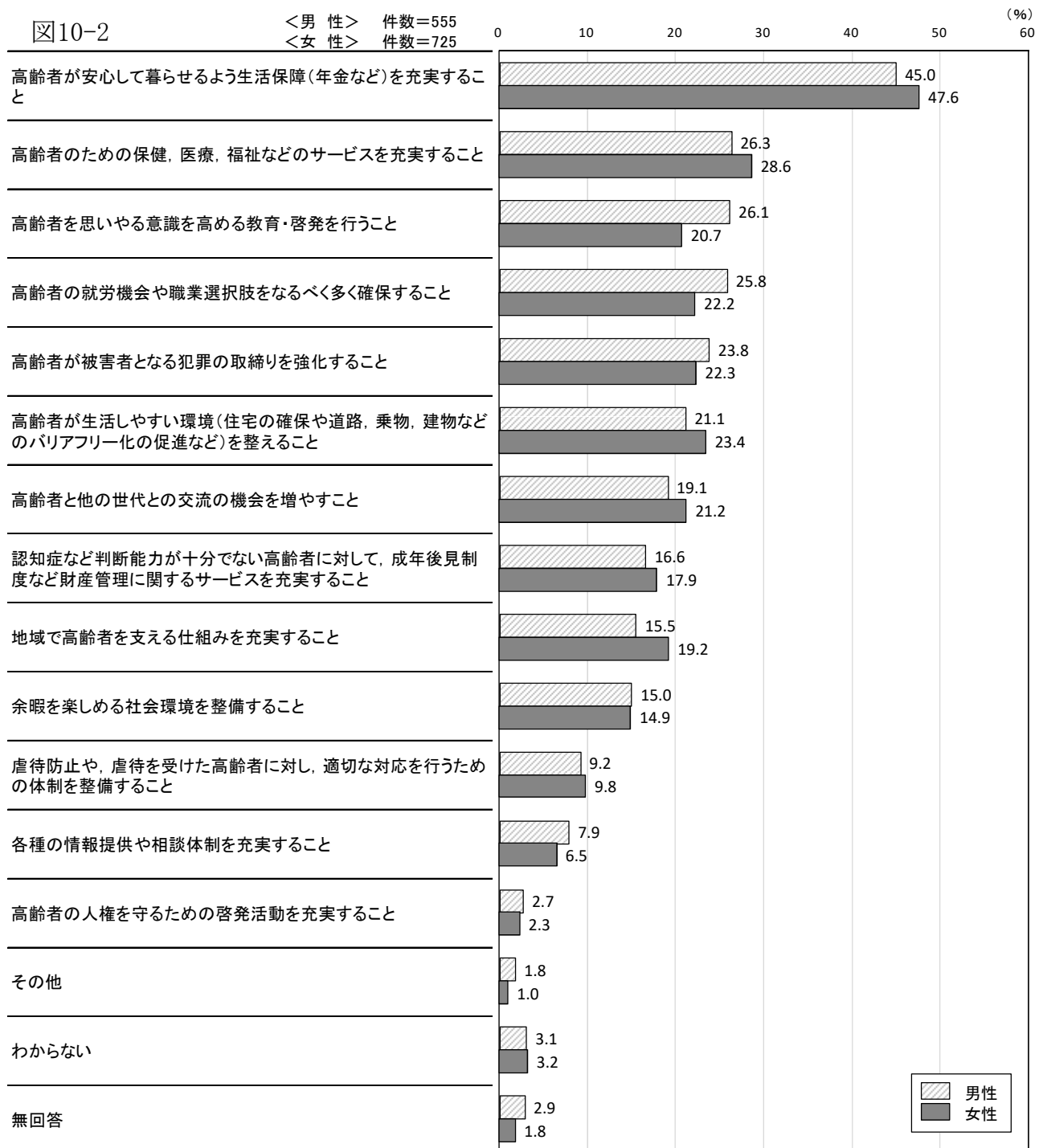
図10-1

<平成30年度> 件数=1,329  
 <平成25年度> 件数=2,094  
 <平成15年度> 件数=2,132



## ■性別

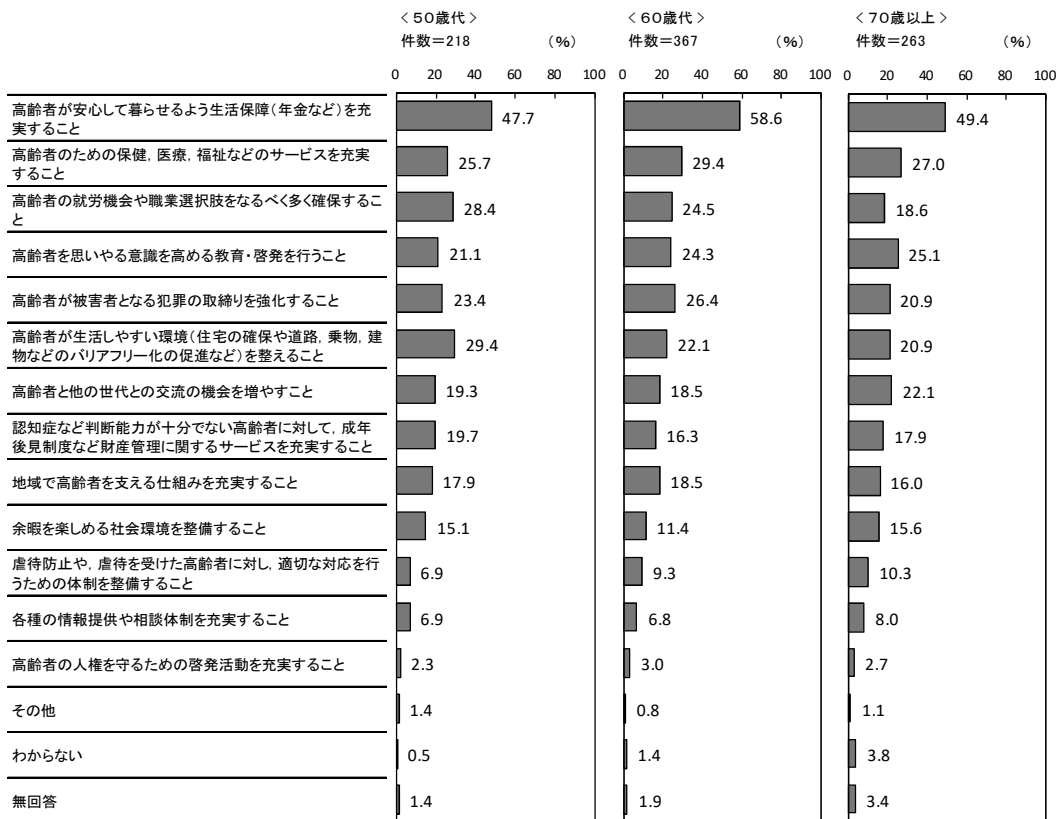
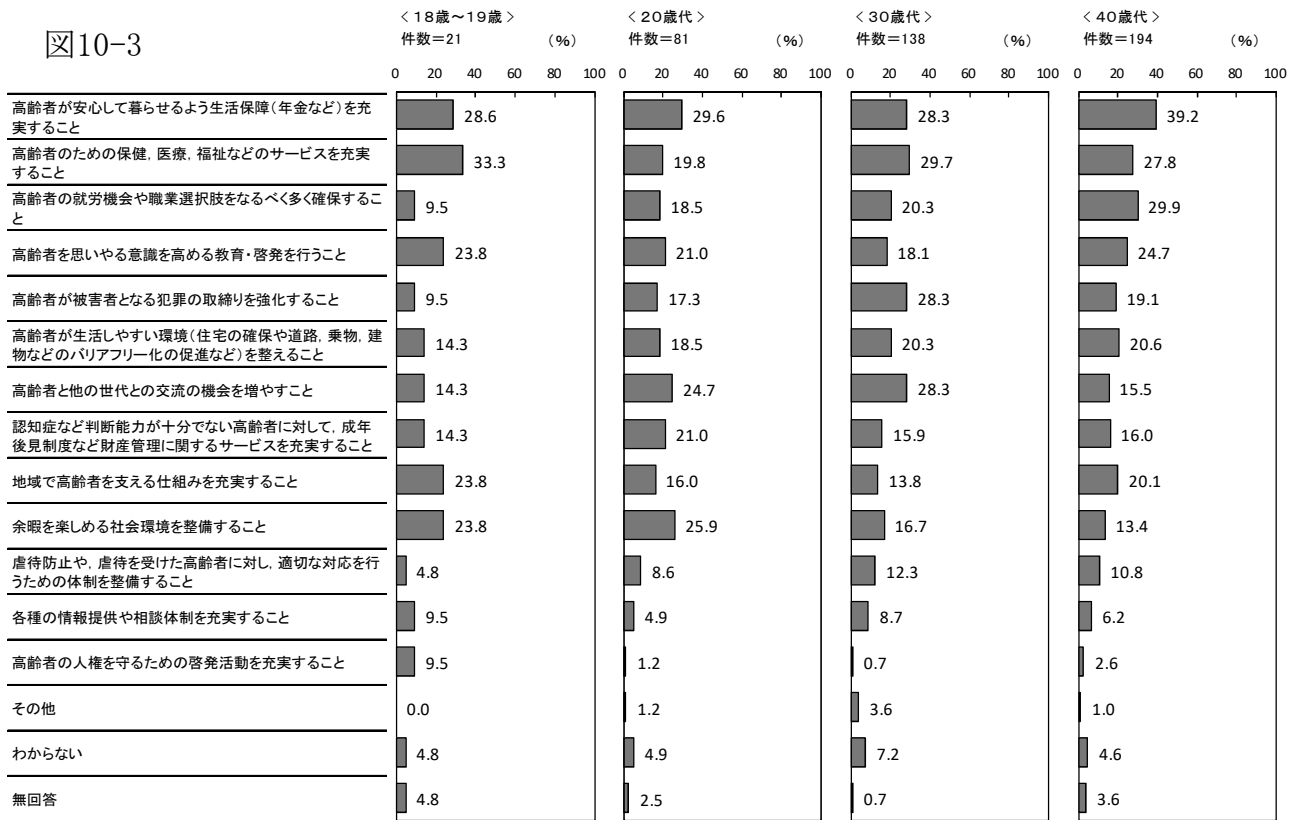
性別で比較すると、「高齢者を思いやる意識を高める教育・啓発を行うこと」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高い。



## ■年代別

年代別で比較すると、40歳代以上で「高齢者が安心して暮らせるよう生活保障（年金など）を充実すること」の割合が最も高い。

図10-3



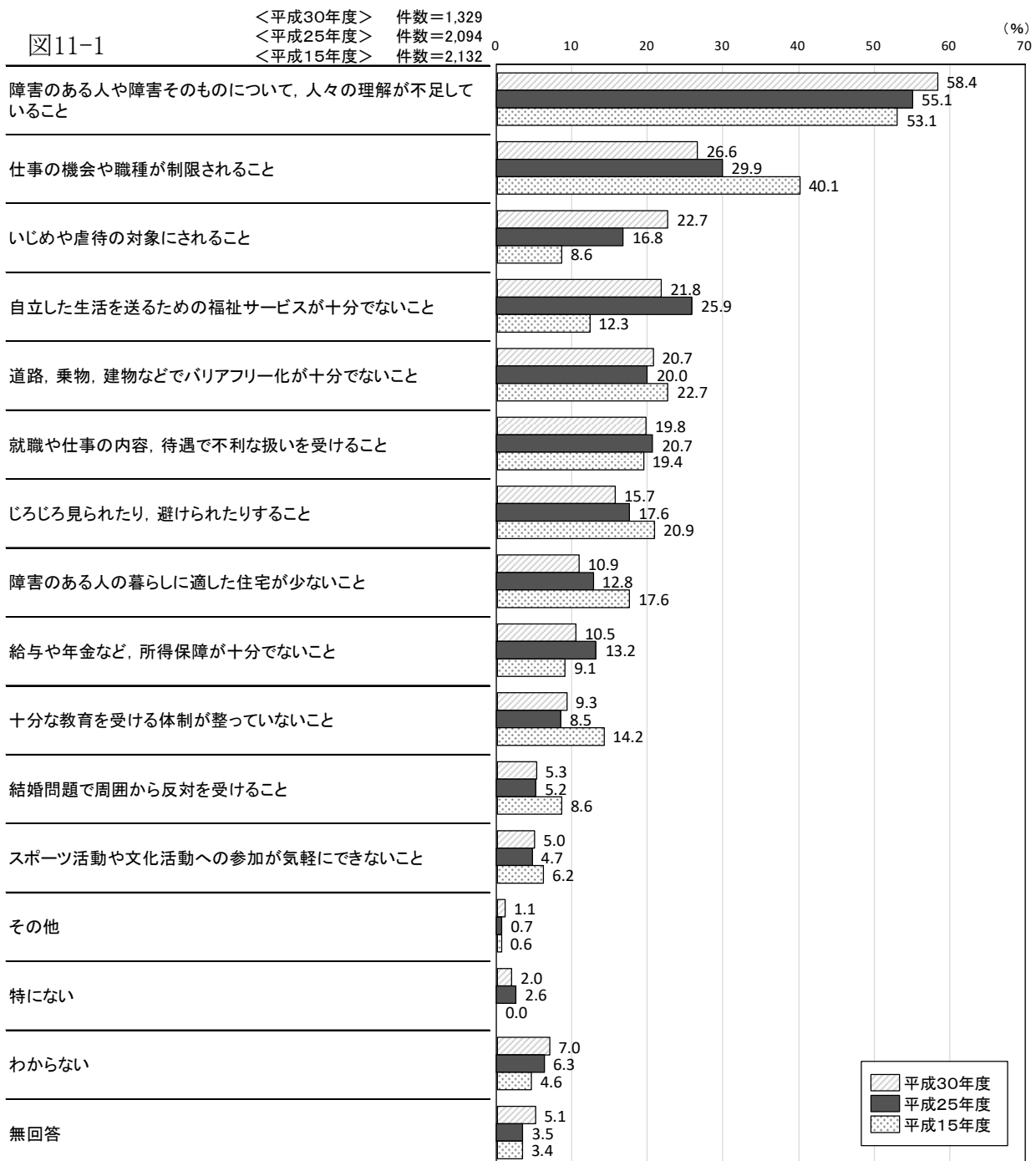
## 【障害者】

問11 あなたは、障害者に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。  
(○は3つまで)

障害者に関しての人権問題については、「障害のある人や障害そのものについて、人々の理解が不足していること」の割合が最も高く58.4%となっている。次いで、「仕事の機会や職種が制限されること」が26.6%、「いじめや虐待の対象にされること」が22.7%、「自立した生活を送るための福祉サービスが十分でないこと」が21.8%となっている。

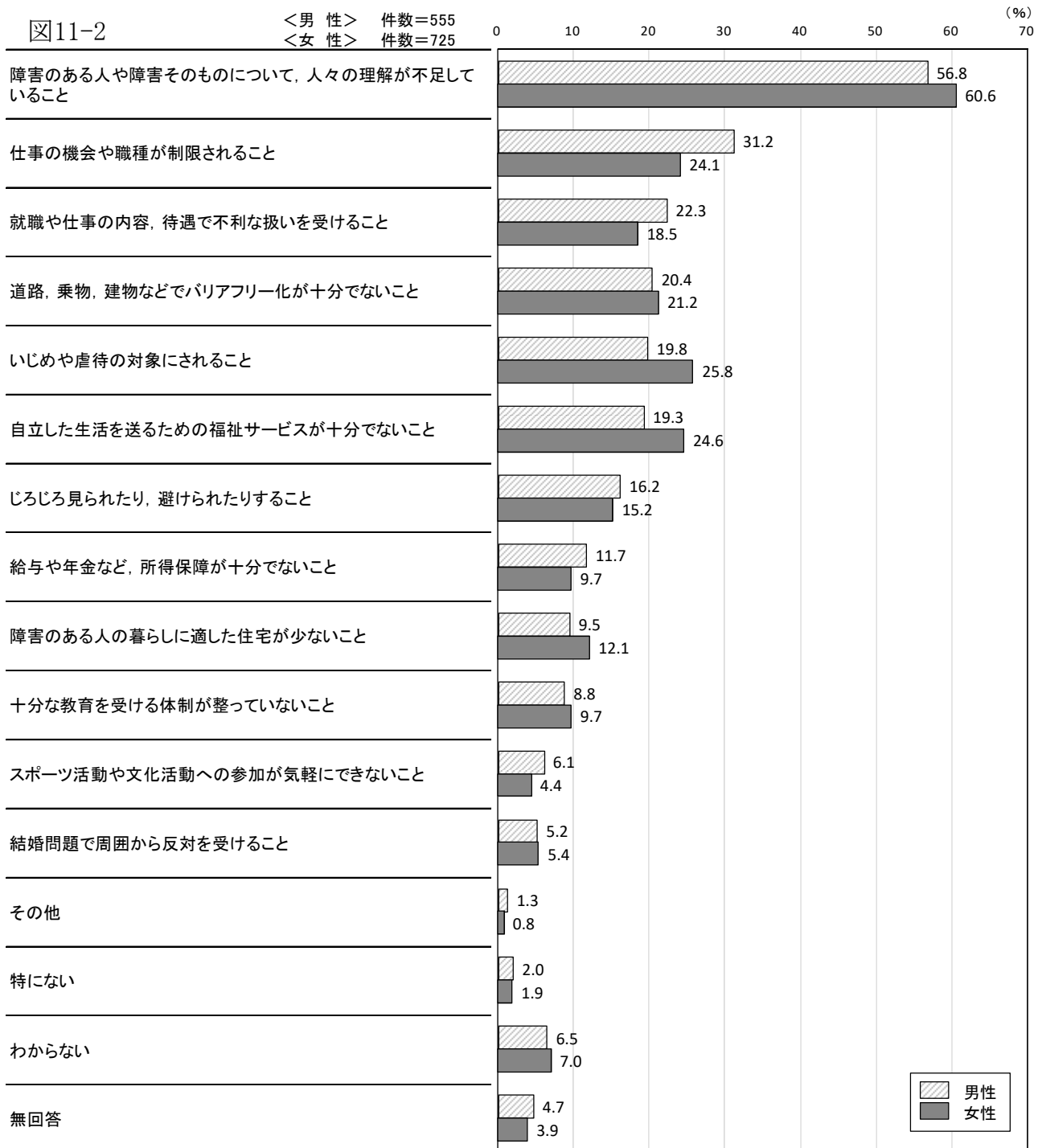
平成15年度、平成25年度と比較すると、「障害のある人や障害そのものについて、人々の理解が不足していること」「いじめや虐待の対象にされること」の割合が高くなってきている。

また、「仕事の機会や職種が制限されること」の割合は低くなってきている。



## ■性別

性別で比較すると、「仕事の機会や職種が制限されること」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高く、また「いじめや虐待の対象にされること」「自立した生活を送るための福祉サービスが十分でないこと」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。

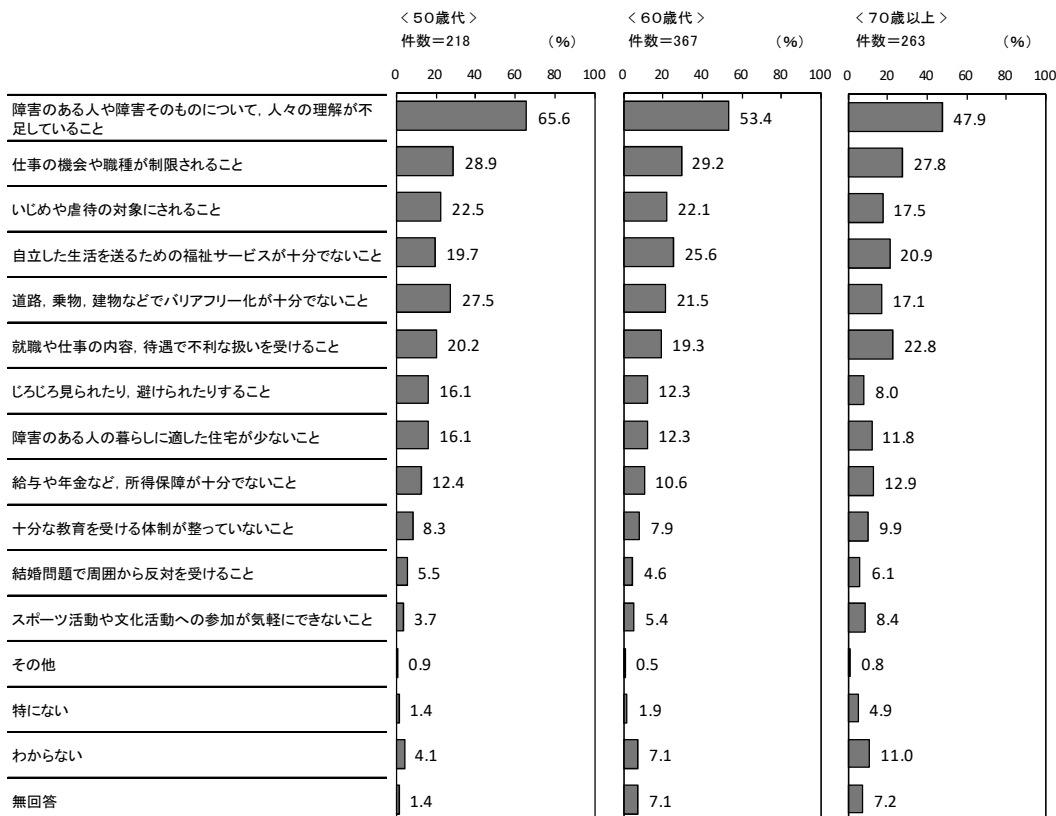
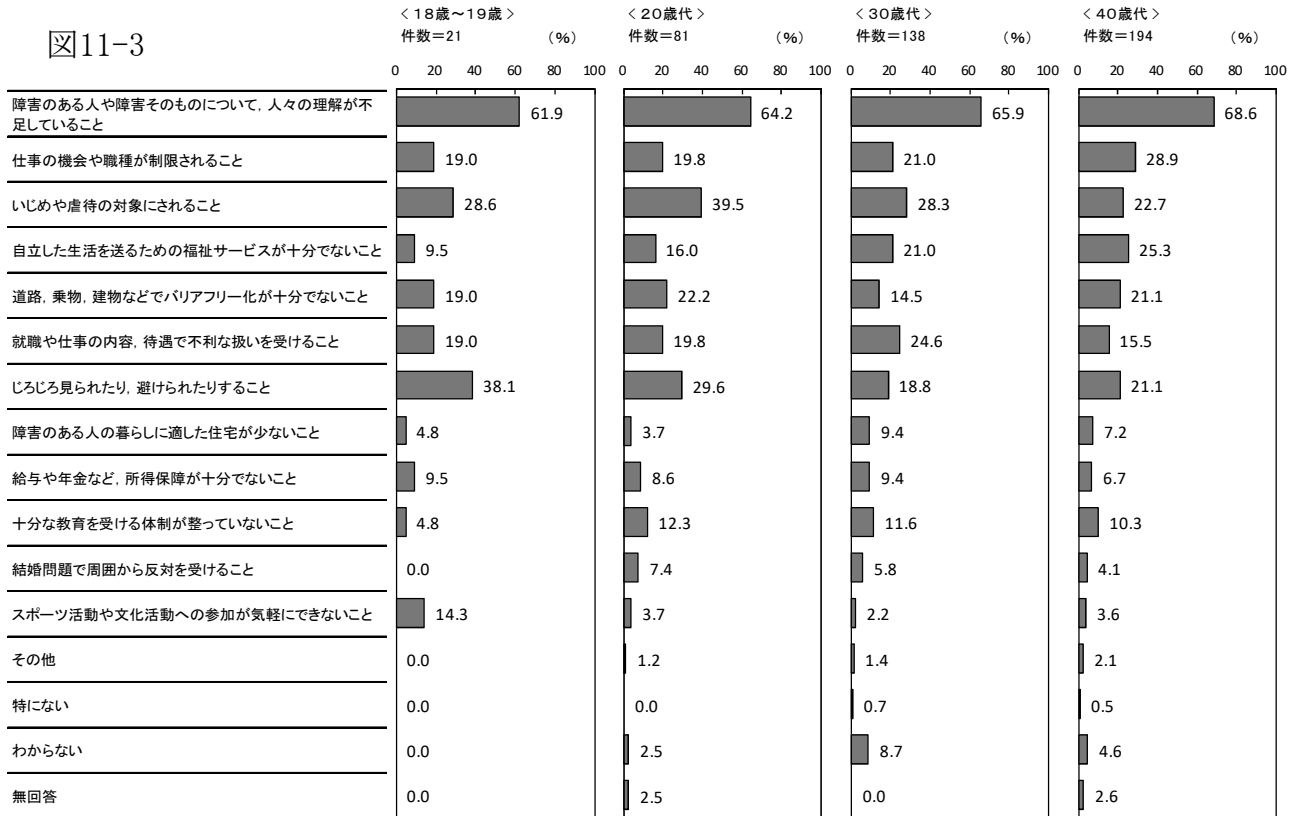


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「障害のある人や障害そのものについて、人々の理解が不足していること」の割合が最も高い。

また、20歳代以下で「いじめや虐待の対象にされること」「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合も高い。

図11-3

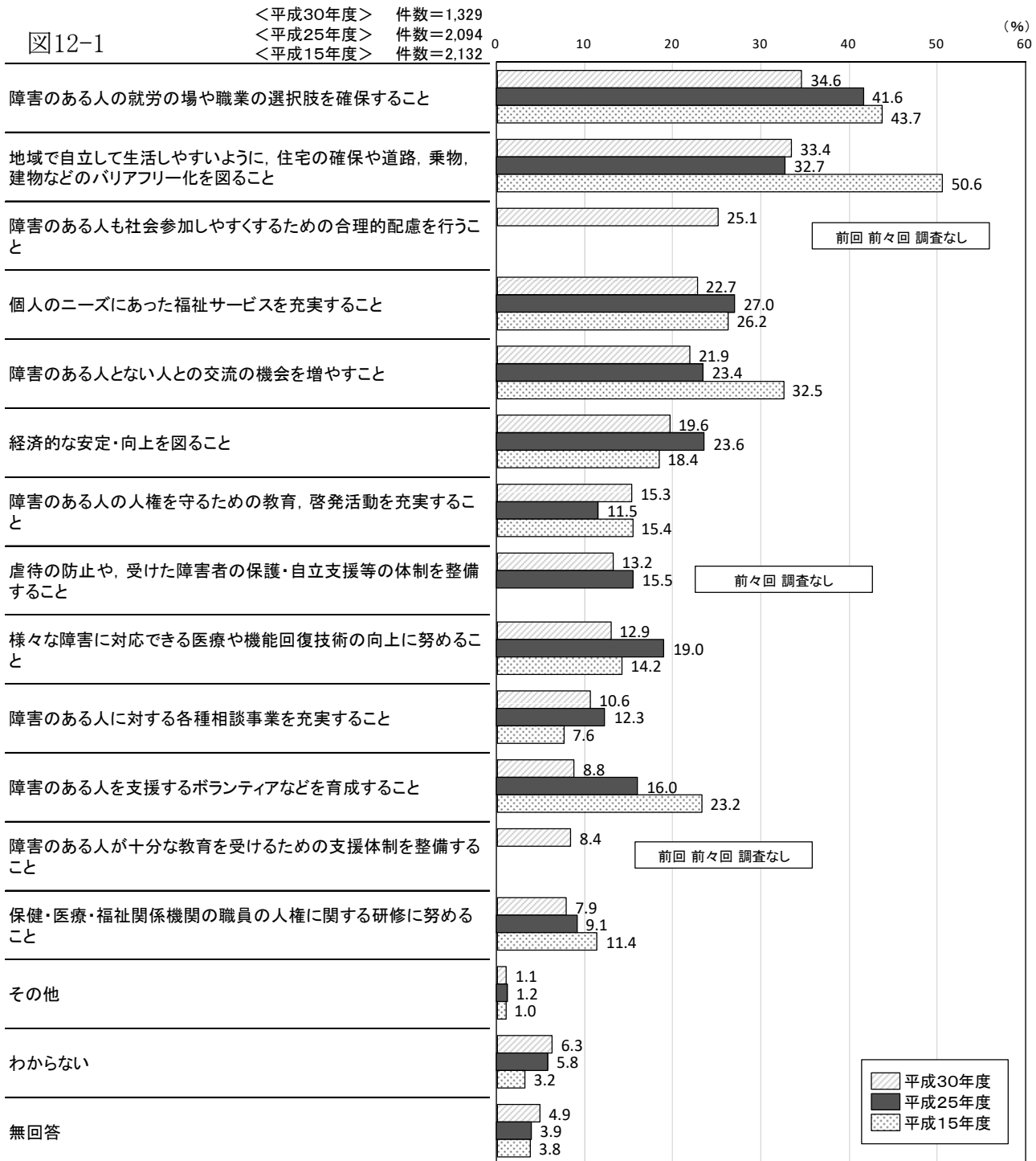




問12 あなたは、障害者の人権を守るために必要なことは、何だと思いますか。

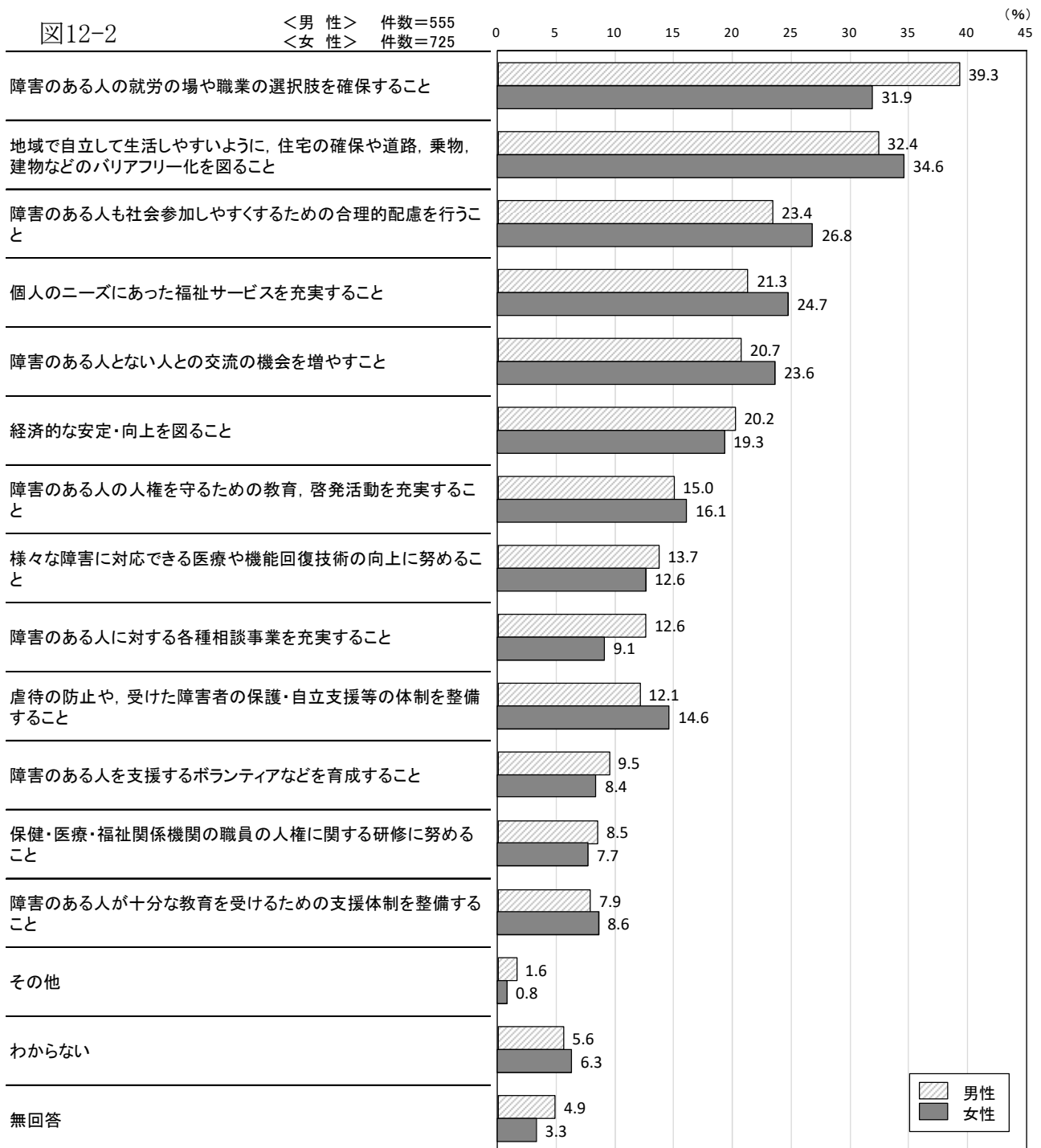
(○は3つまで)

障害者の人権を守るために必要なことは、「障害のある人の就労の場や職業の選択肢を確保すること」の割合が最も高く34.6%となっている。次いで、「地域で自立して生活しやすいように、住宅の確保や道路、乗物、建物などのバリアフリー化を図ること」が33.4%、「障害のある人も社会参加しやすくするための合理的配慮を行うこと」が25.1%となっている。



## ■性別

性別で比較すると、「障害のある人の就労の場や職業の選択肢を確保すること」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高い。

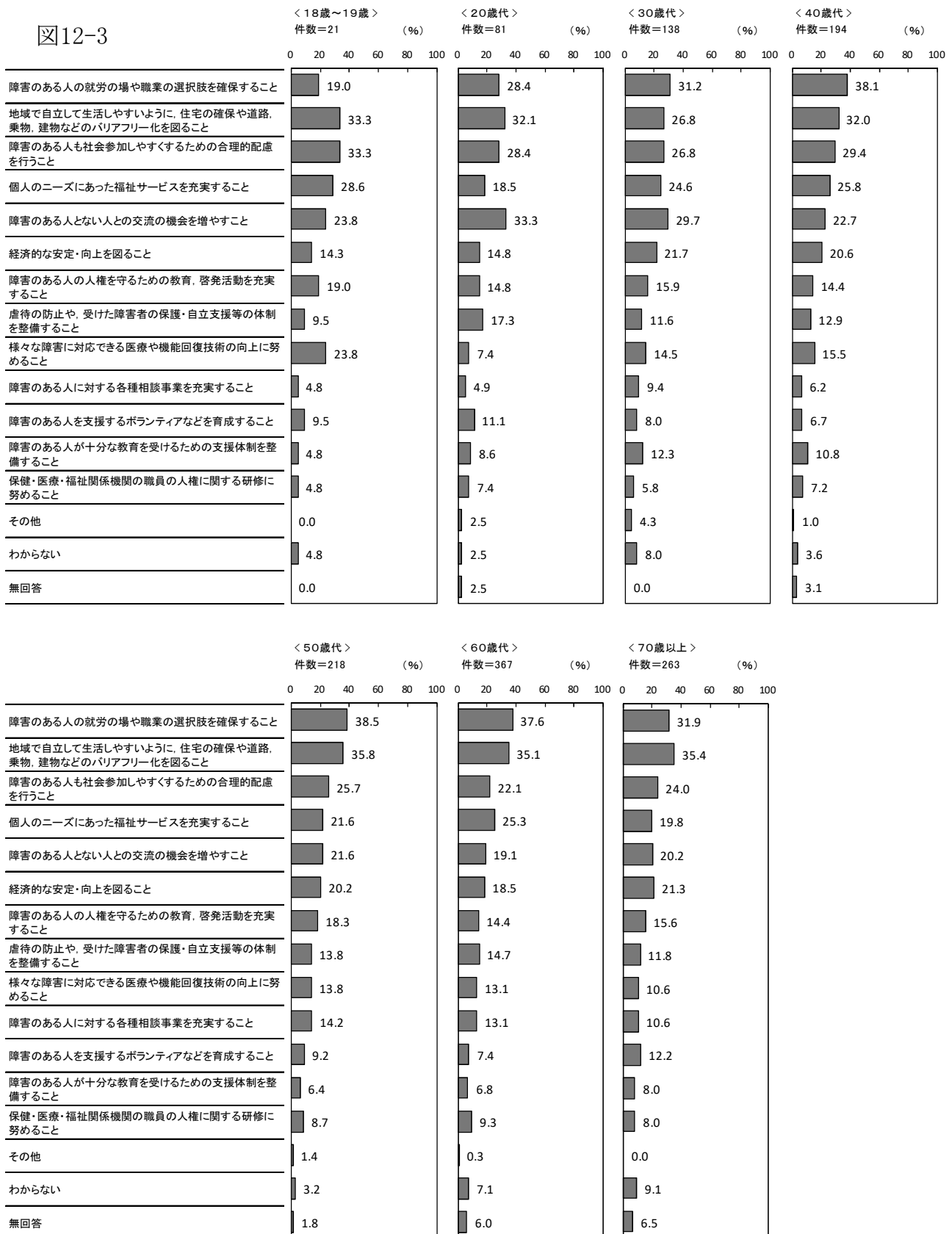


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「地域で自立して生活しやすいように、住宅の確保や道路、乗物、建物などのバリアフリー化を図ること」の割合が高い。

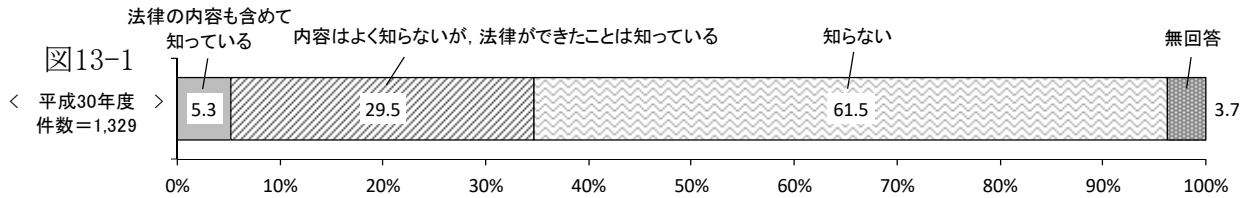
また、30歳代以上で「障害のある人の就労の場や職業の選択肢を確保すること」の割合も高い。

図12-3



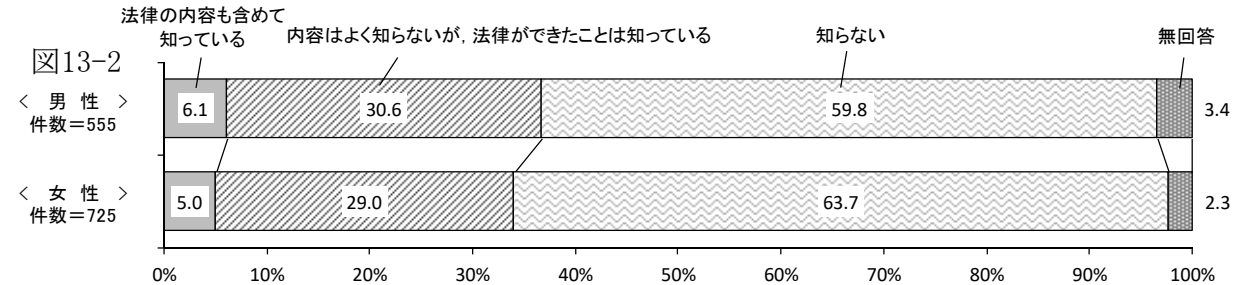
問13 あなたは、平成28年4月に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」を知っていますか。（○は1つ）

障害者差別解消法の認知度については、「知らない」の割合が最も高く61.5%となっている。次いで、「内容はよく知らないが、法律ができたことは知っている」が29.5%、「法律の内容も含めて知っている」が5.3%となっている。



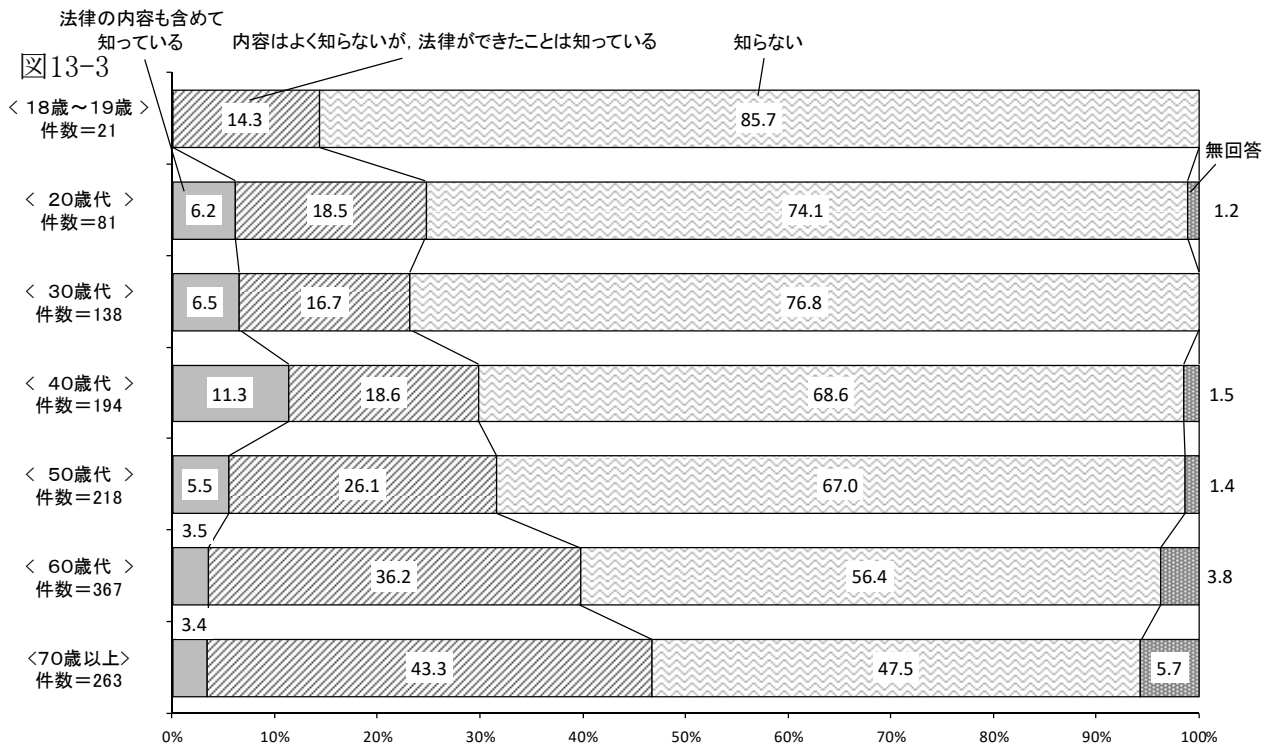
### ■性別

性別で比較したが、特に大きな違いはみられなかった。



### ■年代別

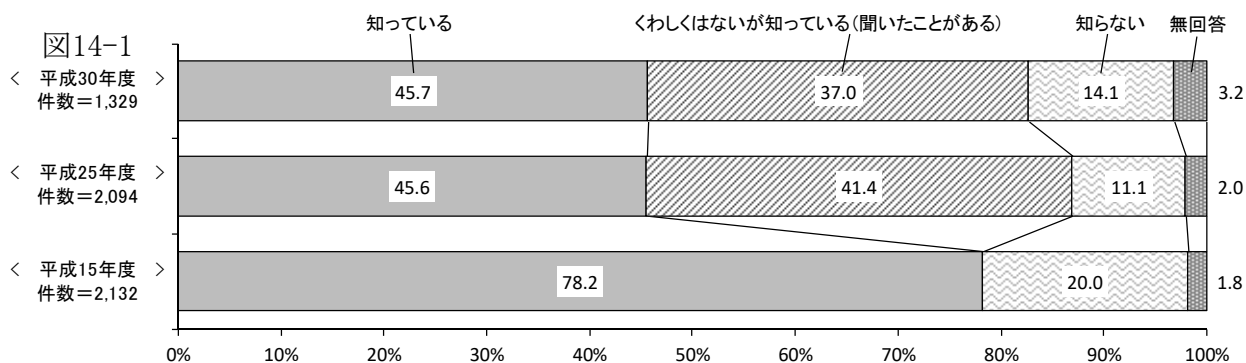
年代別で比較すると、年代が上がるほど「内容はよく知らないが、法律ができたことは知っている」の割合が高くなる傾向にある。



## 【同和問題（部落差別）】

問14 あなたは、日本の社会に「同和問題（部落差別）」と言われる問題があることを知っていますか。（○は1つ）

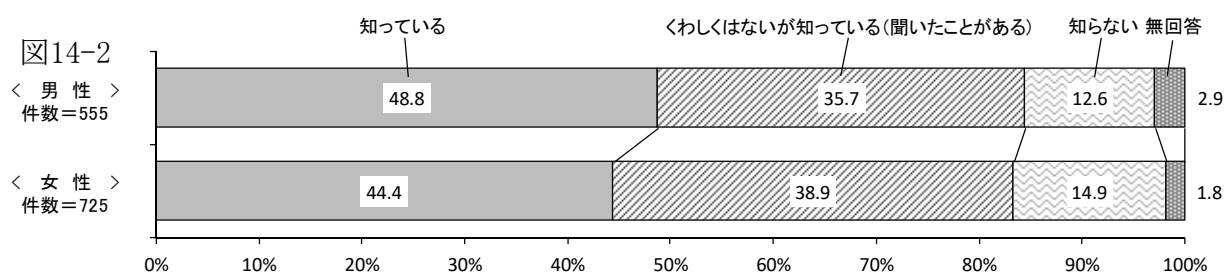
同和問題（部落差別）の認知度については、「知っている」の割合が最も高く45.7%となっている。次いで、「くわしくはないが知っている（聞いたことがある）」が37.0%、「知らない」が14.1%となっている。



※平成15年度の選択肢は「知っている」「知らない」のみ

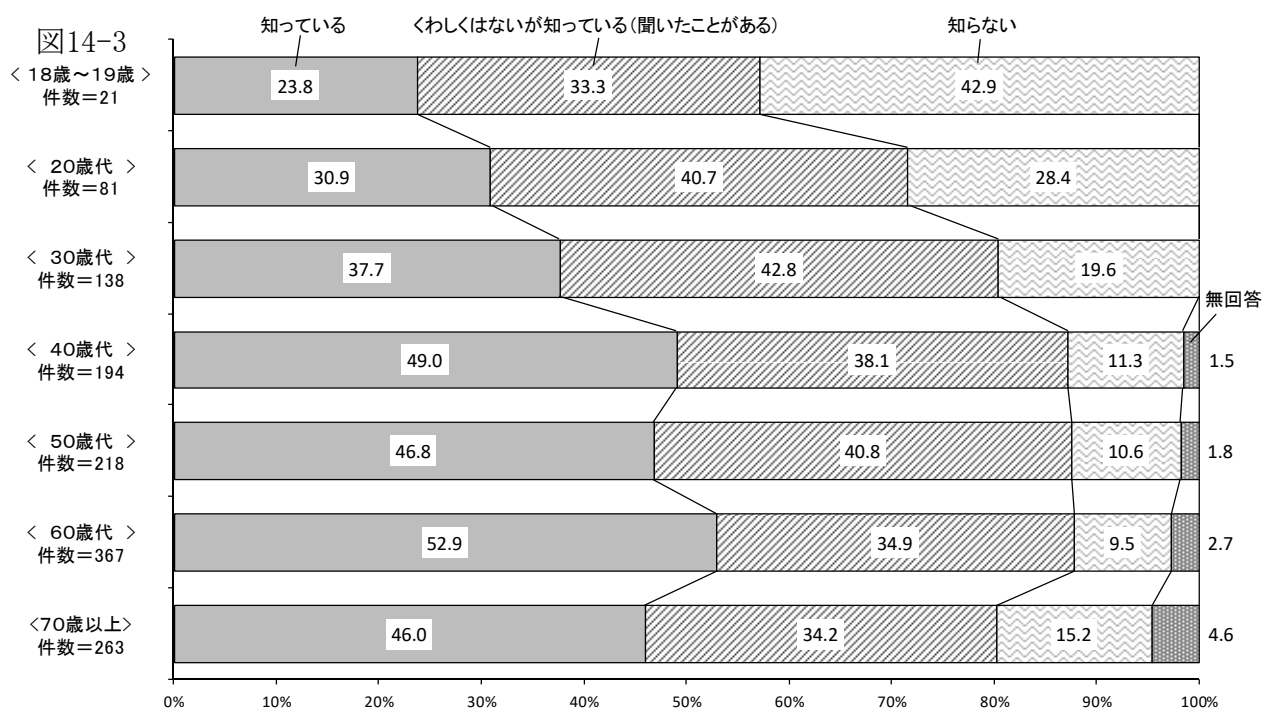
### ■性別

性別で比較したが、特に大きな違いはみられなかった。



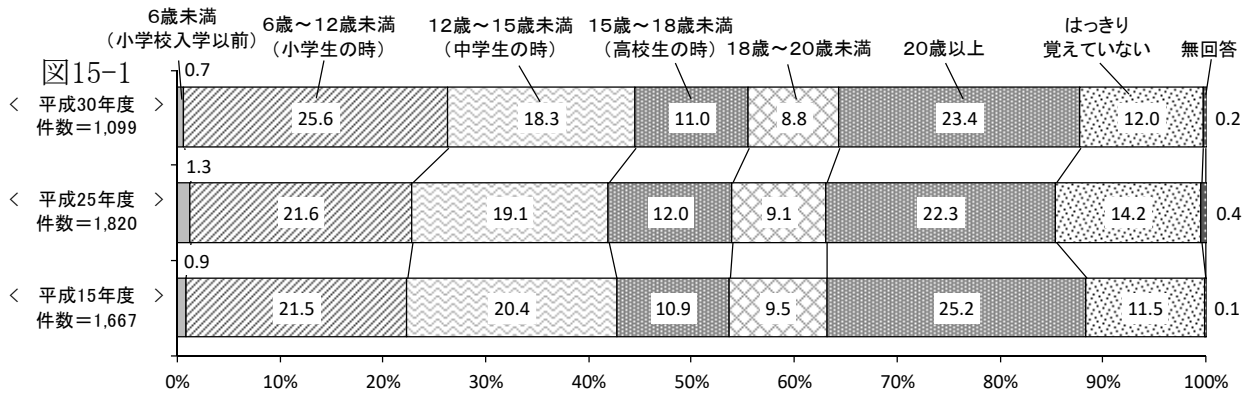
### ■年代別

年代別で比較すると、年代が上がるほど「知っている」の割合が高くなる傾向にある。



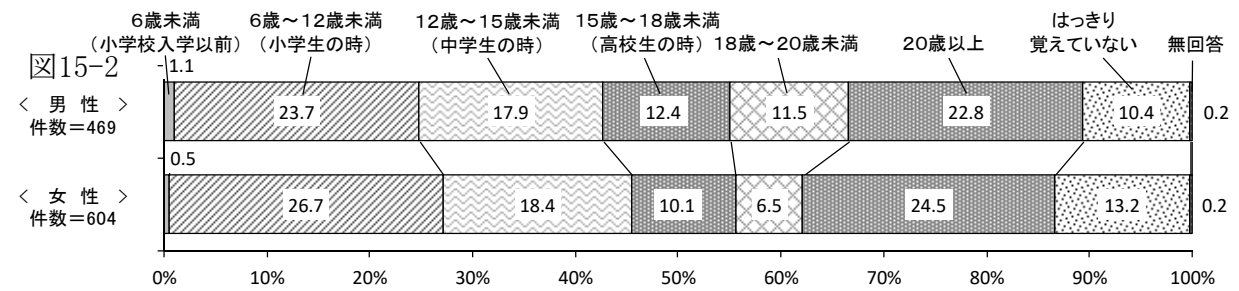
問15 あなたが、「同和問題（部落差別）」について、初めて聞いたり，知ったのはいつ頃ですか。  
 (〇は1つ)

問14で、「知っている」「くわしくはないが知っている（聞いたことがある）」と回答した1,099人の中で、「同和問題（部落差別）」を初めて聞いたり知ったりした時期については、「6歳～12歳未満（小学生の時）」の割合が最も高く25.6%となっている。次いで、「20歳以上」が23.4%となっている。



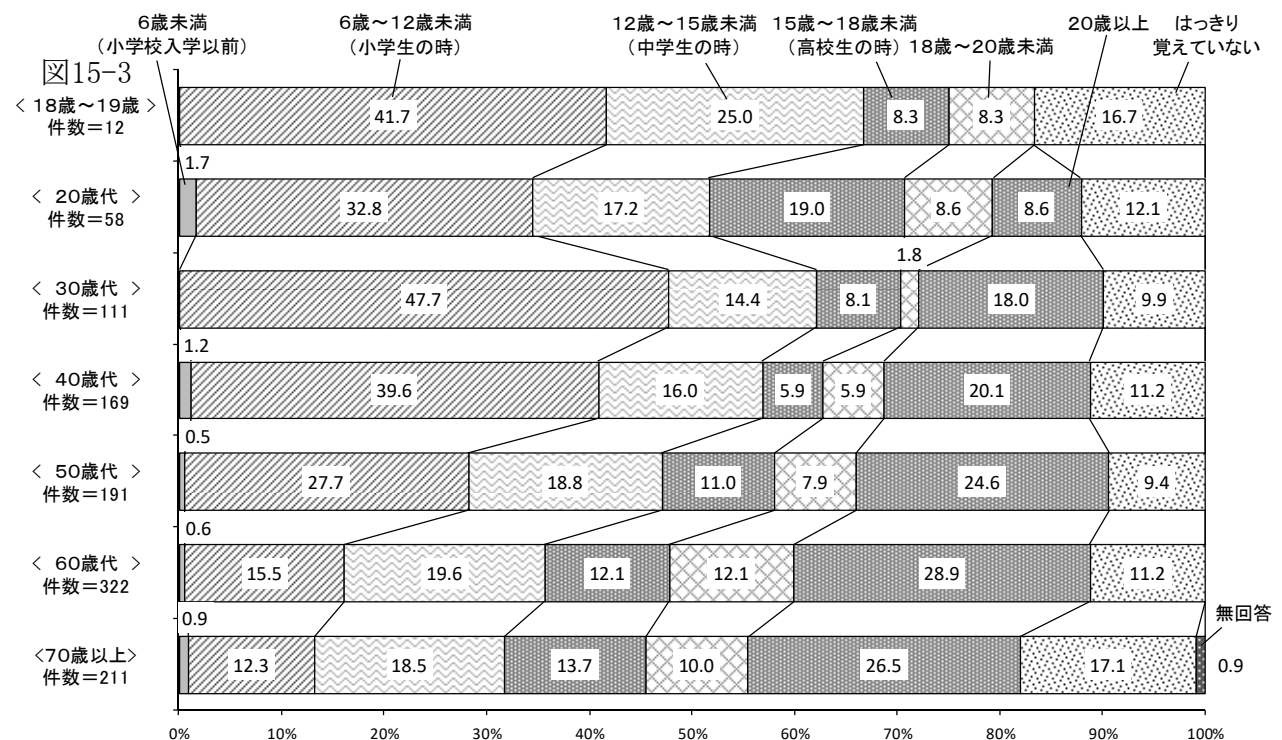
### ■性別

性別で比較すると，男性，女性ともに「6歳～12歳未満（小学生の時）」の割合が高い。



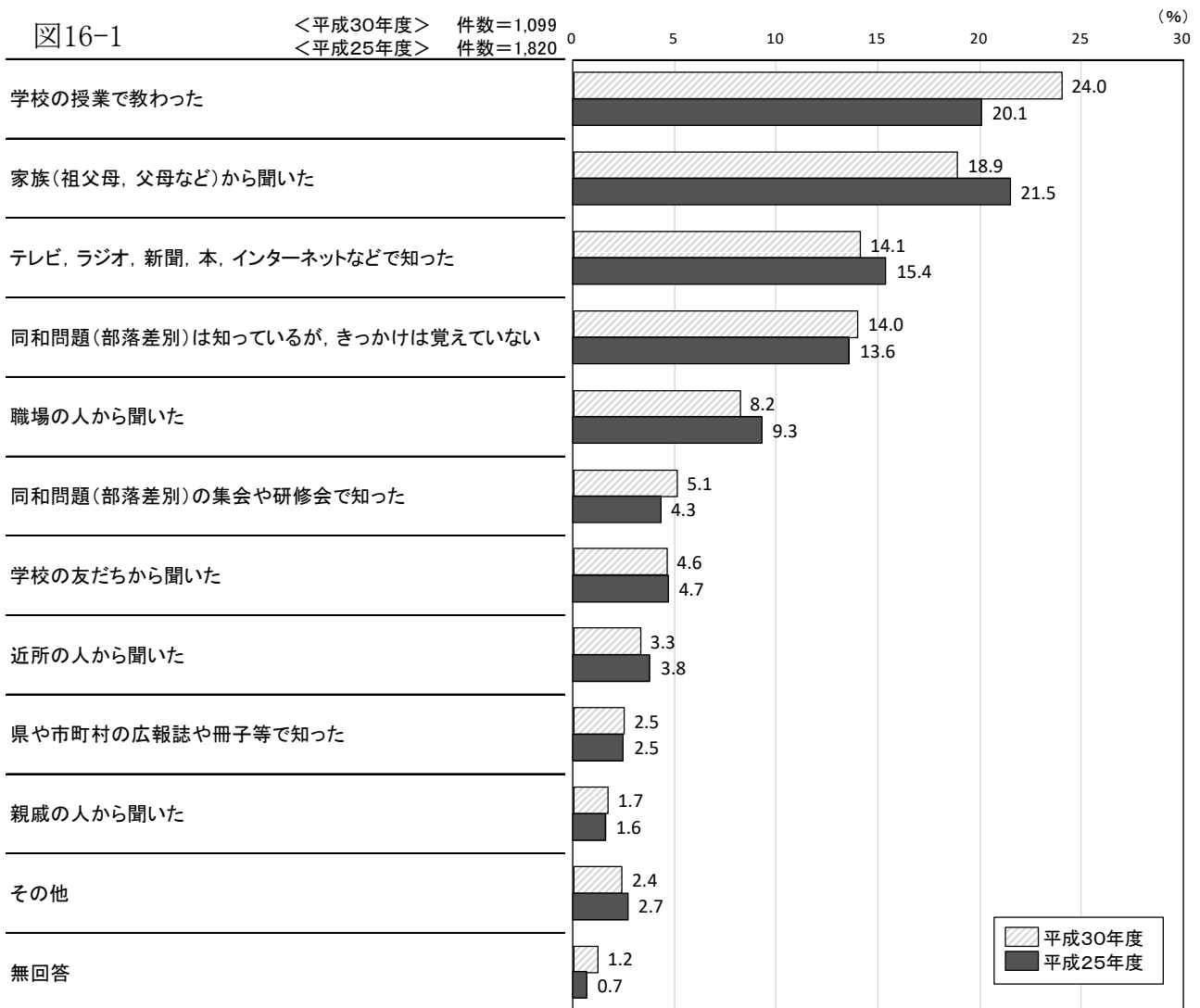
### ■年代別

年代別で比較すると，年代が若くなるほど「6歳～12歳未満（小学生の時）」の割合が高くなる傾向にある。



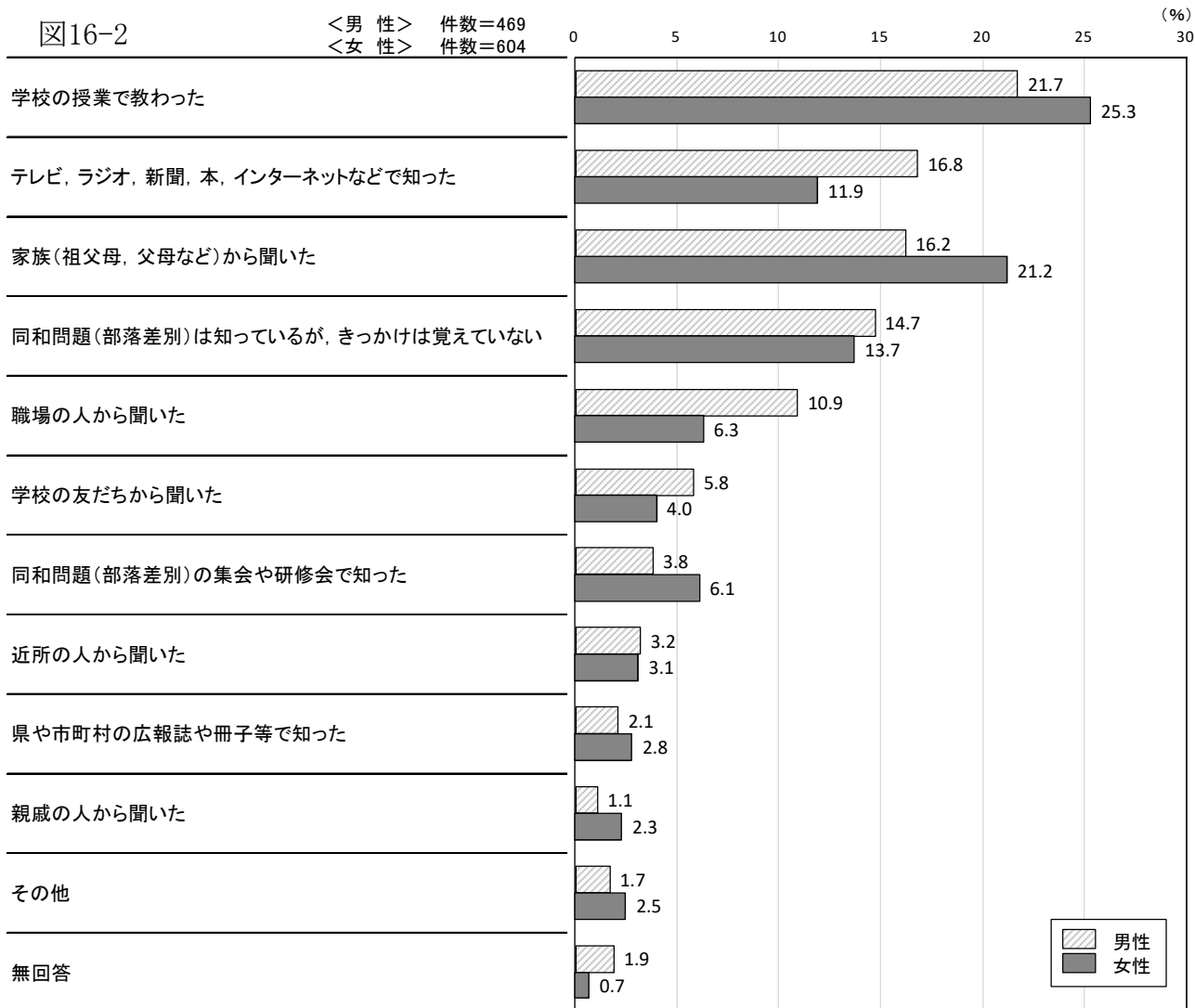
問16 あなたが、「同和問題（部落差別）」について、初めて聞いたり、知ったきっかけは何ですか。  
 (○は1つ)

問14で、「知っている」「くわしくはないが知っている（聞いたことがある）」と回答した1,099人の中で、「同和問題（部落差別）」を初めて聞いたり知ったりしたきっかけについては、「学校の授業で教わった」の割合が最も高く24.0%となっている。次いで、「家族（祖父母、父母など）から聞いた」が18.9%、「テレビ、ラジオ、新聞、本、インターネットなどで知った」が14.1%、「同和問題（部落差別）は知っているが、きっかけは覚えていない」が14.0%となっている。



## ■性別

性別で比較すると、「家族（祖父母，父母など）から聞いた」の割合が，女性が男性より5ポイント高い。

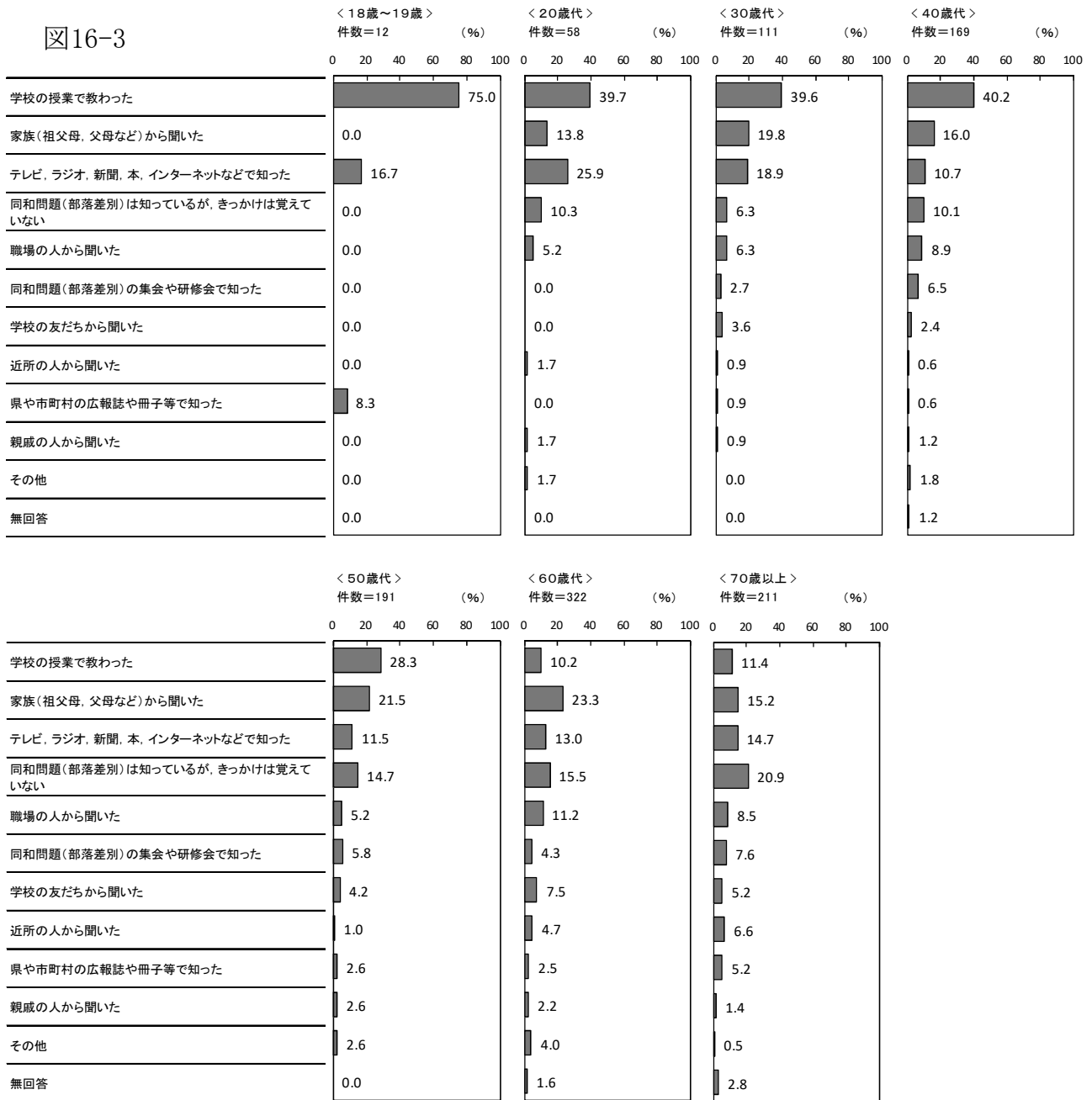




## ■年代別

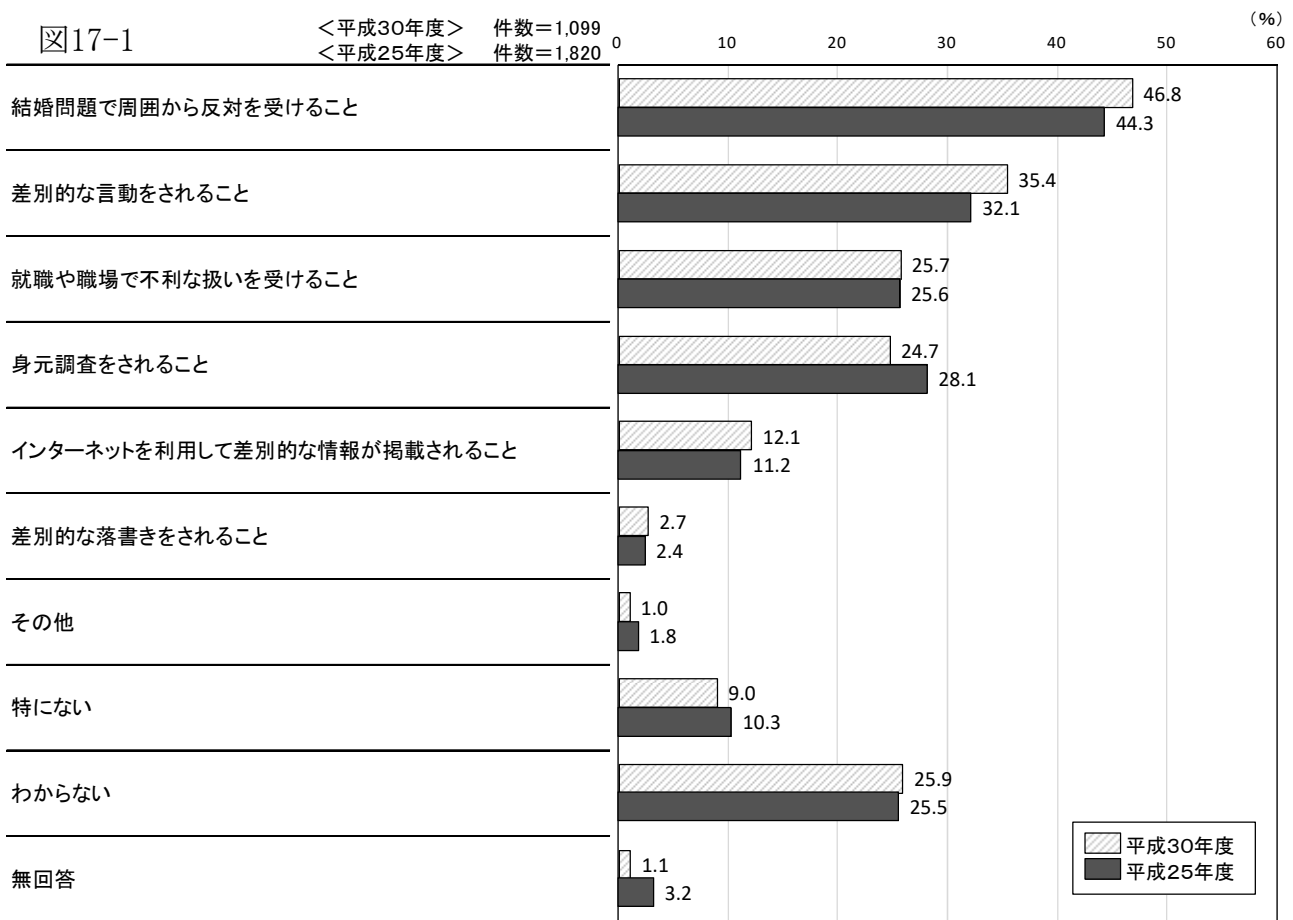
年代別で比較すると、年代が若くなるほど「学校の授業で教わった」の割合が高くなる傾向にある。

図16-3



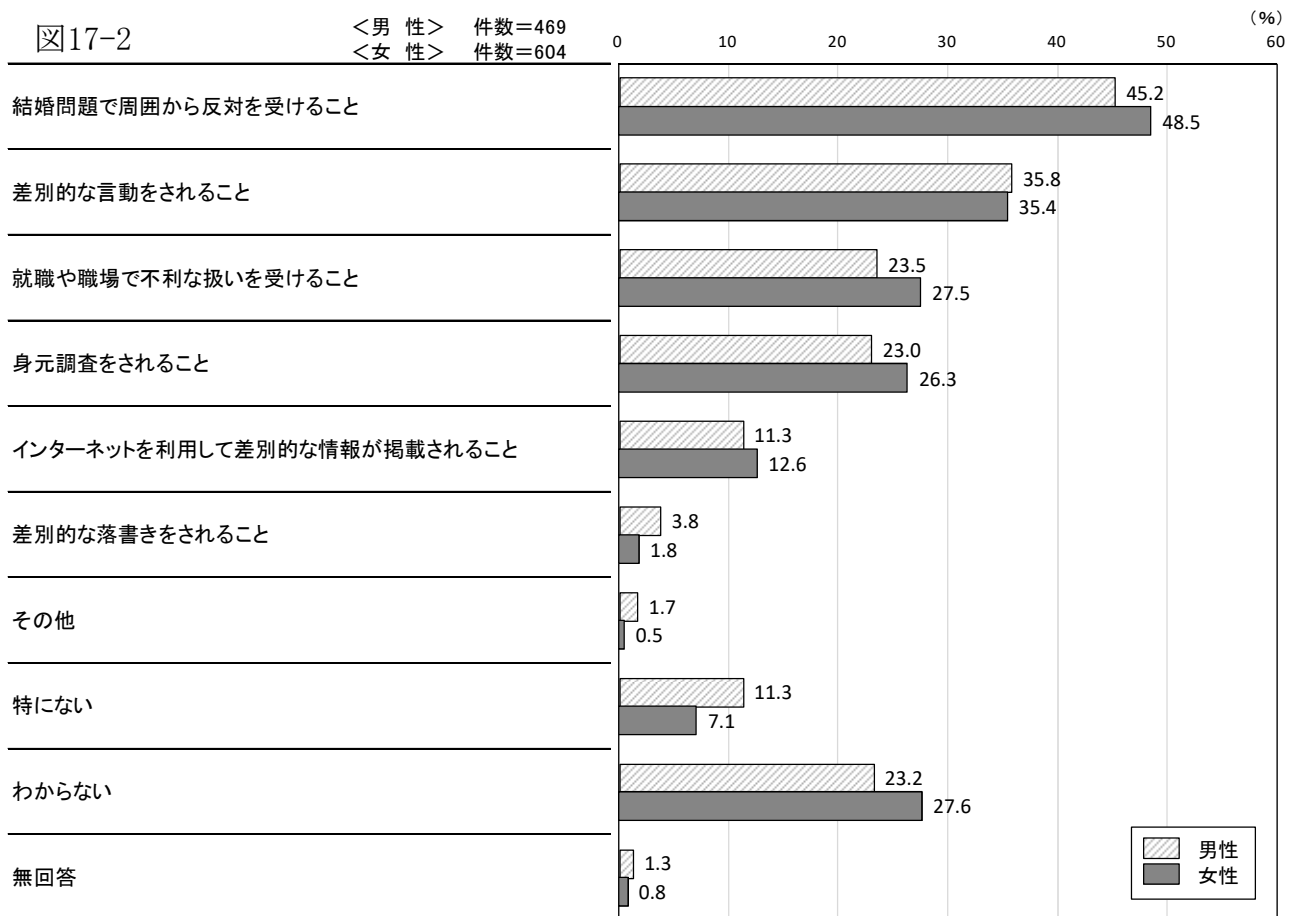
問17 あなたは、「同和問題（部落差別）」に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。（〇は3つまで）

問14で、「知っている」「くわしくはないが知っている（聞いたことがある）」と回答した1,099人の中で、「同和問題（部落差別）」に関しての人権問題については、「結婚問題で周囲から反対を受けること」の割合が最も高く46.8%となっている。次いで、「差別的な言動をされること」が35.4%、「わからない」が25.9%、「就職や職場で不利な扱いを受けること」が25.7%、「身元調査をされること」が24.7%となっている。



## ■性別

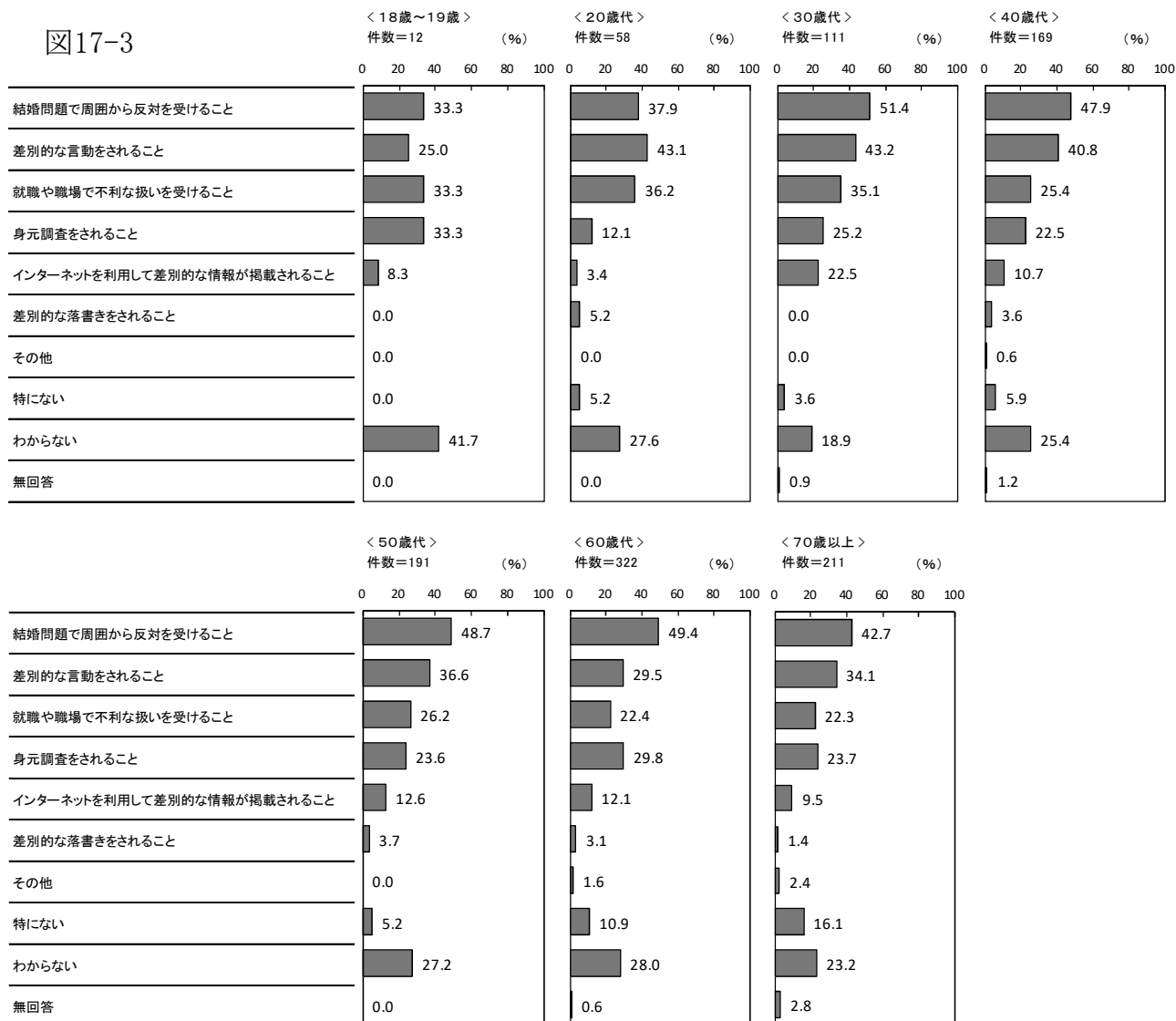
性別で比較したが、特に大きな違いはみられなかった。



## ■年代別

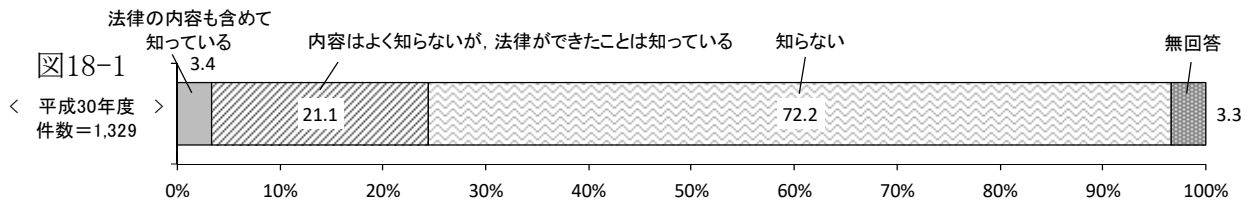
年代別で比較すると、30歳代以上で「結婚問題で周囲から反対を受けること」の割合が最も高い。

図17-3



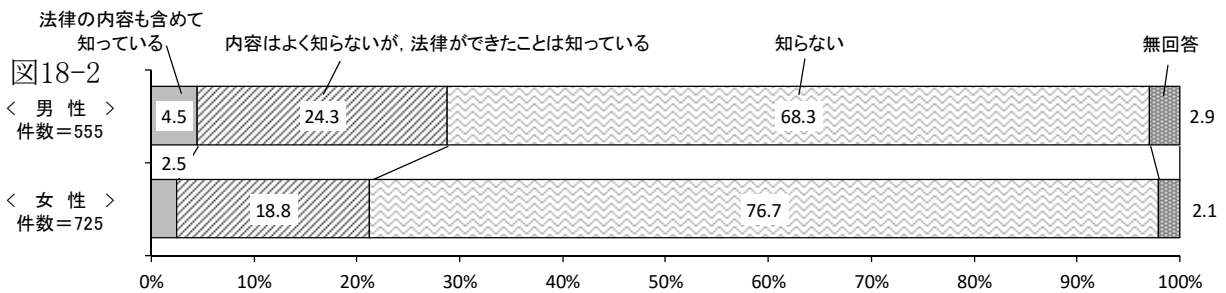
問18 あなたは、平成28年12月に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」を知っていますか。（○は1つ）

部落差別解消推進法の認知度については、「知らない」の割合が最も高く72.2%となっている。次いで、「内容はよく知らないが、法律ができたことは知っている」が21.1%、「法律の内容も含めて知っている」が3.4%となっている。



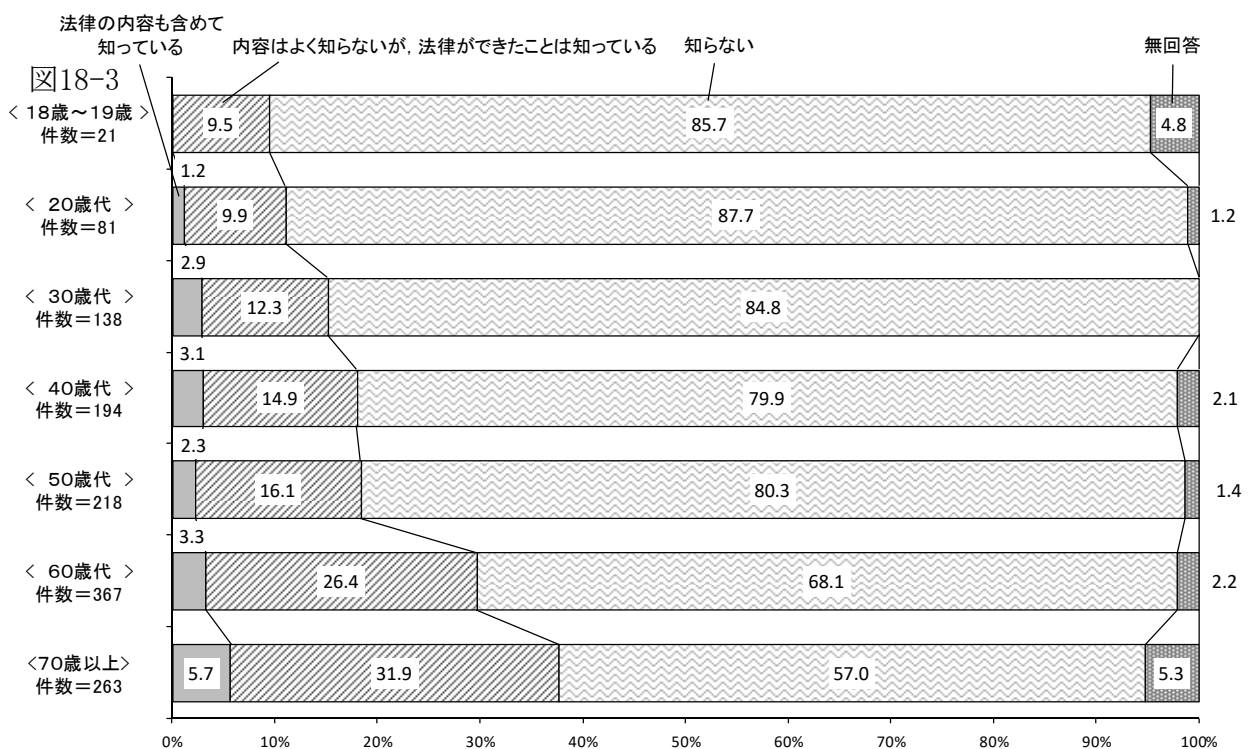
### ■性別

性別で比較すると、「内容はよく知らないが、法律ができたことは知っている」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高く、また「知らない」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。



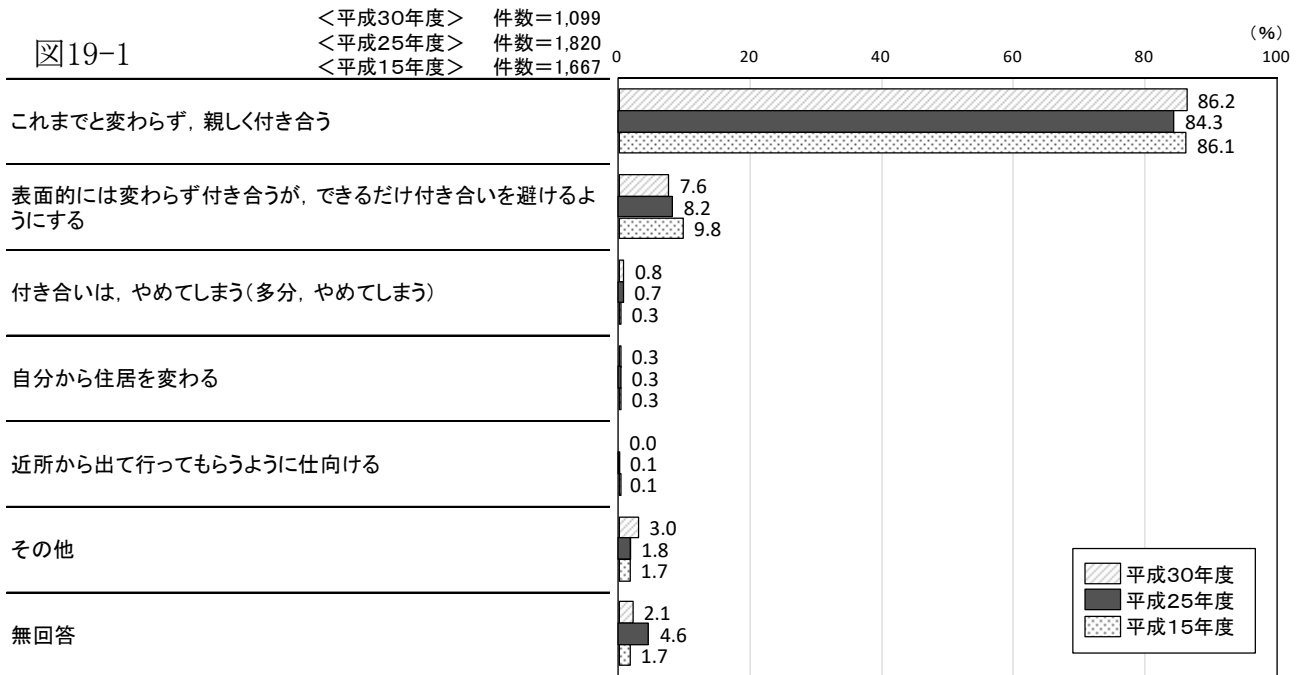
### ■年代別

年代別で比較すると、年代が上がるほど「法律の内容も含めて知っている」「内容はよく知らないが、法律ができたことは知っている」の割合が高くなる傾向にある。



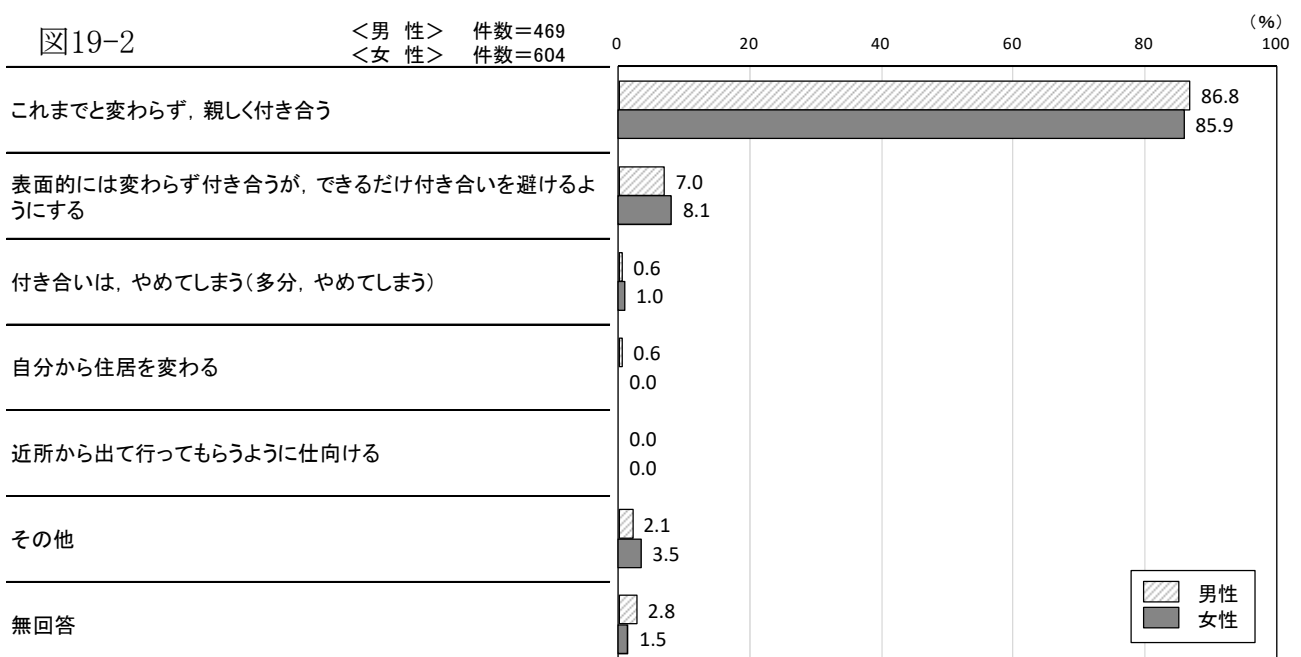
問19 あなたの、とても親しい人が「同和問題（部落差別）」を受けている地区の出身あるいは、現在も住んでいるということがわかった場合、あなたはどうしますか。（○は1つ）

問14で、「知っている」「くわしくはないが知っている（聞いたことがある）」と回答した1,099人の中で、とても親しい人が「同和問題（部落差別）」を受けている地区の出身あるいは、現在も住んでいることがわかった場合については、「これまでと変わらず、親しく付き合う」の割合が最も高く86.2%となっている。次いで、「表面的には変わらず付き合うが、できるだけ付き合いを避けるようにする」が7.6%となっている。



## ■性別

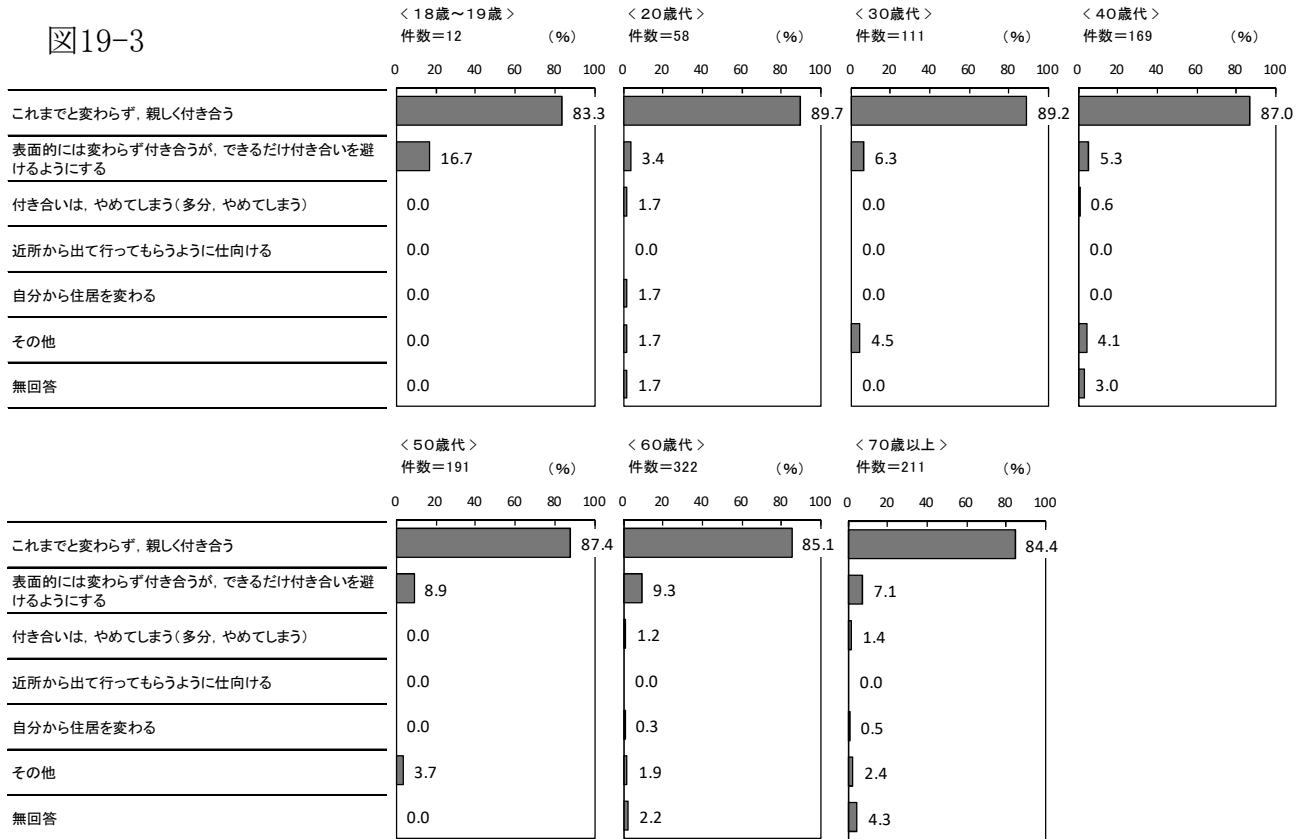
性別で比較したが、特に大きな違いはみられなかった。



## ■年代別

年代別で比較したが、特に大きな違いはみられなかった。

図19-3

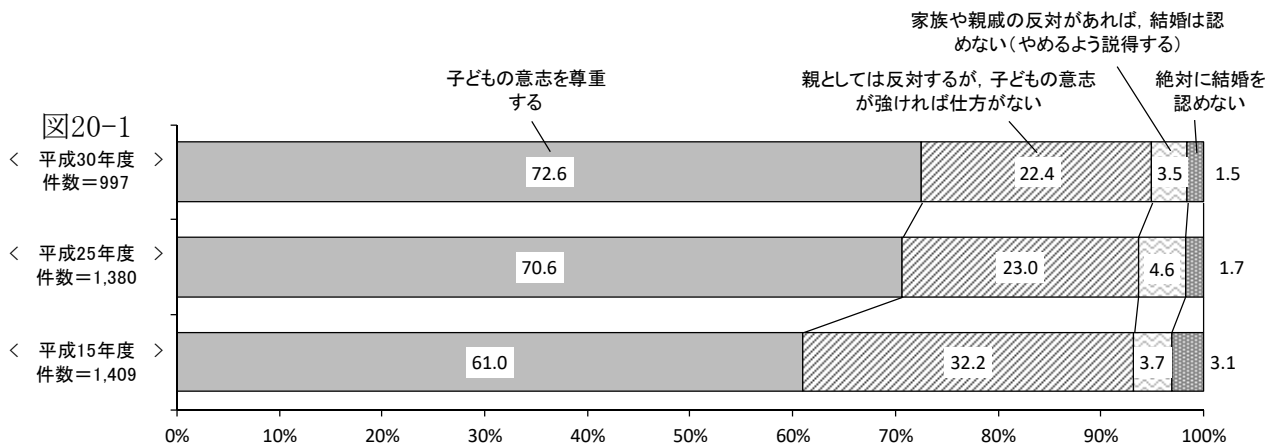


問20 **既婚の方へ** おたずねします。

あなたのお子さんが結婚しようとする相手が、「同和問題（部落差別）」を受けている地区の出身あるいは、現在も住んでいるとわかった場合、あなたはどのようにしますか。（○は1つ）

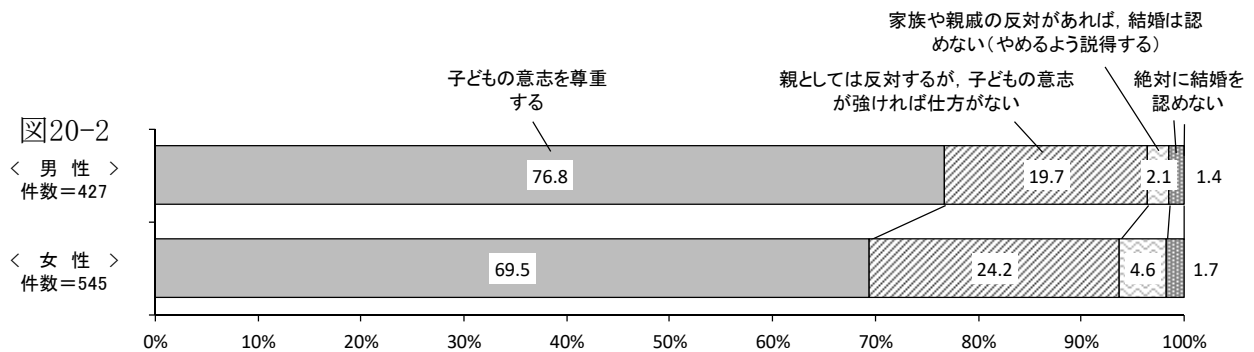
子どもの結婚相手が「同和問題（部落差別）」を受けている地区の出身あるいは、現在も住んでいるとわかった場合については、「子どもの意思を尊重する」の割合が最も高く72.6%となっている。次いで、「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ仕方がない」が22.4%、「家族や親戚の反対があれば、結婚は認めない（やめるよう説得する）」が3.5%、「絶対に結婚を認めない」が1.5%となっている。

平成15年度、平成25年度と比較すると、「子どもの意志を尊重する」の割合が毎回高くなってきている。



■性別

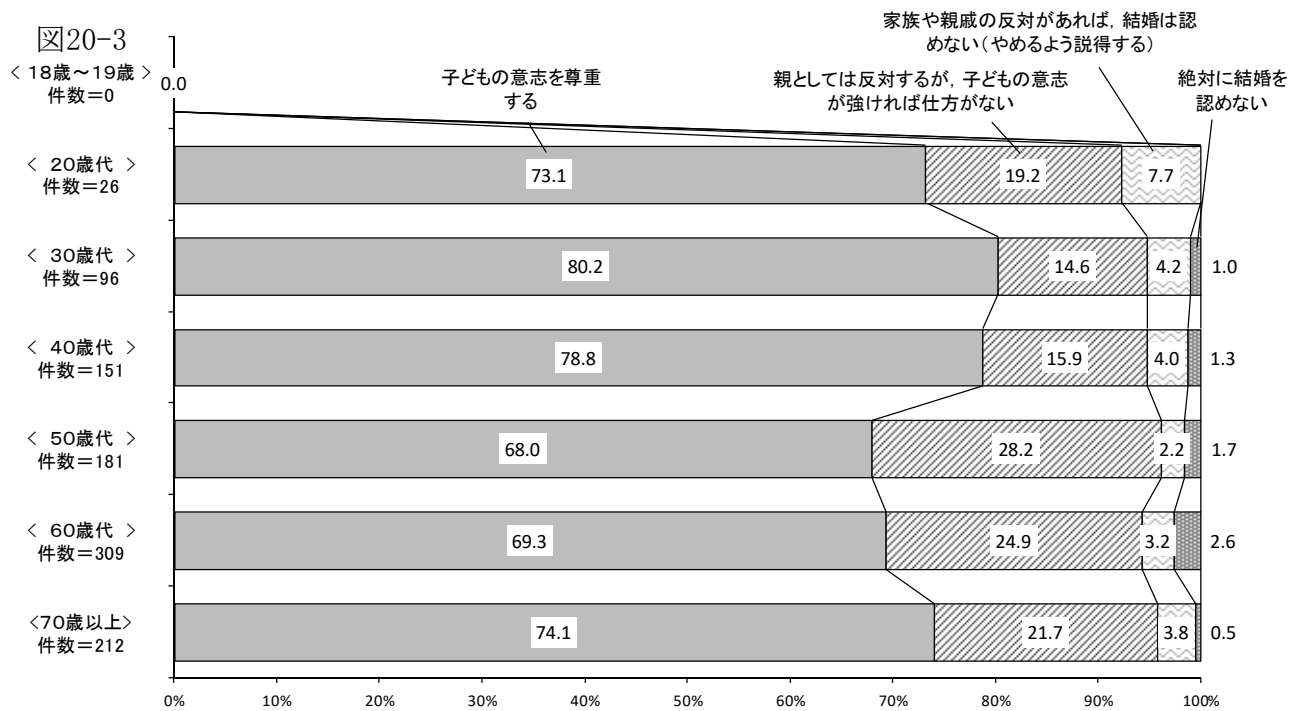
性別で比較すると、「子どもの意思を尊重する」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高い。





## ■年代別

年代別で比較すると、30歳代、40歳代では他の年代に比べ「子どもの意思を尊重する」の割合が高く、50歳代、60歳代では他の年代に比べ「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ仕方がない」の割合が高い。

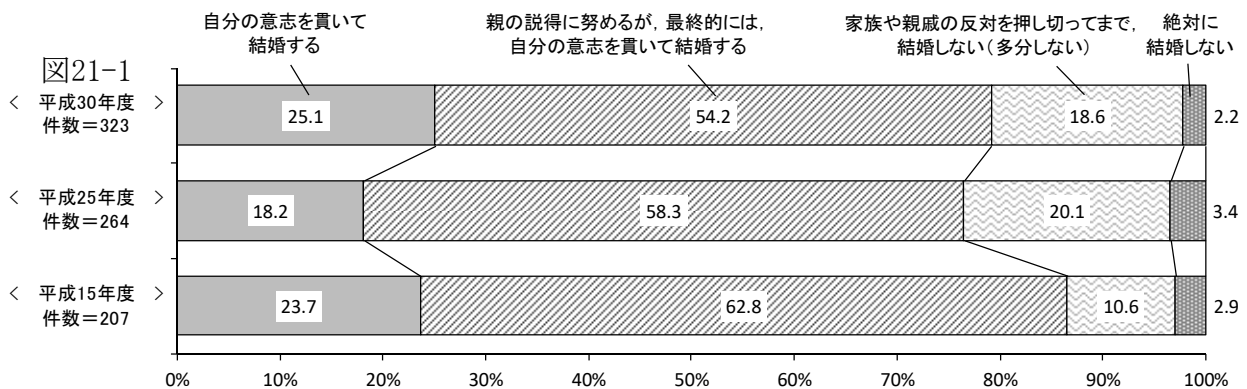


問21 未婚の方へ おたずねします。

あなたが、仮に、「同和問題（部落差別）」を受けている地区の出身あるいは、現在も住んでいる人と結婚しようとしたとき、親や親戚から強い反対を受けたら、あなたはどうしますか。

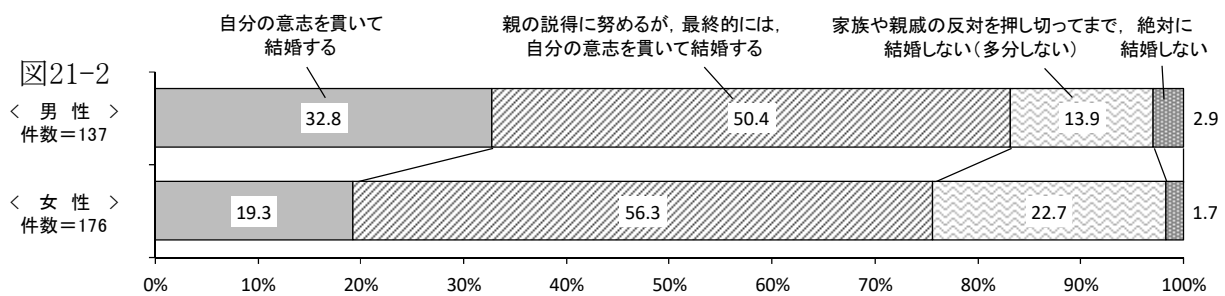
「同和問題（部落差別）」を受けている地区の出身あるいは、現在も住んでいる人との結婚で親や親戚から反対を受けた場合については、「親の説得に努めるが、最終的には、自分の意志を貫いて結婚する」の割合が最も高く54.2%となっている。次いで、「自分の意志を貫いて結婚する」が25.1%、「家族や親戚の反対を押し切ってまで、結婚しない（多分しない）」が18.6%、「絶対に結婚しない」が2.2%となっている。

平成15年度、平成25年度と比較すると、「自分の意志を貫いて結婚する」の割合は最も高い。



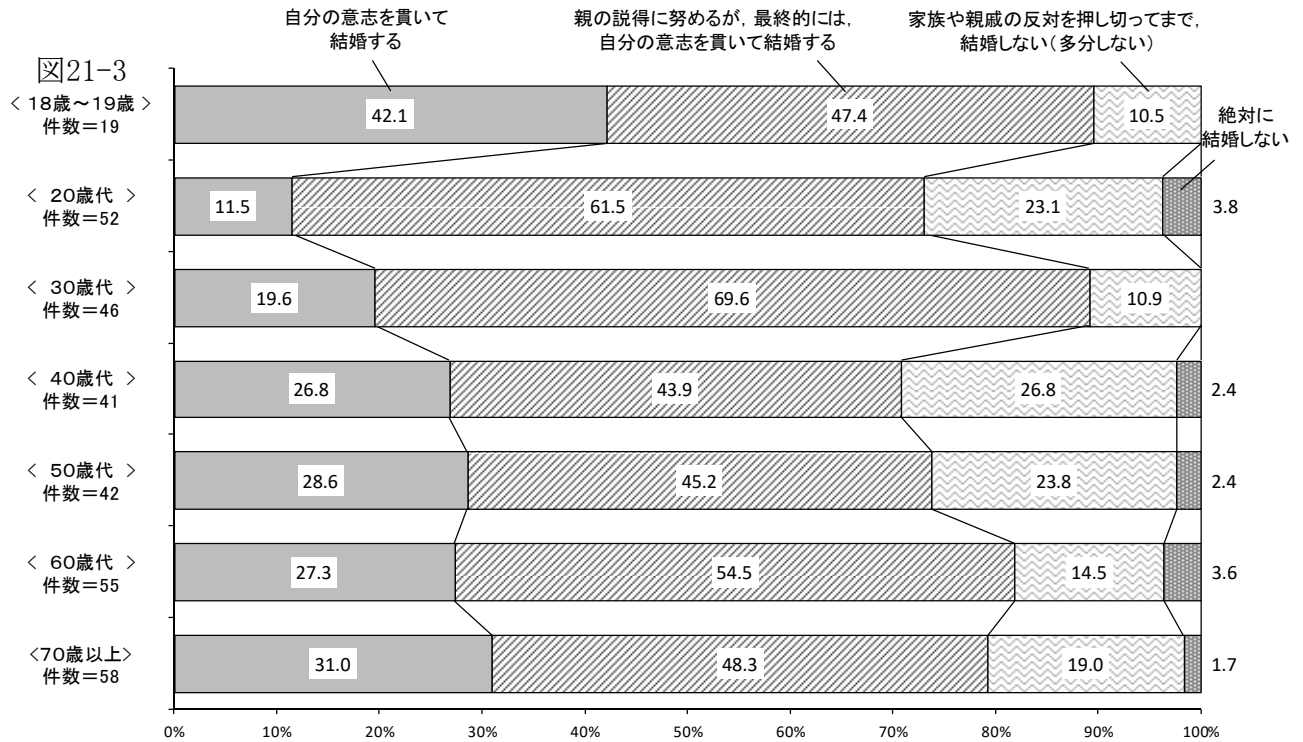
■性別

性別で比較すると、「自分の意志を貫いて結婚する」の割合が、男性が女性より10ポイント以上高く、また「家族や親戚の反対を押し切ってまで、結婚しない（多分しない）」「親の説得に努めるが、最終的には自分の意志を貫いて結婚する」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。



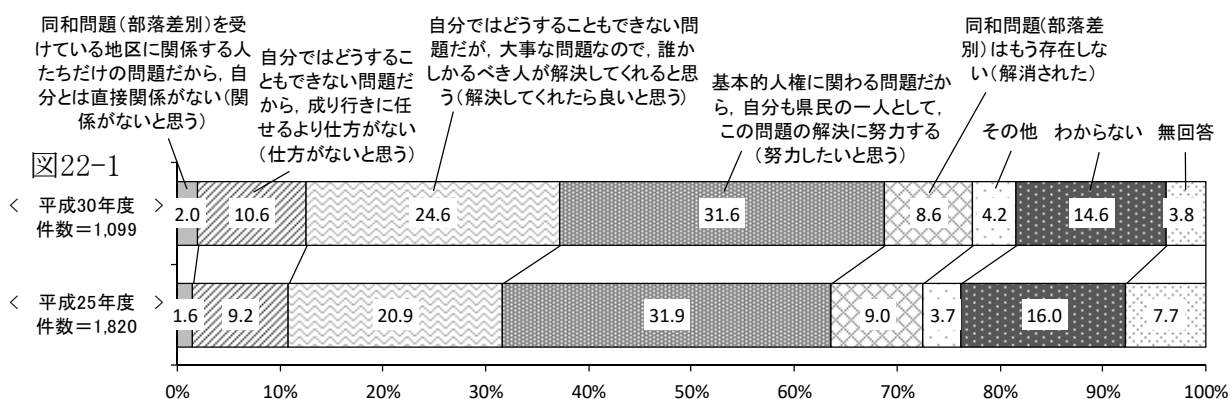
## ■年代別

年代別で比較すると、18歳～19歳で「自分の意志を貫いて結婚する」の割合が全年代で最も高く、20歳代が最も低い。20歳代以上で、年代が上がるほど「自分の意志を貫いて結婚する」の割合が高くなる傾向にある。



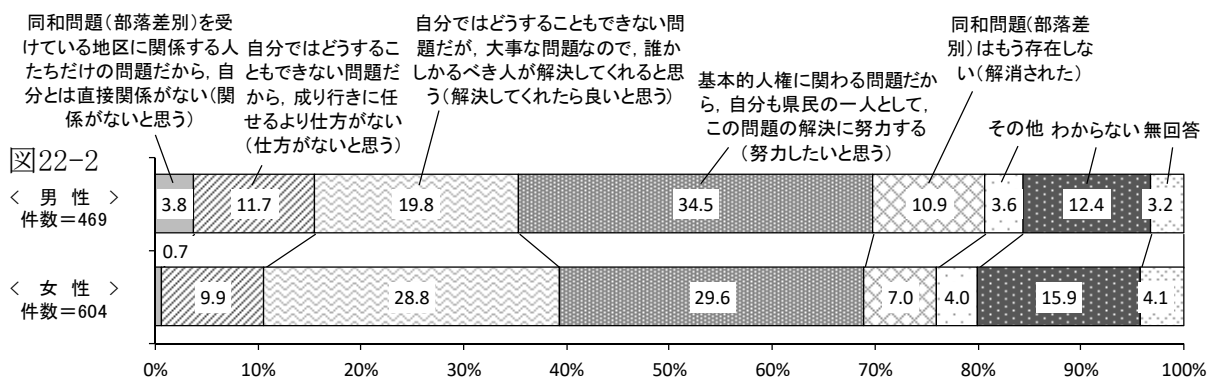
問22 「同和問題（部落差別）」の解決について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

問14で、「知っている」「くわしくはないが知っている（聞いたことがある）」と回答した1,099人の中で、「同和問題（部落差別）」の解決については、「基本的人権にかかわる問題だから、自分も県民の一人として、この問題の解決に努力する（努力したいと思う）」の割合が最も高く31.6%となっている。次いで、「自分ではどうすることもできない問題だが、大事な問題なので、誰かしかるべき人が解決してくれると思う（解決してくれたら良いと思う）」が24.6%、「わからない」が14.6%、「自分ではどうすることもできない問題だから、成り行きに任せるより仕方がない（仕方がないと思う）」が10.6%となっている。



■性別

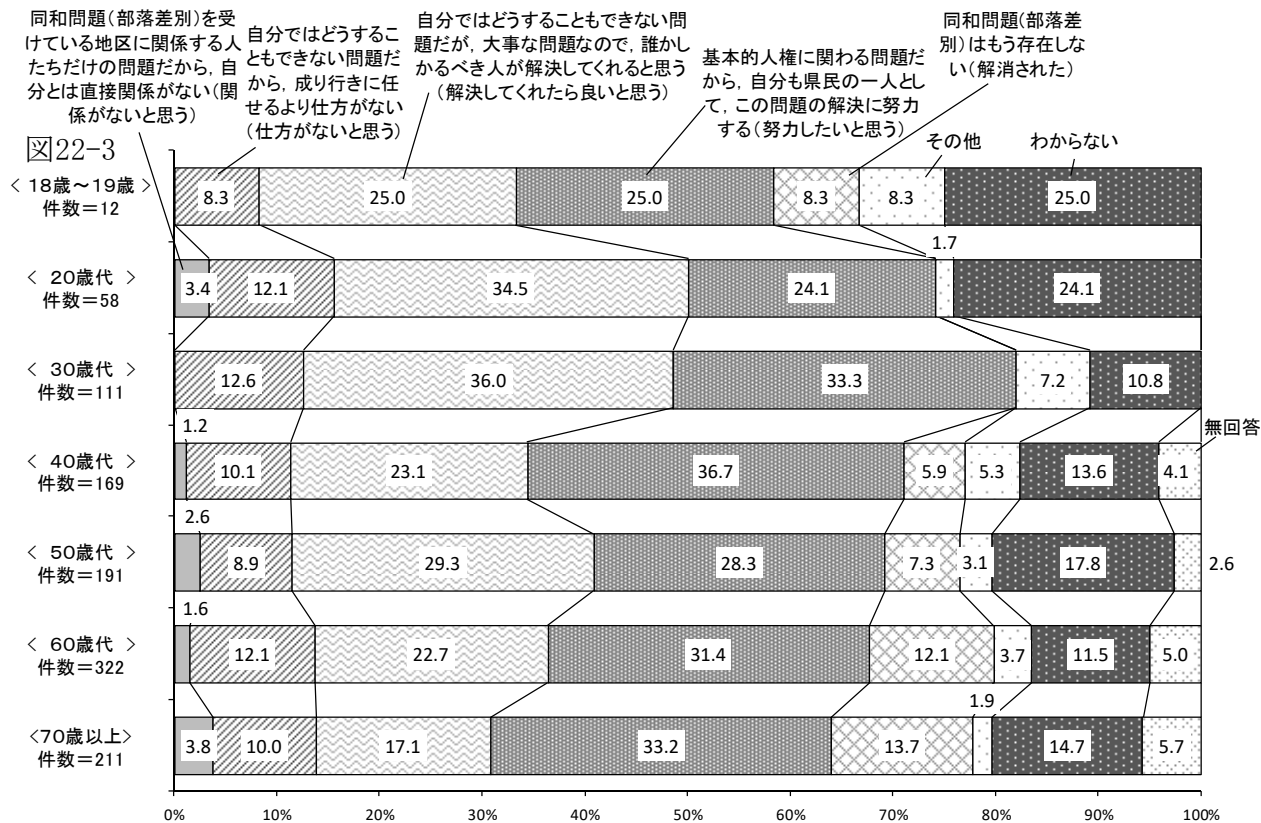
性別で比較すると、「自分ではどうすることもできない問題だが、大事な問題なので、誰かしかるべき人が解決してくれると思う（解決してくれたら良いと思う）」の割合が、女性が男性より5ポイント以上高い。



## ■年代別

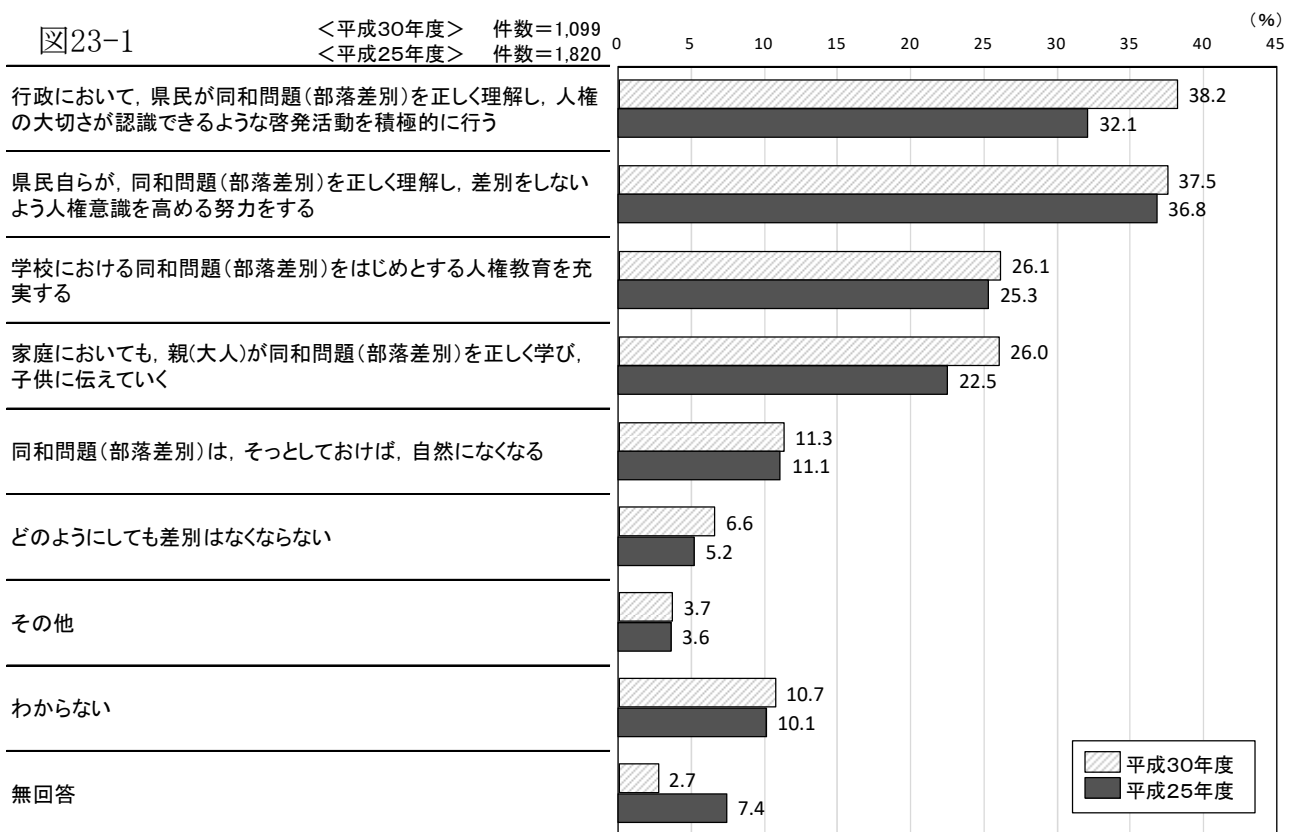
年代別で比較すると、全年代で「基本的人権に関わる問題だから、自分も県民の一人として、この問題の解決に努力する（努力したいと思う）」の割合が高い。

また、40歳代以上では年代が上がるほど「同和問題（部落差別）はもう存在しない（解消された）」の割合が高い。



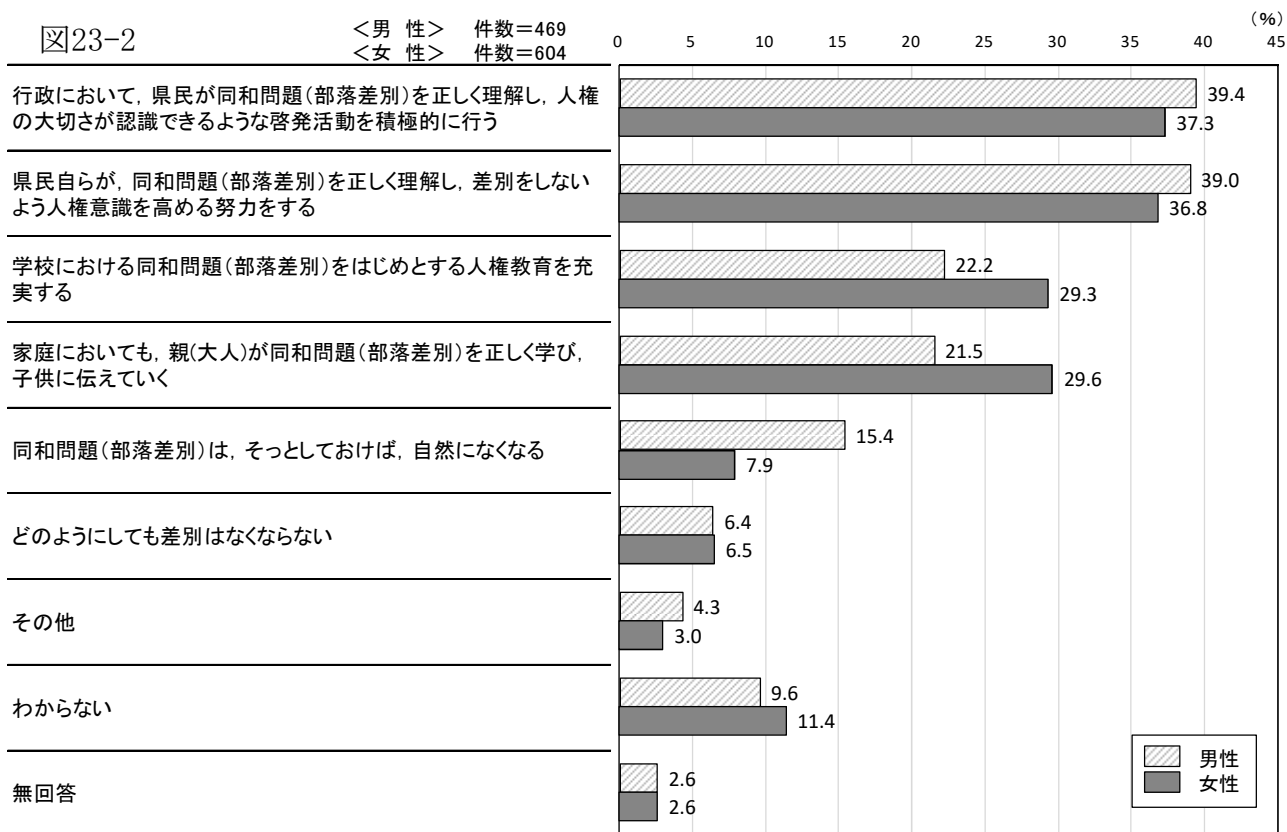
問23 あなたは、「同和問題（部落差別）」を解決するには、どのようなことが大切だと思いますか。  
 (〇は2つまで)

問14で、「知っている」「くわしくはないが知っている（聞いたことがある）」と回答した1,099人の中で、「同和問題（部落差別）」を解決するのに大切なことについては、「行政において、県民が同和問題（部落差別）を正しく理解し、人権の大切さが認識できるような啓発活動を積極的に行う」の割合が最も高く38.2%となっている。次いで、「県民自らが、同和問題（部落差別）を正しく理解し、差別をしないよう人権意識を高める努力をする」が37.5%、「学校における同和問題（部落差別）をはじめとする人権教育を充実する」が26.1%となっている。



## ■性別

性別で比較すると、「同和問題（部落差別）は、そっとしておけば、自然になくなる」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高く、また「家庭においても、親（大人）が同和問題（部落差別）を正しく学び、子供に伝えていく」「学校における同和問題（部落差別）をはじめとする人権教育を充実する」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。

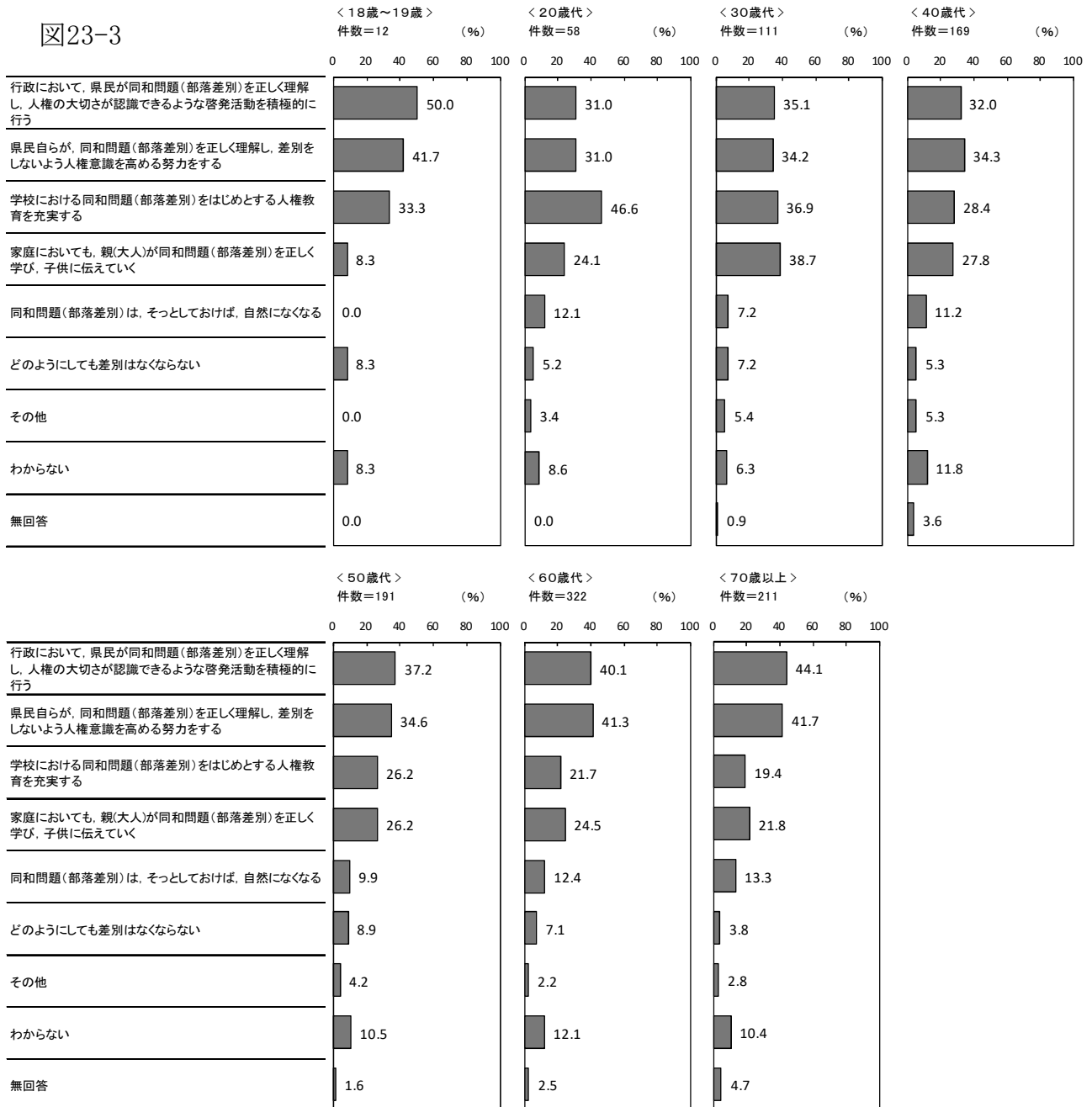


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「行政において、県民が同和問題（部落差別）を正しく理解し、人権の大切さが認識できるような啓発活動を積極的に行う」「県民自らが、同和問題（部落差別）を正しく理解し、差別をしないよう人権意識を高める努力をする」の割合が高い。

また、30歳代以下で「学校における同和問題（部落差別）をはじめとする人権教育を充実する」も高い。

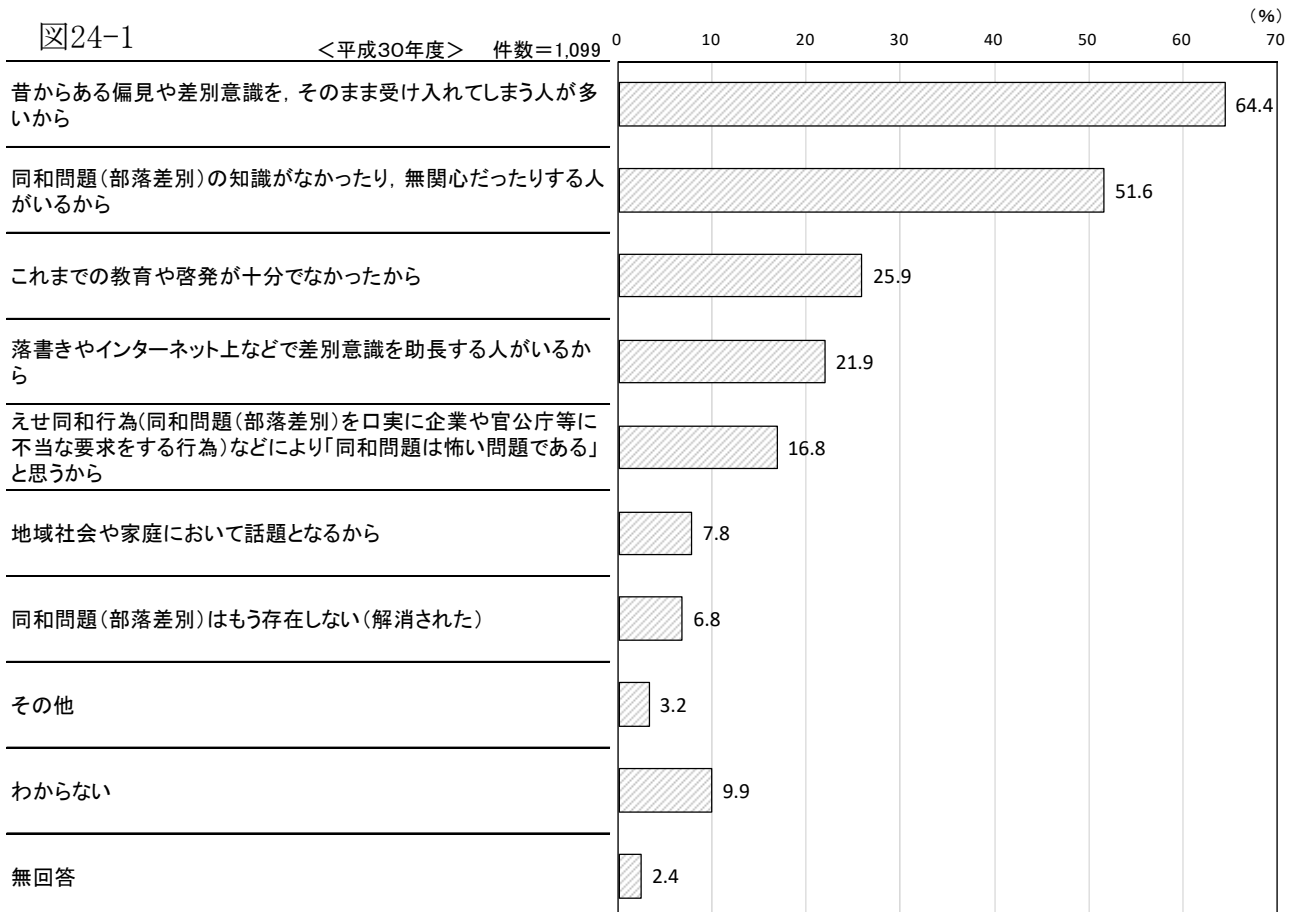
図23-3





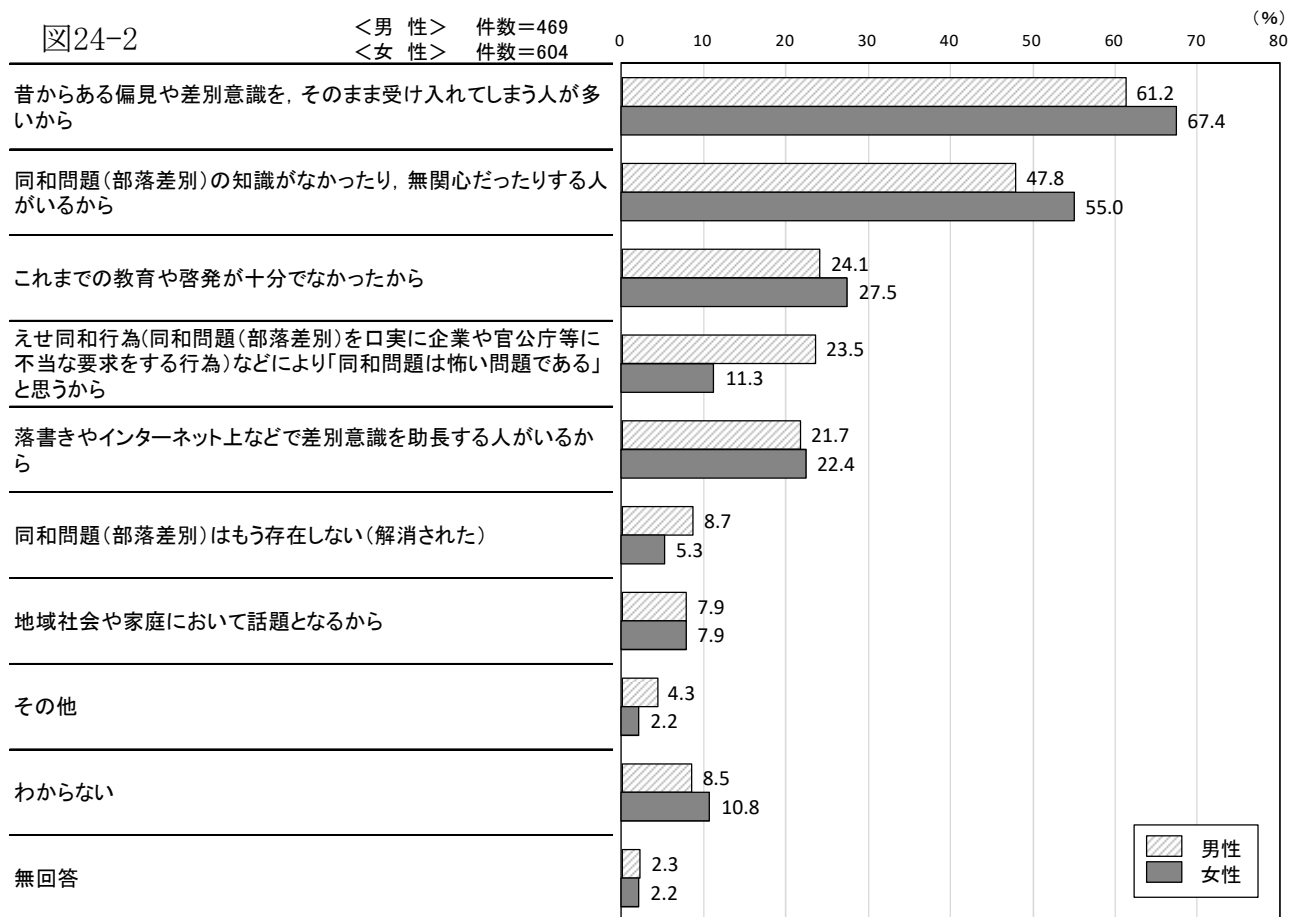
問24 あなたは、現在もなお「同和問題（部落差別）」が存在するのは、なぜだと思いますか。  
 (〇は3つまで)

問14で、「知っている」「くわしくはないが知っている（聞いたことがある）」と回答した1,099人の中で、現在もなお「同和問題（部落差別）」が存在するのはなぜだと思うかについては、「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」の割合が最も高く64.4%となっている。次いで、「同和問題（部落差別）の知識がなかったり、無関心だったりする人がいるから」が51.6%、「これまでの教育や啓発が十分でなかったから」が25.9%となっている。



## ■性別

性別で比較すると、「えせ同和行為（同和問題（部落差別）を口実に企業や官公庁等に不当な要求をする行為）などにより「同和問題は怖い問題である」と思うから」の割合が、男性が女性より10ポイント以上高く、また「同和問題（部落差別）の知識がなかったり、無関心だったりする人がいるから」「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。

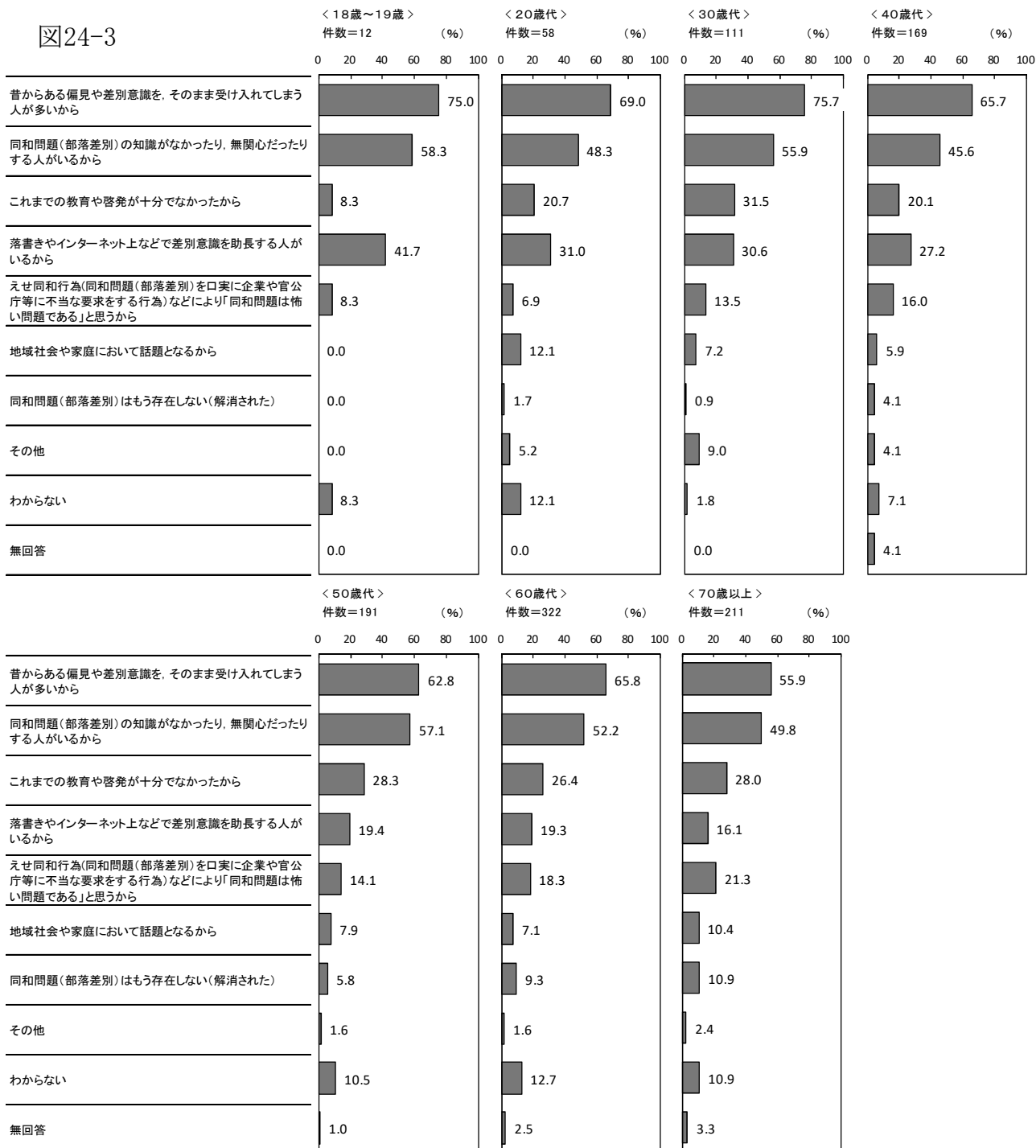


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」「同和問題（部落差別）の知識がなかったり、無関心だったりする人がいるから」の割合が高い。

また、40歳代以下で「落書きやインターネット上などで差別意識を助長する人がいるから」の割合も高い。

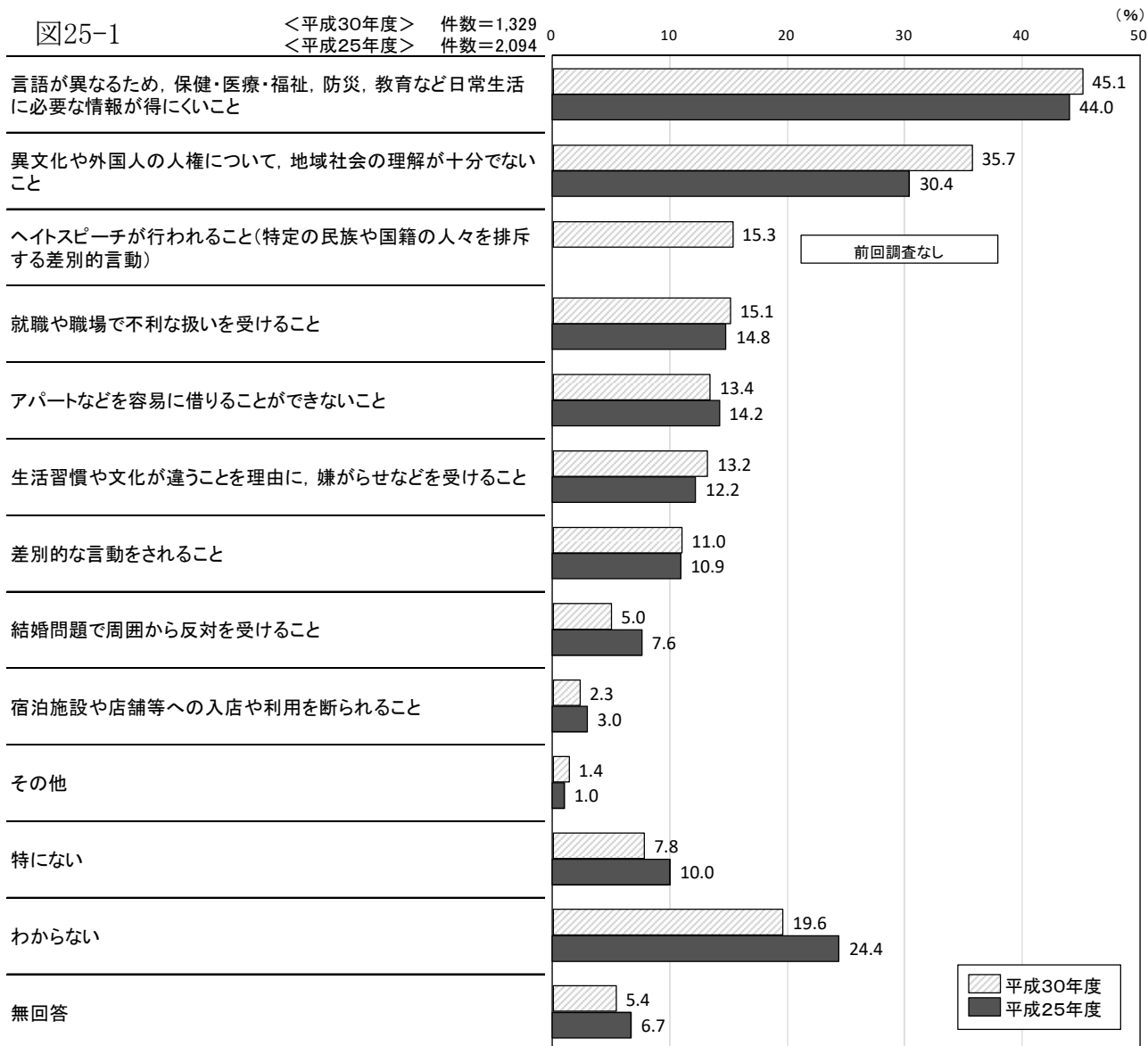
図24-3



## 【外国人】

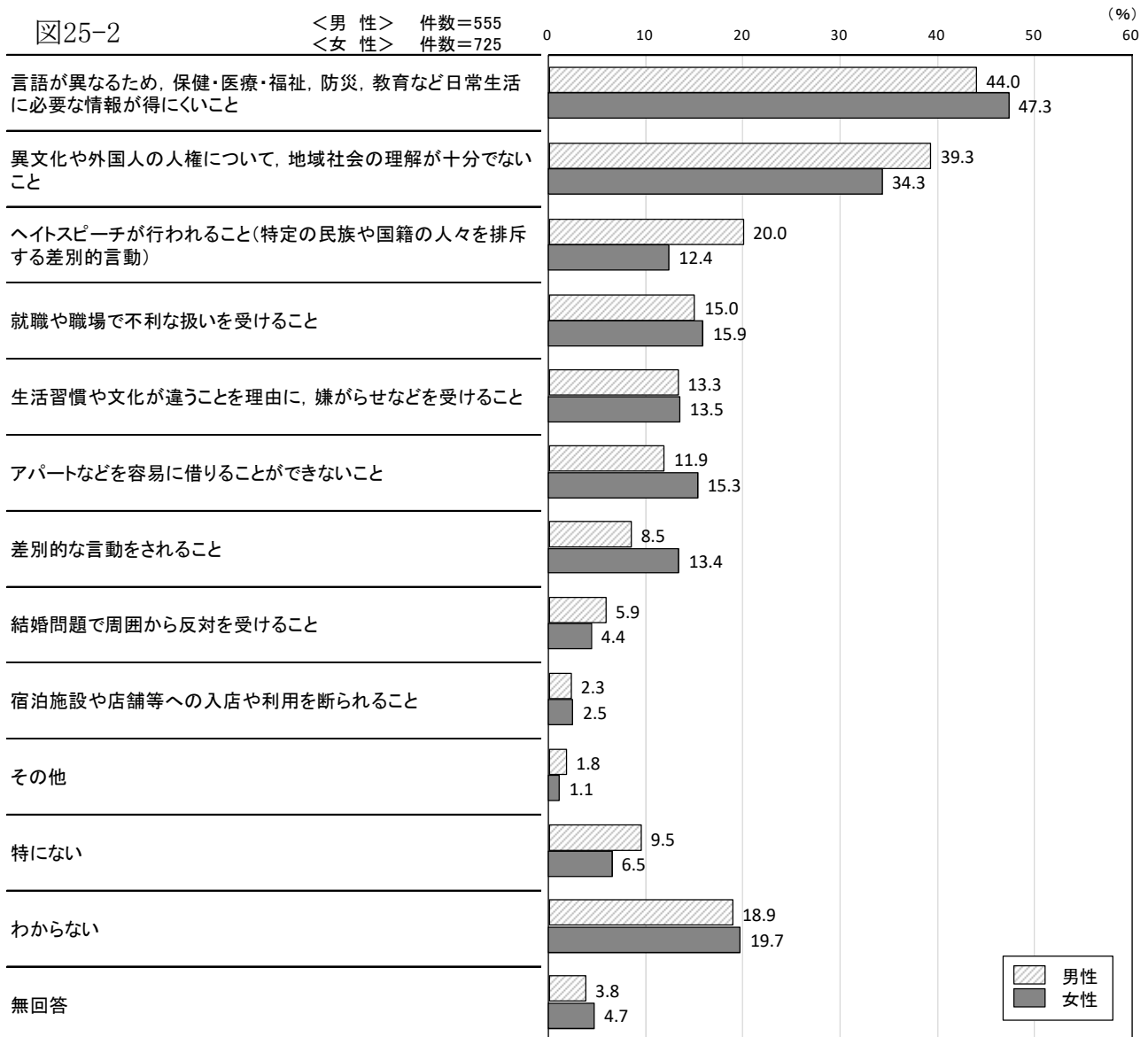
問25 あなたは、日本に居住している外国人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇は3つまで)

外国人に関しての人権問題については、「言語が異なるため、保健・医療・福祉、防災、教育など日常生活に必要な情報が得にくいこと」の割合が最も高く45.1%となっている。次いで、「異文化や外国人の人権について、地域社会の理解が十分でないこと」が35.7%、「わからない」が19.6%となっている。



## ■性別

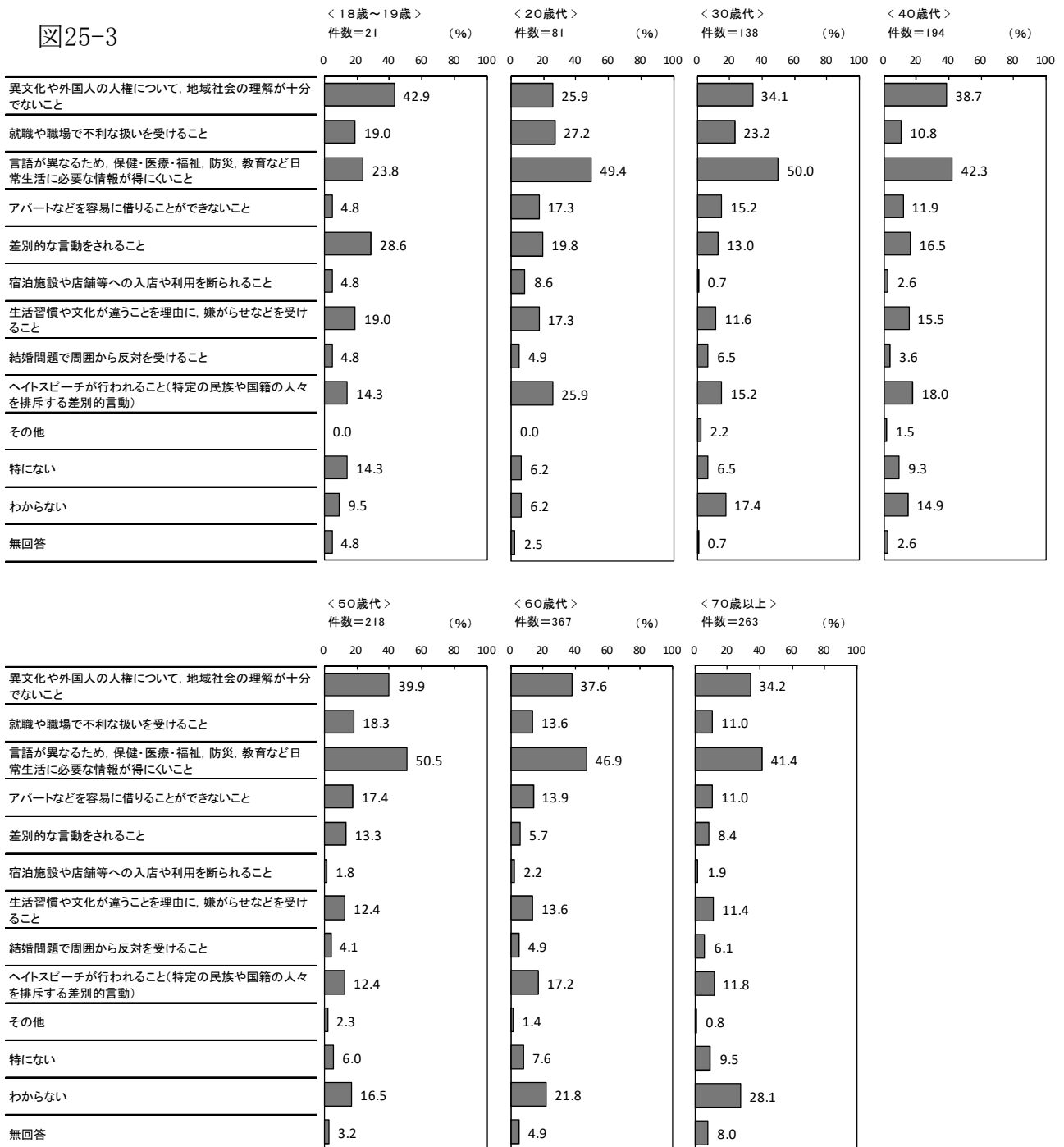
性別で比較すると、「ヘイトスピーチが行われること（特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動）」「異文化や外国人の人権について、地域社会の理解が十分でないこと」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高い。



## ■年代別

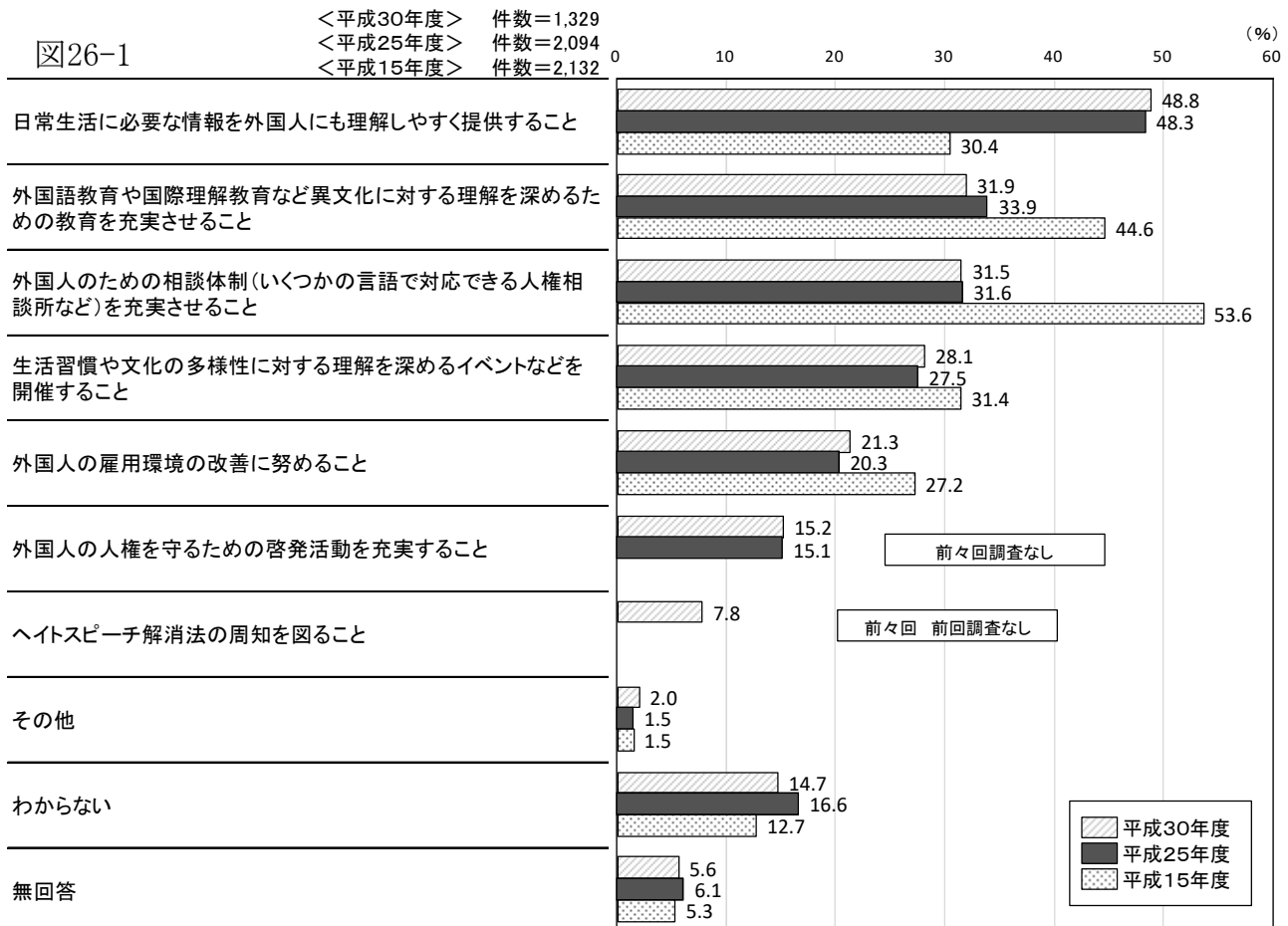
年代別で比較すると、18歳～19歳で「異文化や外国人の人権について、地域社会の理解が十分でないこと」、20歳代以上で「言語が異なるため、保健・医療・福祉、防災、教育など日常生活に必要な情報が得にくいこと」の割合が高い。

図25-3



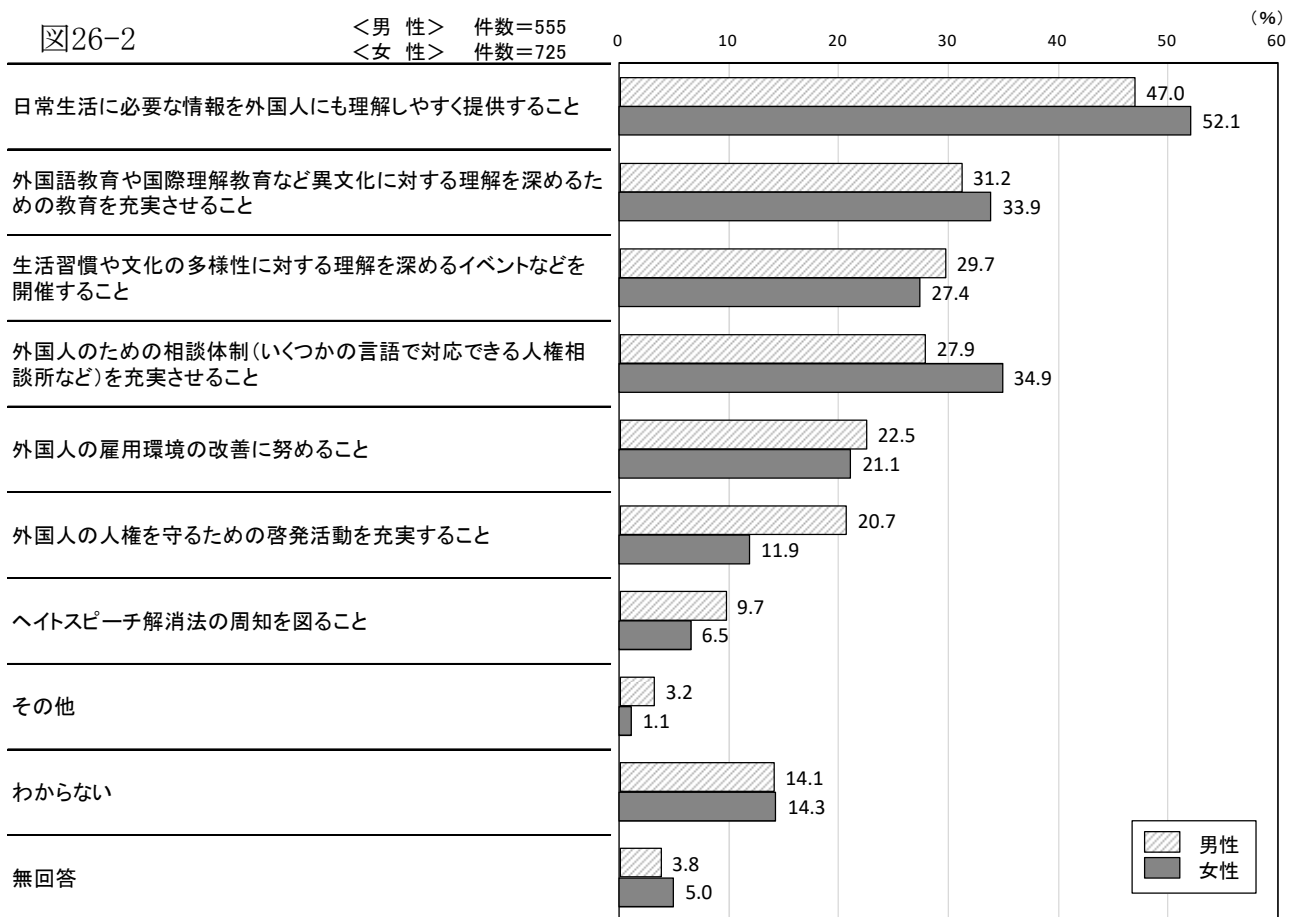
問26 あなたは、日本に居住している外国人の人権を守るために必要なことは、何だと思えますか。  
(〇は3つまで)

外国人の人権を守るために必要なことについては、「日常生活に必要な情報を外国人にも理解しやすく提供すること」の割合が最も高く48.8%となっている。次いで、「外国語教育や国際理解教育など異文化に対する理解を深めるための教育を充実させること」が31.9%、「外国人のための相談体制（いくつかの言語で対応できる人権相談所など）を充実させること」が31.5%となっている。



## ■性別

性別で比較すると、「外国人の人権を守るための啓発活動を充実すること」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高く、また「外国人のための相談体制（いくつかの言語で対応できる人権相談所など）を充実させること」「日常生活に必要な情報を外国人にも理解しやすく提供すること」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。

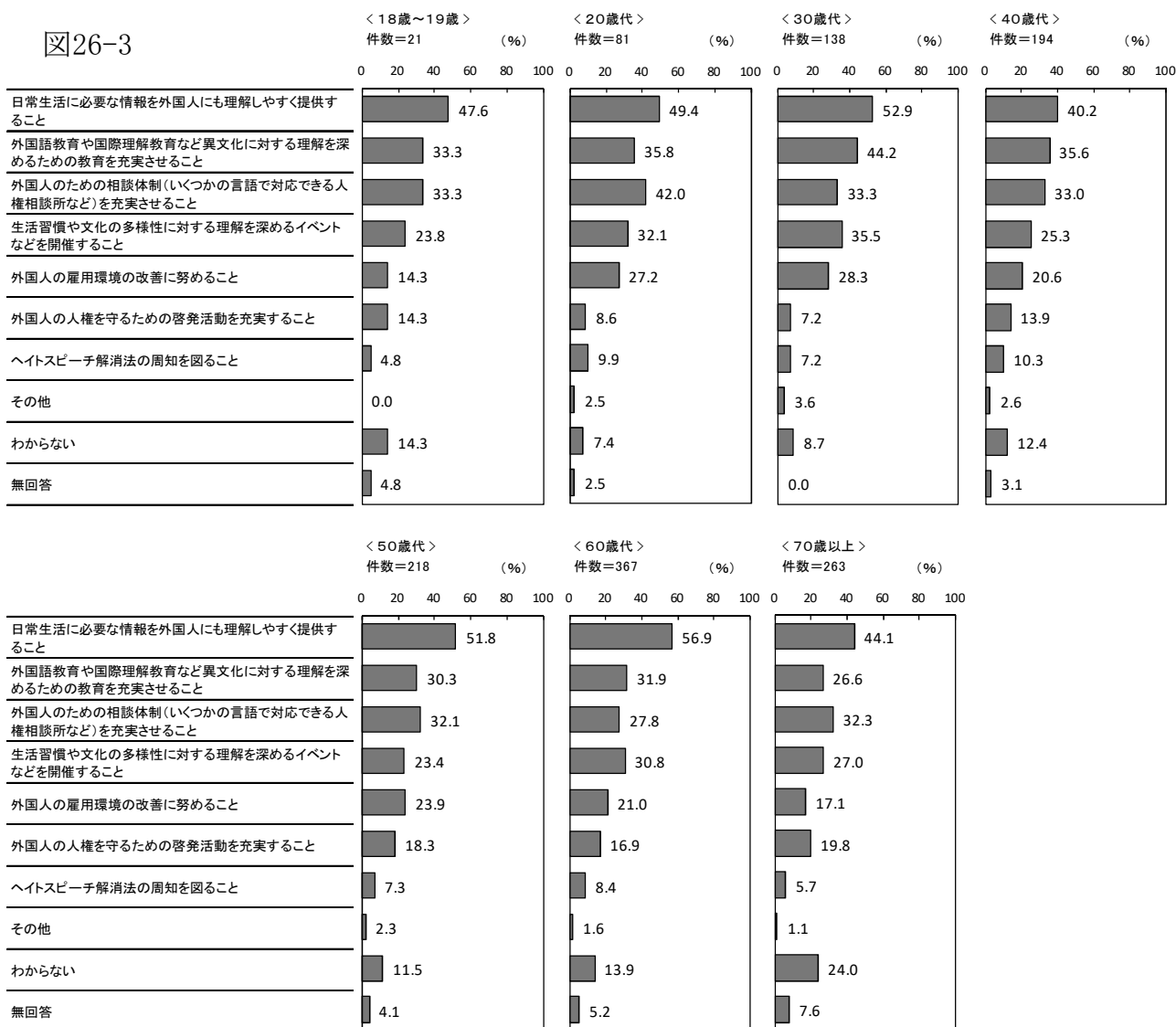




## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「日常生活に必要な情報を外国人にも理解しやすく提供すること」「外国語教育や国際理解教育など異文化に対する理解を深めるための教育を充実させること」「外国人のための相談体制（いくつかの言語で対応できる人権相談所など）を充実させること」の割合が高い。

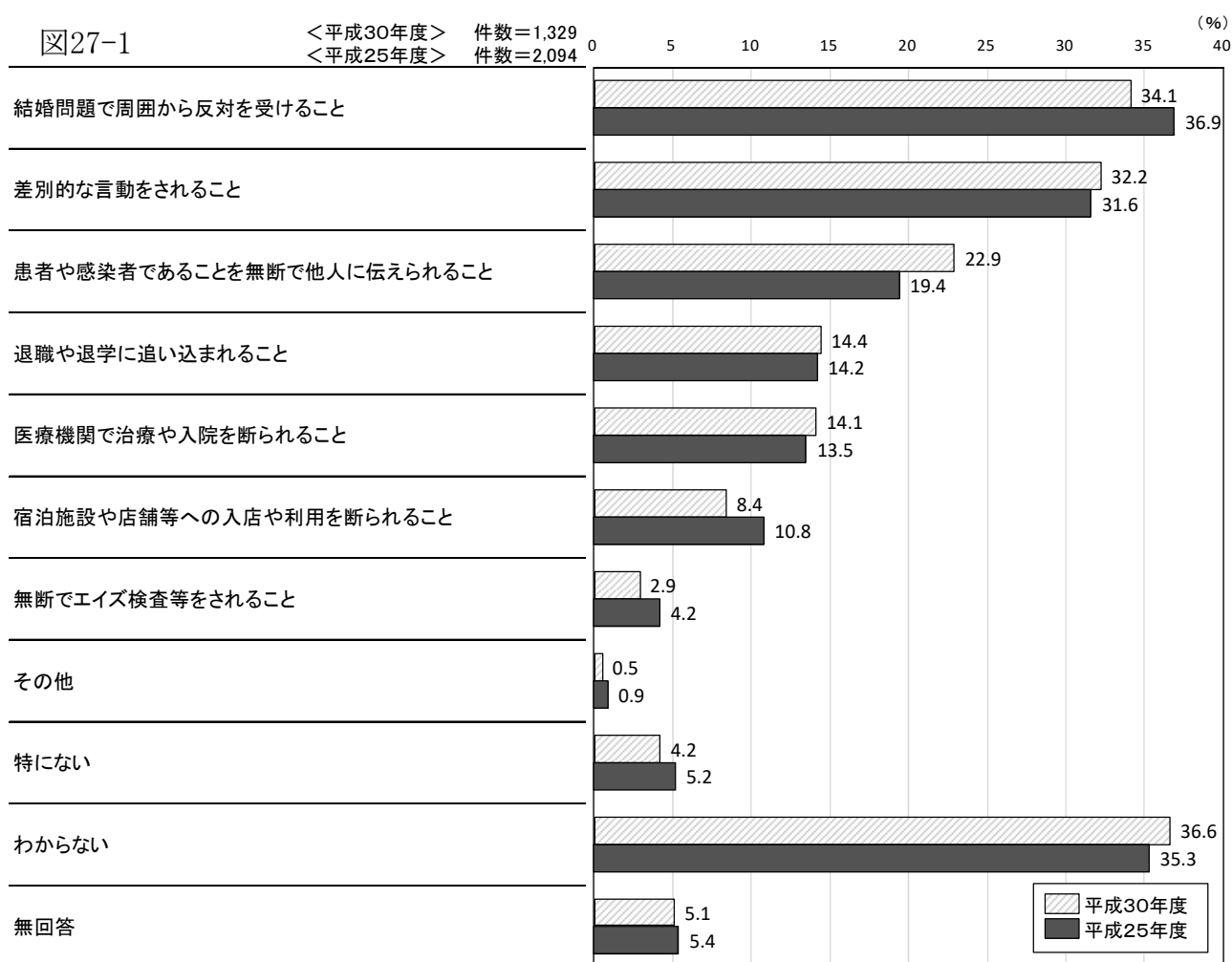
図26-3



## 【HIV感染者等】

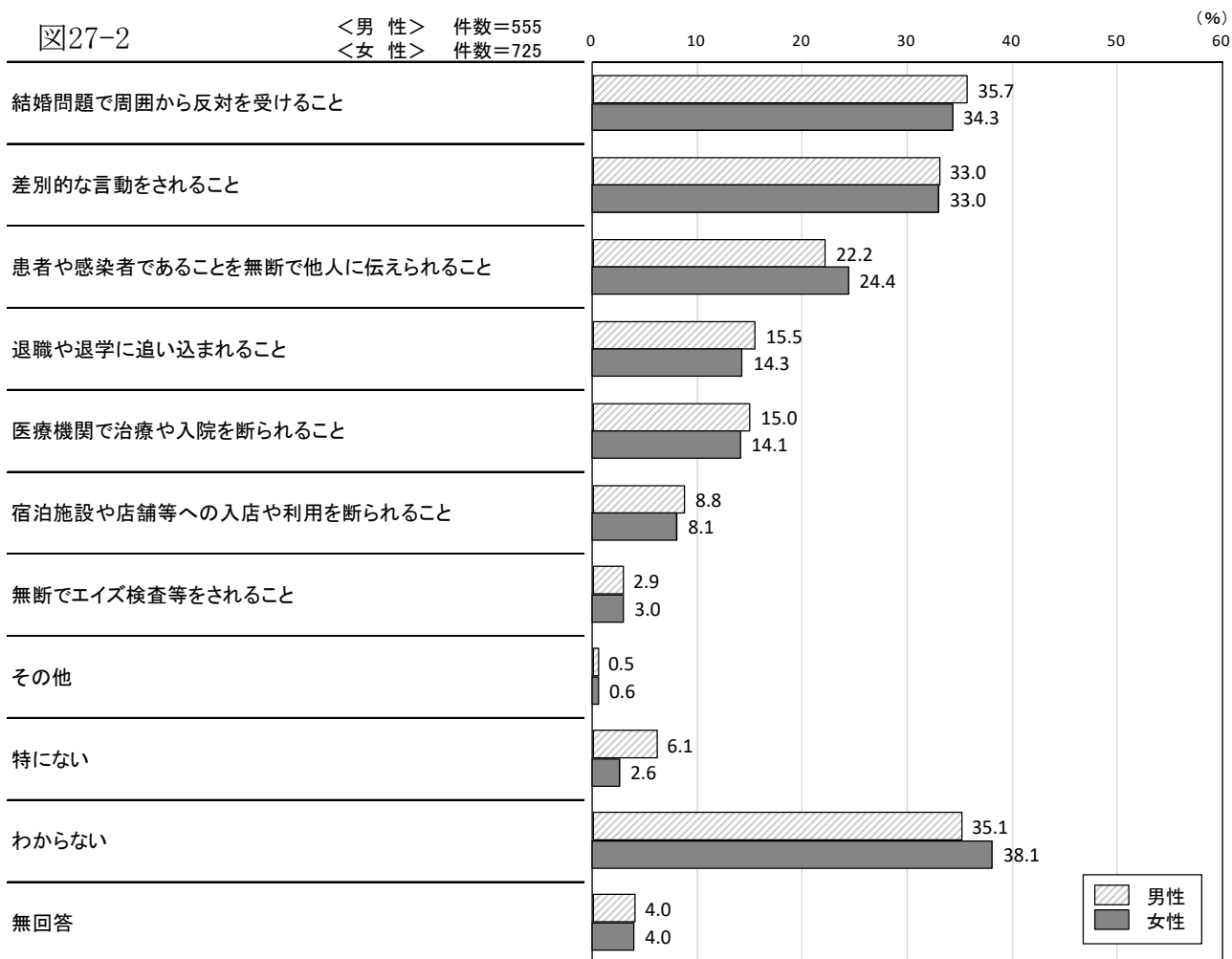
問27 あなたは、エイズ患者・HIV（エイズウイルス）感染者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。（〇は3つまで）

エイズ患者・HIV（エイズウイルス）感染者やその家族に関しての人権問題については、「わからない」と回答した人の割合が最も高く36.6%となっている。次いで、「結婚問題で周囲から反対を受けること」が34.1%、「差別的な言動をされること」が32.2%、「患者や感染者であることを無断で他人に伝えられること」が22.9%となっている。



## ■性別

性別で比較したが、特に大きな違いはみられなかった。

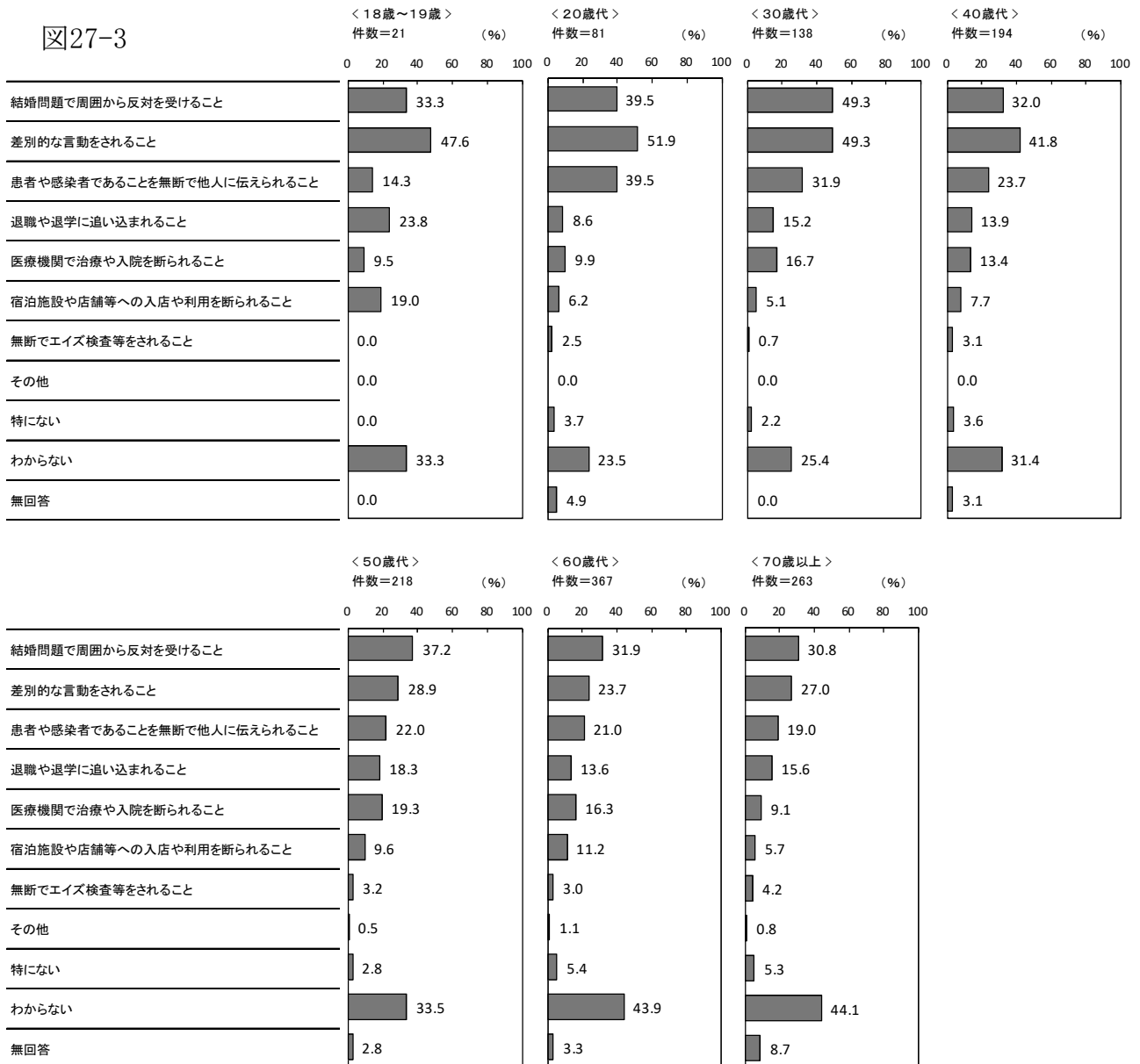


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「結婚問題で周囲から反対を受けること」「差別的な言動をされること」の割合が高い。

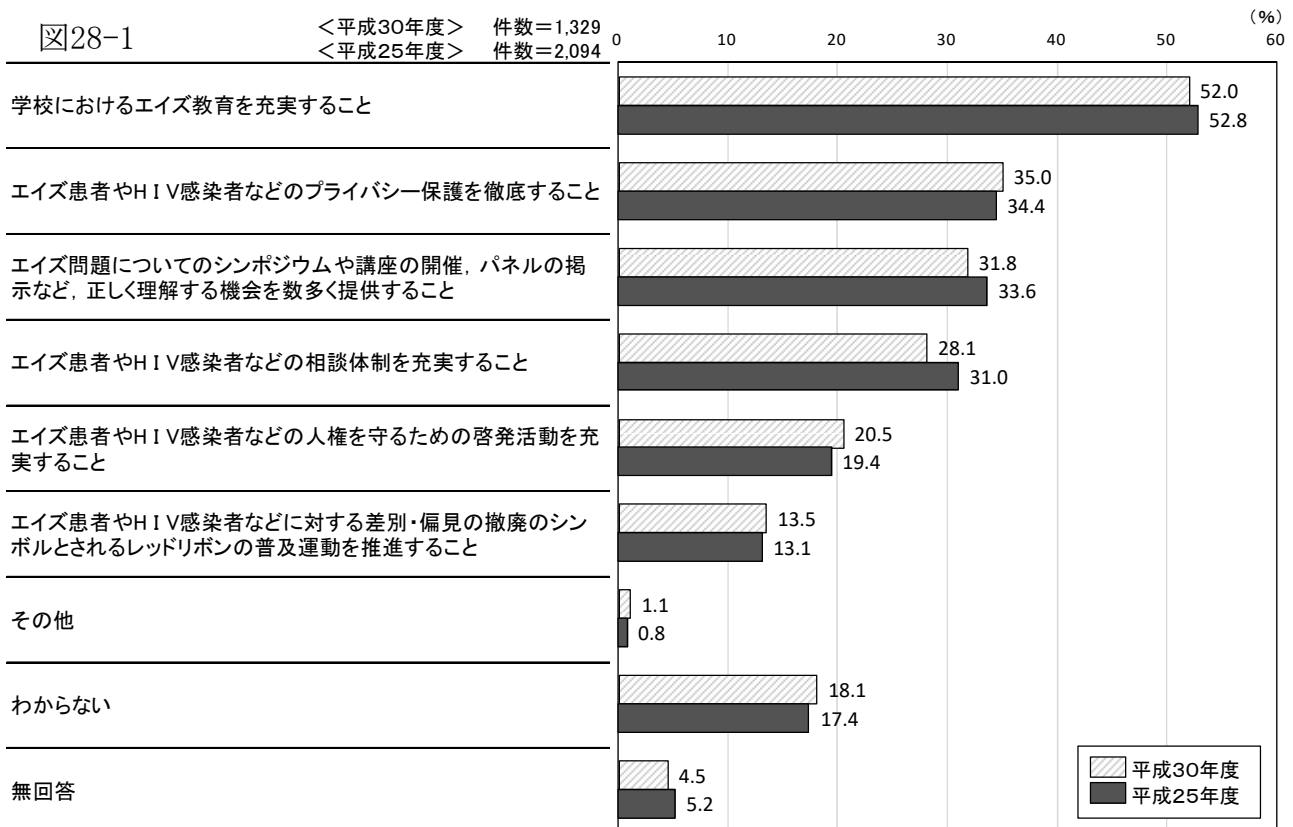
また、40歳代以上で「わからない」の割合も高い。

図27-3



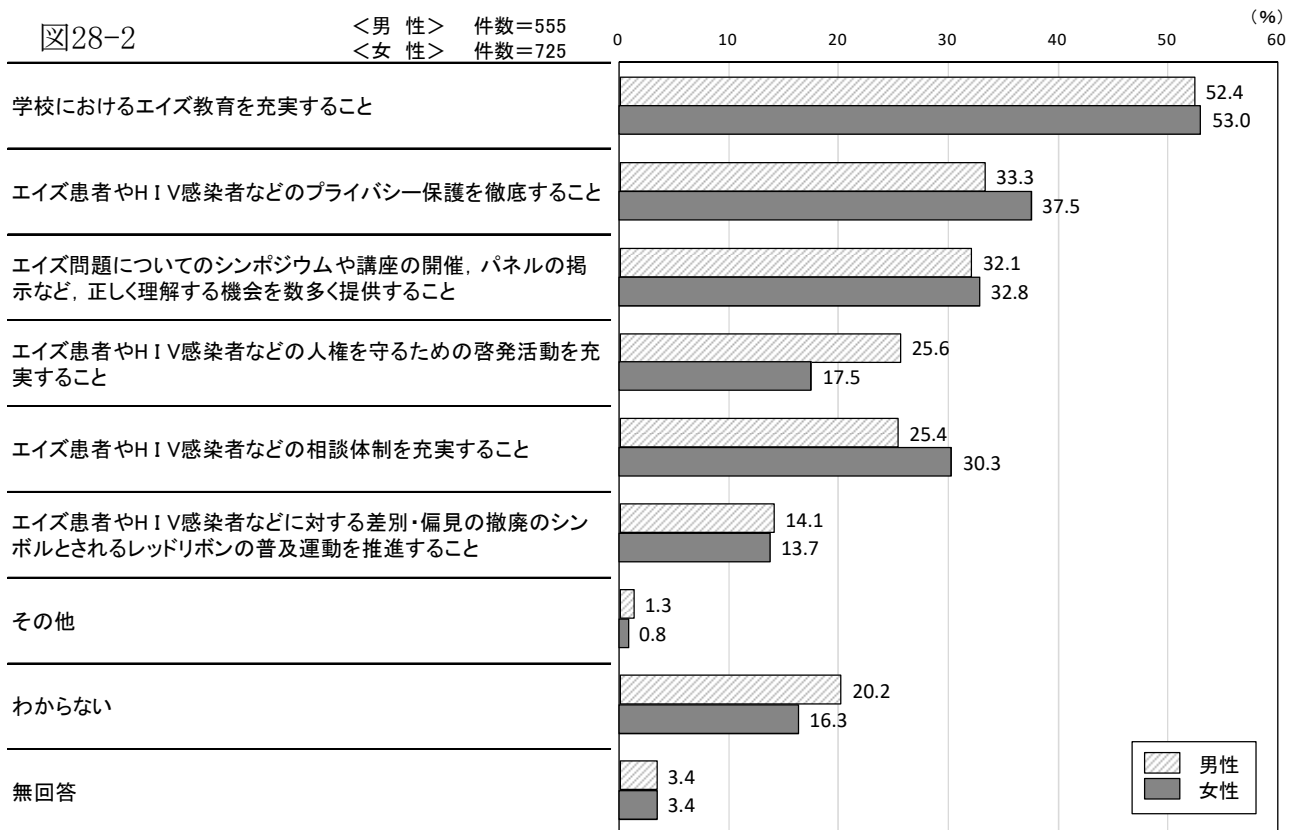
問28 あなたは、エイズ患者・HIV感染者やその家族の人権を守るために必要なことは、何だと思  
いますか。(〇は3つまで)

エイズ患者・HIV（エイズウイルス）感染者やその家族の人権を守るために必要なことについては、「学校におけるエイズ教育を充実すること」の割合が最も高く52.0%となっている。次いで、「エイズ患者やHIV感染者などのプライバシー保護を徹底すること」が35.0%、「エイズ問題についてのシンポジウムや講座の開催、パネルの掲示など、正しく理解する機会を数多く提供すること」が31.8%となっている。



## ■性別

性別で比較すると、「エイズ患者やHIV感染者などの人権を守るための啓発活動を充実すること」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高い。

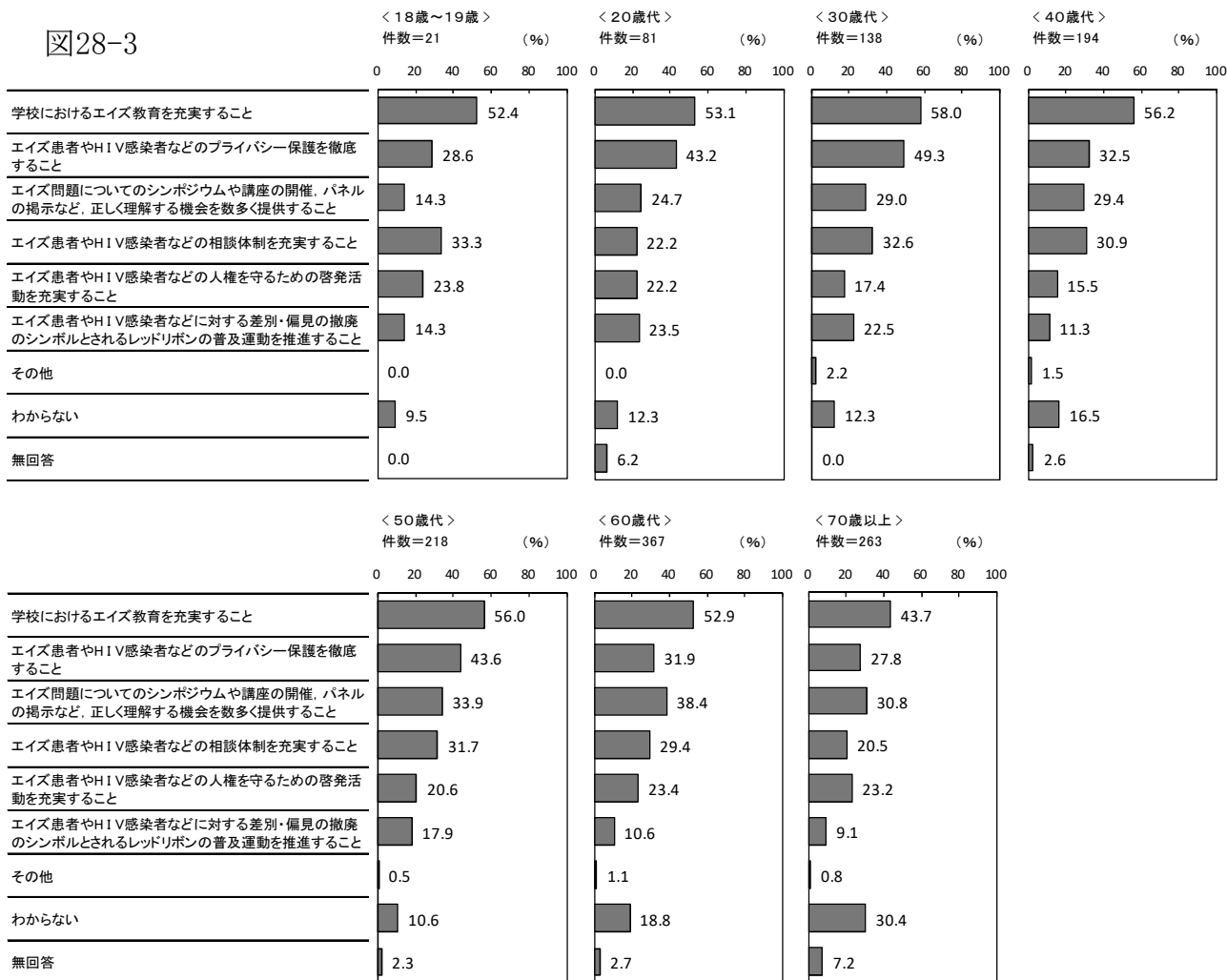


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「学校におけるエイズ教育を充実すること」の割合が高い。

また、20歳代から50歳代で「エイズ患者やHIV感染者などのプライバシー保護を徹底すること」の割合も高い。

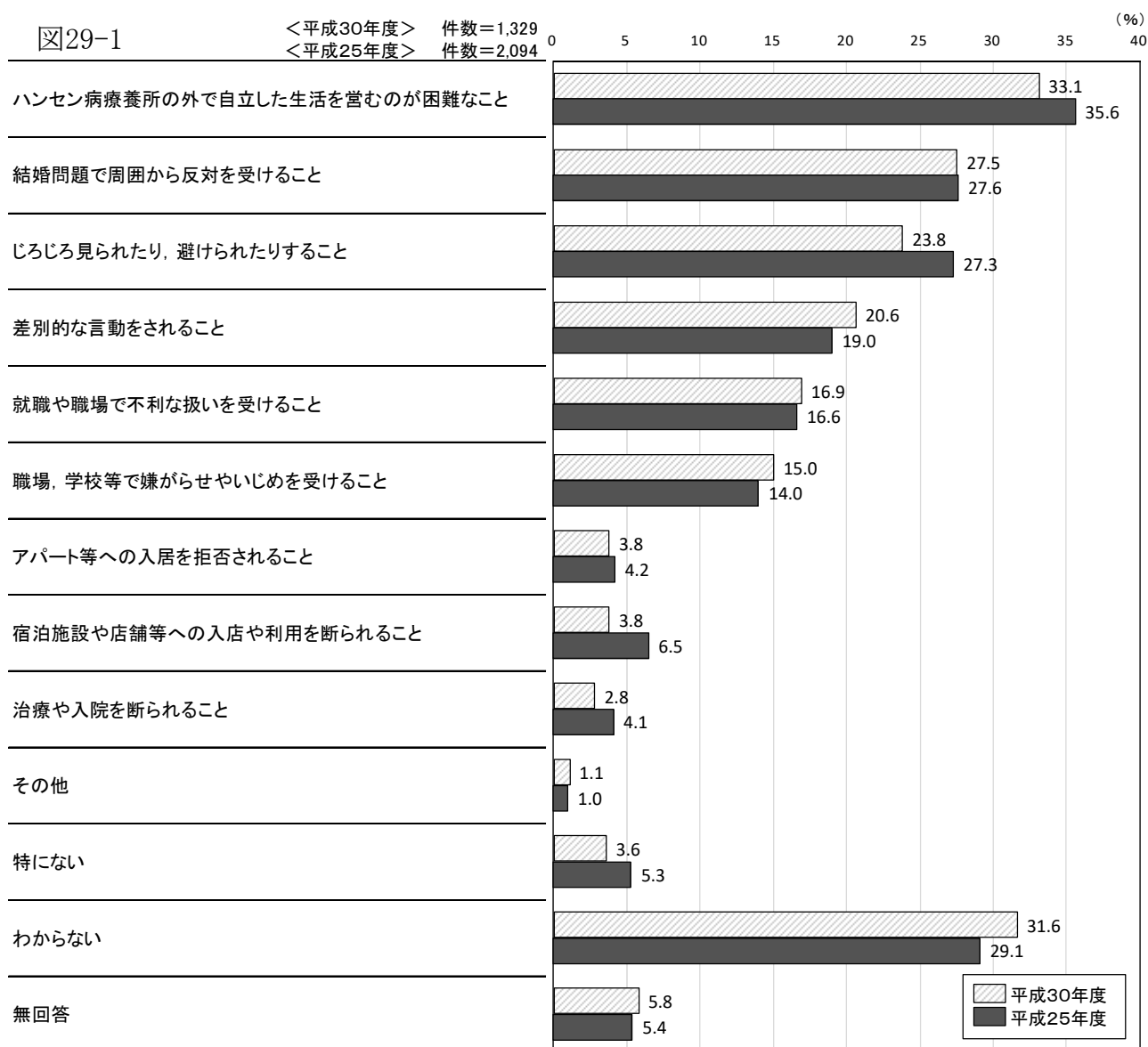
図28-3



## 【ハンセン病患者等】

問29 あなたは、ハンセン病患者・元患者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇は3つまで)

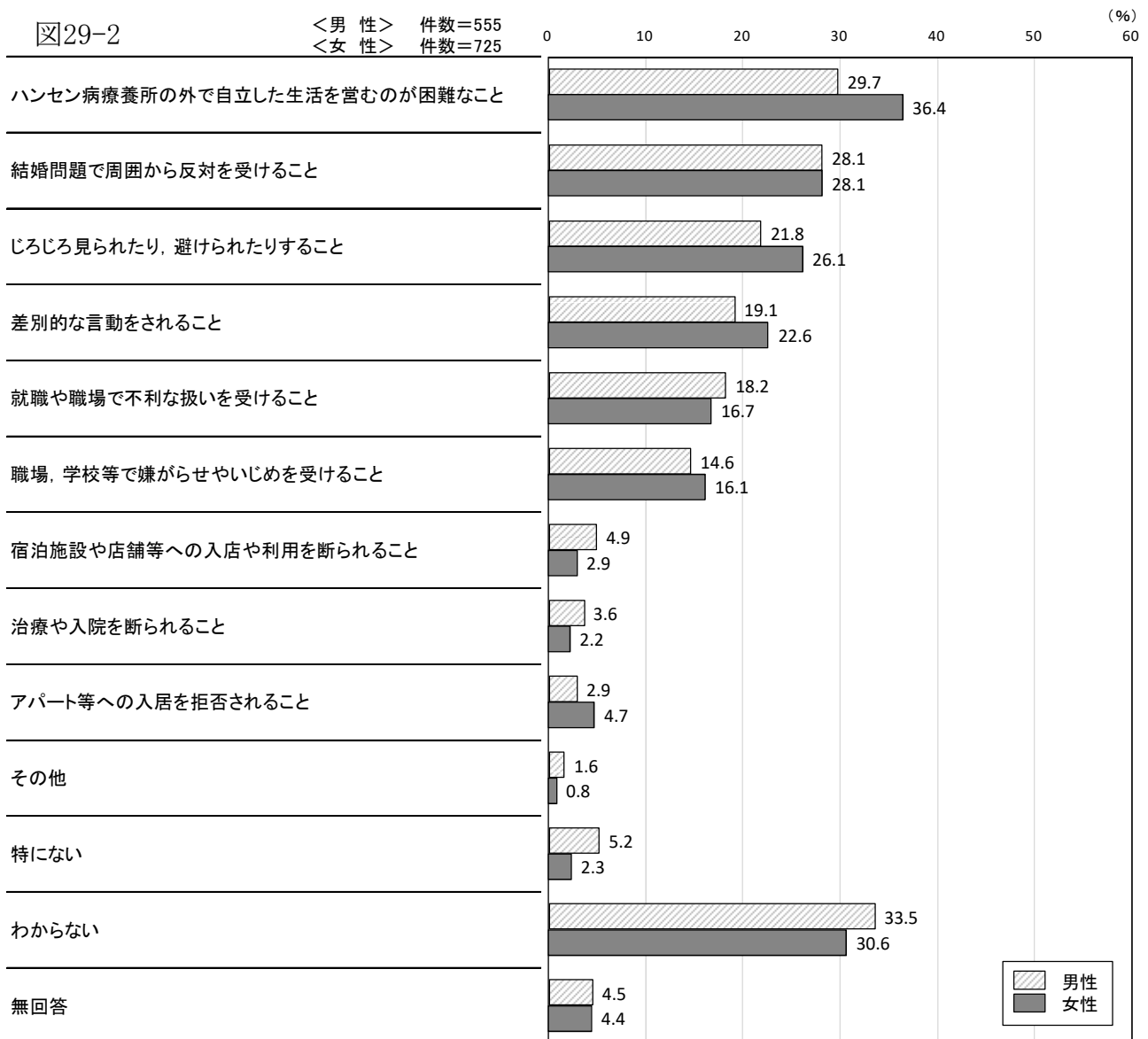
ハンセン病患者・元患者やその家族に関しての人権問題については、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」の割合が最も高く33.1%となっている。次いで、「わからない」が31.6%、「結婚問題で周囲から反対を受けること」が27.5%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が23.8%となっている。





## ■性別

性別で比較すると、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」の割合が、女性が男性より5ポイント以上高い。

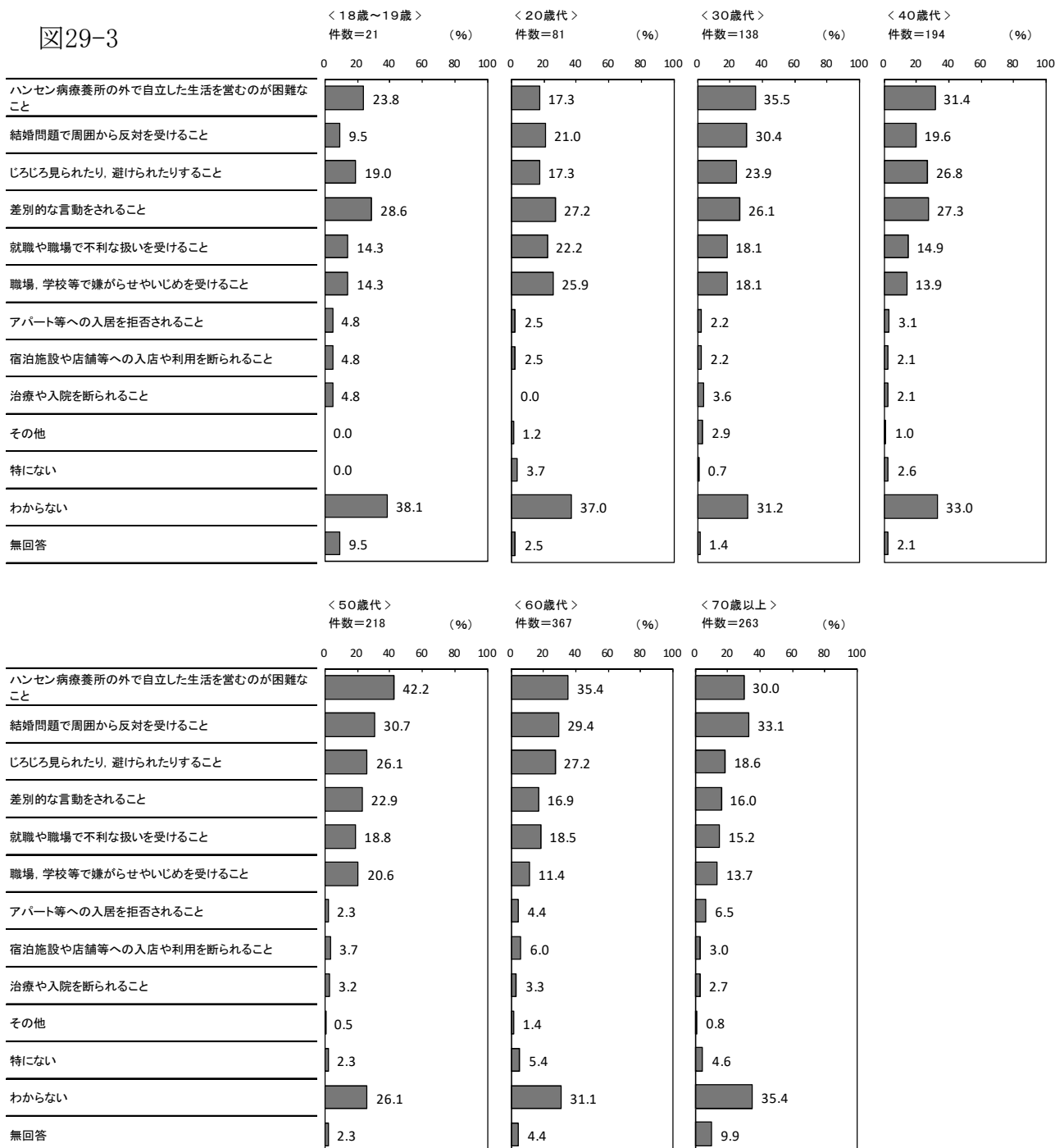


## ■年代別

年代別で比較すると、18歳～19歳、20歳代で「差別的な言動をされること」、30歳代から60歳代で「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」の割合が高い。

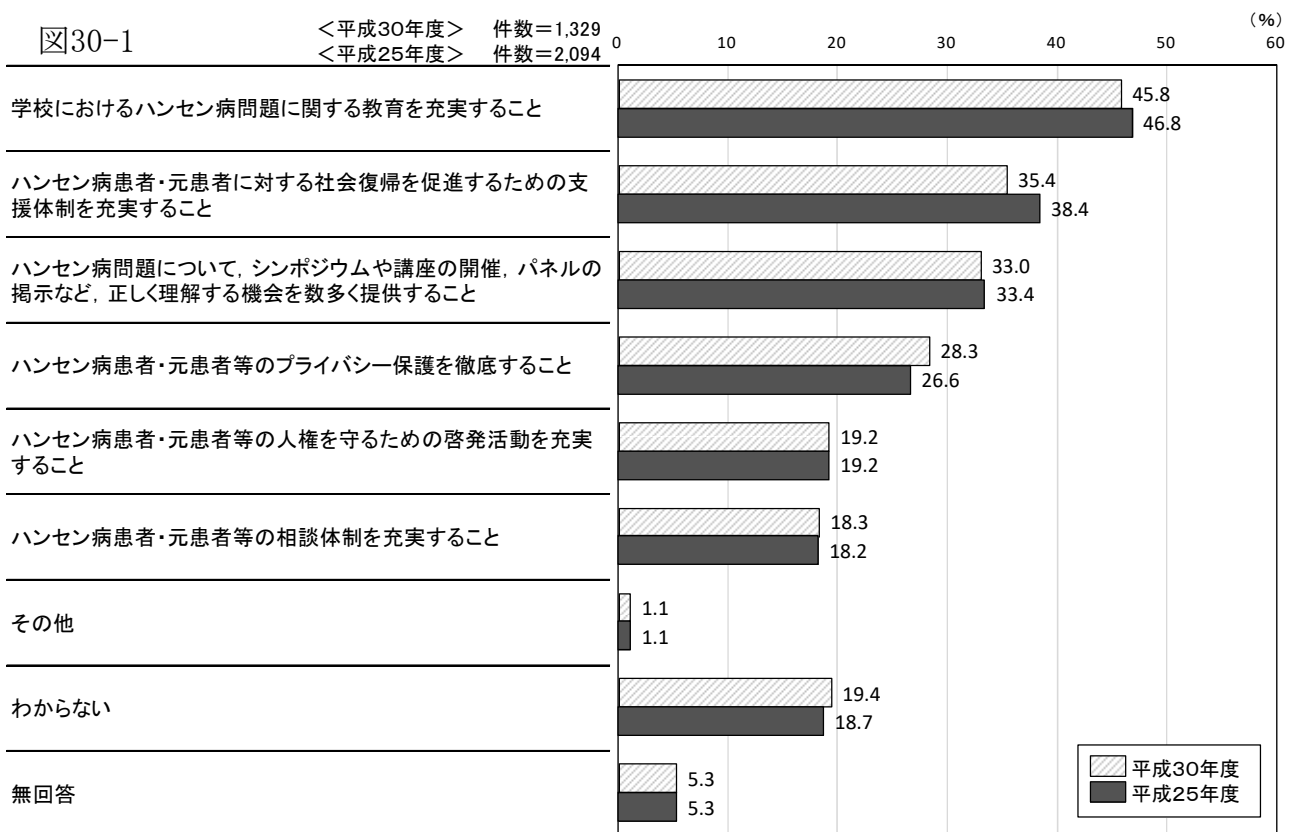
また、全年代で「わからない」の割合も高い。

図29-3



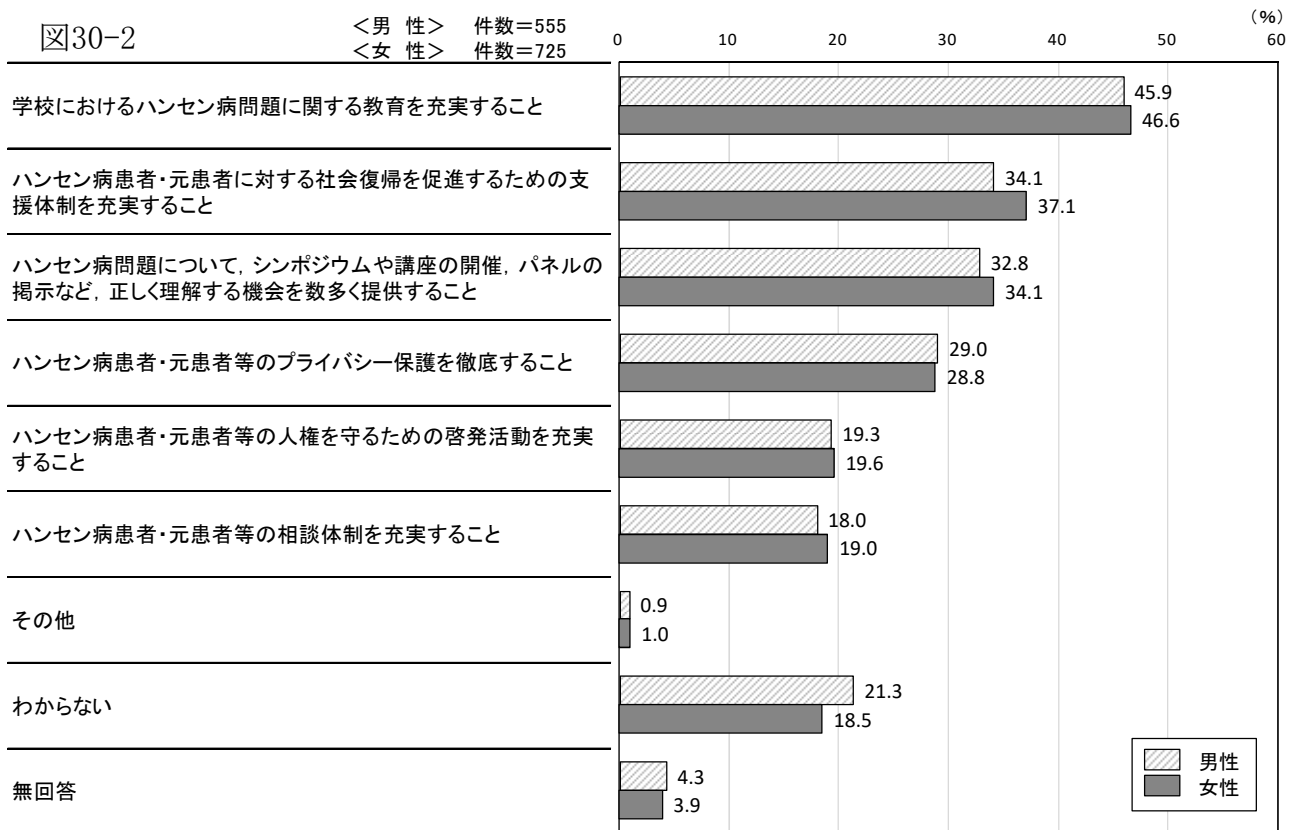
問30 あなたは、ハンセン病患者・元患者やその家族の人権を守るために必要なことは、何だと思  
いますか。(〇は3つまで)

ハンセン病患者・元患者やその家族に関しての人権を守るために必要なことについては、「学校におけるハンセン病問題に関する教育を充実すること」の割合が最も高く45.8%となっている。次いで、「ハンセン病患者・元患者に対する社会復帰を促進するための支援体制を充実すること」が35.4%、「ハンセン病問題について、シンポジウムや講座の開催、パネルの掲示など、正しく理解する機会を数多く提供すること」が33.0%となっている。



## ■性別

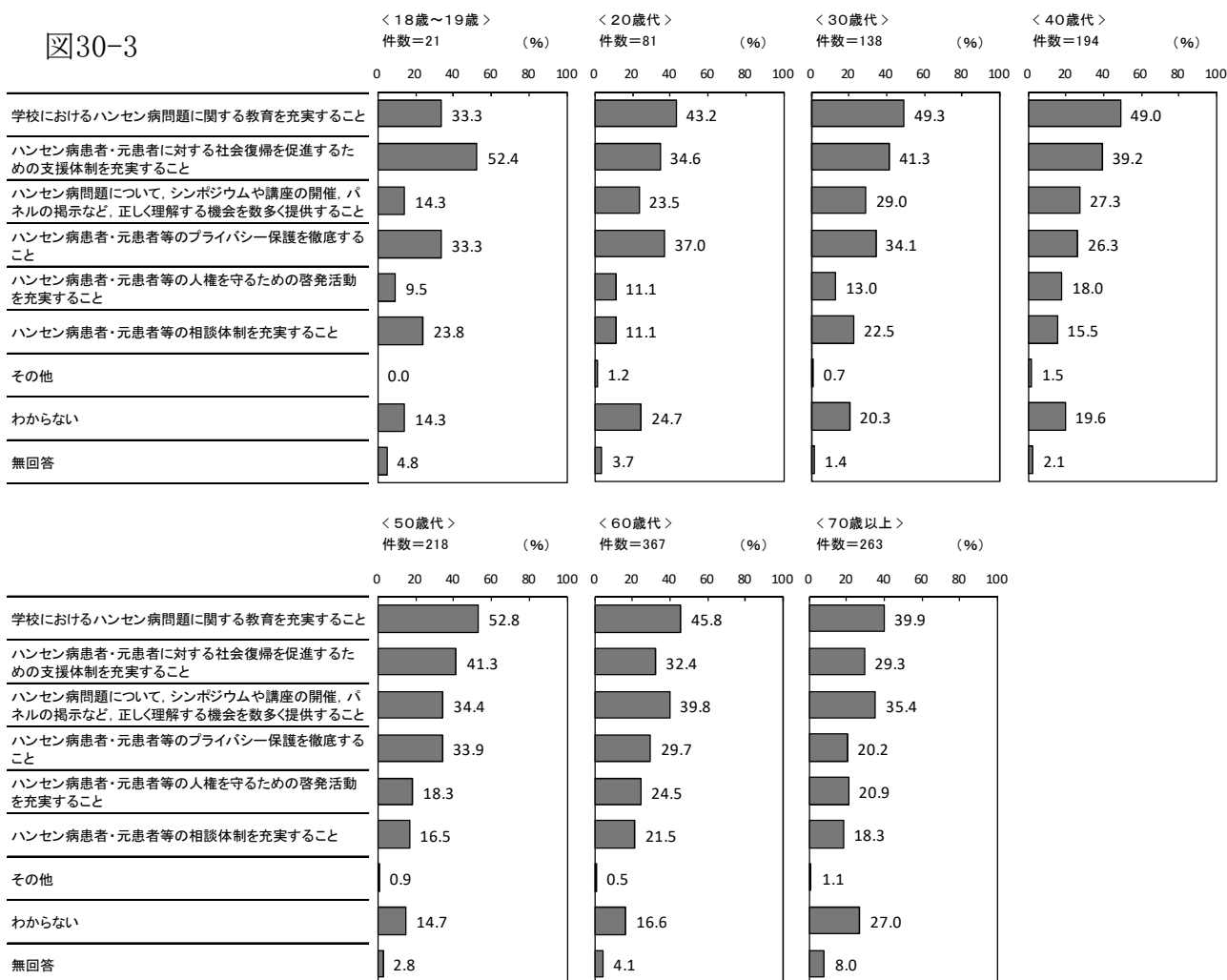
性別で比較したが、特に大きな違いはみられなかった。



## ■年代別

年代別で比較すると、18歳～19歳で「ハンセン病患者・元患者に対する社会復帰を促進するための支援体制を充実すること」、20歳代以上で「学校におけるハンセン病問題に関する教育を充実すること」の割合が高い。

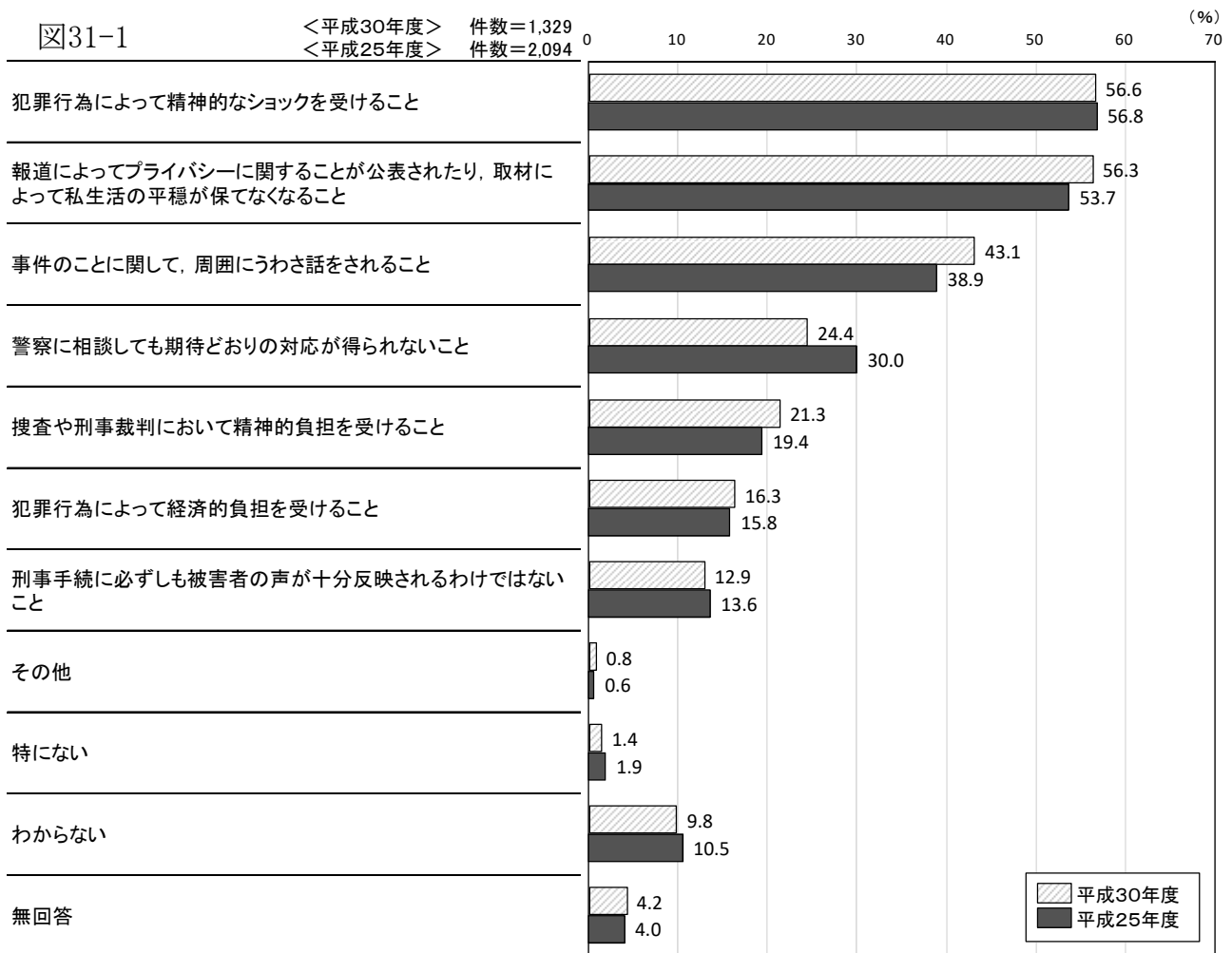
図30-3



## 【犯罪被害者等】

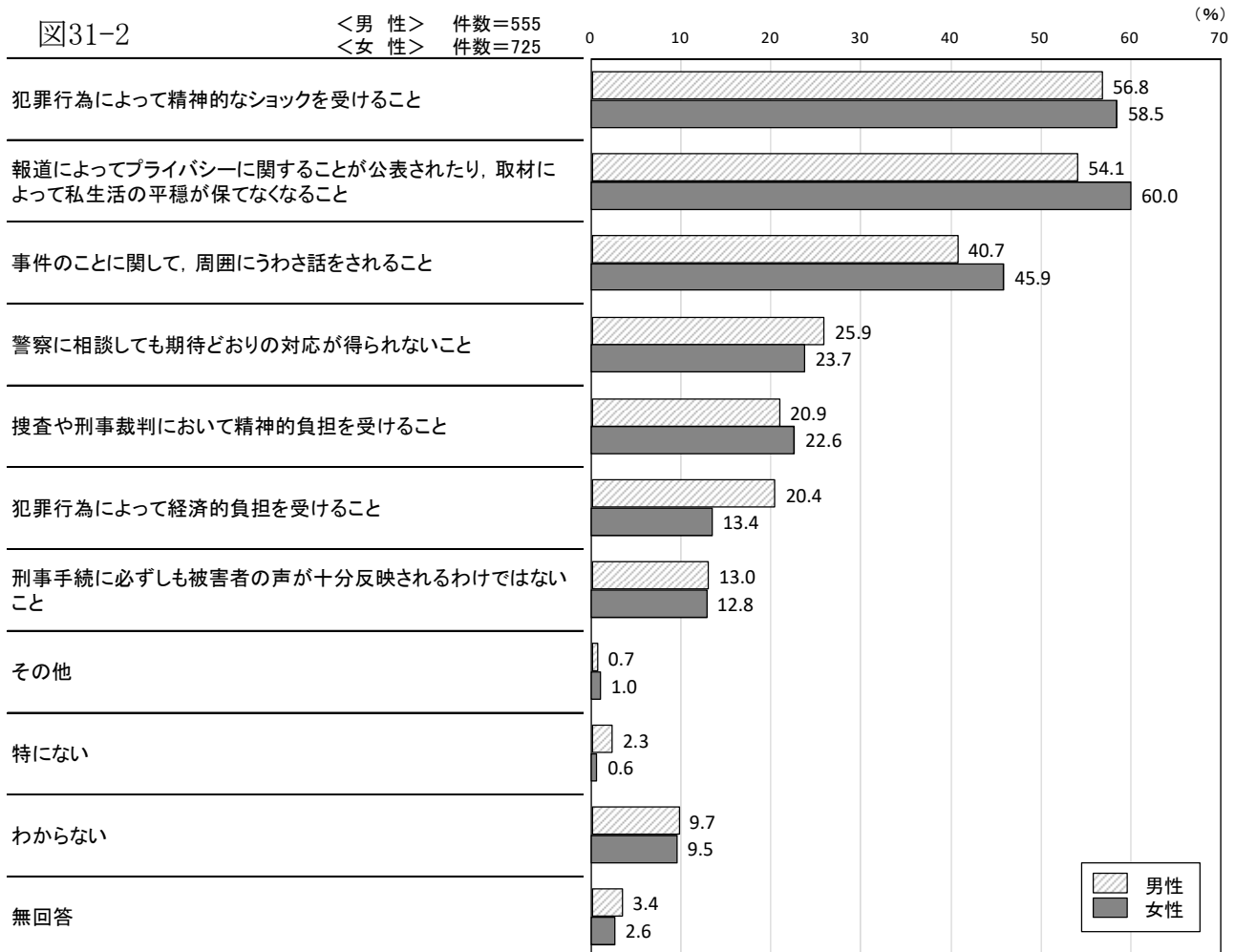
問31 あなたは、犯罪被害者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇は3つまで)

犯罪被害者やその家族に関しての人権問題については、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」の割合が最も高く56.6%となっている。次いで、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が56.3%、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が43.1%となっている。



## ■性別

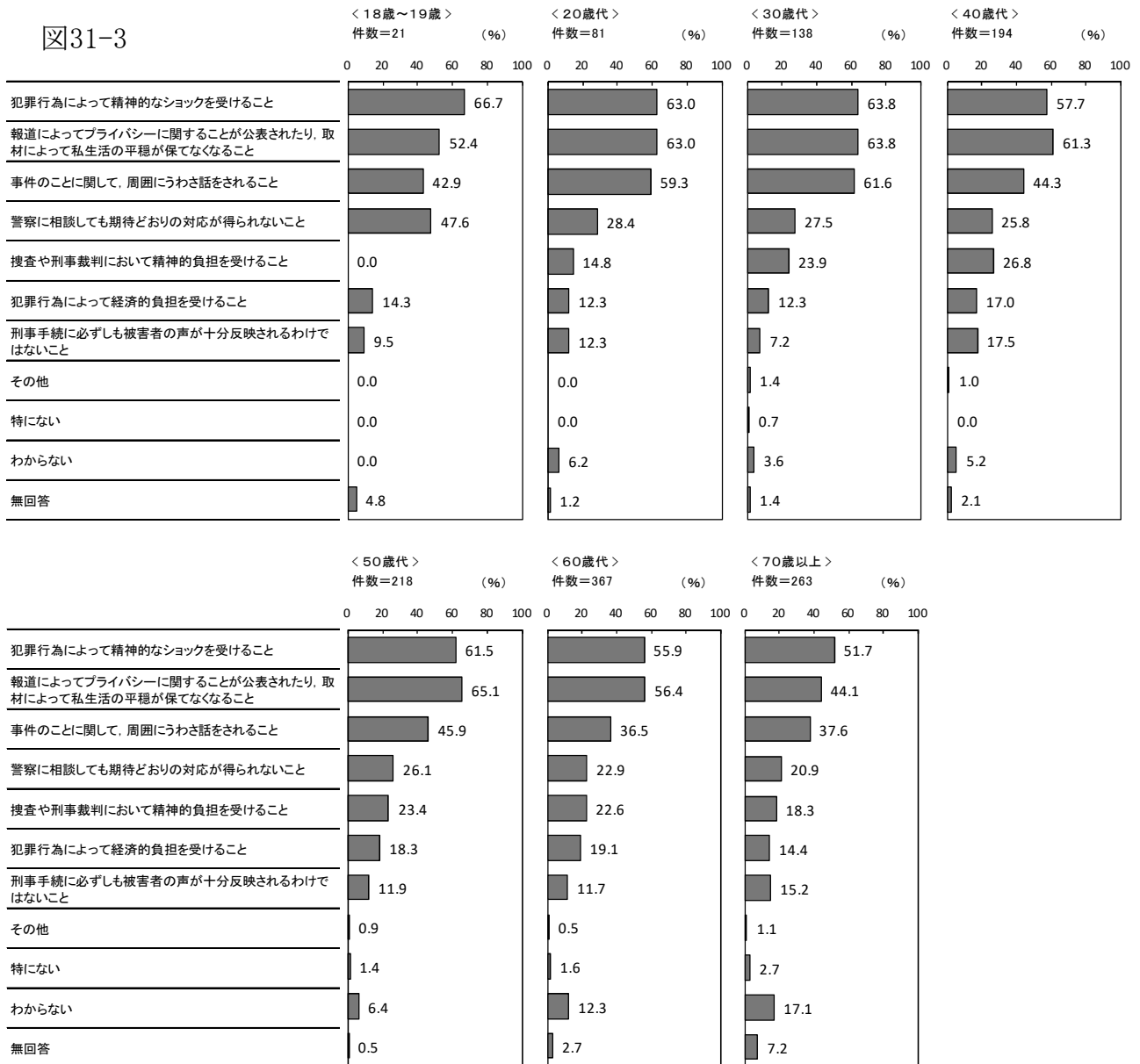
性別で比較すると、「犯罪行為によって経済的負担を受けること」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高く、また「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。



## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」の割合が高い。

図31-3



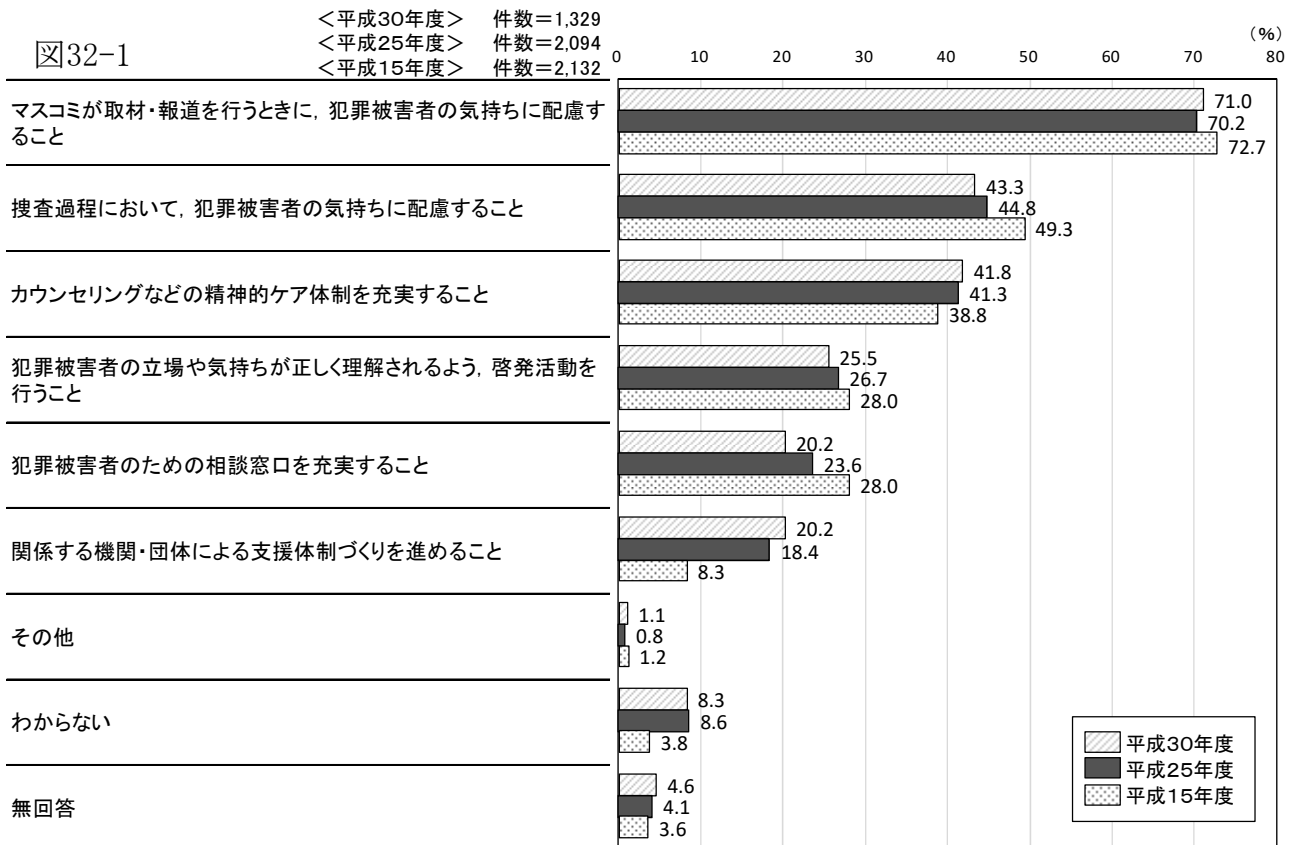


問32 あなたは、犯罪被害者やその家族の人権を守るために必要なことは、何だと思いますか。  
(○は3つまで)

犯罪被害者やその家族の人権を守るために必要なことについては、「マスコミが取材・報道を行うときに、犯罪被害者の気持ちに配慮すること」の割合が最も高く71.0%となっている。次いで、「捜査過程において、犯罪被害者の気持ちに配慮すること」が43.3%、「カウンセリングなどの精神的ケア体制を充実すること」が41.8%となっている。

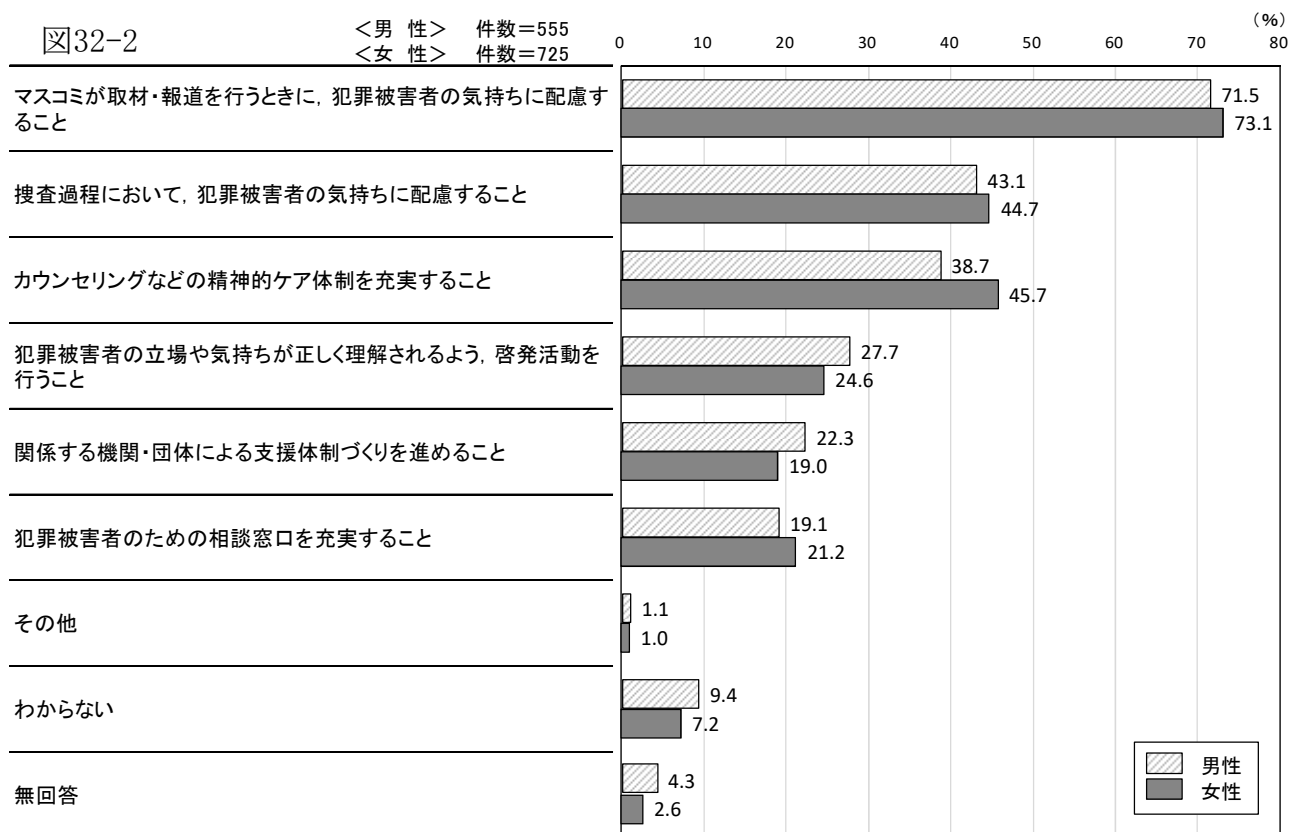
平成15年度、平成25年度と比較すると、「カウンセリングなどの精神的ケア体制を充実すること」「関係する機関・団体による支援体制づくりを進めること」の割合が高くなってきている。

また、「捜査過程において、犯罪被害者の気持ちに配慮すること」「犯罪被害者の立場や気持ちが生しく理解されるよう、啓発活動を行うこと」「犯罪被害者のための相談窓口を充実すること」の割合は、低くなってきている。



## ■性別

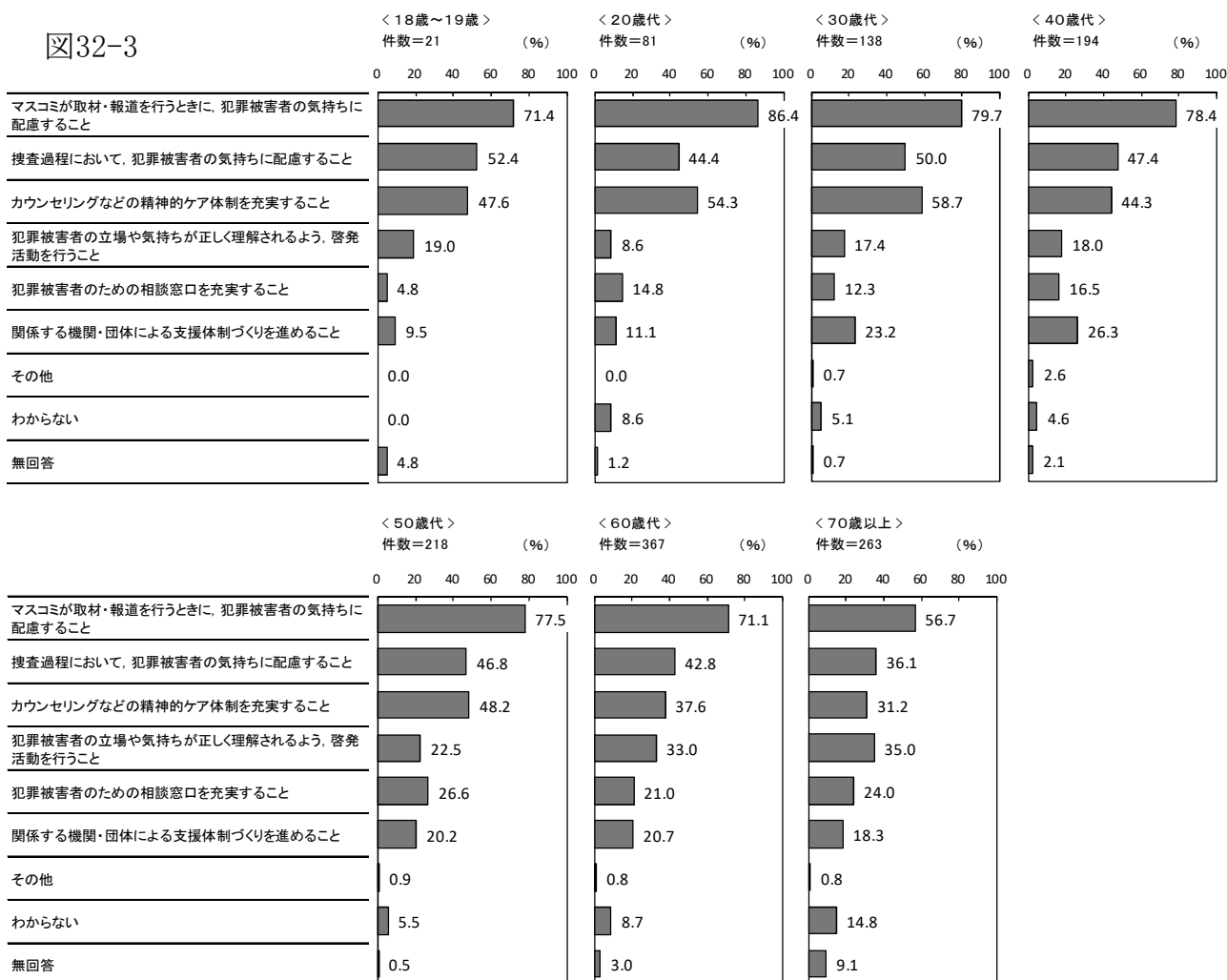
性別で比較すると、「カウンセリングなどの精神的ケア体制を充実すること」の割合が、女性が男性より5ポイント以上高い。



## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「マスコミが取材・報道を行うときに、犯罪被害者の気持ちに配慮すること」「捜査過程において、犯罪被害者の気持ちに配慮すること」「カウンセリングなどの精神的ケア体制を充実すること」の割合が高い。

図32-3

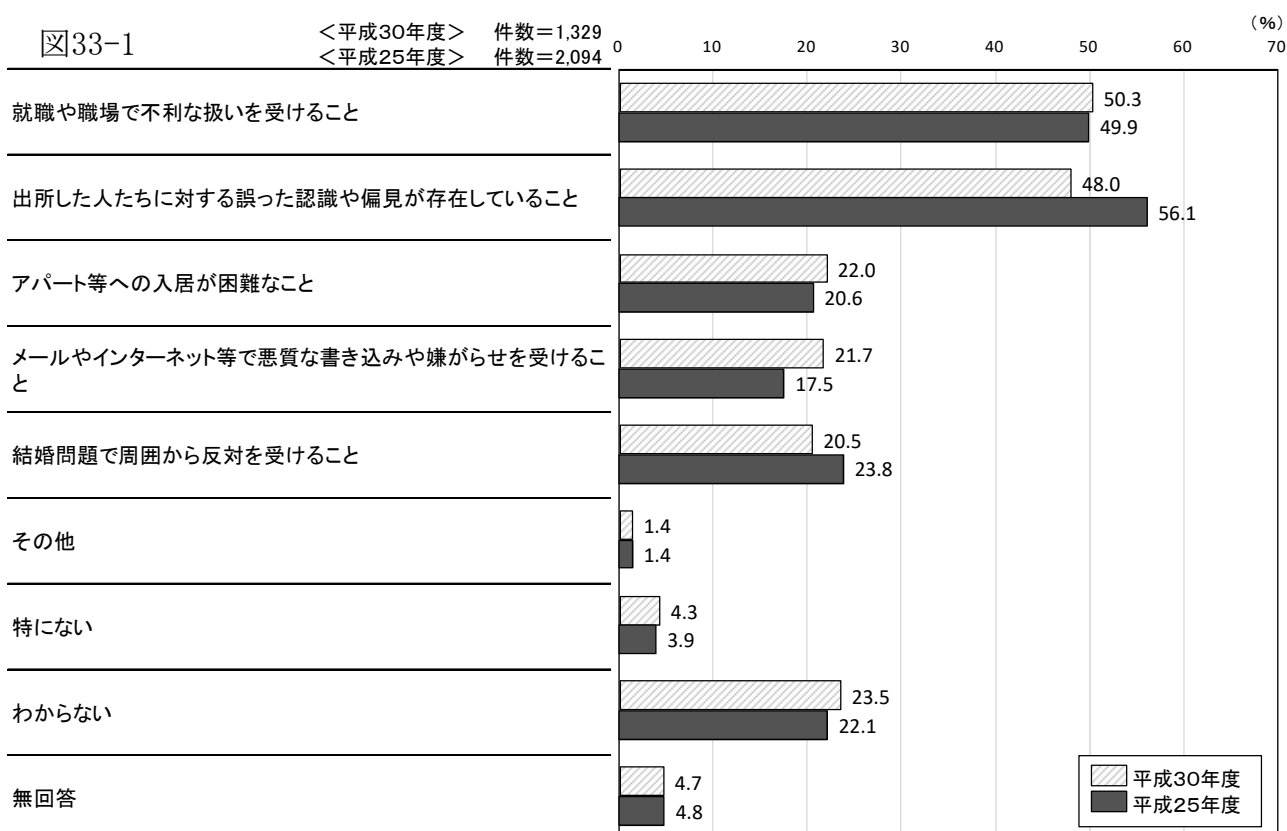


## 【刑を終えて出所した人】

問33 あなたは、刑を終えて出所した人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇は3つまで)

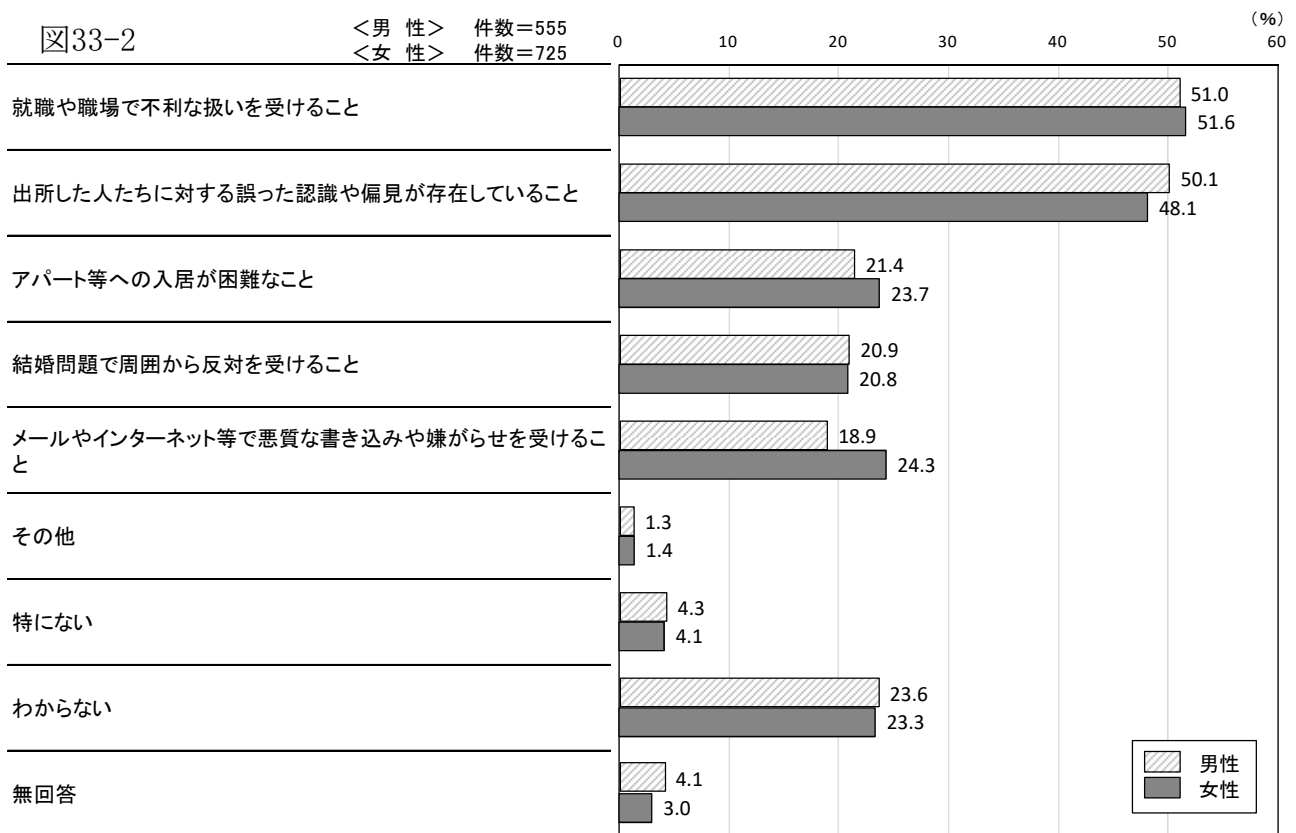
刑を終えて出所した人に関しての人権問題については、「就職や職場で不利な扱いを受けること」の割合が最も高く50.3%となっている。次いで、「出所した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」が48.0%、「わからない」が23.5%、「アパート等への入居が困難なこと」が22.0%となっている。

平成25年度と比較すると、「出所した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」の割合が5ポイント以上低い。



## ■性別

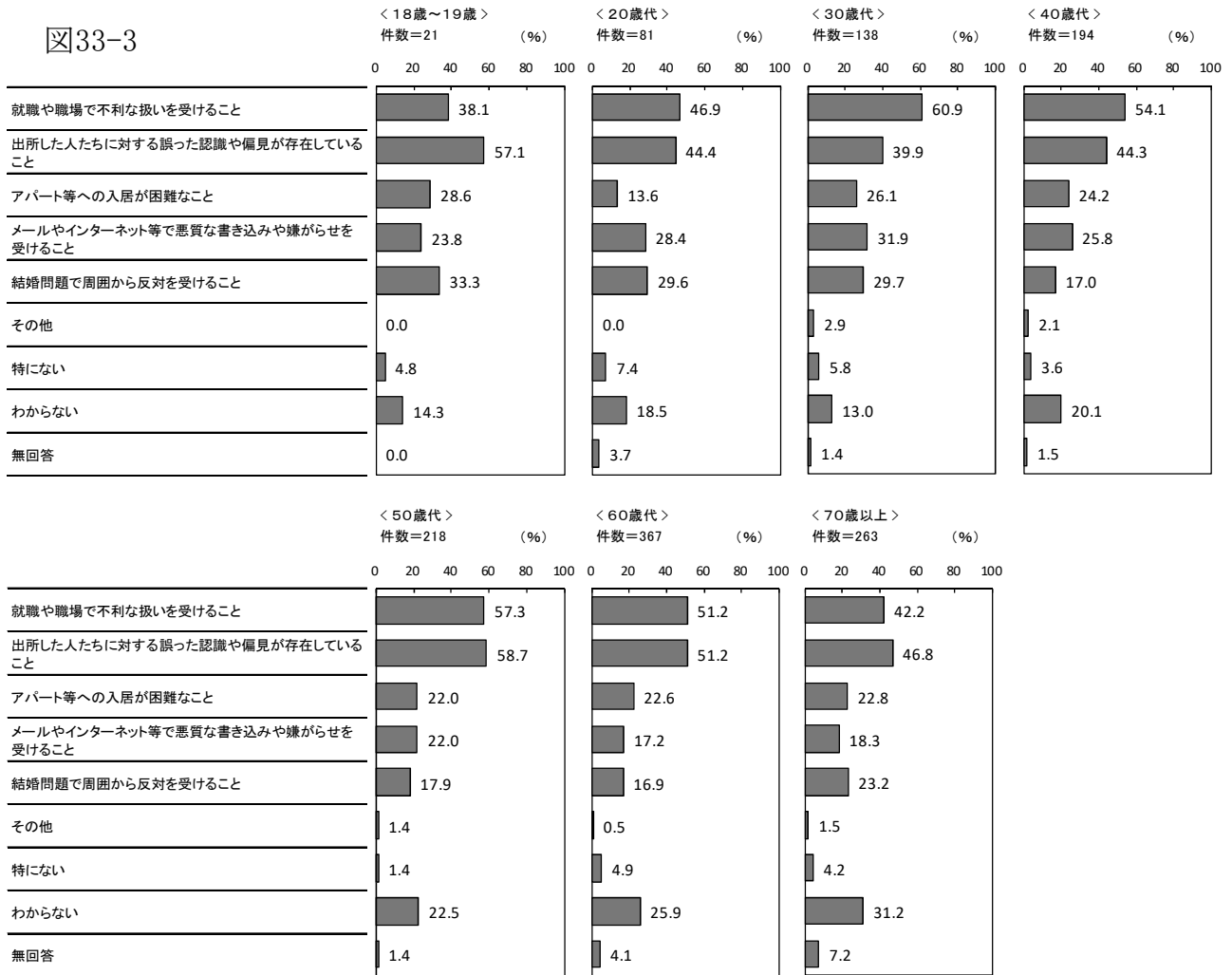
性別で比較すると、「メールやインターネット等で悪質な書き込みや嫌がらせを受けること」の割合が、女性が男性より5ポイント以上高い。



## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「出所した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」「就職や職場で不利な扱いを受けること」の割合が高い。

図33-3

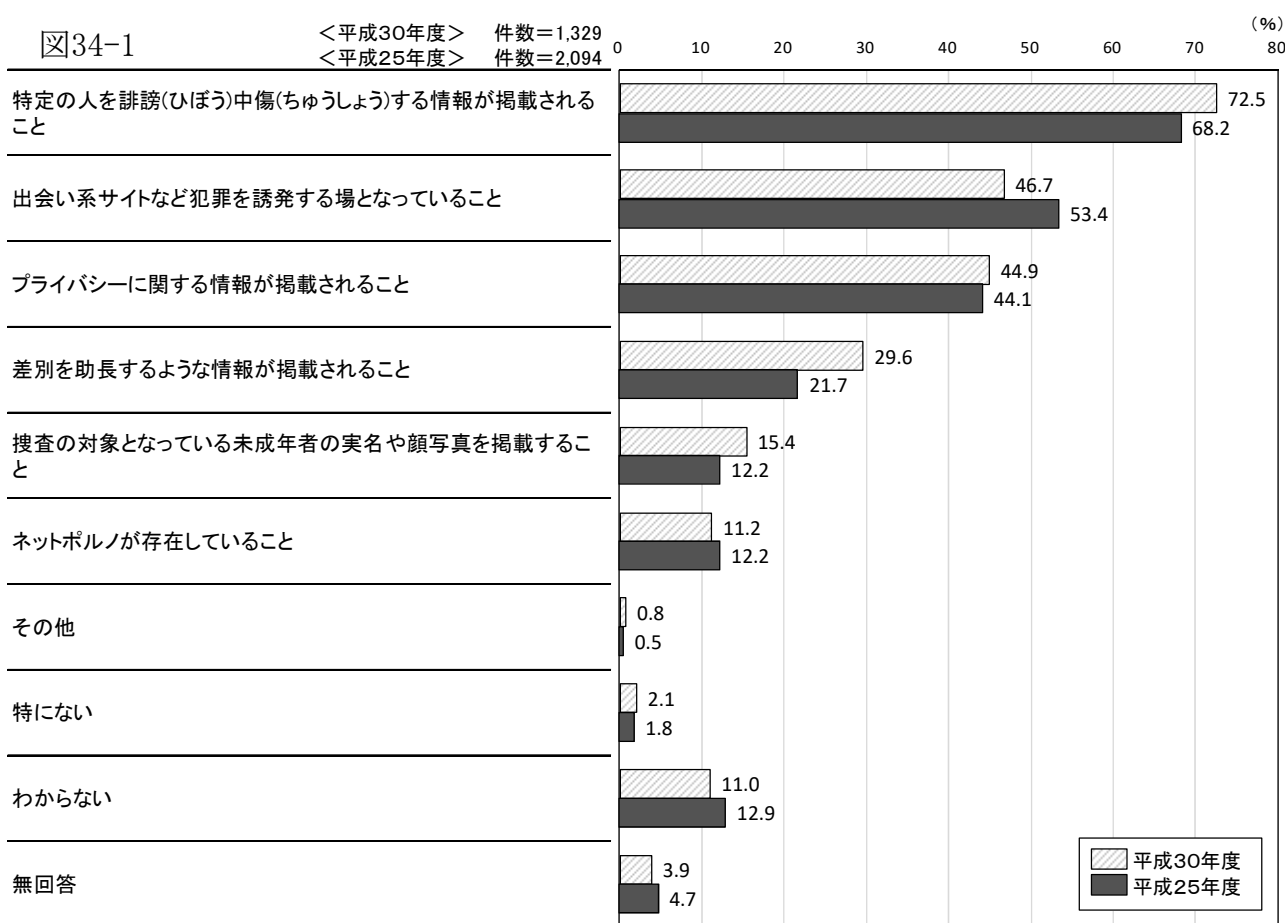


## 【インターネットによる人権侵害】

問34 あなたは、インターネット上において、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇は3つまで)

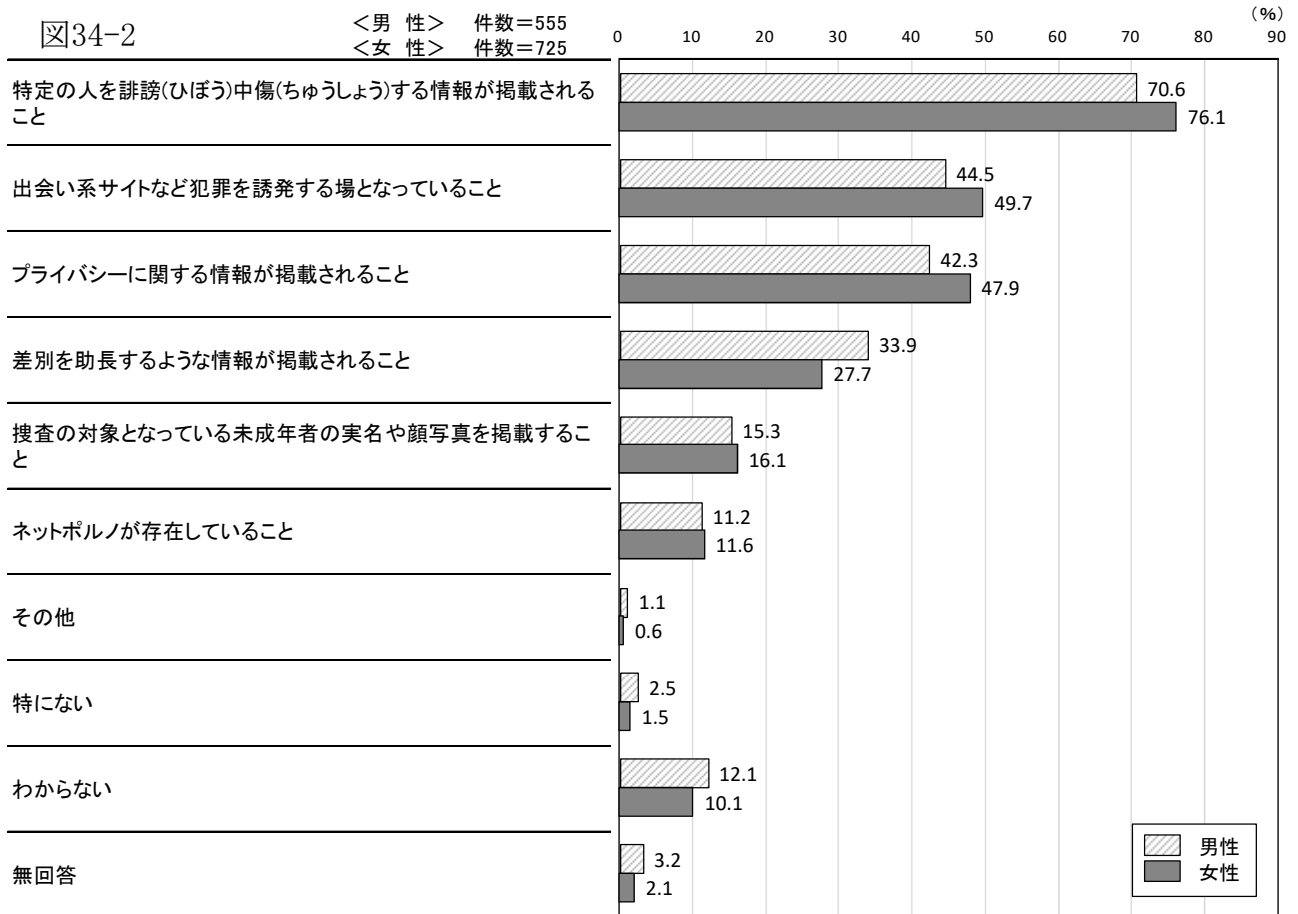
インターネット上においての人権問題については、「特定の人を誹謗(ひぼう)中傷(ちゅうしょう)する情報が掲載されること」の割合が最も高く72.5%となっている。次いで、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」が46.7%、「プライバシーに関する情報が掲載されること」が44.9%となっている。

平成25年度と比較すると、「差別を助長するような情報が掲載されること」の割合が5ポイント以上高く、また「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」の割合は5ポイント以上低い。



## ■性別

性別で比較すると、「差別を助長するような情報が掲載されること」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高く、また「プライバシーに関する情報が掲載されること」「特定の人を誹謗（ひぼう）中傷（ちゅうしょう）する情報が掲載されること」「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。



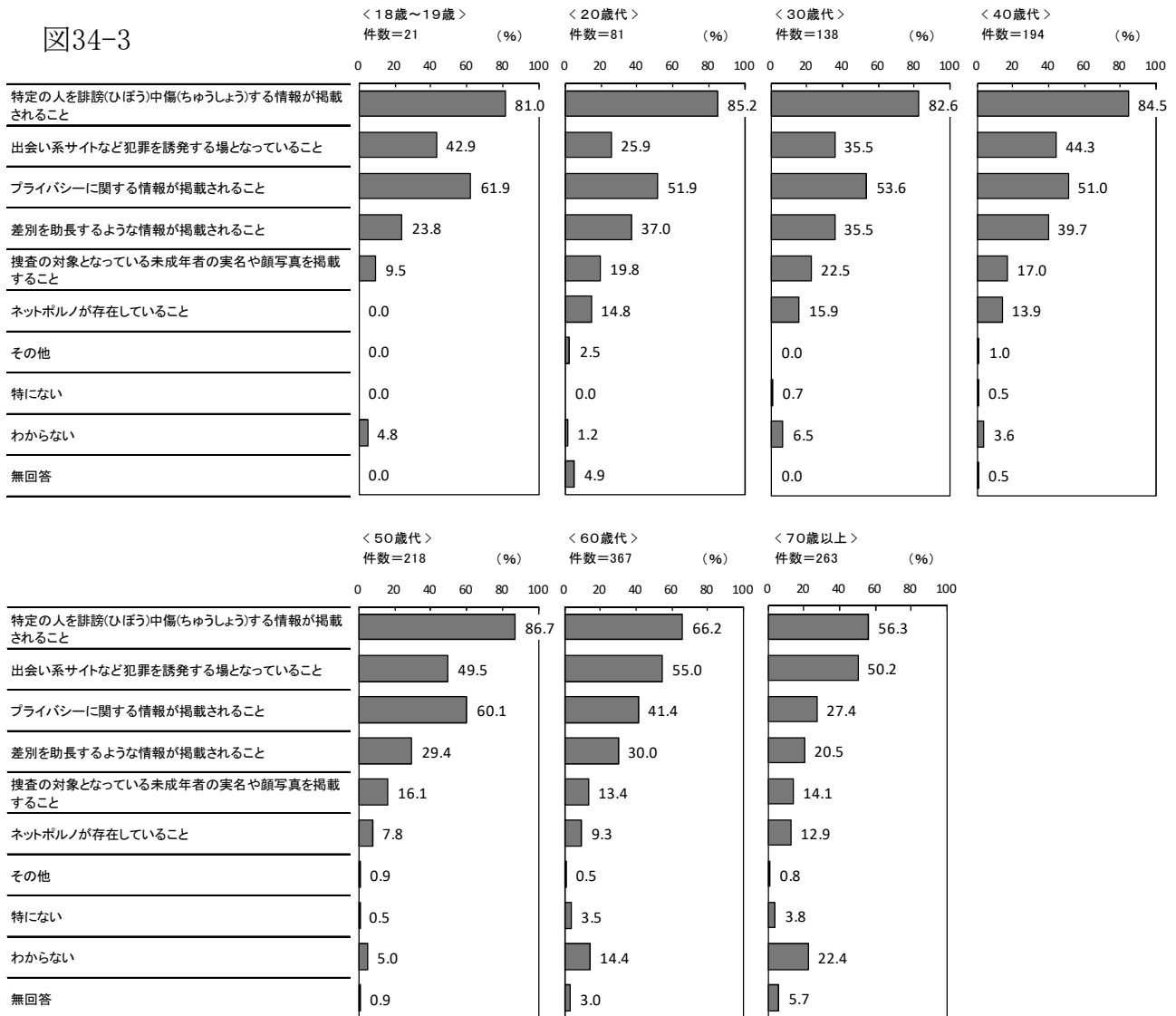


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「特定の人を誹謗（ひぼう）中傷（ちゅうしょう）する情報が掲載されること」の割合が最も高い。

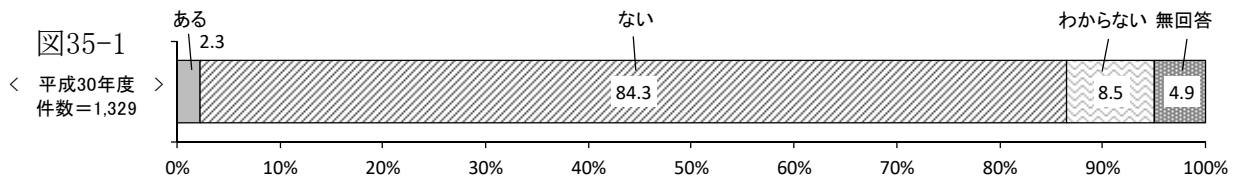
また、50歳代以下で「プライバシーに関する情報が掲載されること」の割合も高い。

図34-3



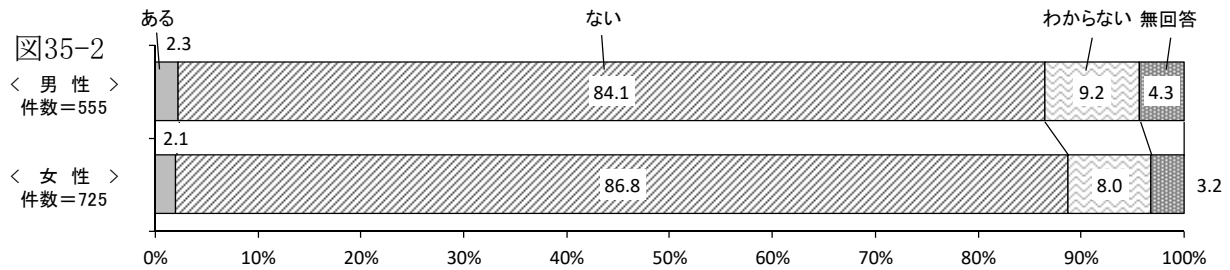
問35 あなたは、自分自身がインターネット上において、被害を受けたことがありますか。  
(○は1つ)

インターネット上においての被害を受けた経験の有無については、「ない」の割合が最も高く84.3%となっている。次いで、「わからない」が8.5%、「ある」が2.3%となっている。



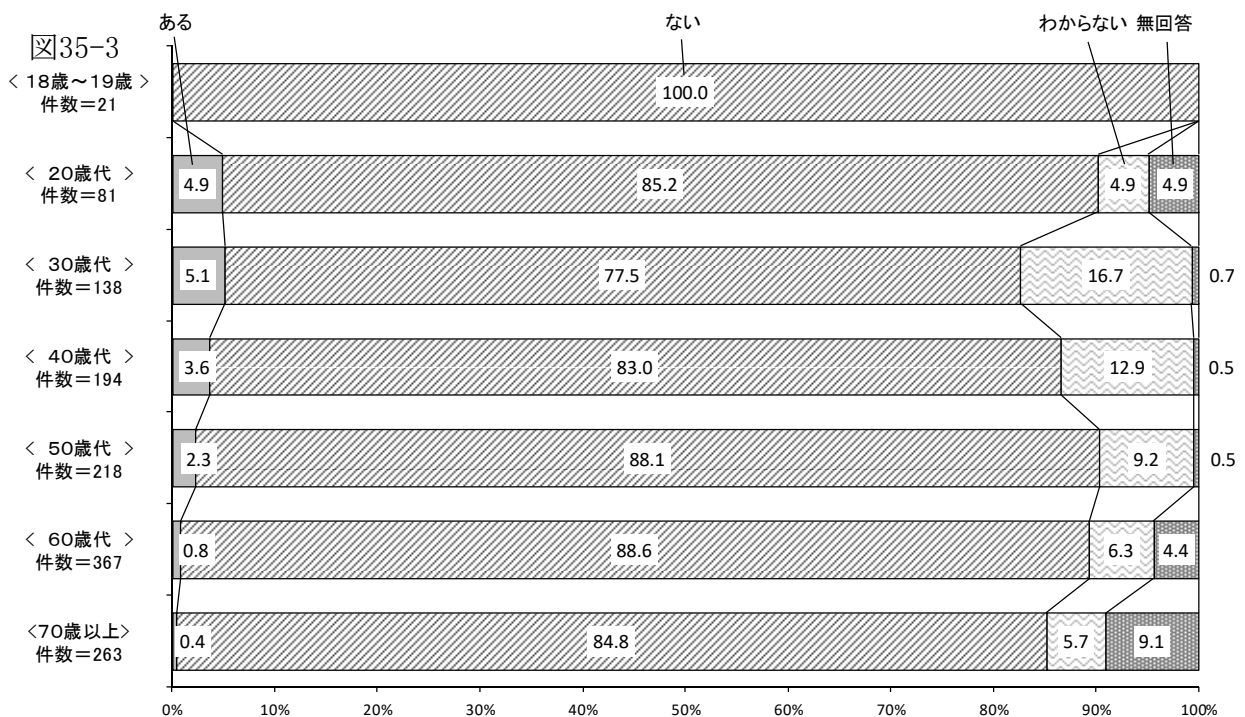
### ■性別

性別で比較したが、特に大きな違いはみられなかった。



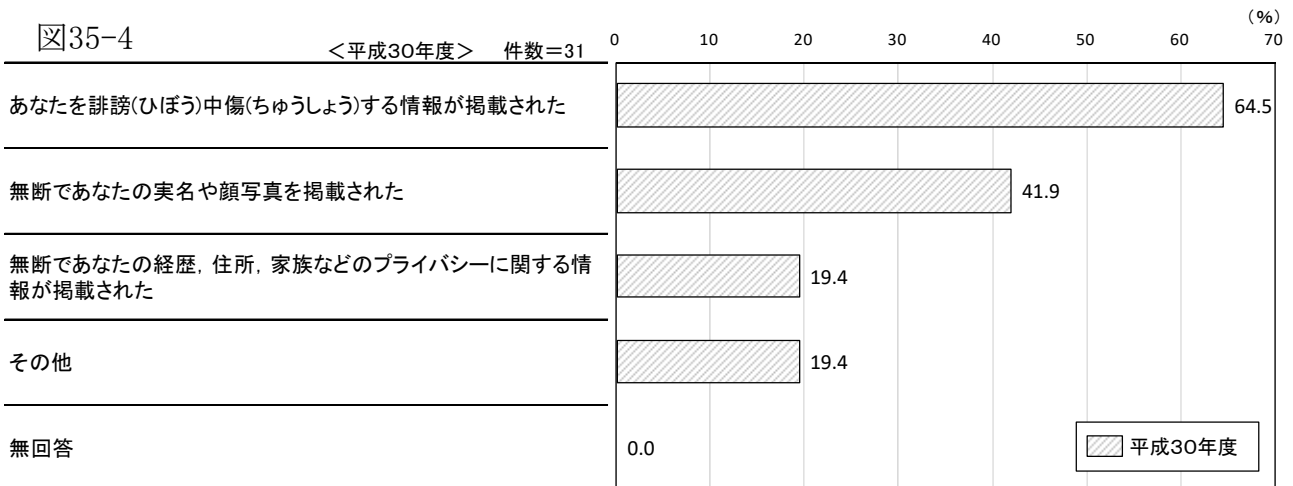
### ■年代別

年代別で比較すると、20歳代、30歳代で「ある」の割合が高い。



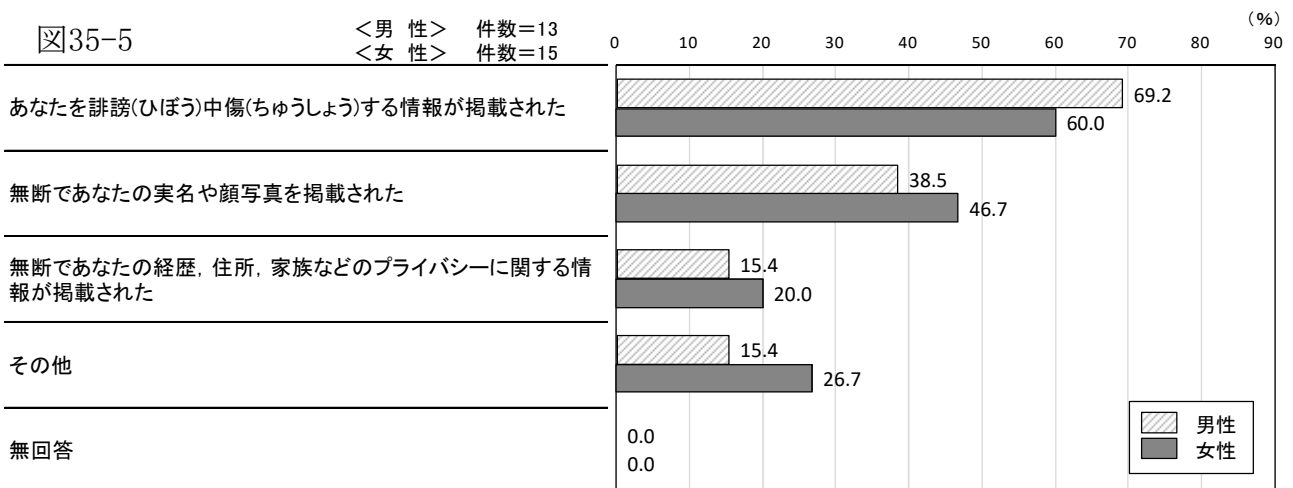
問35-(1) 問35で、「ある」を選んだ方へ おたずねします。  
それはどのようなものでしたか。(〇はいくつでも)

問35で、「ある」と回答した31人の中で、自分自身がインターネット上において被害を受けた内容については、「あなたを誹謗(ひぼう)中傷(ちゅうしょう)する情報が掲載された」の割合が最も高く64.5%となっている。次いで、「無断であなたの実名や顔写真を掲載された」が41.9%となっている。



## ■ 性別

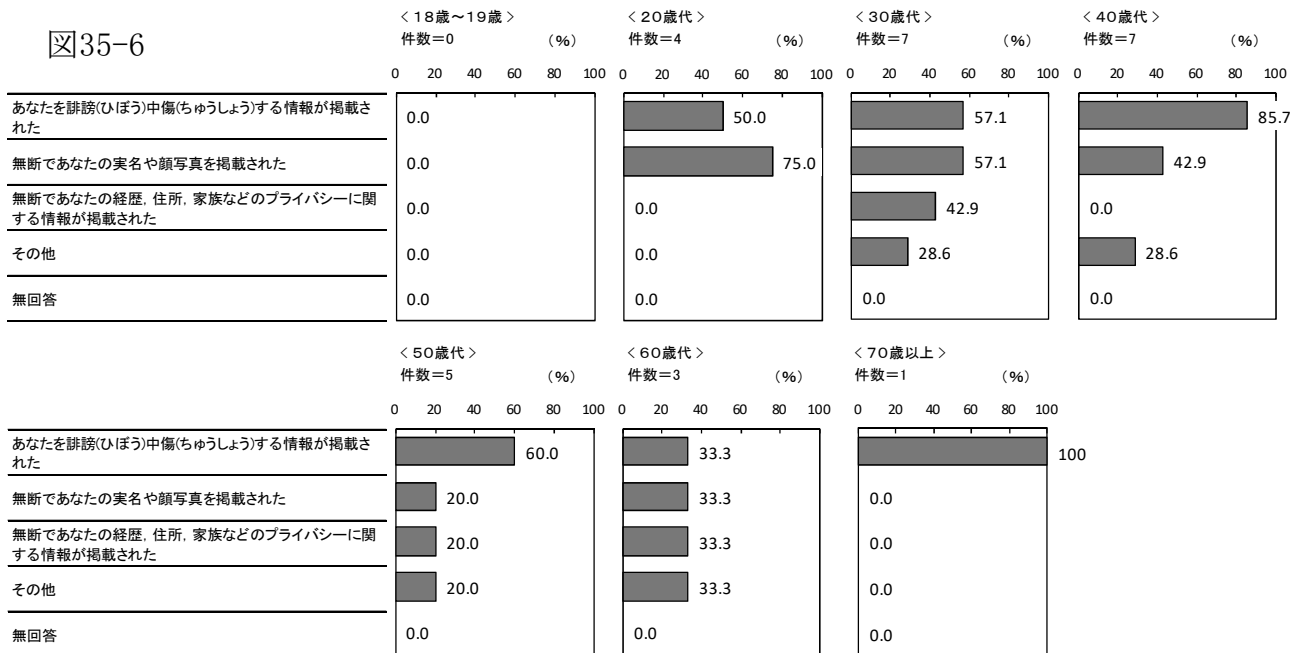
性別で比較すると、「あなたを誹謗(ひぼう)中傷(ちゅうしょう)する情報が掲載された」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高く、また「無断であなたの実名や顔写真を掲載された」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。



## ■年代別

年代別で比較すると、20歳代で「無断であなたの実名や顔写真を掲載された」の割合が最も高く、30歳代以上で「あなたを誹謗（ひぼう）中傷（ちゅうしょう）する情報が掲載された」の割合がおおむね高い。

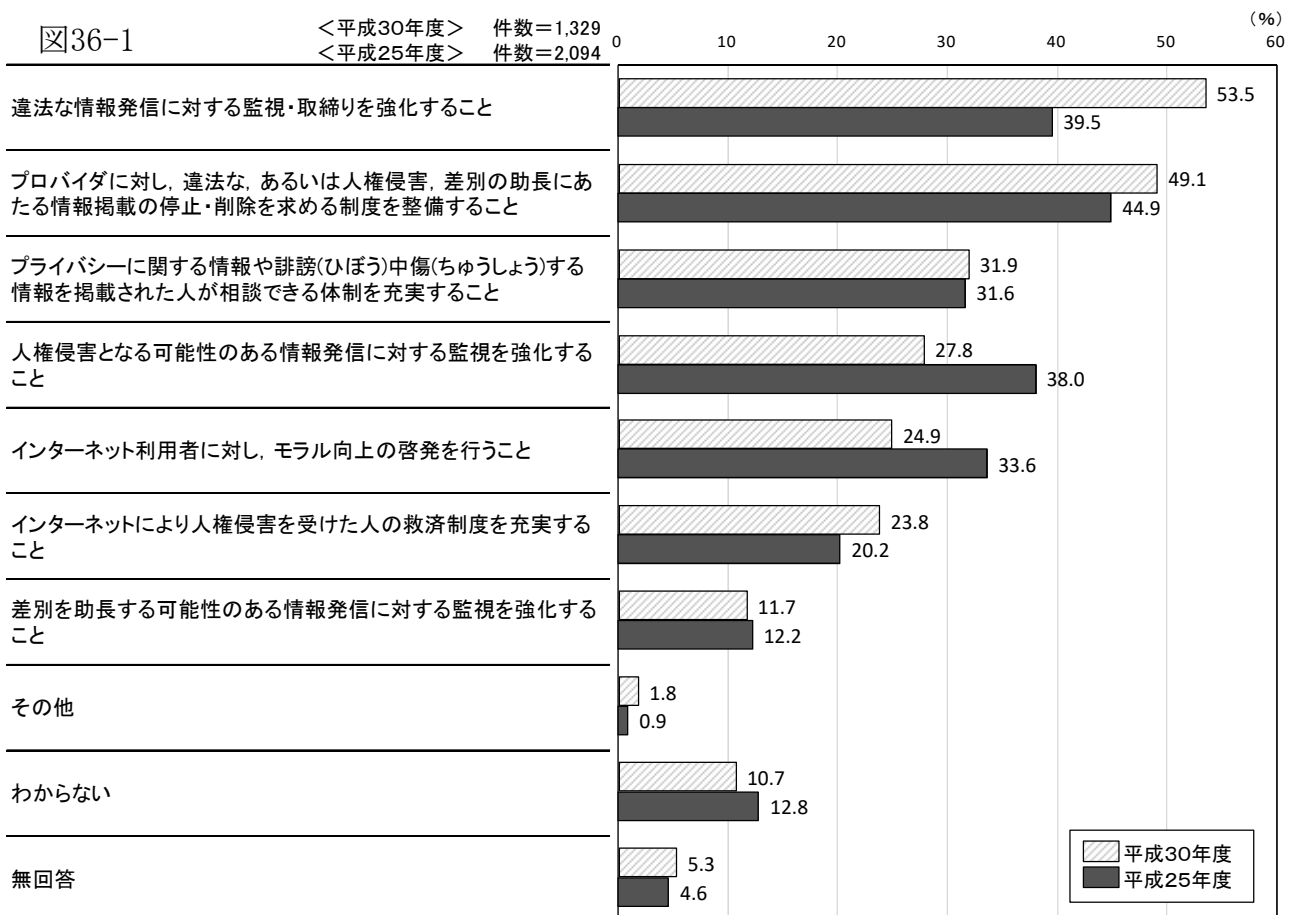
図35-6



問36 あなたは、インターネットによる人権侵害を解決するために必要なことは、何だと思いますか。(〇は3つまで)

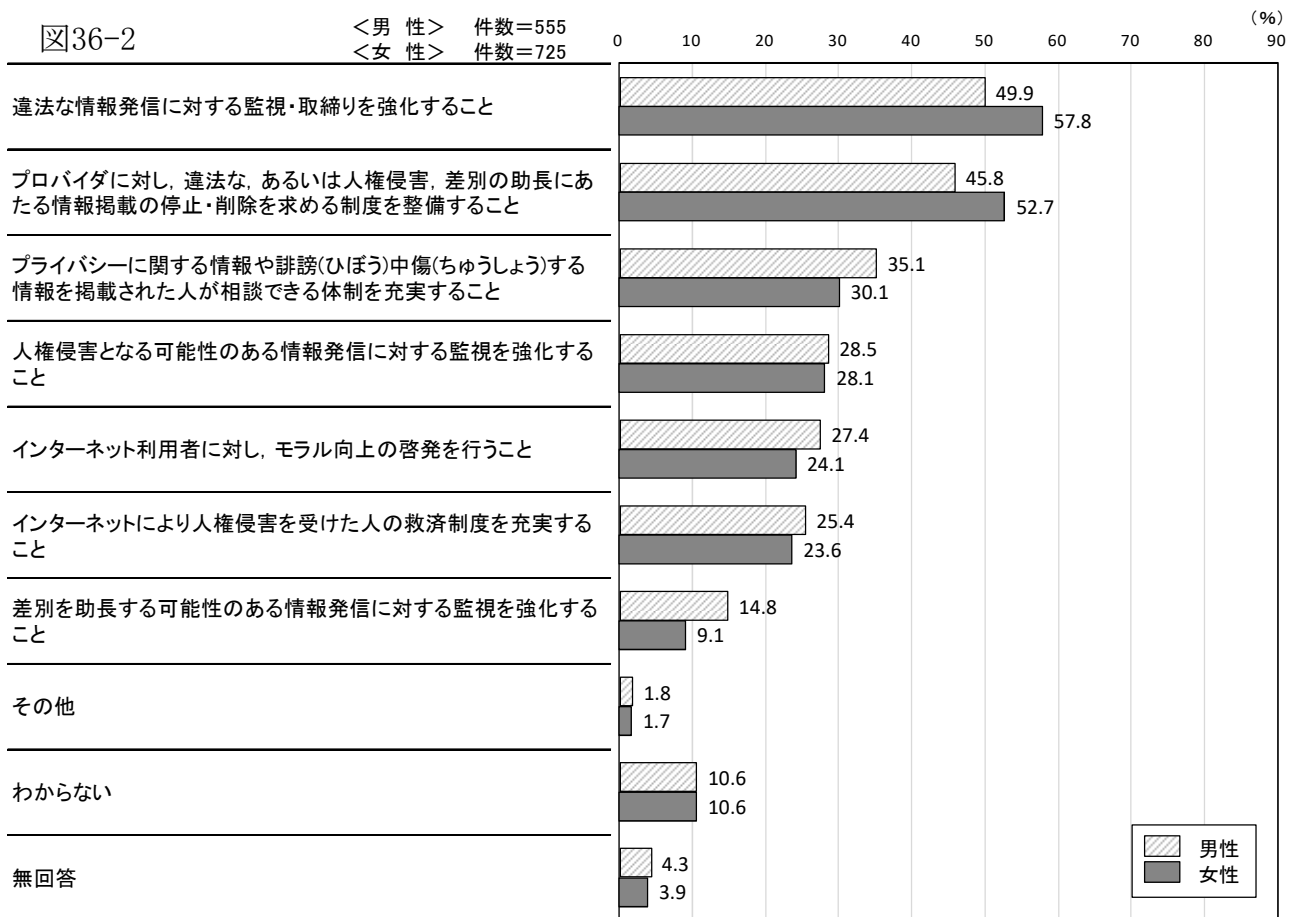
インターネットによる人権侵害の解決に必要なことについては、「違法な情報発信に対する監視・取締りを強化すること」の割合が最も高く53.5%となっている。次いで、「プロバイダに対し、違法な、あるいは人権侵害、差別の助長にあたる情報掲載の停止・削除を求める制度を整備すること」が49.1%、「プライバシーに関する情報や誹謗(ひぼう)中傷(ちゅうしょう)する情報を掲載された人が相談できる体制を充実すること」が31.9%となっている。

平成25年度と比較すると、「違法な情報発信に対する監視・取締りを強化すること」の割合が10ポイント以上高く、また「人権侵害となる可能性のある情報発信に対する監視を強化すること」「インターネット利用者に対し、モラル向上の啓発を行うこと」の割合は5ポイント以上低い。



## ■性別

性別で比較すると、「差別を助長する可能性のある情報発信に対する監視を強化すること」「プライバシーに関する情報や誹謗（ひぼう）中傷（ちゅうしょう）する情報を掲載された人が相談できる体制を充実すること」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高く、また「違法な情報発信に対する監視・取締りを強化すること」「プロバイダに対し、違法な、あるいは人権侵害、差別の助長にあたる情報掲載の停止・削除を求める制度を整備すること」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。

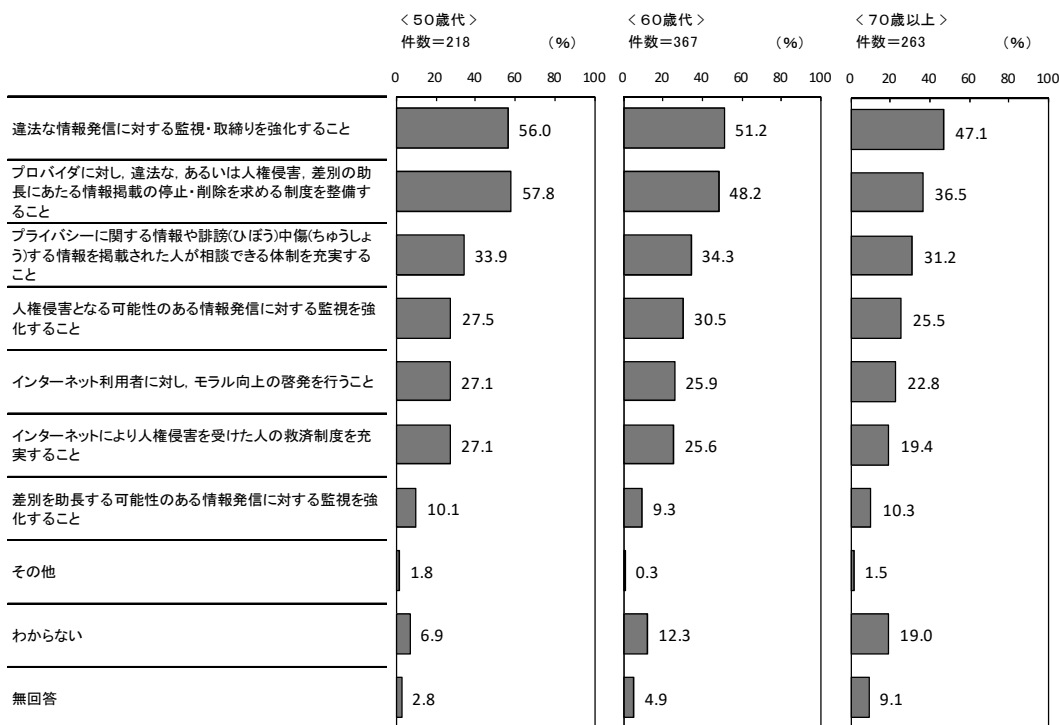
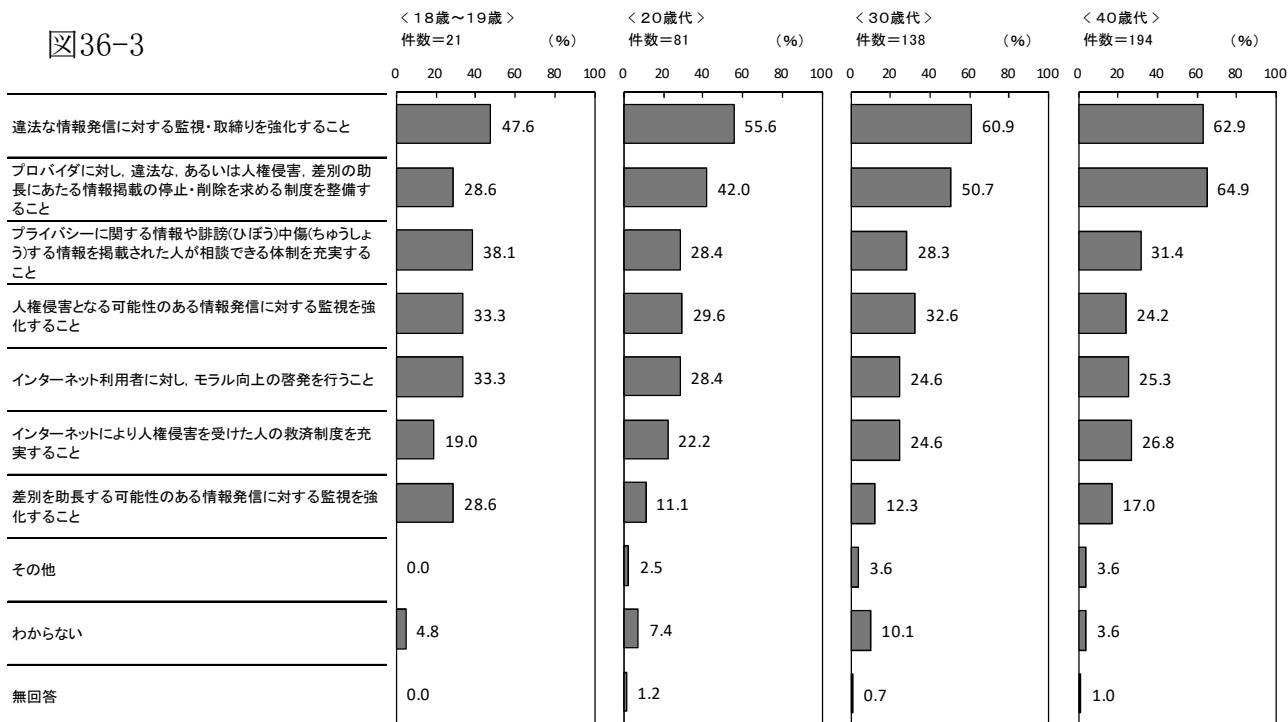


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「違法な情報発信に対する監視・取締りを強化すること」の割合が高い。

また、20歳代以上で「プロバイダに対し、違法な、あるいは人権侵害、差別の助長にあたる情報掲載の停止・削除を求める制度を整備すること」の割合も高い。

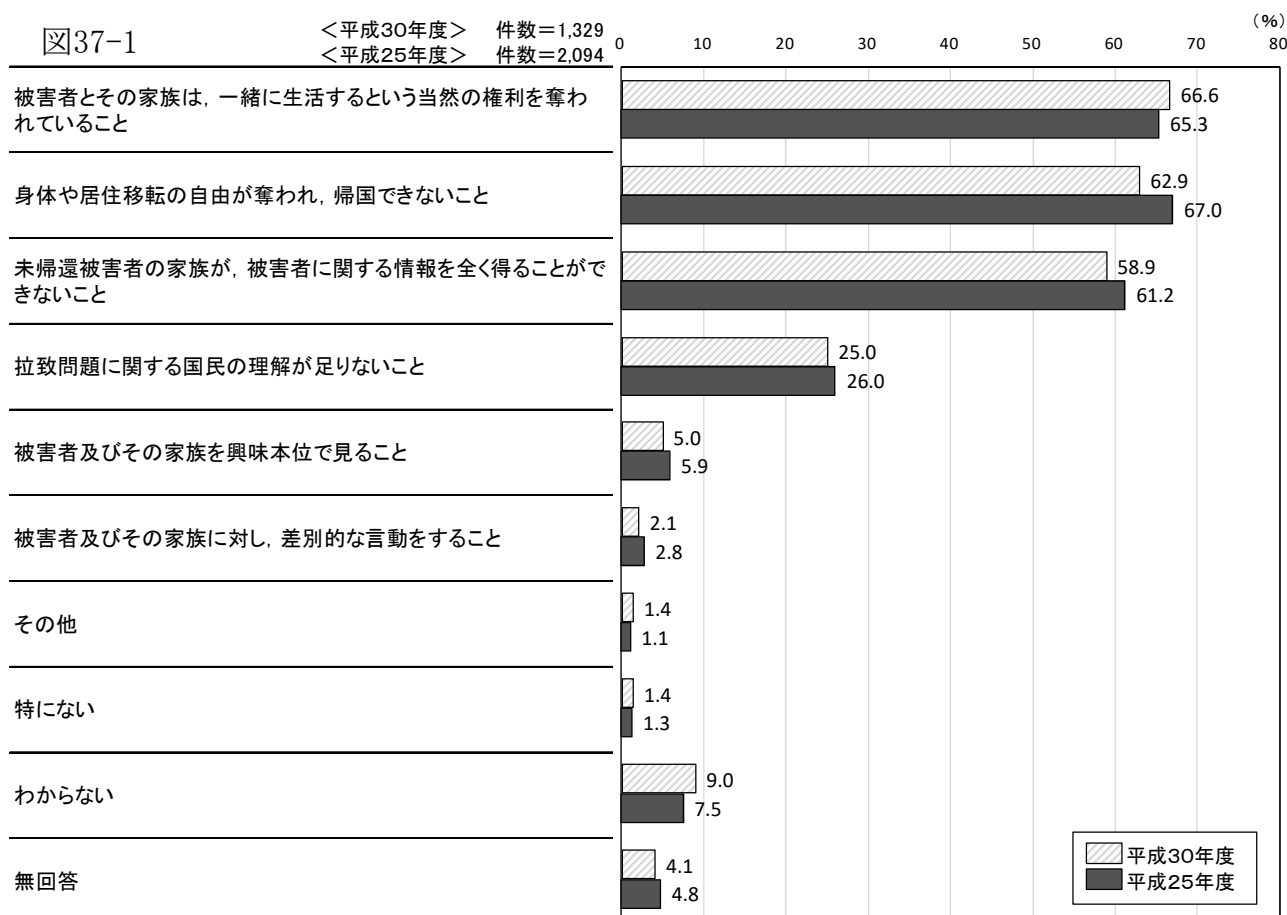
図36-3



## 【北朝鮮当局によって拉致された被害者等】

問37 あなたは、北朝鮮当局によって拉致された被害者等に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇は3つまで)

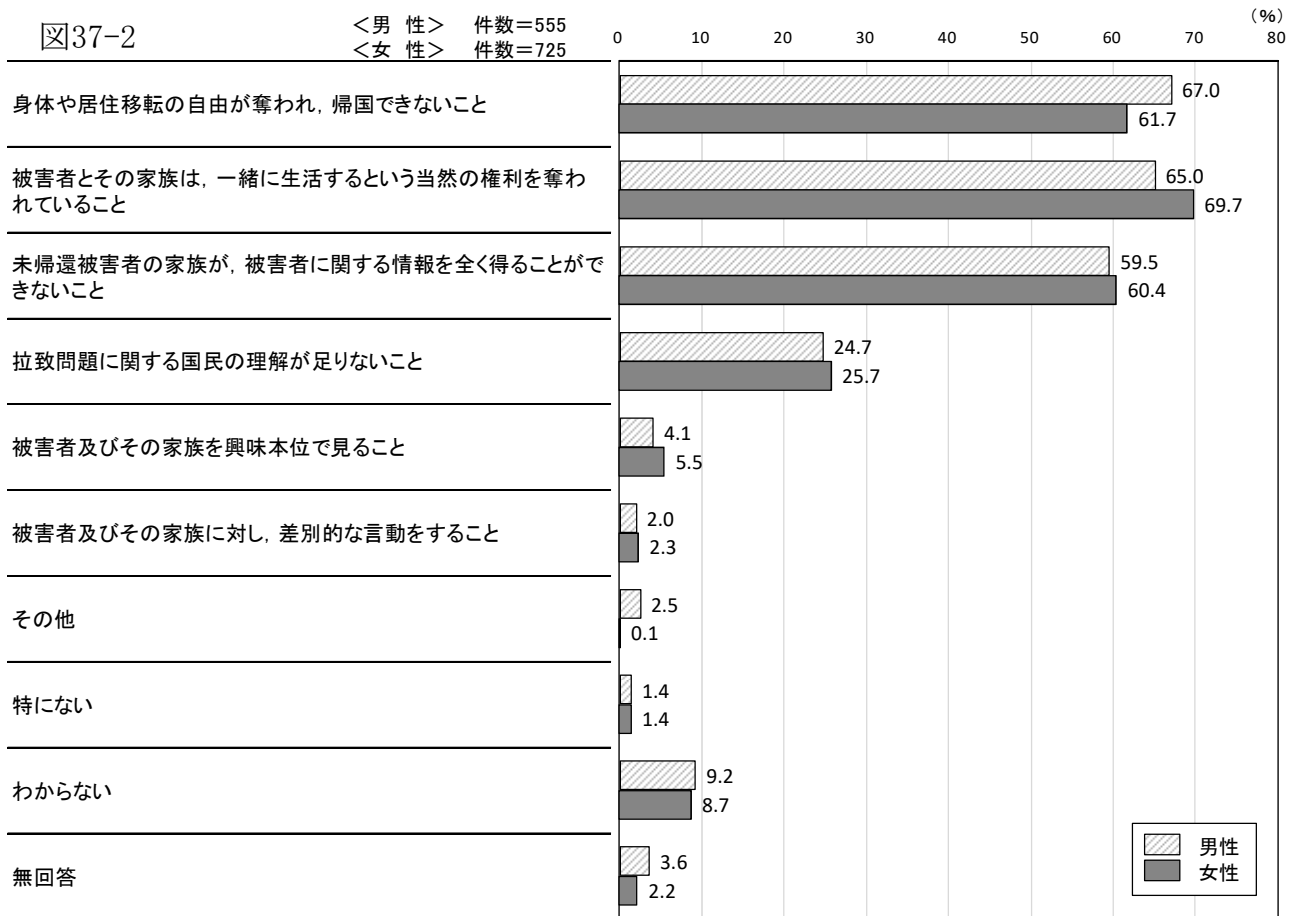
北朝鮮当局によって拉致された被害者等に関しての人権問題については、「被害者とその家族は、一緒に生活するという当然の権利を奪われていること」の割合が最も高く66.6%となっている。次いで、「身体や居住移転の自由が奪われ、帰国できないこと」が62.9%、「未帰還被害者の家族が、被害者に関する情報を全く得ることができないこと」が58.9%となっている。





## ■性別

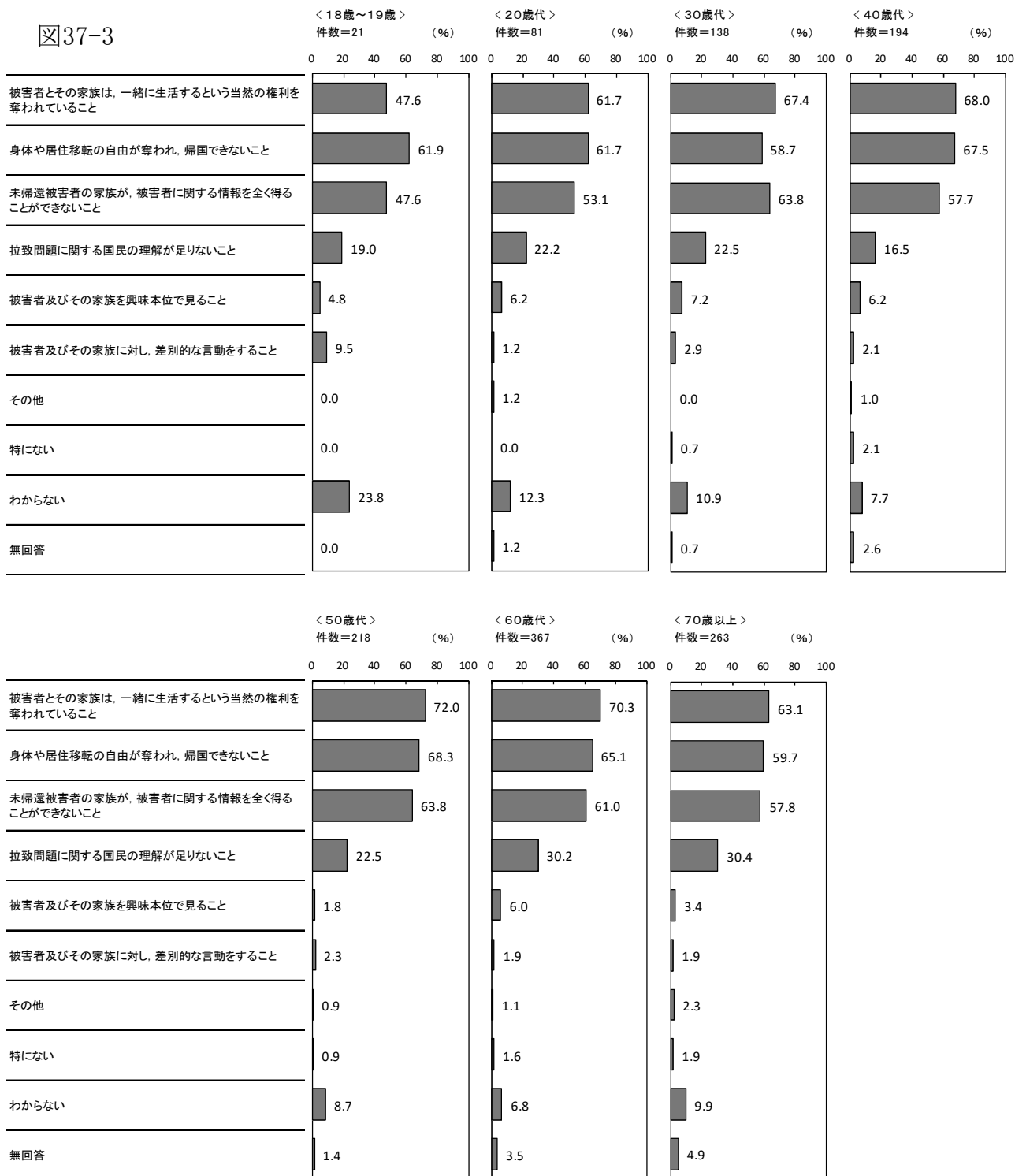
性別で比較すると、「身体や居住移転の自由が奪われ、帰国できないこと」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高い。



## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「被害者とその家族は、一緒に生活するという当然の権利を奪われていること」「身体や居住移転の自由が奪われ、帰国できないこと」「未帰還被害者の家族が、被害者に関する情報を全く得ることができないこと」の割合が高い。

図37-3

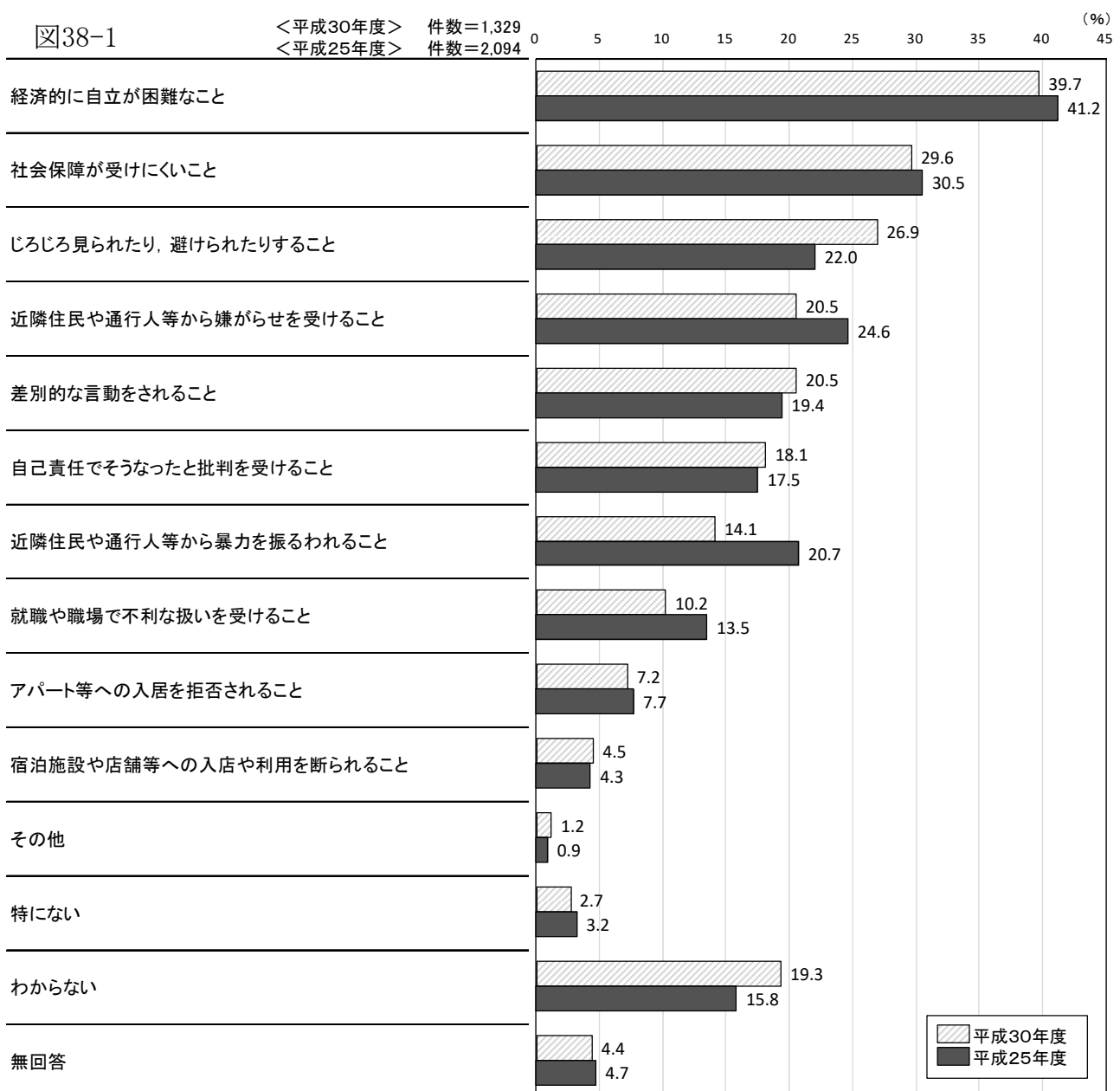


## 【ホームレス】

問38 あなたは、ホームレスに関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。  
(〇は3つまで)

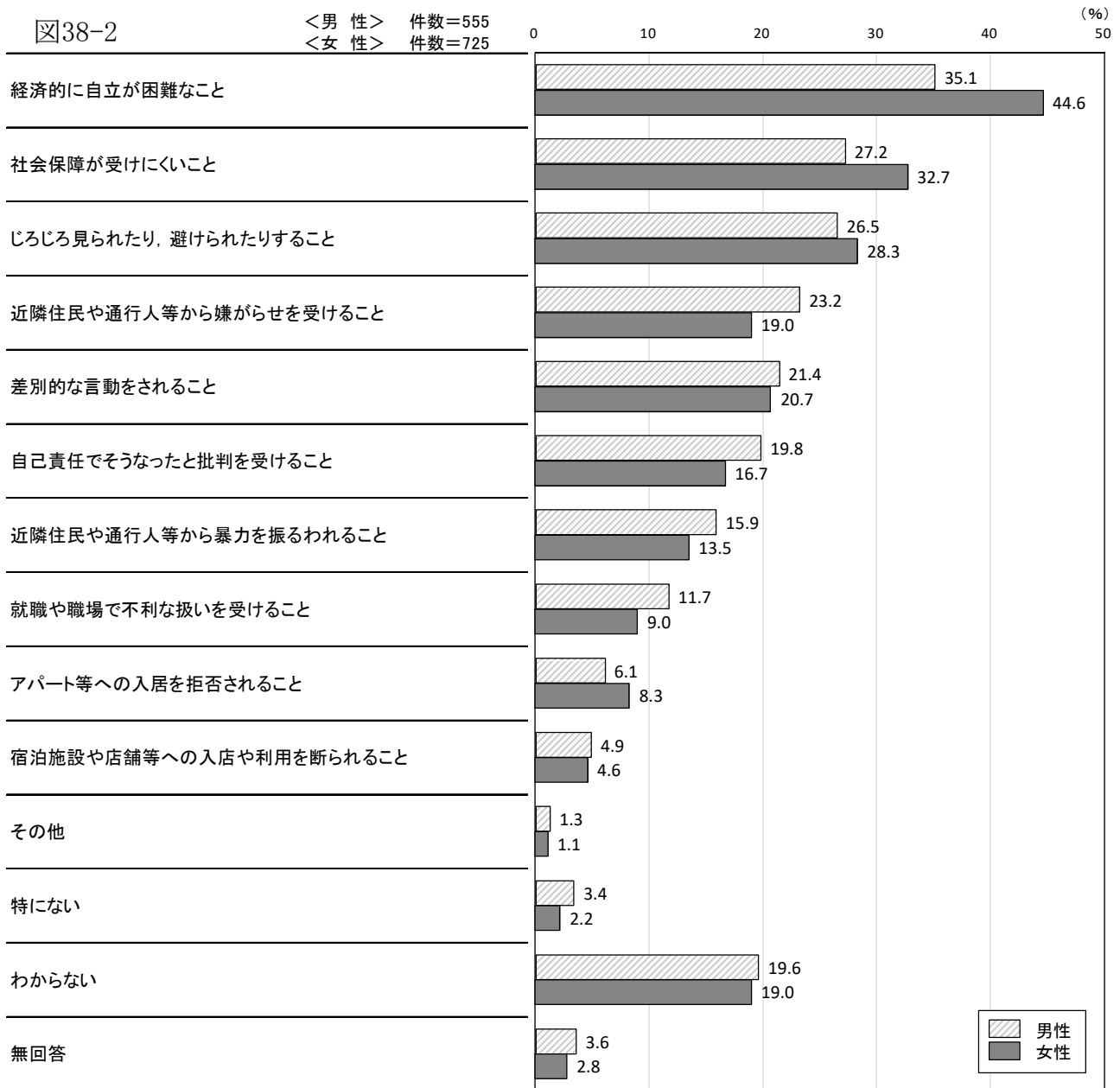
ホームレスに関しての人権問題については、「経済的に自立が困難なこと」の割合が最も高く39.7%となっている。次いで、「社会保障が受けにくいこと」が29.6%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が26.9%となっている。

平成25年度と比較すると、「近隣住民や通行人等から暴力を振るわれること」の割合が5ポイント以上低い。



## ■性別

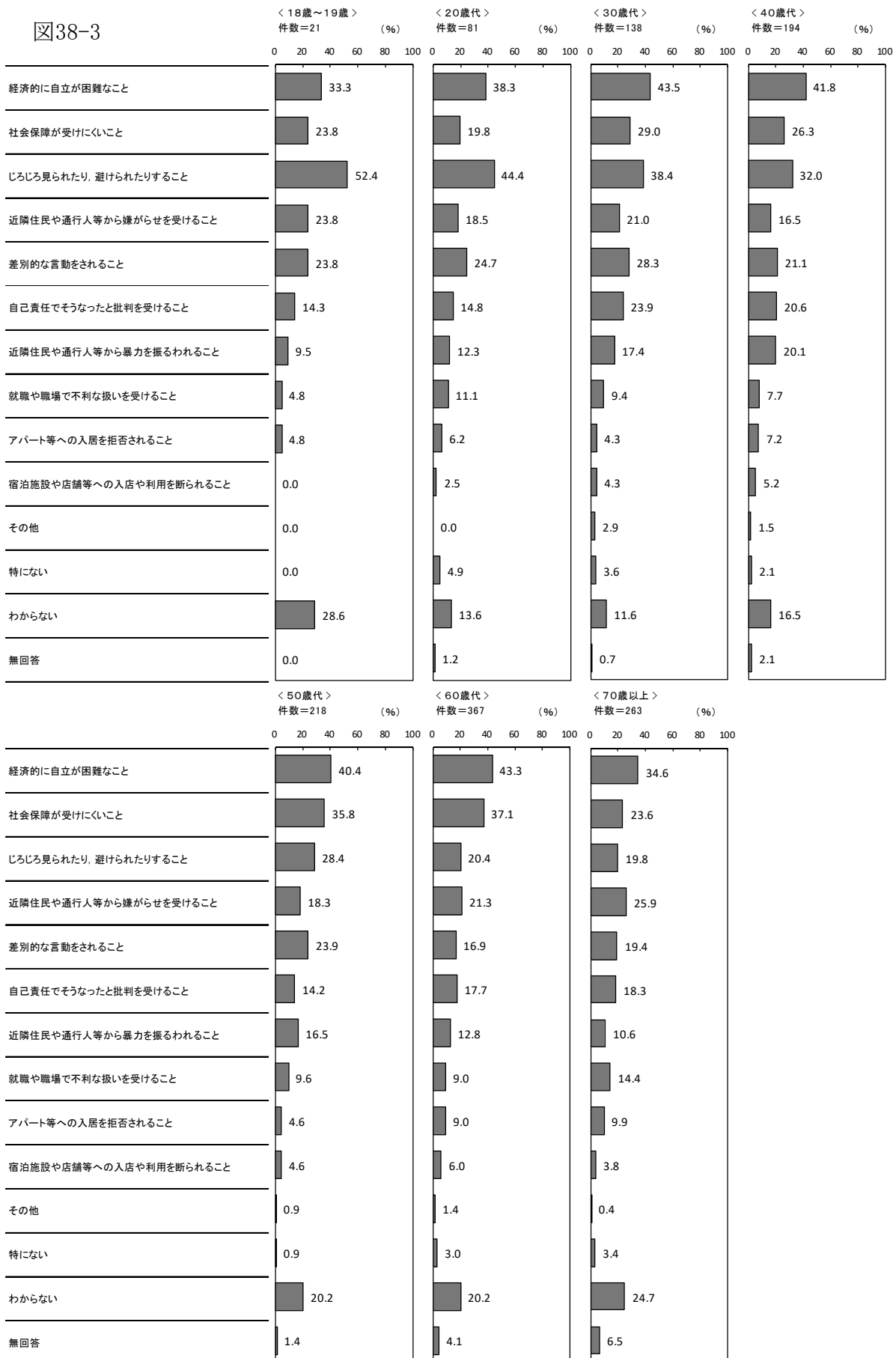
性別で比較すると、「経済的に自立が困難なこと」「社会保障が受けにくいこと」の割合が、女性が男性より5ポイント以上高い。



## ■年代別

年代別で比較すると、20歳代以下で「じろじろ見られたり、避けられたりすること」、30歳代以上で「経済的に自立が困難なこと」の割合が高い。

図38-3

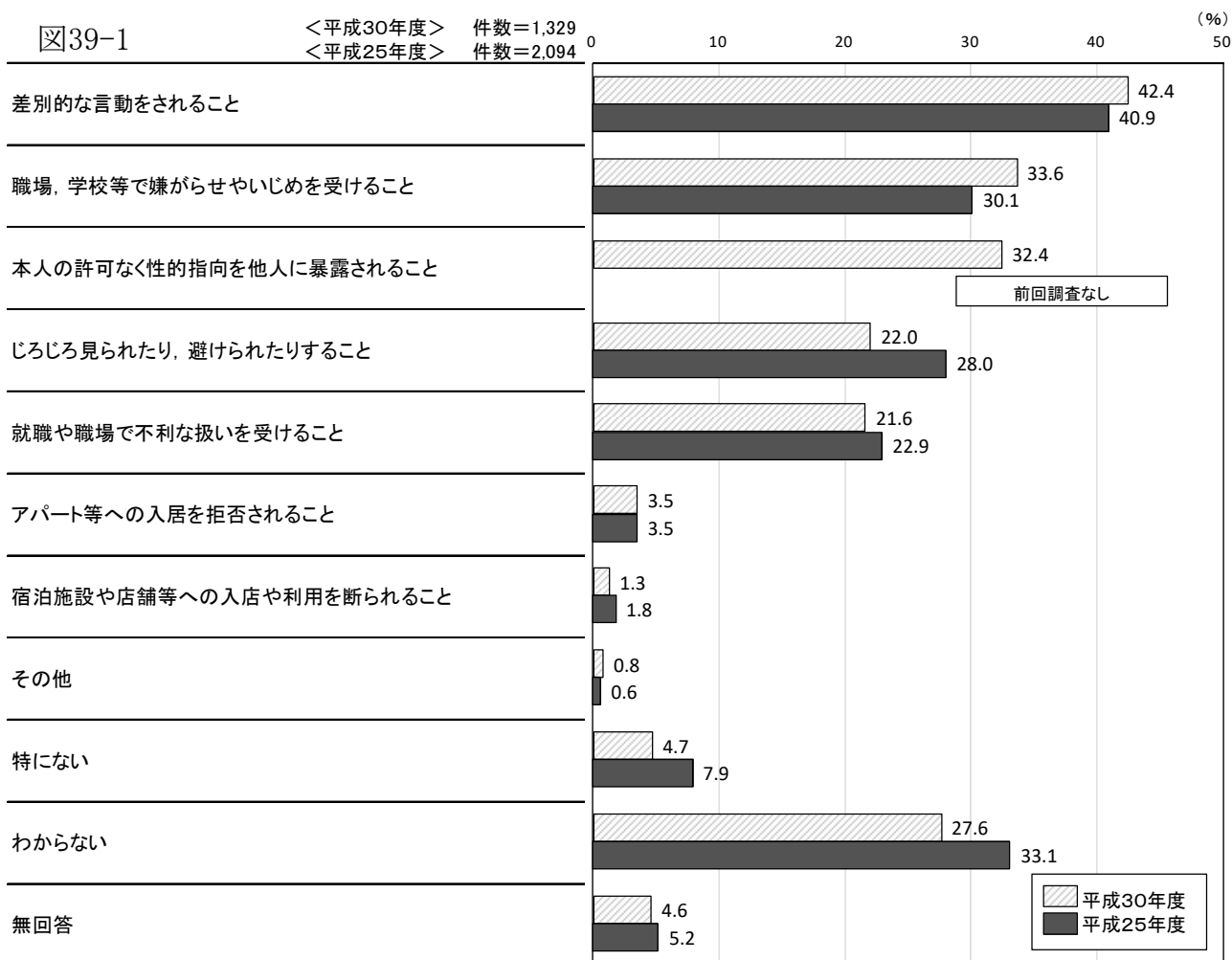


## 【性的指向（異性愛，同性愛，両性愛など）】

問39 あなたは、性的指向に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。  
(〇は3つまで)

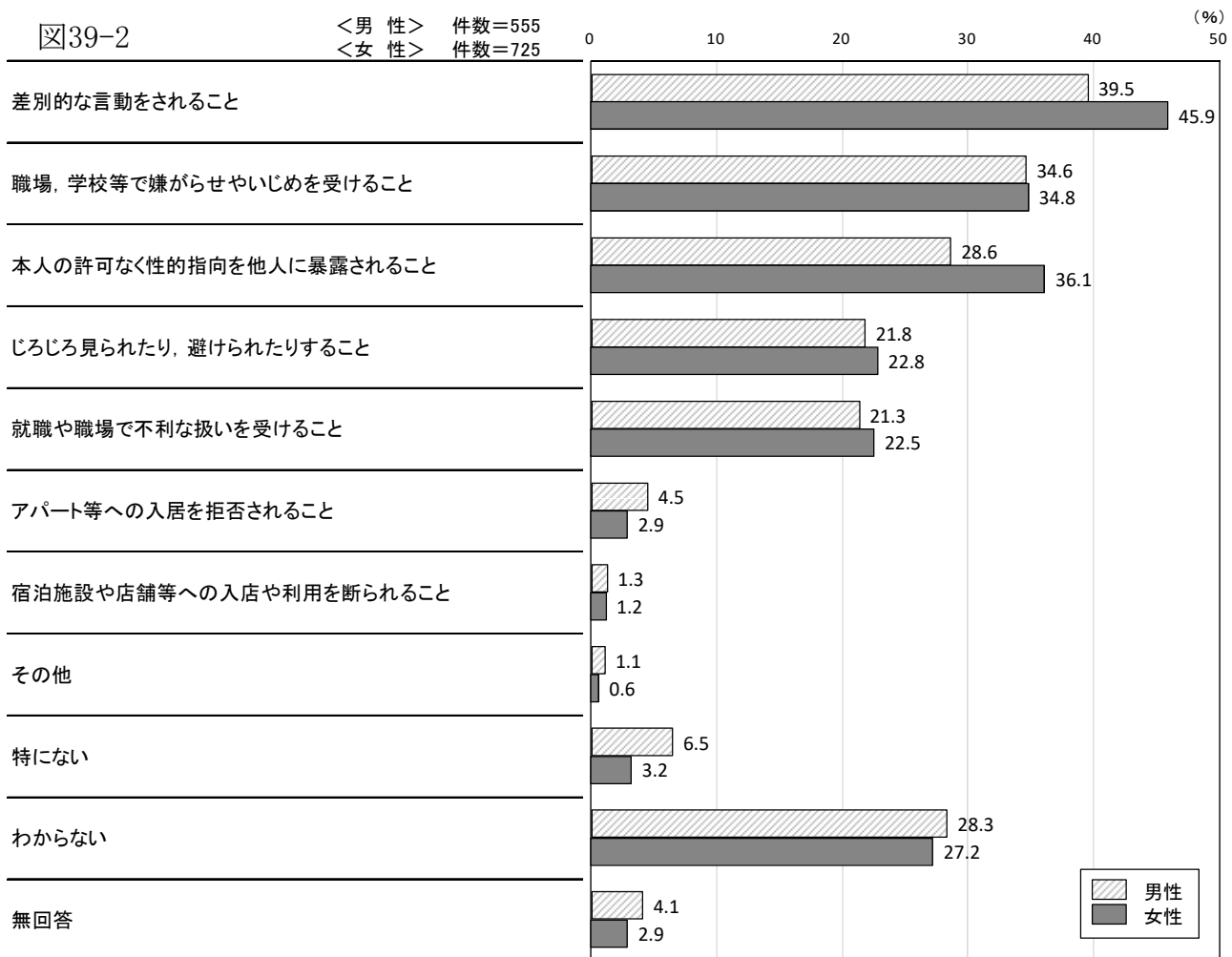
性的指向に関しての人権問題については、「差別的な言動をされること」の割合が最も高く42.4%となっている。次いで、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が33.6%、「本人の許可なく性的指向を他人に暴露されること」が32.4%となっている。

平成25年度と比較すると、「わからない」の割合が5ポイント以上低い。



## ■性別

性別で比較すると、「本人の許可なく性的指向を他人に暴露されること」「差別的な言動をされること」の割合が、女性が男性より5ポイント以上高い。

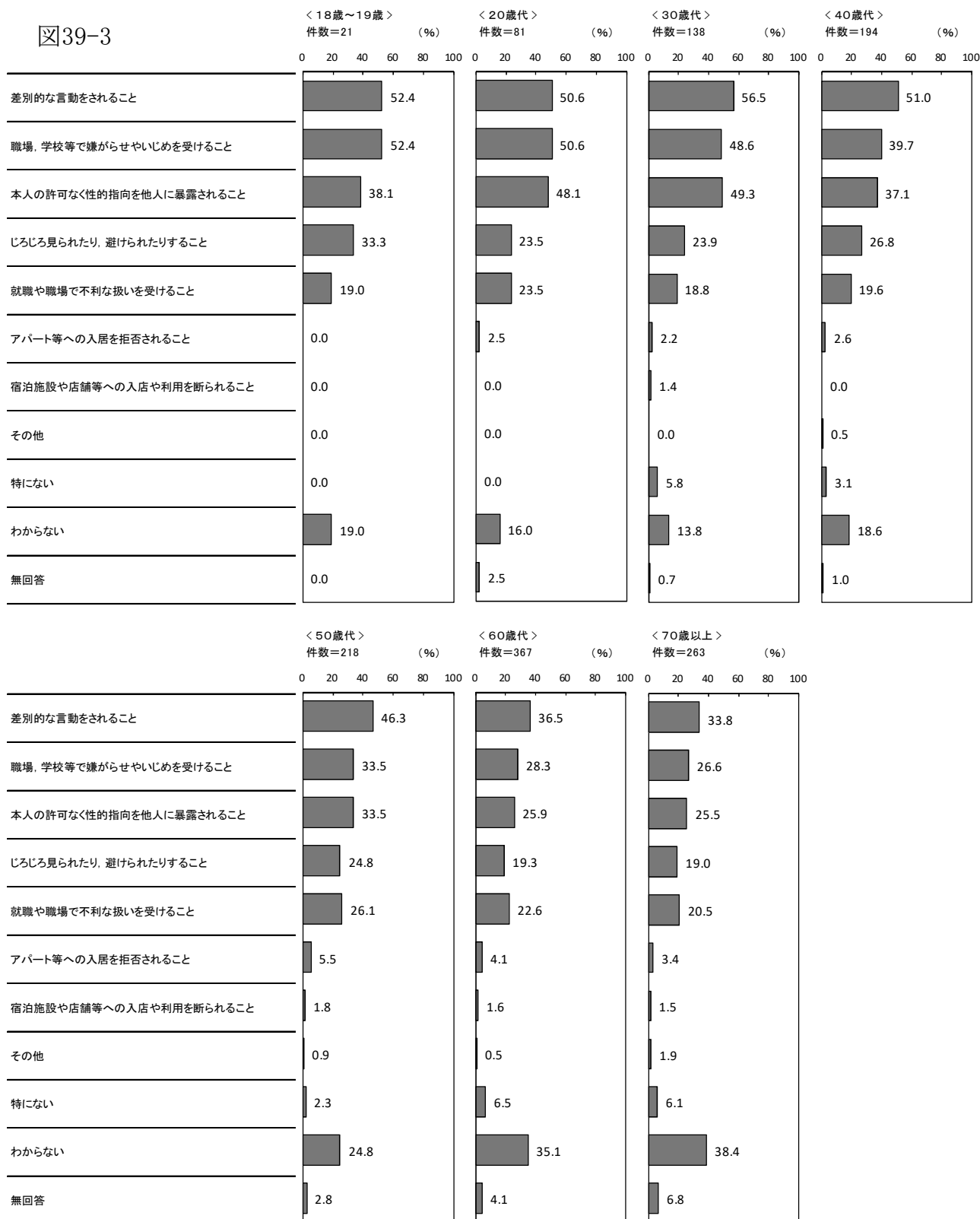


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「差別的な言動をされること」の割合が高い。

また、18歳～19歳から50歳代で「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」「本人の許可なく性的指向を他人に暴露されること」、60歳代以上で「わからない」の割合も高い。

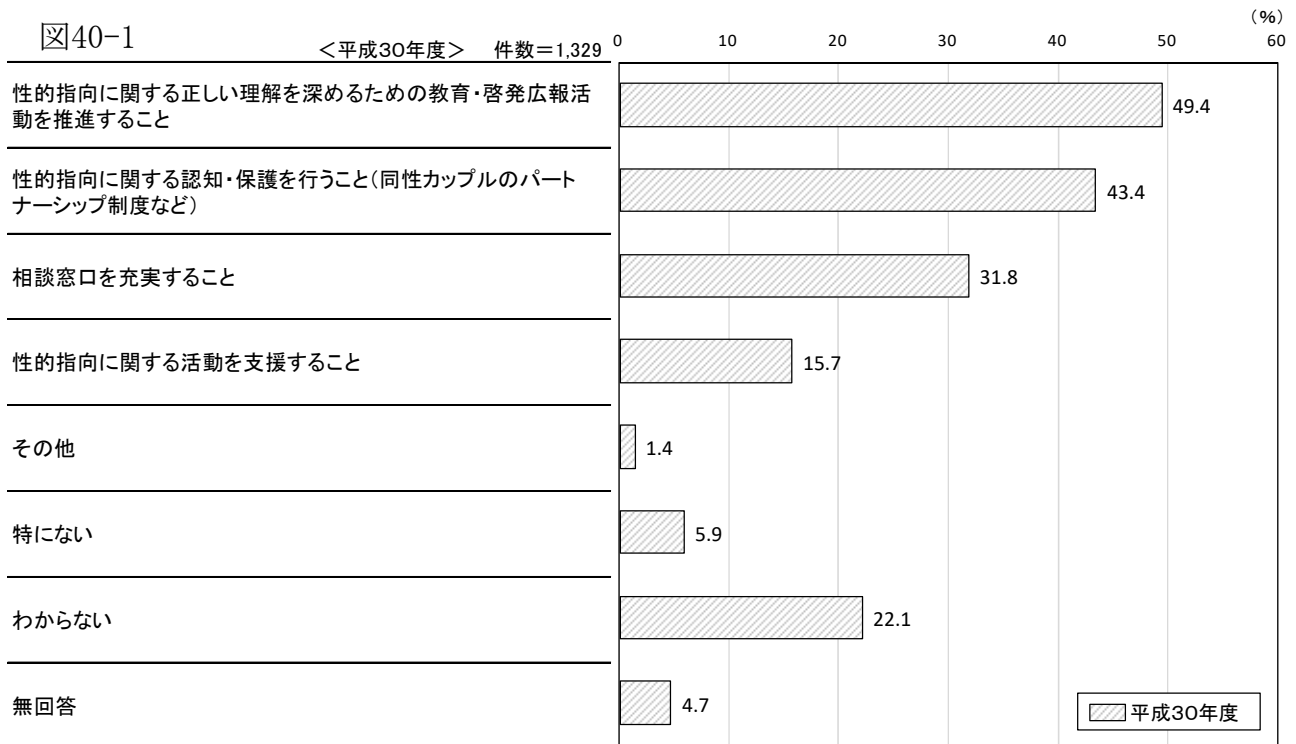
図39-3





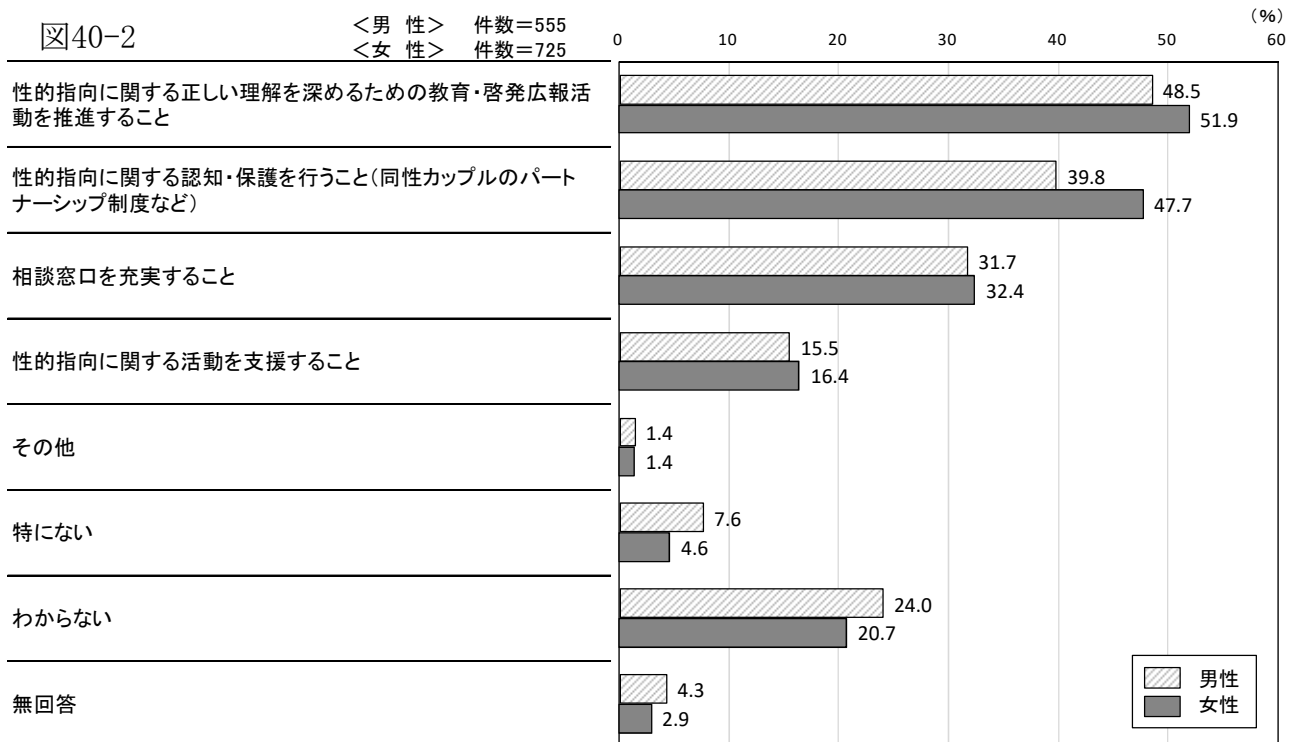
問40 あなたは、性的指向に関する人権問題を解決するために必要なことは、何だと思えますか。  
(〇は3つまで)

性的指向に関する人権問題を解決するために必要なことについては、「性的指向に関する正しい理解を深めるための教育・啓発広報活動を推進すること」の割合が最も高く49.4%となっている。次いで、「性的指向に関する認知・保護を行うこと(同性カップルのパートナーシップ制度など)」が43.4%、「相談窓口を充実すること」が31.8%となっている。



## ■性別

性別で比較すると、「性的指向に関する認知・保護を行うこと（同性カップルのパートナーシップ制度など）」の割合が、女性が男性より5ポイント以上高い。

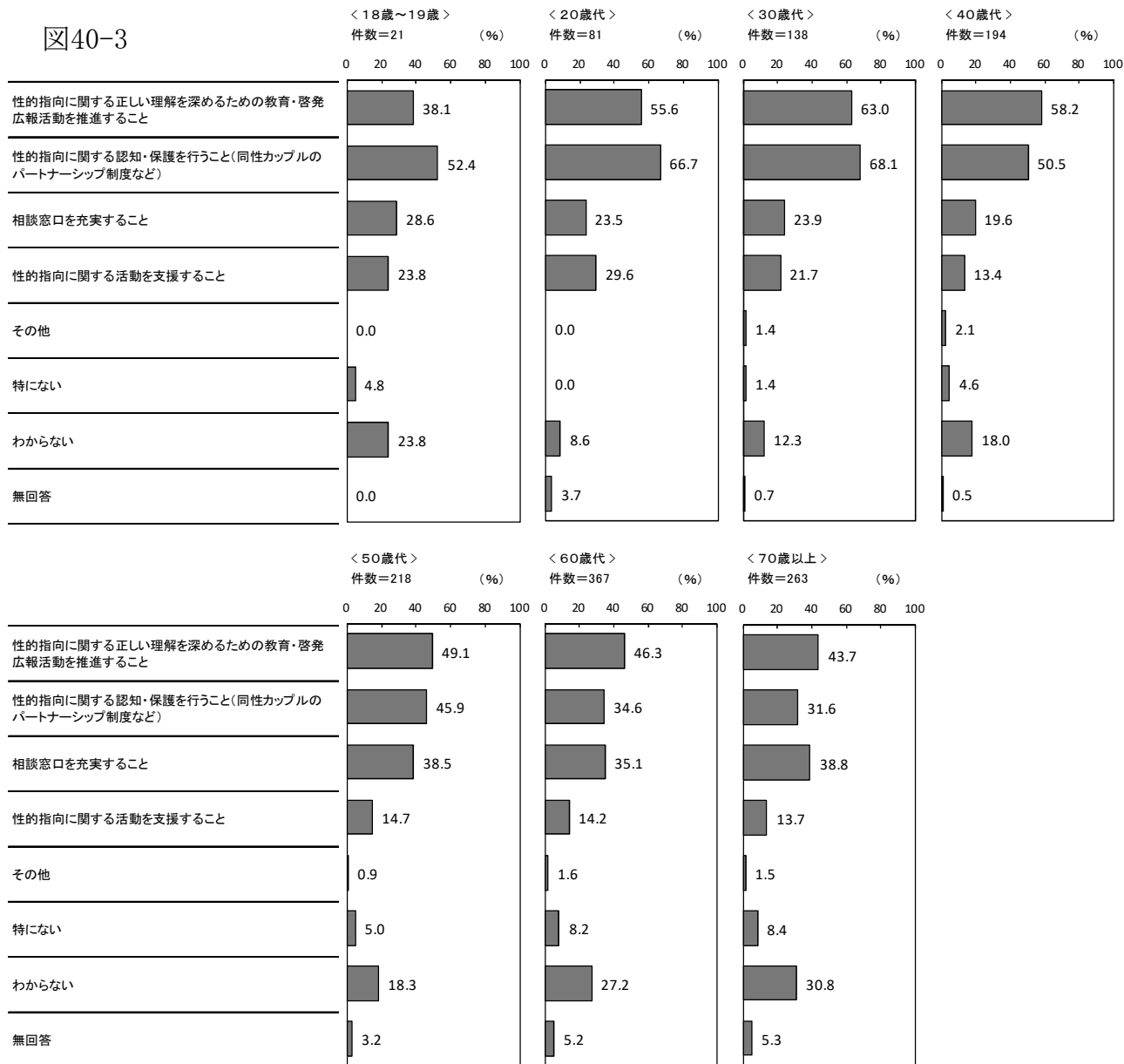


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「性的指向に関する正しい理解を深めるための教育・啓発の広報活動を推進すること」「性的指向に関する認知・保護を行うこと(同性カップルのパートナーシップ制度など)」の割合が高い。

また、50歳代以上で「相談窓口を充実すること」の割合も高い。

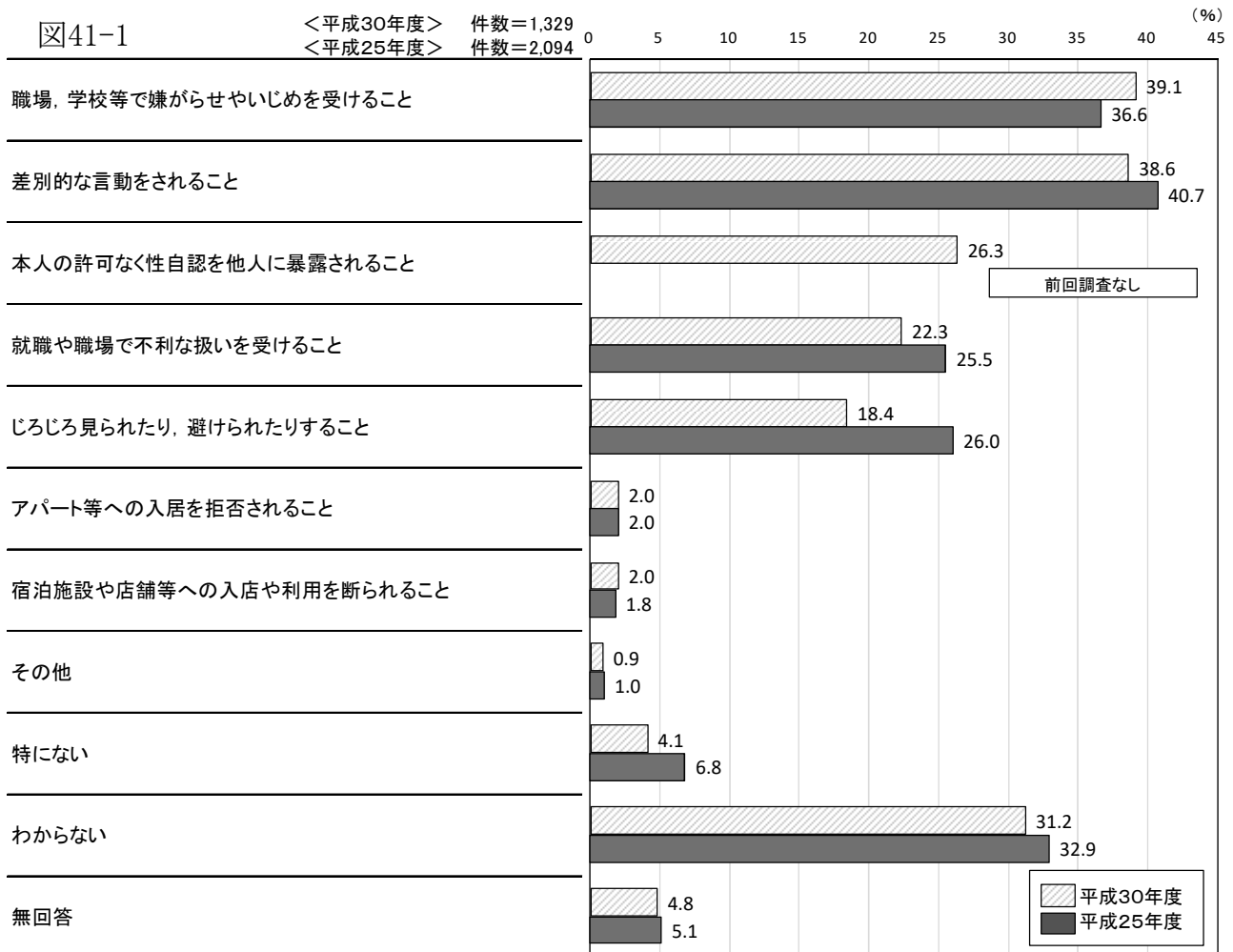
図40-3



## 【性自認】

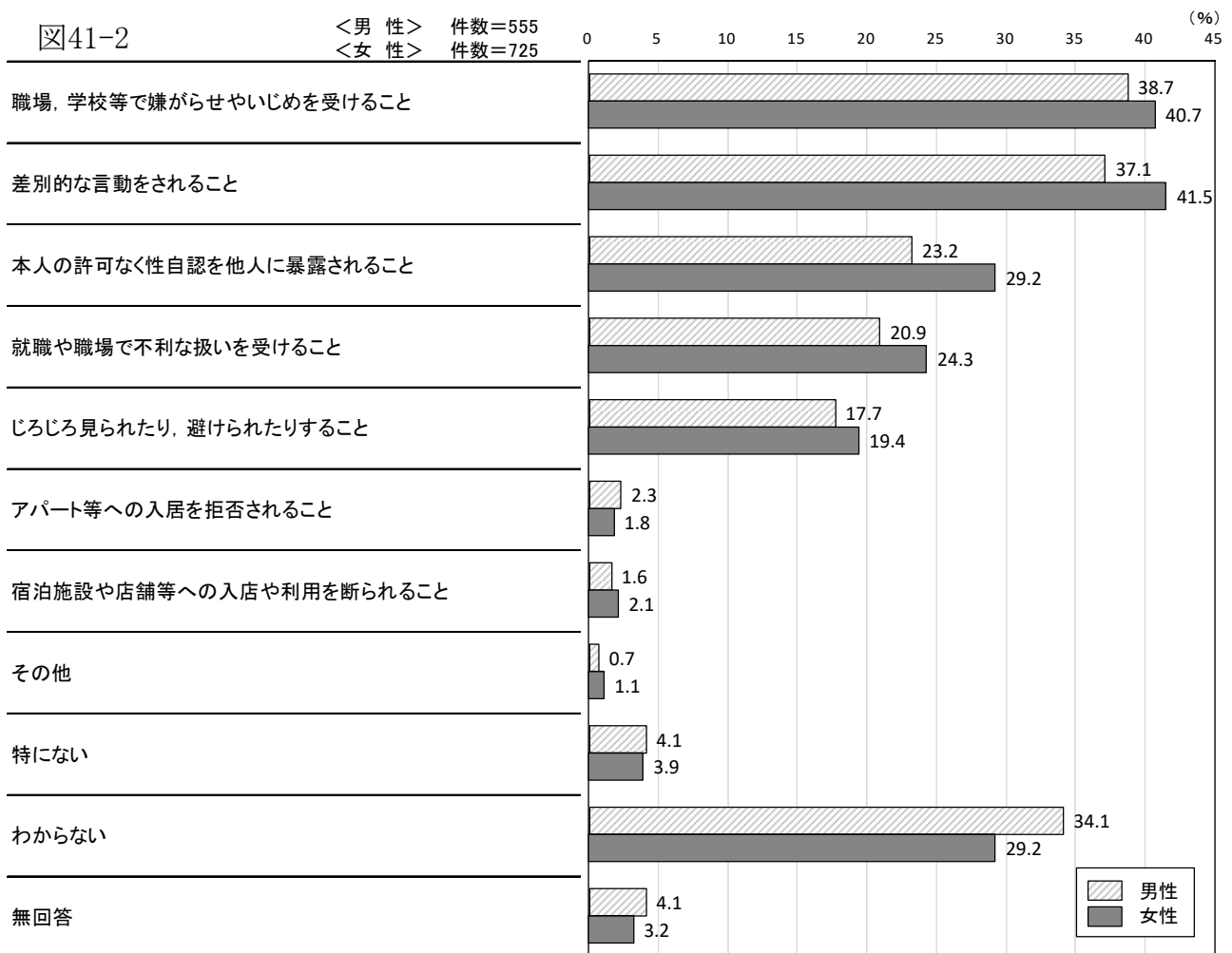
問4 1 あなたは、「生物学的な性」と「こころの性」が一致しないなど性自認に悩んでいる方に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇は3つまで)

性自認に関しての人権問題については、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」の割合が最も高く39.1%となっている。次いで、「差別的な言動をされること」が38.6%、「わからない」が31.2%、「本人の許可なく性自認を他人に暴露されること」が26.3%となっている。



## ■性別

性別で比較すると、「本人の許可なく性自認を他人に暴露されること」の割合が、女性が男性より5ポイント以上高い。

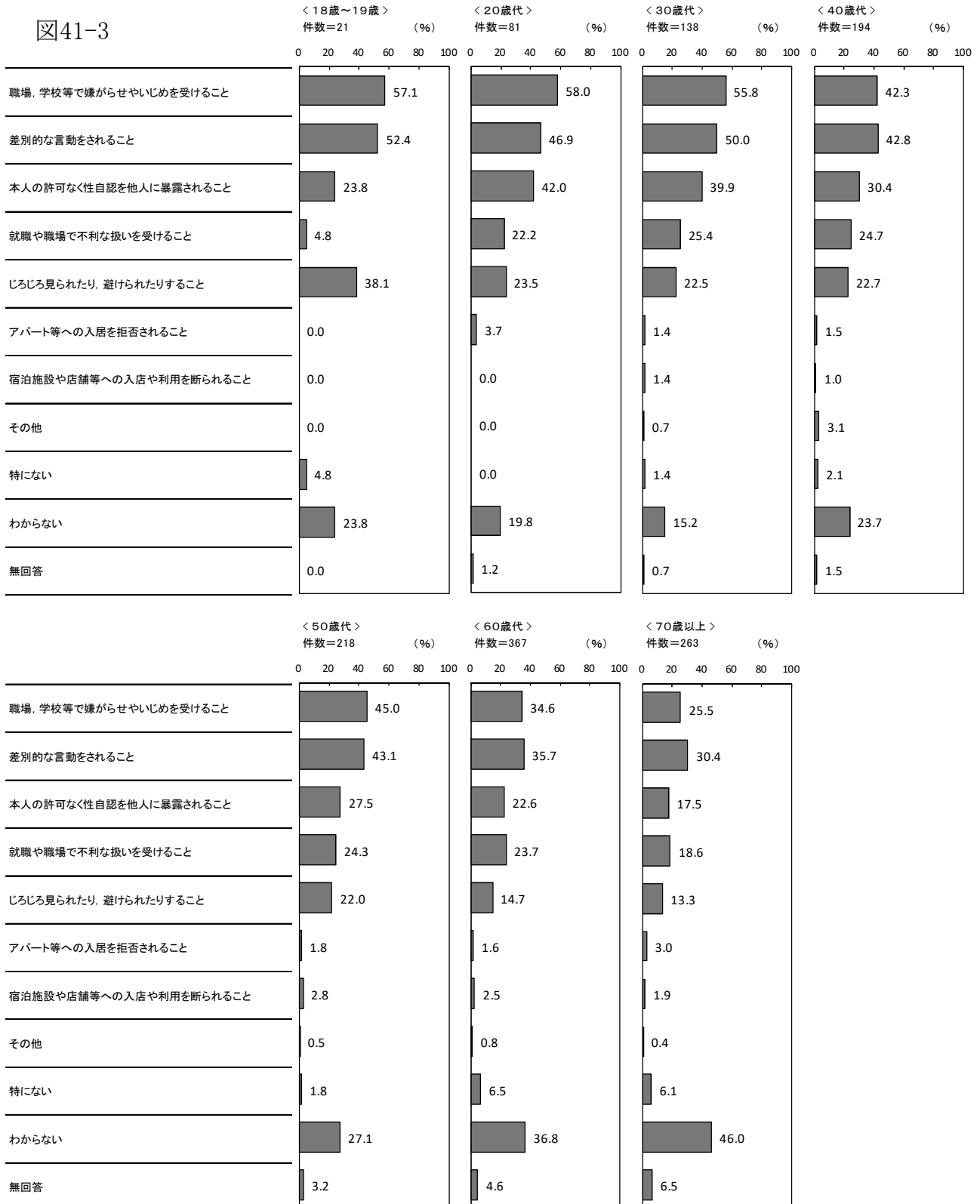


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」「差別的な言動をされること」の割合が高い。

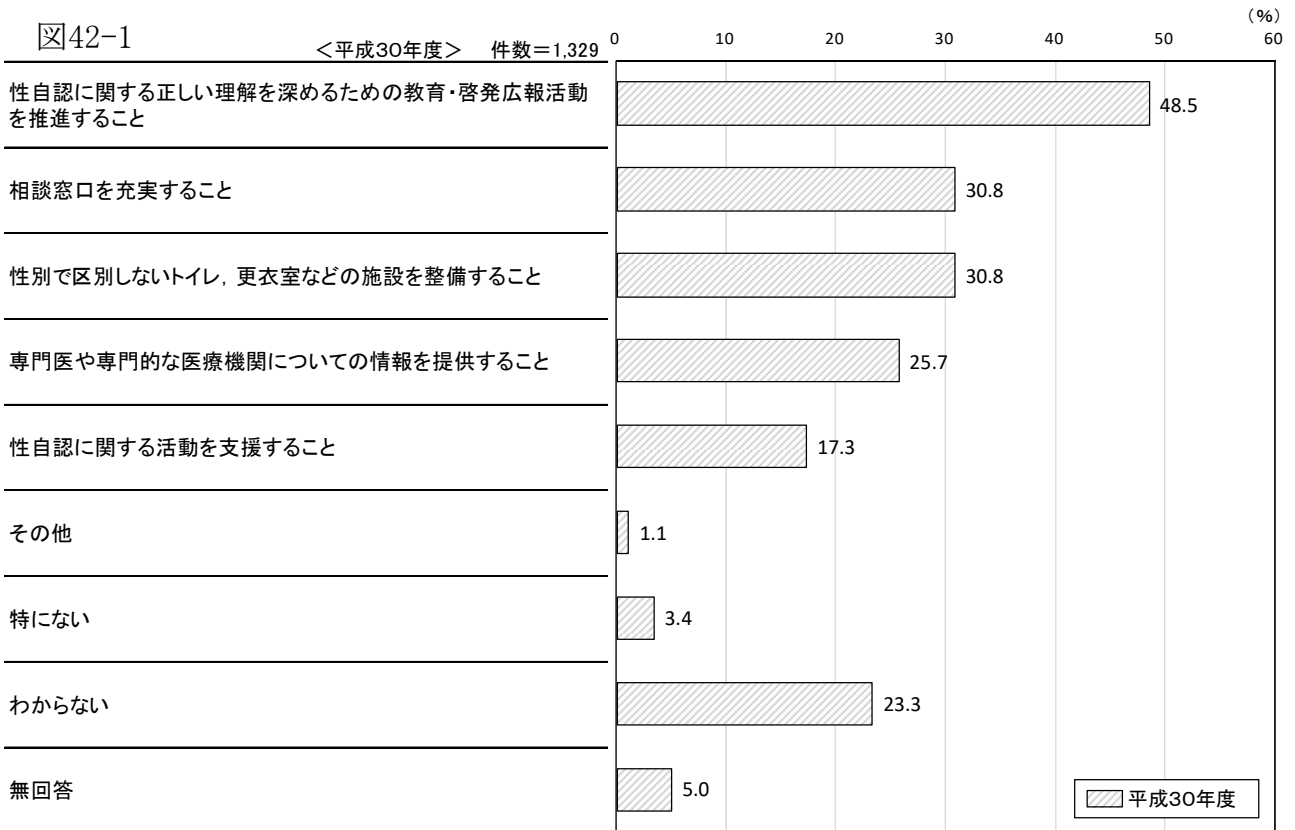
また、20歳代から40歳代で「本人の許可なく性自認を他人に暴露されること」、60歳代以上で「わからない」の割合も高い。

図41-3



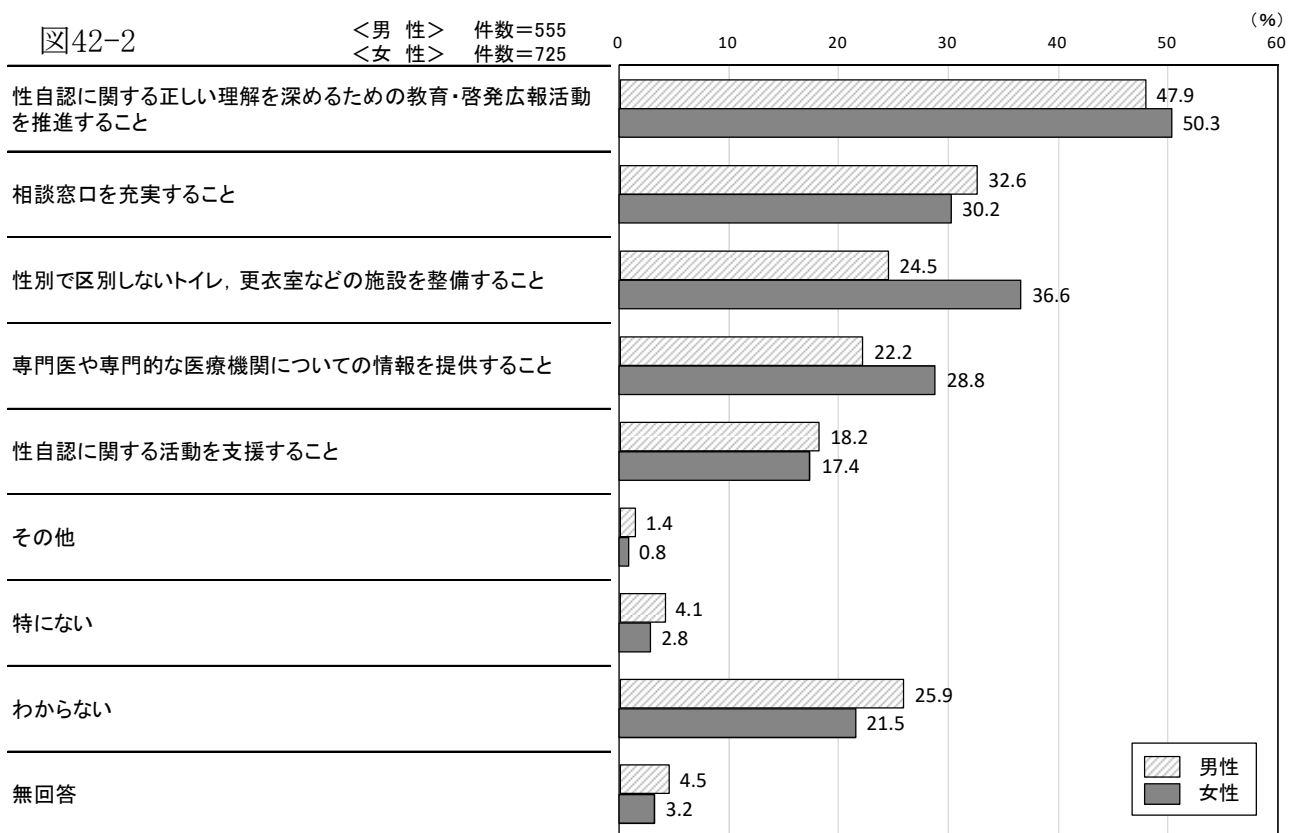
問42 あなたは、性自認に関する人権問題を解決するために必要なことは、何だと思いますか。  
(○は3つまで)

性自認に関する人権問題を解決するために必要なことについては、「性自認に関する正しい理解を深めるための教育・啓発広報活動を推進すること」の割合が最も高く48.5%となっている。次いで、「相談窓口を充実すること」「性別で区別しないトイレ、更衣室などの施設を整備すること」が30.8%となっている。



## ■性別

性別で比較すると、「性別で区別しないトイレ，更衣室などの施設を整備すること」「専門医や専門的な医療機関についての情報を共有すること」の割合が，女性が男性より5ポイント以上高い。



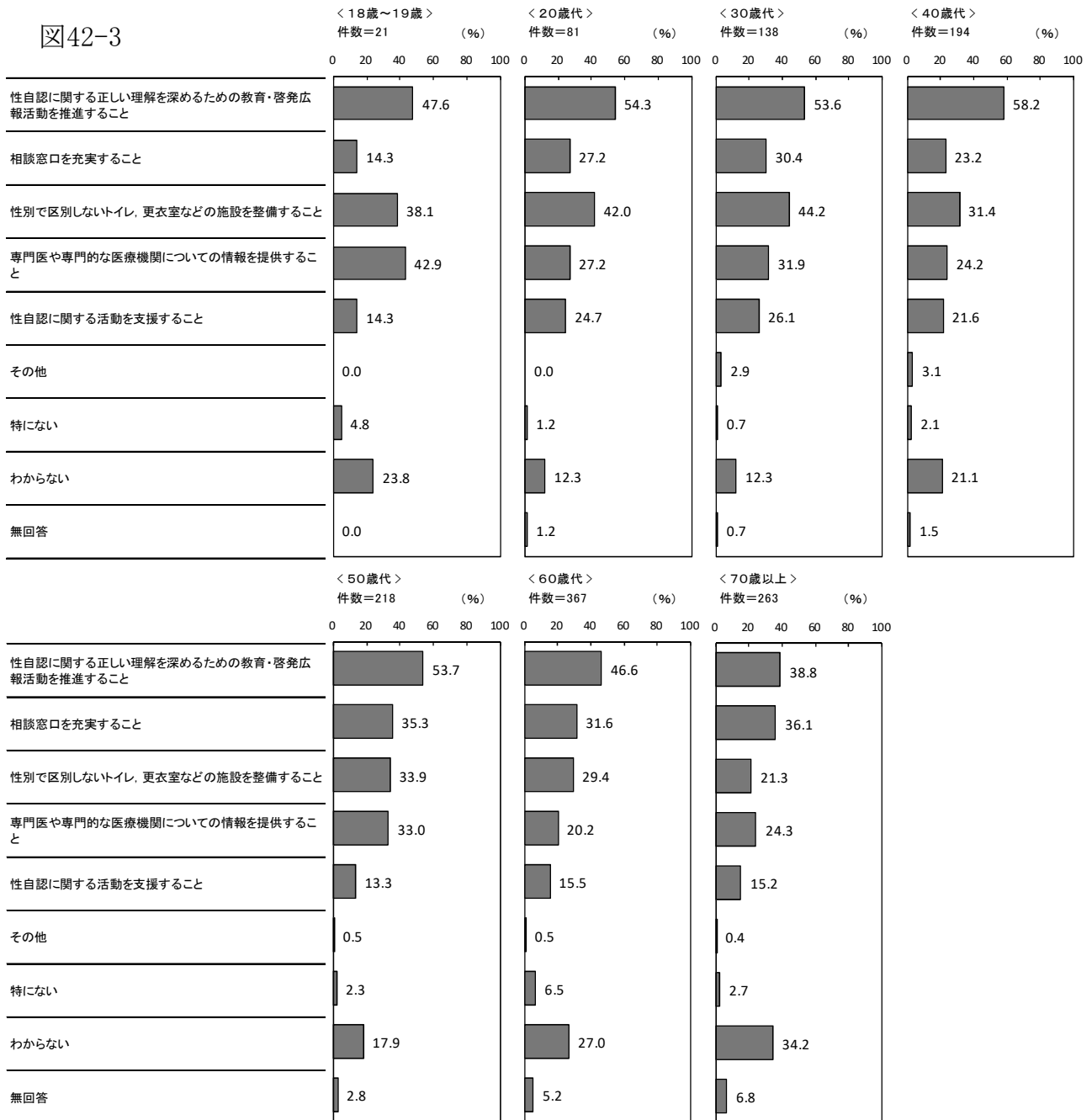


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「性自認に関する正しい理解を深めるための教育・啓発広報活動を推進すること」の割合が高い。

また、18歳～19歳で「専門医や専門的な医療機関についての情報を提供すること」、50歳以下で「性別で区別しないトイレ、更衣室などの施設を整備すること」の割合も高い。

図42-3

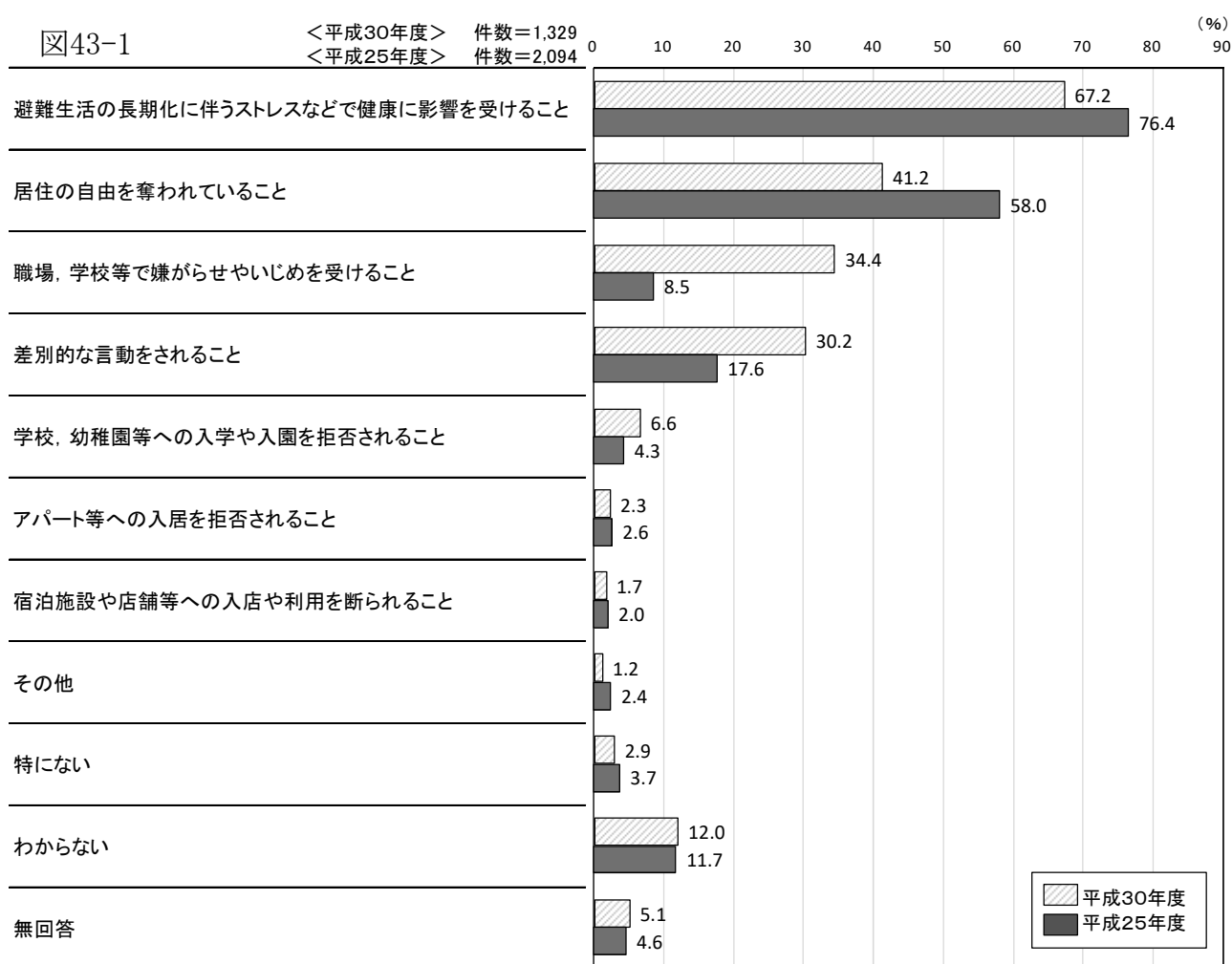


## 【東日本大震災などに伴う人権問題】

問43 あなたは、東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生による被災者や避難者に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇は3つまで)

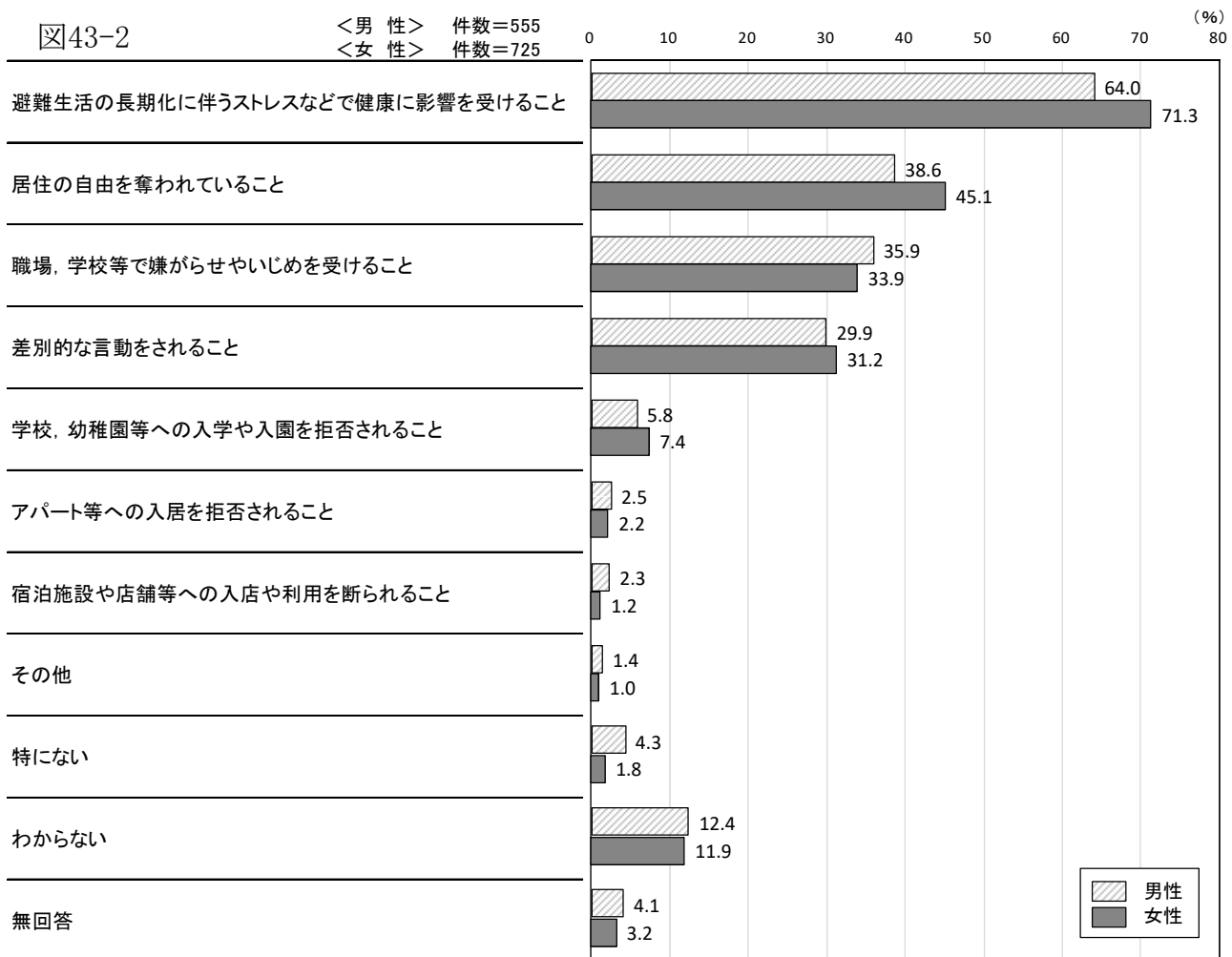
東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生による被災者や避難者に関しての人権問題については、「避難生活の長期化に伴うストレスなどで健康に影響を受けること」の割合が最も高く67.2%となっている。次いで、「居住の自由を奪われていること」が41.2%、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が34.4%となっている。

平成25年度と比較すると、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」「差別的な言動をされること」の割合が10ポイント以上高く、また「居住の自由を奪われていること」「避難生活の長期化に伴うストレスなどで健康に影響を受けること」の割合は5ポイント以上低い。



## ■性別

性別で比較すると、「避難生活の長期化に伴うストレスなどで健康に影響を受けること」「居住の自由を奪われていること」の割合が、女性が男性より5ポイント以上高い。

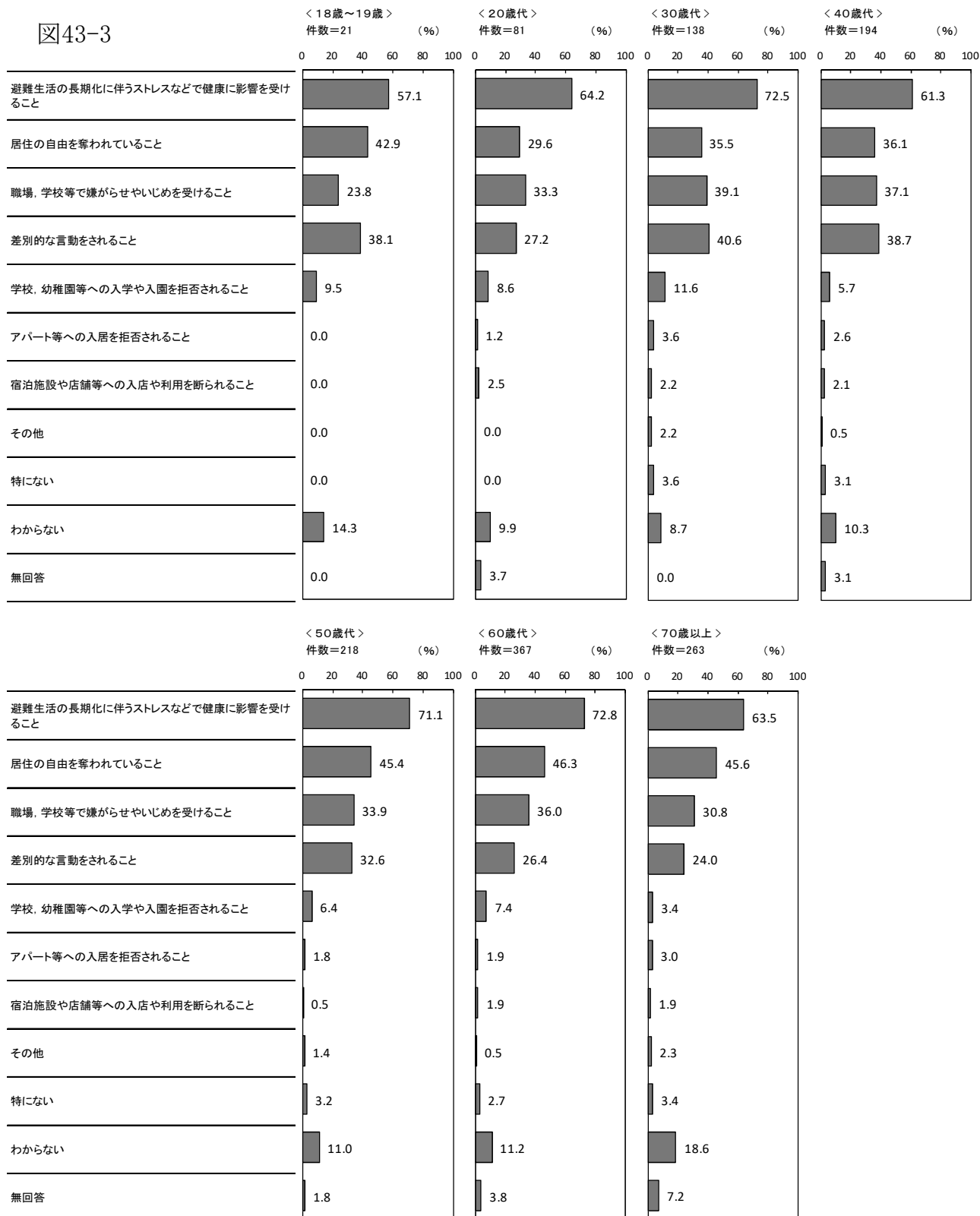


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「避難生活の長期化に伴うストレスなどで健康に影響を受けること」の割合が最も高い。

また、18歳～19歳、50歳代以上で「居住の自由を奪われていること」の割合も高い。

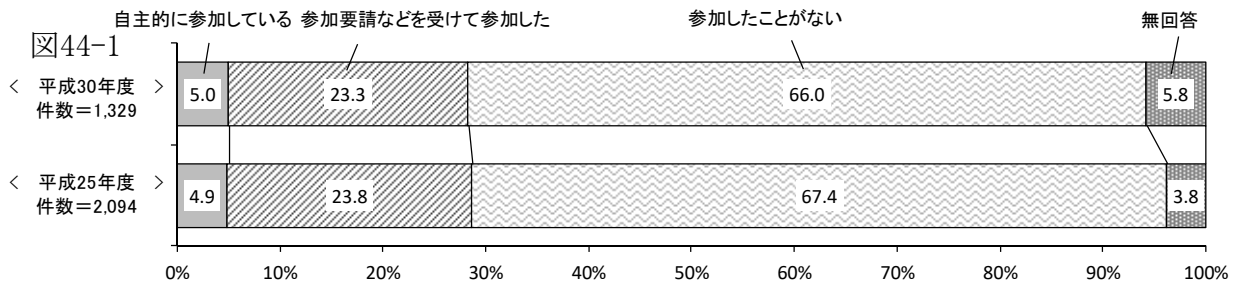
図43-3



## 【啓発に関して】

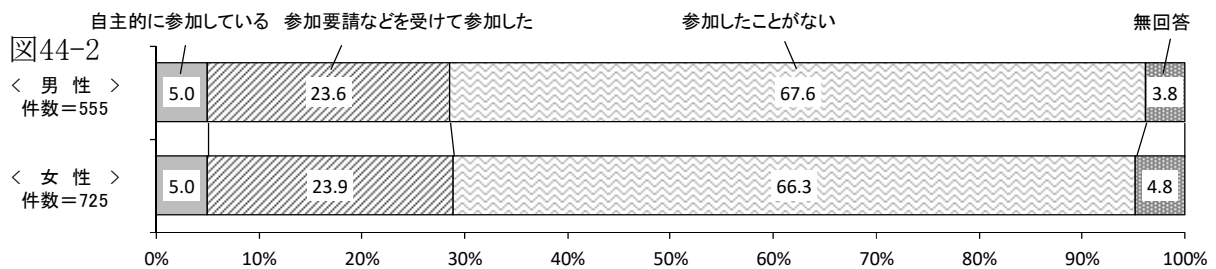
問44 あなたは、これまで人権に関する講演会や研修会、イベントなどに参加したことがありますか。(〇は1つ)

人権に関する講演会や研修会、イベントなどに参加したことがあるかについては、「参加したことがない」の割合が最も高く66.0%となっている。次いで、「参加要請などを受けて参加した」が23.3%、「自主的に参加している」が5.0%となっている。



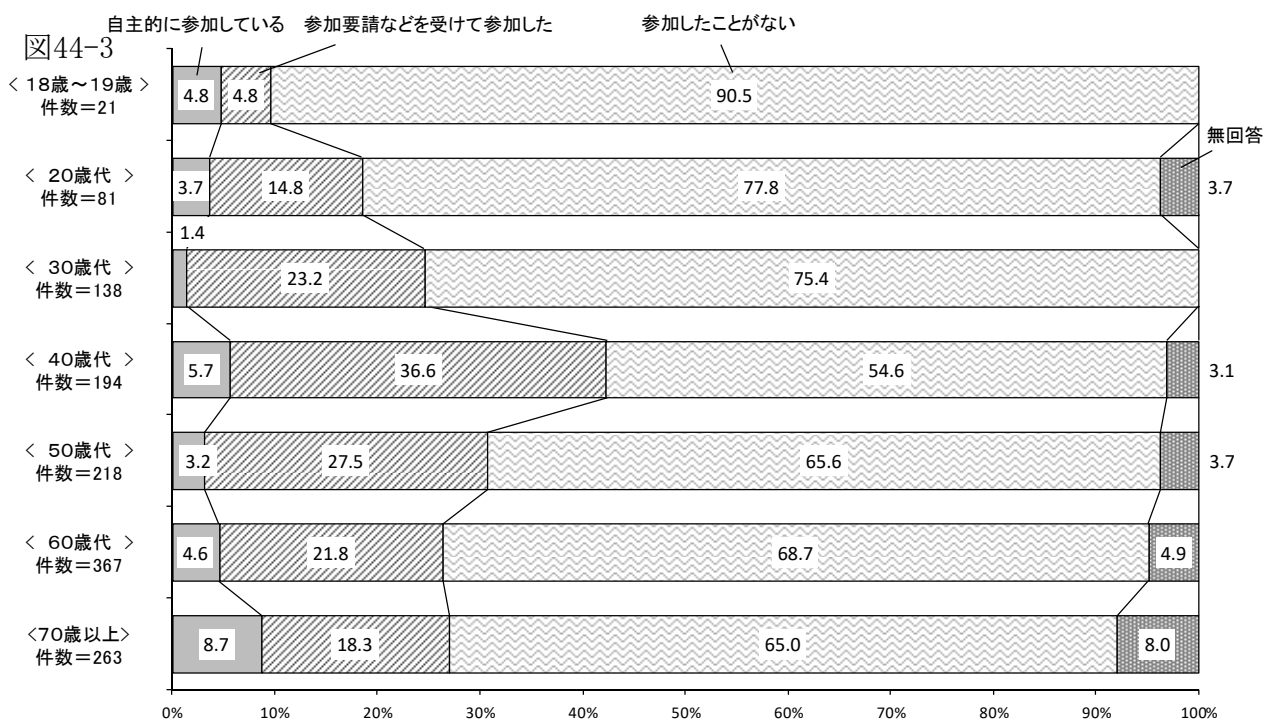
## ■性別

性別で比較したが、特に大きな違いはみられなかった。



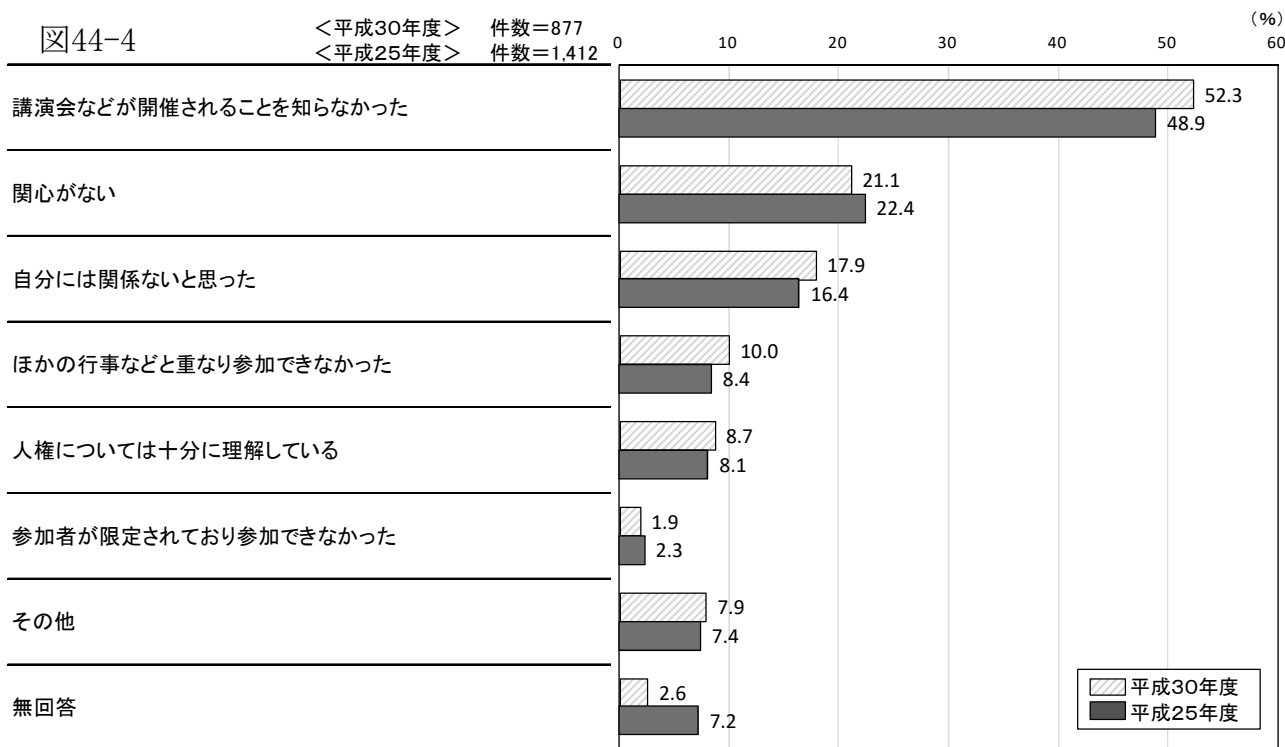
## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「参加したことがない」の割合が最も高く、「自主的に参加している」「参加要請などを受けて参加した」を合わせた割合は40歳代が最も高い。



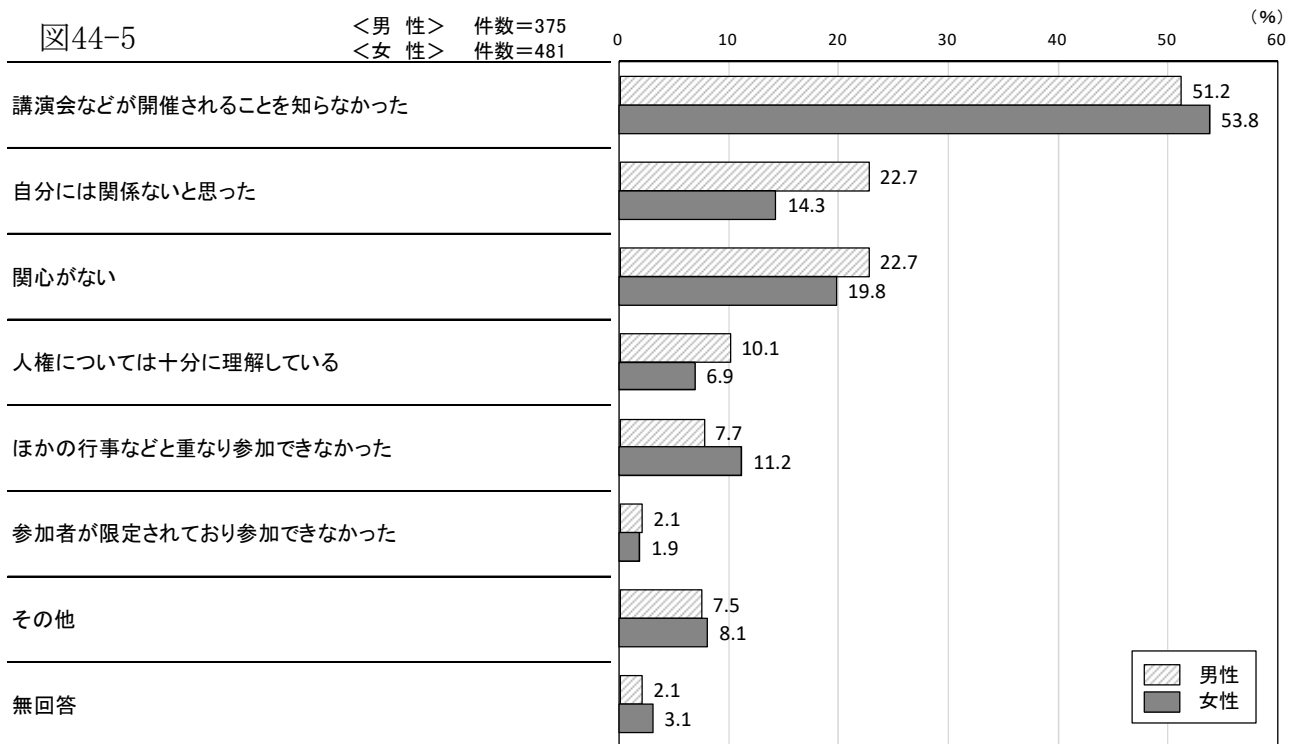
問44-(1) 問44で、「参加したことがない」を選んだ方へ おたずねします。  
 あなたが、参加したことがない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

問44で、「参加したことがない」と回答した877人の中で、参加したことがない理由については、「講演会などが開催されることを知らなかった」の割合が最も高く52.3%となっている。次いで、「関心がない」が21.1%、「自分には関係ないと思った」が17.9%となっている。



## ■性別

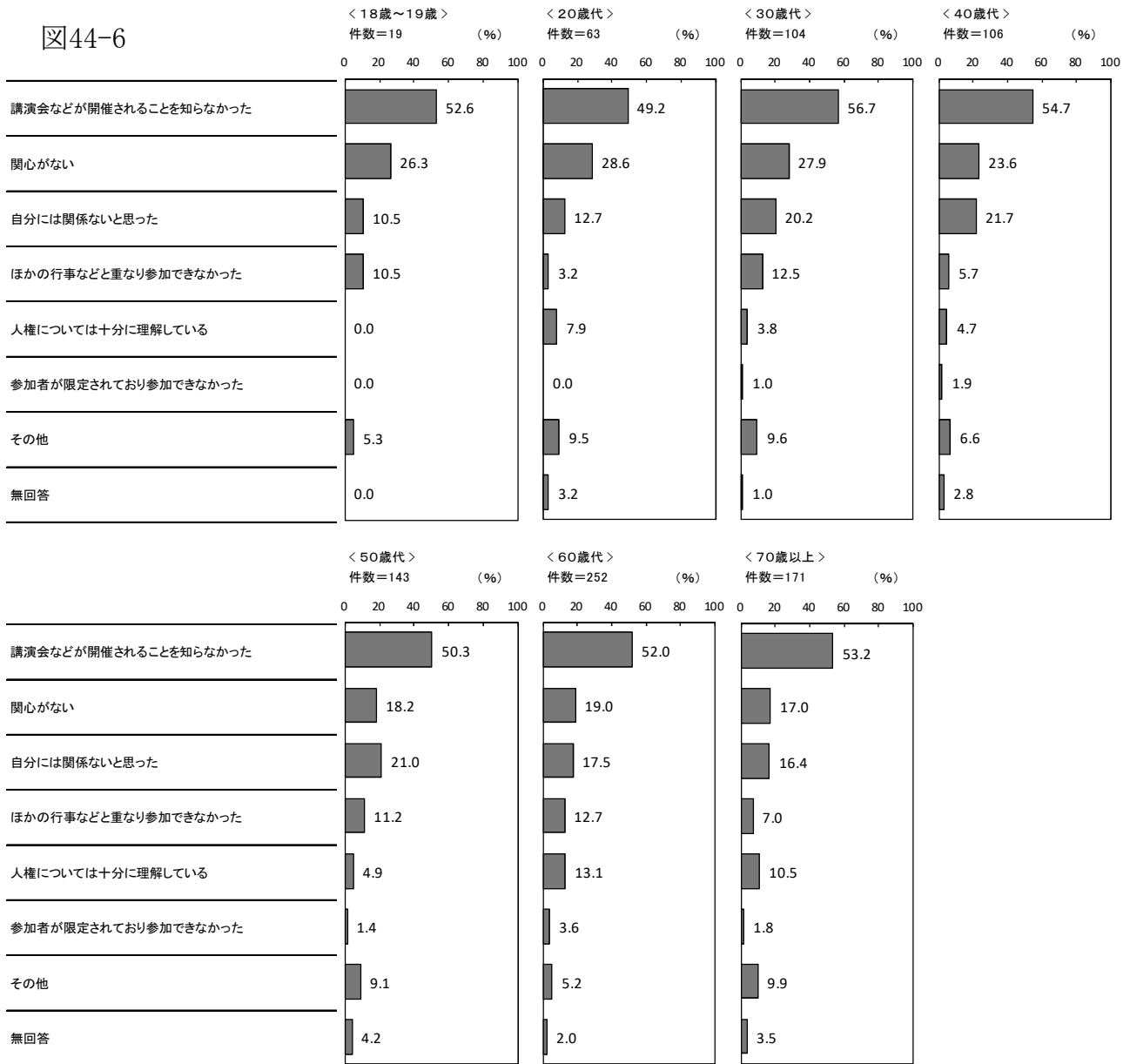
性別で比較すると、「自分には関係ないと思った」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高い。



## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「講演会などが開催されることを知らなかった」の割合が最も高い。また、40歳代以下で「関心がない」の割合も高い。

図44-6

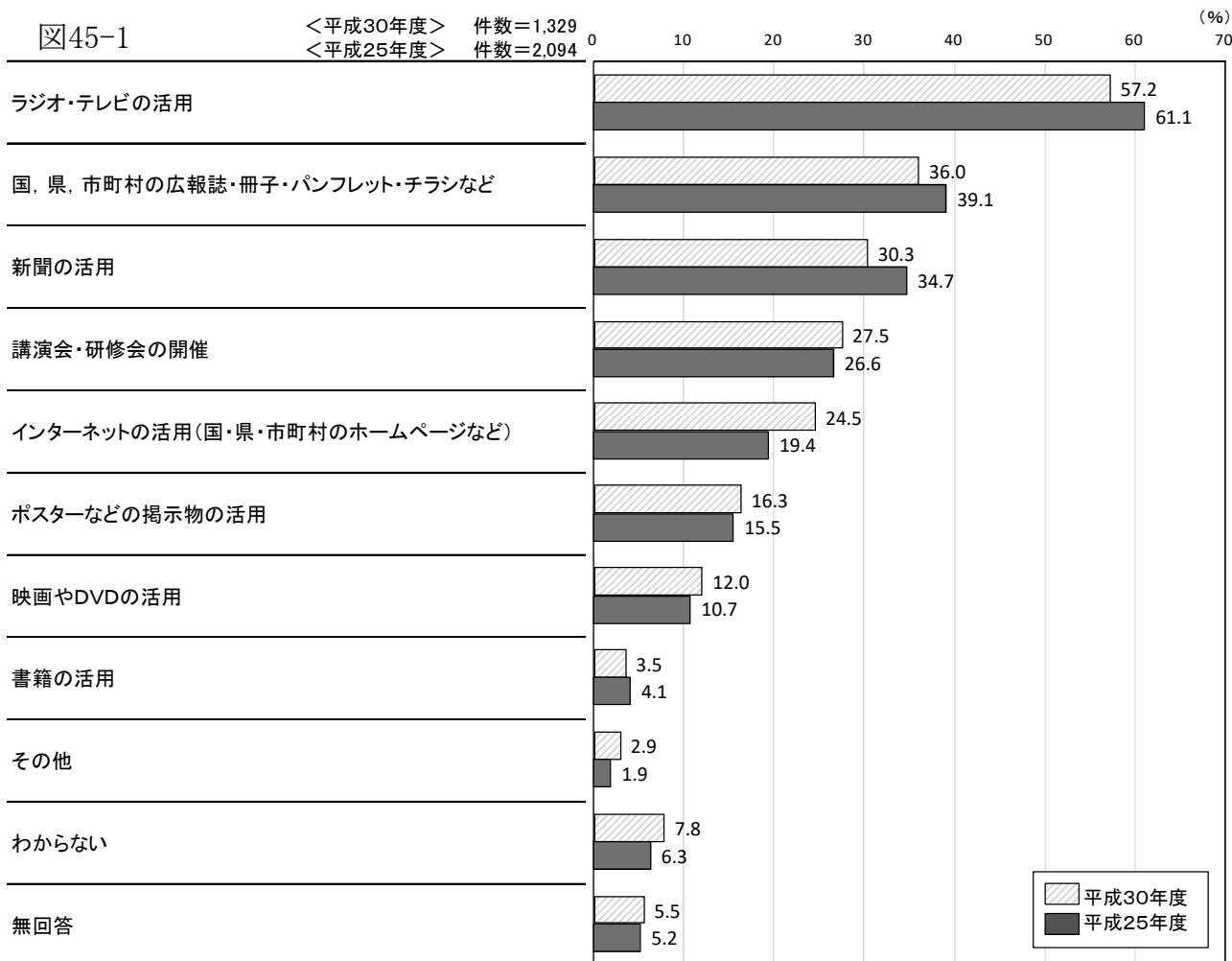




問45 あなたは、どのような手段による広報啓発が役立つと思いますか。

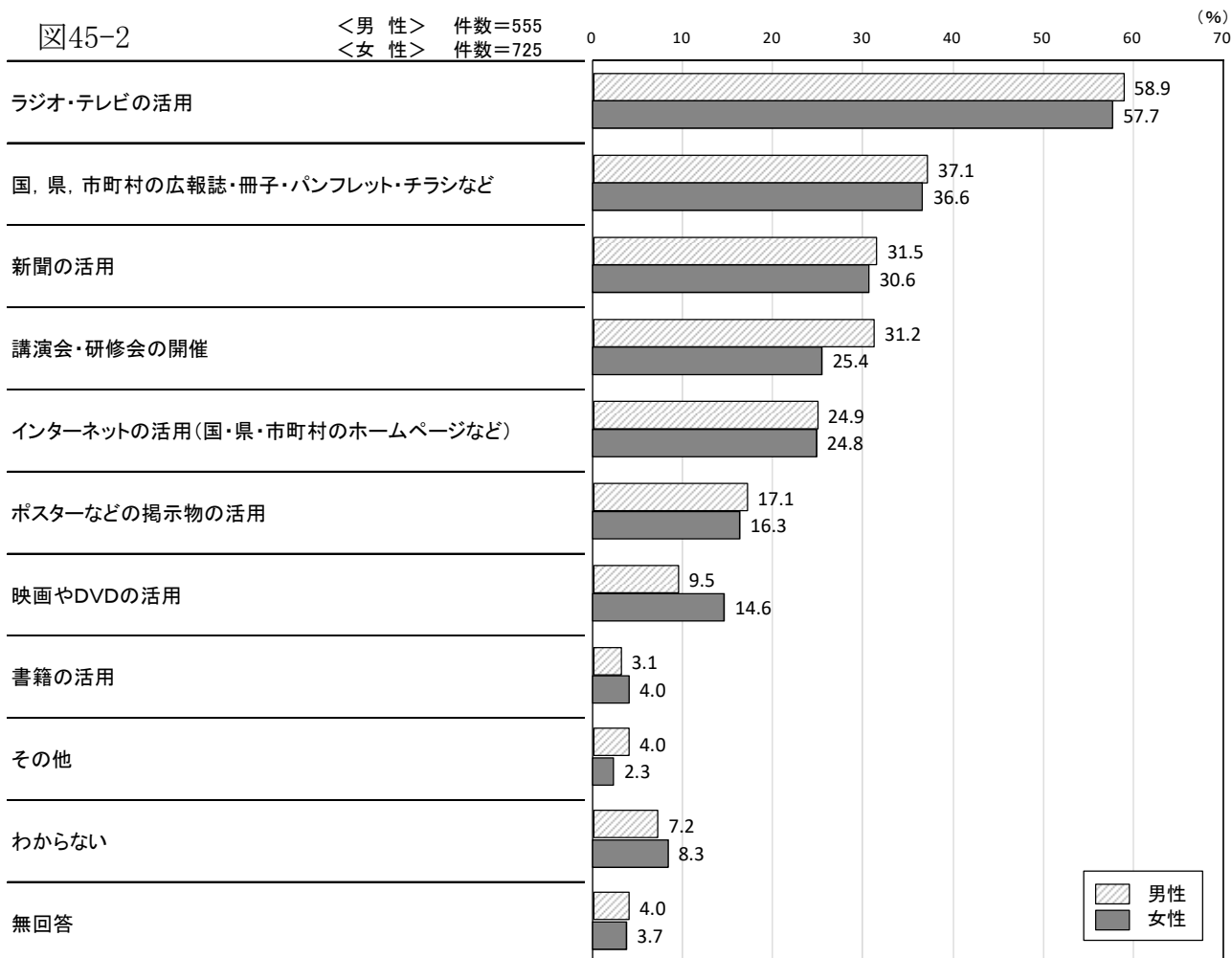
(○は3つまで)

広報啓発の手段については、「ラジオ・テレビの活用」の割合が最も高く57.2%となっている。次いで、「国、県、市町村の広報誌・冊子・パンフレット・チラシなど」が36.0%、「新聞の活用」が30.3%となっている。



## ■性別

性別で比較すると、「講演会・研修会の開催」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高く、また「映画やDVDの活用」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。

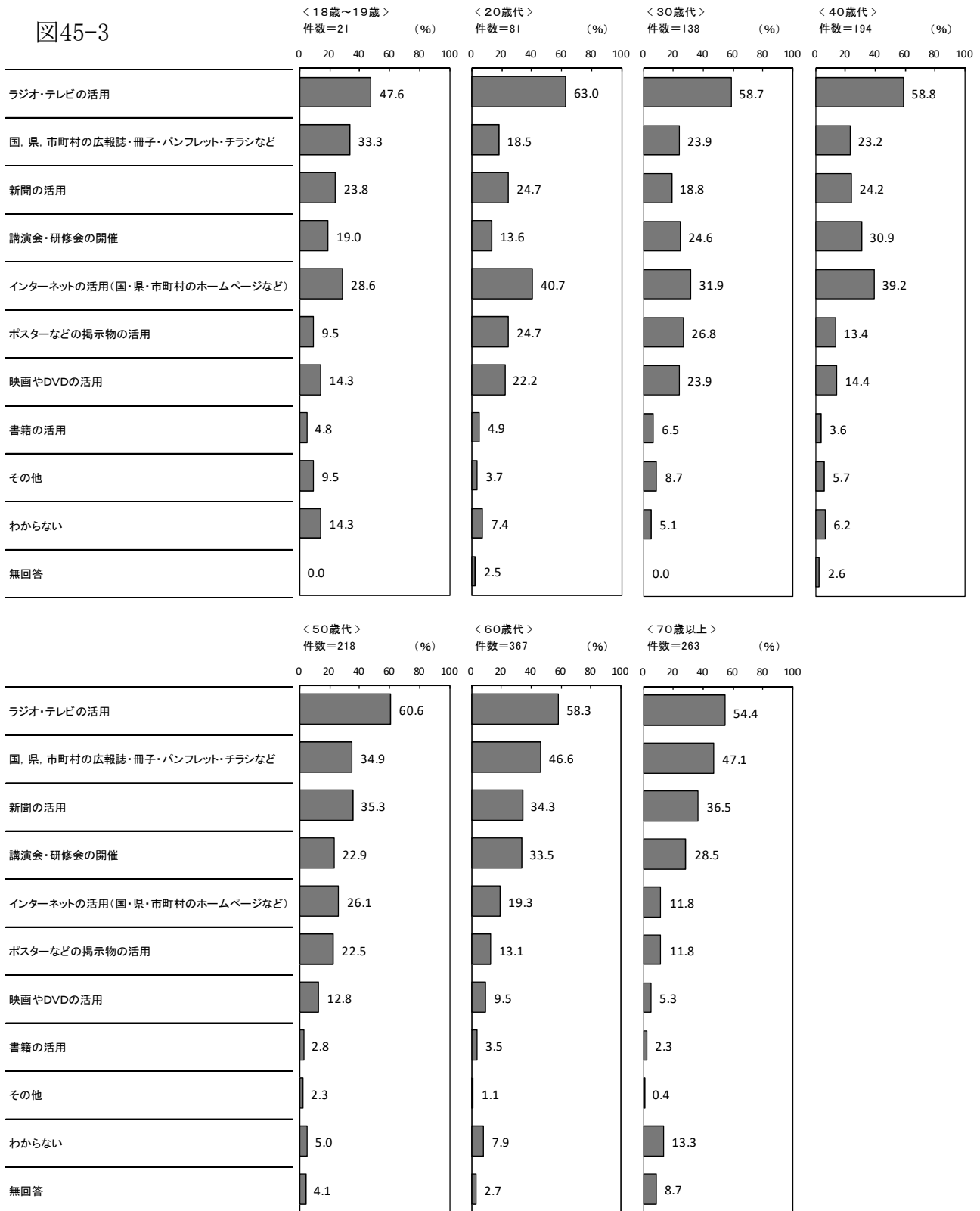


## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「ラジオ・テレビの活用」の割合が最も高い。

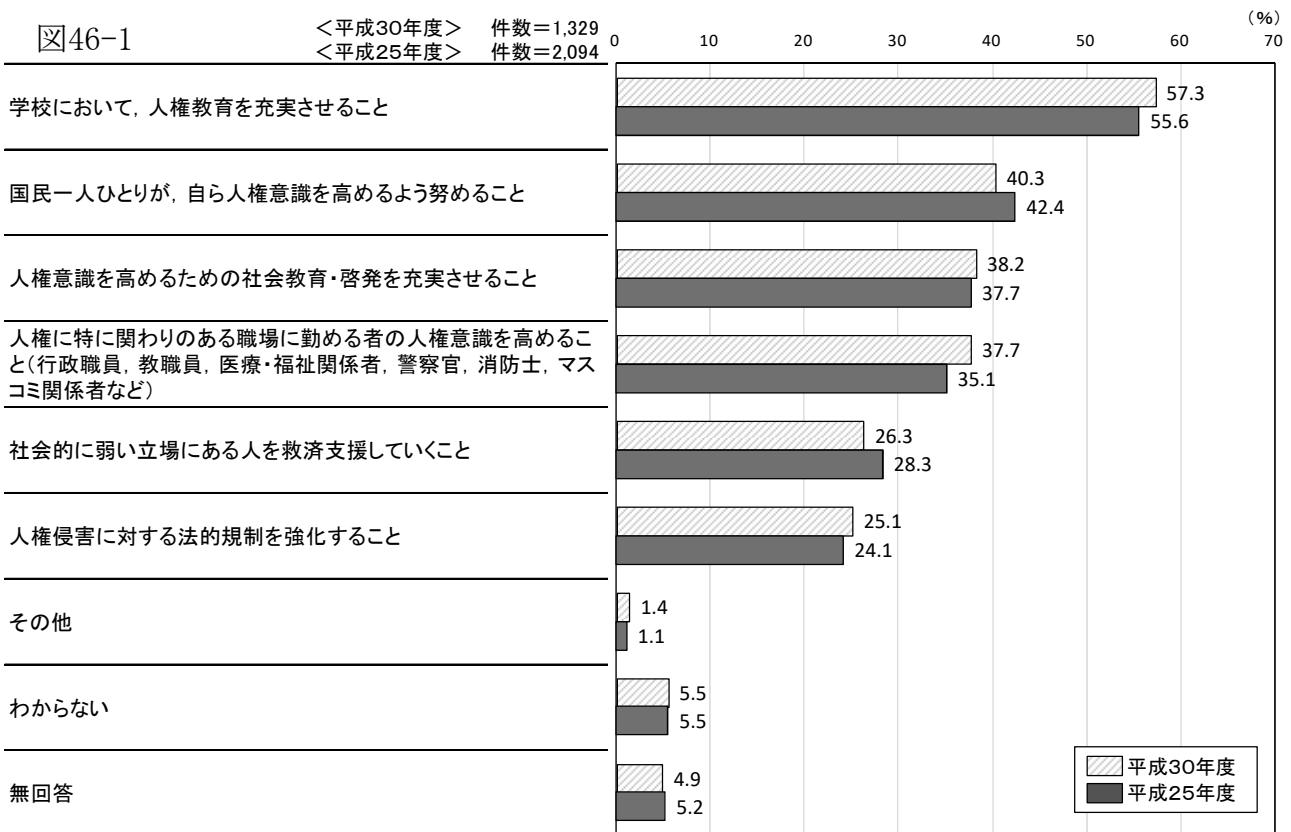
また、40歳代以下で「インターネットの活用（国・県・市町村のホームページなど）」、50歳代以上で「国、県、市町村の広報誌・冊子・パンフレット・チラシなど」「新聞の活用」の割合も高い。

図45-3



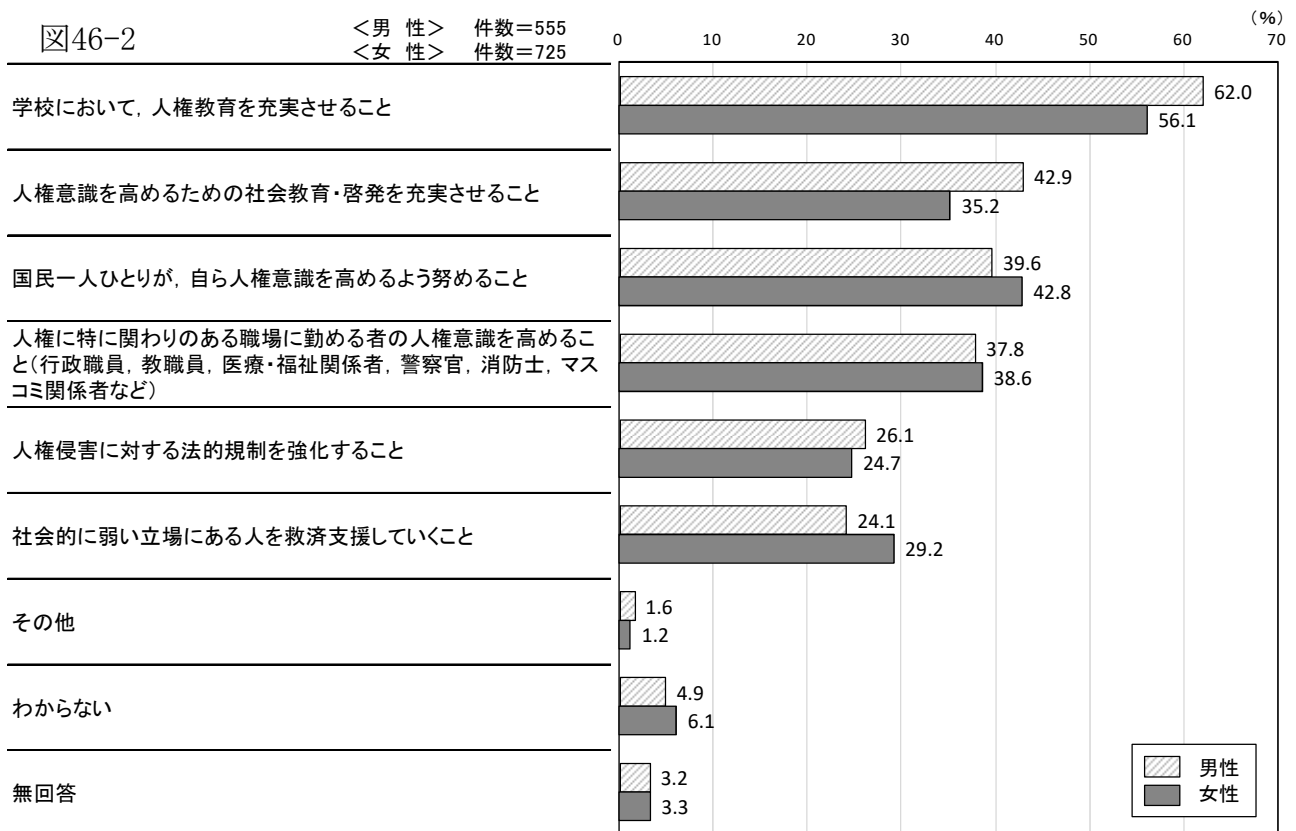
問46 あなたは、人権が尊重される社会を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

人権が尊重される社会を実現するために必要なことについては、「学校において、人権教育を充実させること」の割合が最も高く57.3%となっている。次いで、「国民一人ひとりが、自ら人権意識を高めるよう努めること」が40.3%、「人権意識を高めるための社会教育・啓発を充実させること」が38.2%となっている。



## ■性別

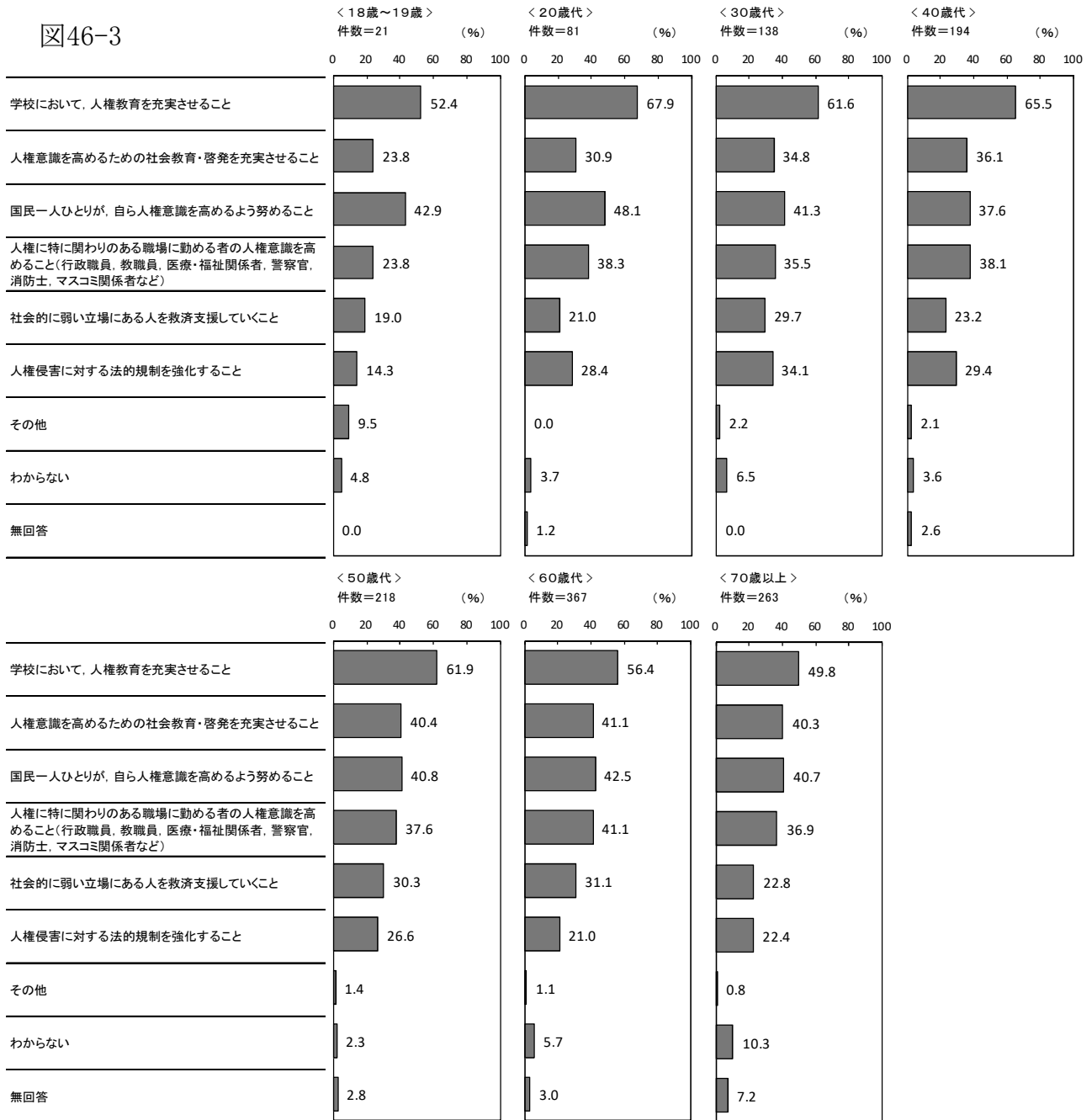
性別で比較すると、「人権意識を高めるための社会教育・啓発を充実させること」「学校において、人権教育を充実させること」の割合が、男性が女性より5ポイント以上高く、また「社会的に弱い立場にある人を救済支援していくこと」の割合は、女性が男性より5ポイント以上高い。



## ■年代別

年代別で比較すると、全年代で「学校において、人権教育を充実させること」の割合が最も高く、「国民一人ひとりが、自ら人権意識を高めるよう努めること」の割合も高い。

図46-3



## 【自由意見】

問47 様々な人権問題について、あなたが、かねて考えておられること、また、国、県、市町村などに対して、ご意見やご要望がありましたら、次の欄に自由にお書きください。

人権問題について、多くの意見・要望が寄せられました。

それらを分類し、それぞれの分類ごとに主なものの要旨を記載します。

- 人権全般（74件）
  - 人権問題への無関心に関すること
  - 差別のない社会の実現に関すること
- 女性（10件）
  - 女性の固定的な役割分担意識に関すること
  - 女性への性犯罪に関すること
- 子ども（11件）
  - 子どもへの虐待やいじめに関すること
  - 子どもの貧困や教育の無償化に関すること
- 高齢者（2件）
  - 高齢者の就職に関すること
  - 高齢者の長生きと社会保障に関すること
- 障害者（12件）
  - 障害者に対する偏見に関すること
  - 障害者の就職に関すること
- 同和問題（部落差別）（23件）
  - 結婚差別に関すること
  - 同和問題への無関心に関すること
- 外国人（6件）
  - ヘイトスピーチなどの法的規制に関すること
- HIV感染者等（1件）
  - HIV感染症等の正しい知識の普及に関すること
- ハンセン病患者等（1件）
  - ハンセン病の正しい知識の普及に関すること

- 犯罪被害者等（2件）
  - 性犯罪の被害者支援に関すること
  - 犯罪の加害者の厳罰化に関すること
  
- インターネットによる人権侵害（11件）
  - インターネット上で誹謗（ひぼう）中傷（ちゅうしょう）をした者の取り締まりに関すること
  - インターネットによる人権侵害についての小・中学校での教育に関すること
  
- 北朝鮮当局によって拉致された被害者等（2件）
  - 拉致被害者の早期帰国の実現を望むもの
  
- 性的指向・性自認（7件）
  - 性的少数者への周囲の理解不足に関すること
  
- 刑を終えて出所した人（2件）
  - 犯罪の加害者への過度な人権保護に関すること
  
- 人権教育・啓発（32件）
  - 人権教育・啓発の機会の提供に関すること
  - 人権問題についての正しい知識の啓発や方法に関すること
  
- 子どもへの人権教育（29件）
  - 学校における人権教育の徹底に関すること
  - 家庭における幼少期からの人権教育の大切さに関すること
  
- 国や県など行政機関（20件）
  - 広報等の充実に関すること
  - 公務員の人権意識の改革に関すること
  
- その他（76件）
  - 今回の県民意識調査の内容に関すること